

本郷山根遺跡

一級河川笹川河川改修工事に伴
う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

1989

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

本郷山根遺跡

一級河川笹川河川改修工事に伴
う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

1989

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



第11号住居跡出土滑石製白玉類



第11号住居跡出土滑石大形剥片・紡錘車未製品・荒割剥片

序

群馬県はその南東部が平地で約3分の1、残りが山地で平地の三方を取り囲みその中央を坂東太郎と呼ばれる利根川が流れ、県内の大部分の流れを合わせています。これら、小河川は急峻な山地を走るように流れ下り、平地部では蛇行しながら流れています。多量の降雨があるときは河川があふれてしばしば災害を起こします。

溢水による災害を避けるために、県土木部河川課は県内各地で河川の改修工事を行ってきました。このような河川が蛇行する場所は原始古代より、危険ではありますが人々が生活するためには便利な場所でもありました。地下には、その生活を物語る貴重な資料が豊富に埋蔵されています。

河川の改修により洪水の危険から身を守ることは私達の生活にとって必要不可欠なことであります。しかし、このことは地中深く現在まで守り伝えられた埋蔵文化財の破壊を意味します。我々にはこれらを事前に記録をして残し後世に伝える責務があります。

藤岡市周辺は上毛野国の緑野みやけと考えられている地域であり、本郷には埴輪の窯もあることなどが示すように、群馬県内における古墳時代の中心地があります。この台地上を南から北へ蛇行しながら流れる笹川は人々に恵とともに災害ももたらしました。本事業は、河川改修により破壊される地下の遺産を発掘調査によって記録保存し、歴史解明の資料とし、川と人々のかかわりを探り原始古代社会究明の資料とするものであります。

発掘調査、整理事業実施にあたりまして、ご指導、ご援助をいただきました県土木部、群馬県教育委員会、藤岡市教育委員会ならびに地元関係者に感謝いたします。また、本報告書完成にいたるまで発掘、整理に直接かかわりました関係者の努力をねぎらうとともに、本書によって群馬県域の原始古代文化の究明が多少なりとも前進することを念じて序といたします。

昭和63年9月30日

群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎

例 言

1. 本書は、一級河川笹川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書の第二集『本郷山根遺跡』である。
2. 本郷山根遺跡は、群馬県藤岡市本郷字山根に所在する。
3. 発掘調査は群馬県藤岡土木事務所の委託により、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 調査を実施した年月日は次の通りである。
発掘調査 昭和62年7月16日～昭和62年8月31日
整理作業 昭和63年4月7日～昭和63年9月30日
5. 調査組織は次の通りである。
事務担当 白石保三郎、井上唯雄、松本浩一、田口紀雄、上原啓巳、徳江紀、巾 隆之、定方隆史、住谷 進、国定 均、笠原秀樹、小林昌嗣、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、野島のお江、並木綾子、今井もと子、松井美智子、大島敬子、小野沢春美
調査担当 相京建史 ((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団主任調査研究員)
麻生敏隆 (同 調査研究員)
松村和男 (同 上)
6. 本書作成の担当者は次の通りである。
編 集 松村和男
本文執筆 徳江 紀 (I-1)、相京建史 (I-2)、
麻生敏隆・松村和男 (II-2(1)a 第15～17号住居跡)
松村和男 (I-3・4、II、III)
遺物観察 縄文土器 山口逸弘、同石器 松村和男
古墳時代～平安時代土器 松村和男・新井悦子
同 石器 松村和男
同 鉄製品 松村和男
遺構写真 相京建史、麻生敏隆、松村和男
遺物写真 佐藤元彦 ((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団技師)
図版作成 松村和男、新井悦子、新谷さか江、高橋とし子、岩淵フミ子、田中富子、山口淳子、笹尾ヨシ子 (以上(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団) 株式会社測研
7. 本書の作成にあたり、下記の諸氏より御助言、御協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略・五十音順)
飯島静男、志村 哲、大工原 豊、早田 勉、外尾常人、藤岡市教育委員会
8. 出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財センターに保管してある。
9. なお調査にあたって、作業に従事し、また、多くの便宜を図っていただいた地元の方々に記して感謝いたします。

凡 例

1. 本書の挿図に入れた方位記号は座標北を表す。

なお、調査に使用したグリッド基準線(Dライン)の方向はN21°Eである。

2. 本書で使用した地形図は以下の通りである。

図1 国土地理院20万分の1「長野」「宇都宮」

図3 国土地理院5万分の1「高崎」

3. 遺構の記述は、時代毎に、遺構毎に行っている。

住居の記述 位 置 グリッド名で表している。

主軸方位 カマドを通り、両側の壁に平行な軸線を想定して、北または南からの偏角で表している。なお、カマドの未検出の場合には北壁方向からの偏角で表している。

重 複 遺構の新旧関係を中心に述べている。

規 模 主軸方向を縦として、それに直行する方向を横として、上端から下端までの長さを1:20の実測図より計測した。深さは遺構確認面からの壁高である。

埋 没 土 主な混入物と、主な土層の色調、土質を中心に記述している。

掘り方 いわゆる床下の構造及び床面をつくるための充填土について記述した。

床 面 床面の硬化面の有無や範囲、その状況を記述した。

貯蔵穴・周溝・柱穴 それぞれの検出の有無、位置、規模などを中心に記述した。

遺物出土状態 遺物の集中部分や床面からどれくらい浮いているかなどを中心に記述した。なお、平面図中の遺物番号は調査時の取り上げ番号であり、それをそのまま用いた。

カ マ ド カマドをひとつの遺構と考え、住居と同じ項目をたてて記述した。

備 考 住居に伴うと考えられる遺物及び住居の新旧関係から、住居の使用年代を推定している。なお、この時の年代決定は坂口一氏の年代観(文献32~34)に拠る。

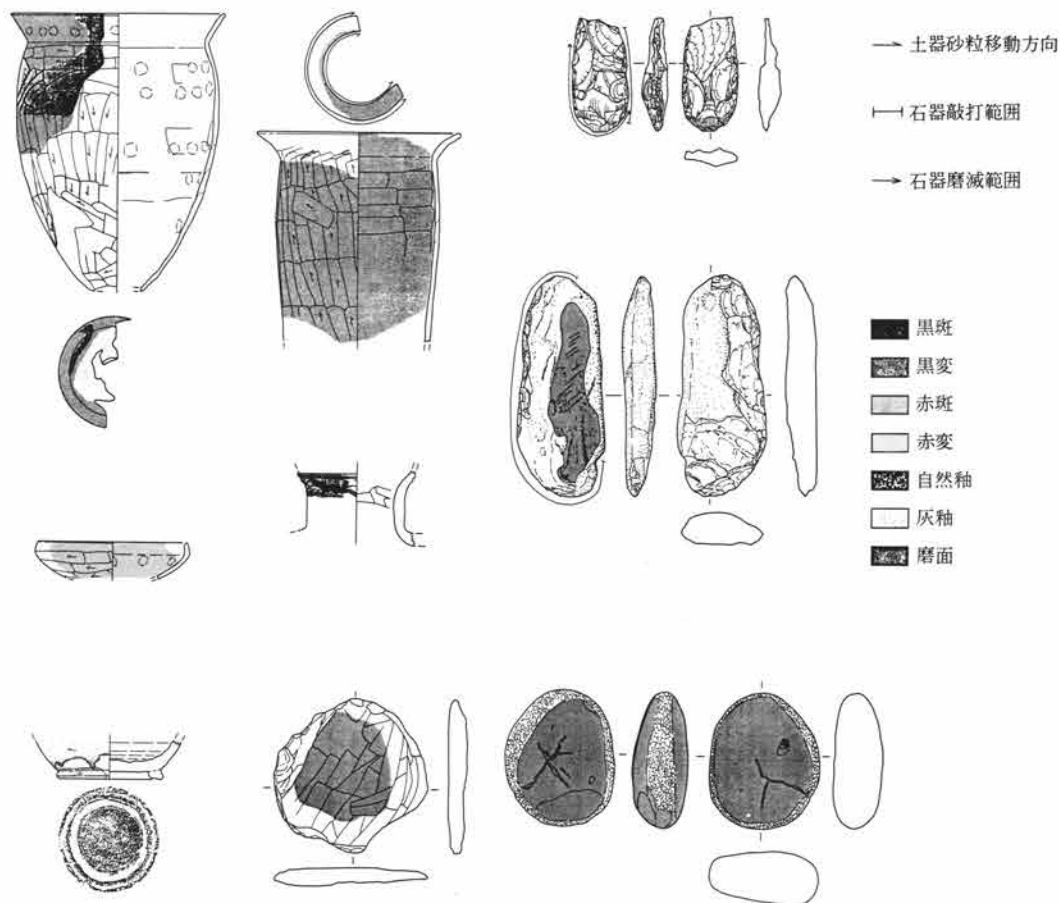
溝・土坑・ピットの記述 基本的には住居に準ずる項目をたてて記述した。ただし、土坑・ピットについては主要なもののみ取り上げた。それらの主軸方位は長径方向と座標北との偏角で表した。

4. 遺物の記述については、遺物観察表にまとめた。観察基準及び各記号は以下の通りである。

1) 番号は挿図番号に一致する。平面図中の遺物番号は観察表の出土位置の

番号を表す。

- 2) 観察表中の () は現存部分もしくは推定復元の値を表す。
 - 3) 土器観察表中の量目欄の「口・底・高」はそれぞれ口径、底径、器高を表す。石器観察表中の「長さ・幅・厚さ」はそれぞれ最大値を表す。
 - 4) 遺物観察表中の色調は、『新版標準土色帖』を用いて記載した。
 - 5) 土器の焼成は酸化か還元かを重点に記述している。
 - 6) 土器に認められる変色部分について焼成時と考えられるものを黒斑・赤斑、その後と考えられるものを黒変・赤変とし、実測図及び模式図(実測図の2分の1)にスクリーントーンを用いて表した。自然釉・灰釉についても実測図に同様に表した。
 - 7) 土器実測図中の一印は砂粒の動いた方向である。
 - 8) 石器については敲打範囲はH印で表した。磨滅は線状痕が認められるものについては線で、そうでないものについてはスクリーントーンを用いて示した。なお、側面の磨滅範囲については→印で表した。
5. 石器観察表の石質同定は、群馬地質研究会会員飯島静男氏のカテゴリ基準に合わせ、松村がおこなった。
6. 本遺跡で検出したテフラについては(株)バリノ・サーヴェイに分析・同定を委託した。



目 次

序	
例 言	
凡 例	
I 発掘調査の経過	
1. 発掘調査に至る経緯	3
2. 発掘調査の方法と経過	4
3. 基本層序	6
4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布	8
II 検出された遺構と遺物	
1. 縄文時代	10
(1) 遺構	10
(2) 遺物	11
a 土器	11
b 石器	13
縄文時代石器集計表	16
縄文土器観察表	17
縄文時代石器観察表	18
2. 古墳時代～平安時代	19
(1) 遺構	19
a 住居跡	20
b 溝	54
c 掘立柱建物跡・土坑・ピット群	55
(2) 遺物	59
a 土器	59
b 石器	82
古墳時代～平安時代土器観察表	117
古墳時代～平安時代石器集計表 1	140
古墳時代～平安時代石器集計表 2 (滑石)	141
古墳時代～平安時代石器観察表	142
古墳時代～平安時代鉄製品観察表	148
III まとめ	
1. 縄文土器について	149
2. 縄文時代の石器について	149
3. 土器に認められる変色部分について	150
4. 第11号住居跡出土の滑石製剥片・碎片について	151

5. 紡錘車・白玉等の製作技法について……………	151
6. 滑石の産地について……………	153
7. 敲石について……………	153
8. 鉄器について……………	155
参考文献……………	162
写真図版……………	163

付 図

挿 図 目 次

図1 群馬県の地勢と本郷山根遺跡の位置	図36 第18号、19号、20号住居跡	図67 第2号(1～3)、3号(4)、6号(5)、14・15号(6)、20号(7)、24号(8)、25号(9)、26号(10)、28号(11)、29号(12)、33号(13)、36号(14)、38号(15・16)、39号(17・18)ピット出土土器
図2 本郷山根遺跡の調査区	図37 第18号、19号、20号住居跡掘り方	図68 第41号(1・2)、44号(3)、46号(4・5)、48号(6・7)ピット、第1号掘立柱建物跡柱穴8(8・9)、69号(10)、70号(11・12)、80号(13～15)、106号(16)、120号(17)、126号(18)、129号(19)、130号(20)ピット出土土器
図3 本郷山根遺跡の基本土層	図38 第21号住居跡・カマド	図69 第144号(1)、168号(2)、169号(3)、182号(4・5)、184号(6・7)、189号(8)、200号(9・10)、203号(11)、204号(12)、207号(13・14)、232号(15)、344号(16)、346号(17)、352号(18)、385号(19)ピット出土土器
図4 藤岡地域の地形と主な遺跡分布	図39 第21号住居跡カマド	図70 第420号(1・2)、443号(3)、444号(4)、488号(5)、495号(6)、535号(7)、564号(8～12)、566号(13)、600号(14・15)ピット出土土器
図5 第10、7号土坑	図40 第22号住居跡	図71 第4号(1・2)、5号(3～7)住居跡出土土器
図6 縄文土器実測図-1	図41 第23号住居跡	図72 第5号住居跡出土土器
図7 縄文土器実測図-2	図42 第24号住居跡(小鍛冶遺構)	図73 第5号(1～4)、6号(5～9)住居跡出土土器
図8 第5号(1)、6号(2～4)、7号(5～12)、9号(13)住居跡出土土器	図43 第26号住居跡	図74 第6号住居跡出土土器
図9 第10号(1～9)、12号(10)、13号(11)、15号(12)住居跡出土土器	図44 第1号溝遺物・コンター図	図75 第6号(1・2)、7号(3～10)住居跡出土土器
図10 第16号(1～3)、17号(4)、19号(5～7)、21号(8・9)、22号(10)、24号(11)住居跡、第1号(12)溝出土土器	図45 第1号溝セクション・エレベーション	図76 第7号住居跡出土土器
図11 第4号(1)、6号(2)、10号(3・4)、63号(5)ピット、C-27グリッド(6)、風倒木(7)、表探(8)出土土器	図46 第1号掘立柱建物跡	図77 第7号住居跡出土土器
図12 本郷山根遺跡遺構配置図	図47 土坑、焼土遺構、ピット	図78 第8号住居跡出土土器
図13 第1号、2号住居跡	図48 第1号(1～4)、2号(5～7)、3号(8～12)、4号(13～15)住居跡出土土器	図79 第9号住居跡出土土器
図14 第3号住居跡・カマド	図49 第5号(1～4)、6号(5～18)住居跡	図80 第9号住居跡出土土器
図15 第4号住居跡・カマド	図50 第7号住居跡出土土器	図81 第10号(1～4)、11号(5～8)住居跡出土土器
図16 第5号住居跡・炉	図51 第7号住居跡出土土器	図82 第11号住居跡出土土器
図17 第6号住居跡・カマド	図52 第8号(1～9)、9号(10～18)住居跡出土土器	図83 第11号住居跡出土土器
図18 第7号住居跡	図53 第9号住居跡出土土器	図84 第11号住居跡出土土器
図19 第7号住居跡カマド	図54 第9号(1～9)、10号(10～16)住居跡出土土器	図85 第11号住居跡出土土器
図20 第7号住居跡掘り方	図55 第11号住居跡出土土器	図86 第11号住居跡出土土器
図21 第8号住居跡・カマド	図56 第12号住居跡出土土器	
図22 第8号住居跡掘り方	図57 第13号(1～6)、14号(7～11)住居跡出土土器	
図23 第9号住居跡	図58 第15号住居跡出土土器	
図24 第9号住居跡カマド	図59 第15号住居跡出土土器	
図25 第10号住居跡	図60 第16号(1～7)、17号(8～14)住居跡出土土器	
図26 第10号住居跡掘り方	図61 第18号(1～3)、19号(4～14)住居跡出土土器	
図27 第11号住居跡・カマド	図62 第20号(1)、21号(2～11)、22号(12～21)住居跡出土土器	
図28 第12号住居跡・カマド	図63 第24号(1～10)、25号(11～13)住居跡出土土器	
図29 第13号住居跡・カマド	図64 第1号溝出土土器	
図30 第14号住居跡	図65 第1号溝出土土器	
図31 第15号住居跡・カマド	図66 第2号(1～5)、3号(6～8)溝、第1号(9)、2号(10～13)、3号(14～18)、6号(19)土坑出土土器	
図32 第15号住居跡貯蔵穴		
図33 第16号住居跡・17号住居跡掘り方		
図34 第17号住居跡		
図35 第17号住居跡カマド		

図87 第11号住居跡出土石器	8)住居跡出土石器	(6・7)、440号(8)、545号(9)ピット出土石器
図88 第11号住居跡出土石器	図97 第21号(1～7)、22号(8～12)住居跡出土石器	図105 第564号(1・2)ピット、表採・グリッド(3～8)出土石器
図89 第12号住居跡出土石器	図98 第22号住居跡出土石器	図106 石器組成百分率グラフ
図90 第13号(1・2)、14号(3～8)住居跡出土石器	図99 第24号(1～4)、25号(5～7)住居跡出土石器・鉄製品	図107 第11号住居跡滑石法量分布グラフ
図91 第15号住居跡出土石器	図100 第1号溝出土石器	図108 第11号住居跡滑石法量分布グラフ
図92 第15号住居跡出土石器	図101 第1号溝出土石器	図109 第11号住居跡白玉製作工程図
図93 第16号住居跡出土石器・鉄製品	図102 第1号溝出土石器	図110 竹沼遺跡紡錘車製作工程図
図94 第16号(1～7)、17号(8～11)住居跡出土石器	図103 第1号溝出土石器	図111 竹沼遺跡白玉製作工程図
図95 第17号住居跡出土石器	図104 第1号溝(1)、第3号土坑(2)、第11・12号(3)、73号(4)、334号(5)、344号	図112 下谷地遺跡管玉・石針製作工程図
図96 第18号(1～3)、19号(4～6)、20号(7・		図113 礫・敲石類法量分布グラフ
		付図 本郷山根遺跡全体図

写真図版目次

P L 1	1.調査区全景 南西から 2.調査区南側住居跡、ピット群全景 北から	2.第9号住居跡出土状況 東から 3.第9号住居カマド遺物出土状況全景 西から	南西から
P L 2	1.第7号土坑遺物出土状況全景 南から 2.第10号土坑東西セクション 南から	4.第10号住居掘り方全景 東から 5.第10号住居北西コーナー貯蔵穴全景 東から	P L 14
P L 3	1.第1号住居遺物出土状況全景 北東から 2.第1号住居掘り方全景 北から 3.第2号住居遺物出土状況全景 北から 4.第2号住居掘り方全景 北から 5.第3号住居遺物出土状況全景 南から 6.第3号住居カマド遺物出土状況全景 南から 7.第3号住居掘り方全景 南から 8.第3号住居カマド掘り方全景 南から	P L 9	1.第11号住居遺物出土状況全景(手前6号住居) 北から 2.第11号住居全景 北から 3.第11号住居掘り方全景 東から 4.第11号住居カマド全景 東から 5.第11号住居カマド掘り方全景 東から
P L 4	1.第4号住居遺物出土状況全景 西から 2.第4号住居掘り方全景 北から 3.第4号住居カマド全景 西から 4.第4号住居カマド掘り方全景 西から 5.第4号住居紡錘車出土状況全景 西から	P L 10	1.第12号住居遺物出土状況全景 西から 2.第12号住居掘り方全景 西から 3.第12号住居カマド全景 西から 4.第13号住居遺物出土状況全景 南から 5.第13号住居カマド遺物出土状況全景 南西から
P L 5	1.第5号住居遺物出土状況全景 西から 2.第5号住居全景 北から 3.第5号住居掘り方全景 北から 4.第5号住居炉跡確認状況 北から 5.第5号住居炉跡 北東から	P L 11	1.第14号住居遺物出土状況全景 南西から 2.第14号住居掘り方全景 西から 3.第15号住居遺物出土状況全景 東から 4.第15号住居全景 東から 5.第15号住居カマド遺物出土状況全景 西から 6.第15号住居貯蔵穴遺物出土状況全景 北から 7.第15号住居カマド掘り方全景 西から
P L 6	1.第6号住居全景 西から 2.第6号住居遺物出土状況全景 南西から 3.第6号住居掘り方全景 西から 4.第6号住居カマド全景 南西から 5.第6号住居カマド掘り方全景 西から	P L 12	1.第16号住居掘り方全景 南から 2.第16号住居カマド遺物出土状況全景 西から 3.第17号住居全景 西から 4.第17号住居カマド全景 西から 5.第18号住居掘り方全景 東から 6.第18号住居遺物出土状況全景 南から 7.第19号住居遺物出土状況全景 南から 8.第19号住居貯蔵穴 南から
P L 7	1.第7号住居遺物出土状況全景 東から 2.第7号住居掘り方全景 東から 3.第7号住居カマド遺物出土状況全景 南西から 4.第8号住居遺物出土状況全景 南西から 5.第8号住居カマド遺物出土状況全景 南西から	P L 13	1.第20号住居遺物全景 南東から 2.第21号住居カマド全景 北東から 3.第21号住居遺物出土状況全景 東から 4.第22号住居遺物出土状況全景 西から 5.第22号住居掘り方遺物出土状況全景
P L 8	1.第9号住居遺物出土状況全景 東から		南西から
			P L 15
			1.第24号住居(小鍛冶)遺物出土状況全景 東から 2.第24号住居(小鍛冶)炉全景 北東から
			P L 16
			1.第1号溝掘立柱建物跡全景 北から 2.第1号溝遺物出土状況全景 西から 3.第1号溝遺物出土状況 東から 4.第1号焼土遺構全景 南から 5.第1号土坑全景 南から 6.第2号土坑全景 東から 7.第3号土坑全景 東から
			P L 17
			縄文土器
			P L 18
			縄文土器・石器
			P L 19
			縄文石器
			P L 20
			古墳～平安時代土器
			P L 21
			古墳～平安時代土器
			P L 22
			古墳～平安時代土器
			P L 23
			古墳～平安時代土器
			P L 24
			古墳～平安時代土器
			P L 25
			古墳～平安時代土器
			P L 26
			古墳～平安時代土器
			P L 27
			古墳～平安時代土器
			P L 28
			古墳～平安時代土器
			P L 29
			古墳～平安時代土器
			P L 30
			古墳～平安時代土器
			P L 31
			古墳～平安時代土器
			P L 32
			古墳～平安時代土器
			P L 33
			古墳～平安時代石器
			P L 34
			古墳～平安時代石器
			P L 35
			古墳～平安時代石器
			P L 36
			古墳～平安時代石器
			P L 37
			古墳～平安時代石器
			P L 38
			古墳～平安時代石器・鉄製品
			P L 39
			古墳～平安時代石器
			P L 40
			古墳～平安時代石器・鉄製品
			P L 41
			古墳～平安時代石器・鉄製品
			P L 42
			古墳～平安時代石器
			P L 43
			古墳～平安時代石器

本鄉山根遺跡

I 発掘調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯

藤岡市南部の庚申山から流れ出る笹川は、市街地の東側の水田地帯を北流する小河川で、群馬県土木部河川課・藤岡土木事務所により河道変更・護岸工事等が施されてきている。

本河川の流れる本郷地区は埋蔵文化財の包蔵地のあるところとして知られており、河川改修に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて、河川課と群馬県教育委員会文化財保護課は協議を進め、埋蔵文化財は記録保存をすることとし、昭和61年まで次のように進展してきた。

昭和57年 河川課、文化財保護課に埋蔵文化財の有

無の調査を依頼。

文化財保護課、遺物の確認と水田地帯での試掘の必要性を回答。

昭和58年 文化財保護課、JR八高線と国道254バイパス間の試掘を実施。一部に遺構を確認。

昭和60～61年 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（以下事業団）は河川課の委託を受け調査を実施。60年度1,075㎡、61年度3,000㎡、計4,075㎡の調査を実施した。

上記60・61年度調査の成果は62年9月に「本郷尺地遺跡」として報告書が刊行されている。

昭和61年 文化財保護課、国道254バイパス以南のうち、用地買収の済んだ本郷団地の南約100m

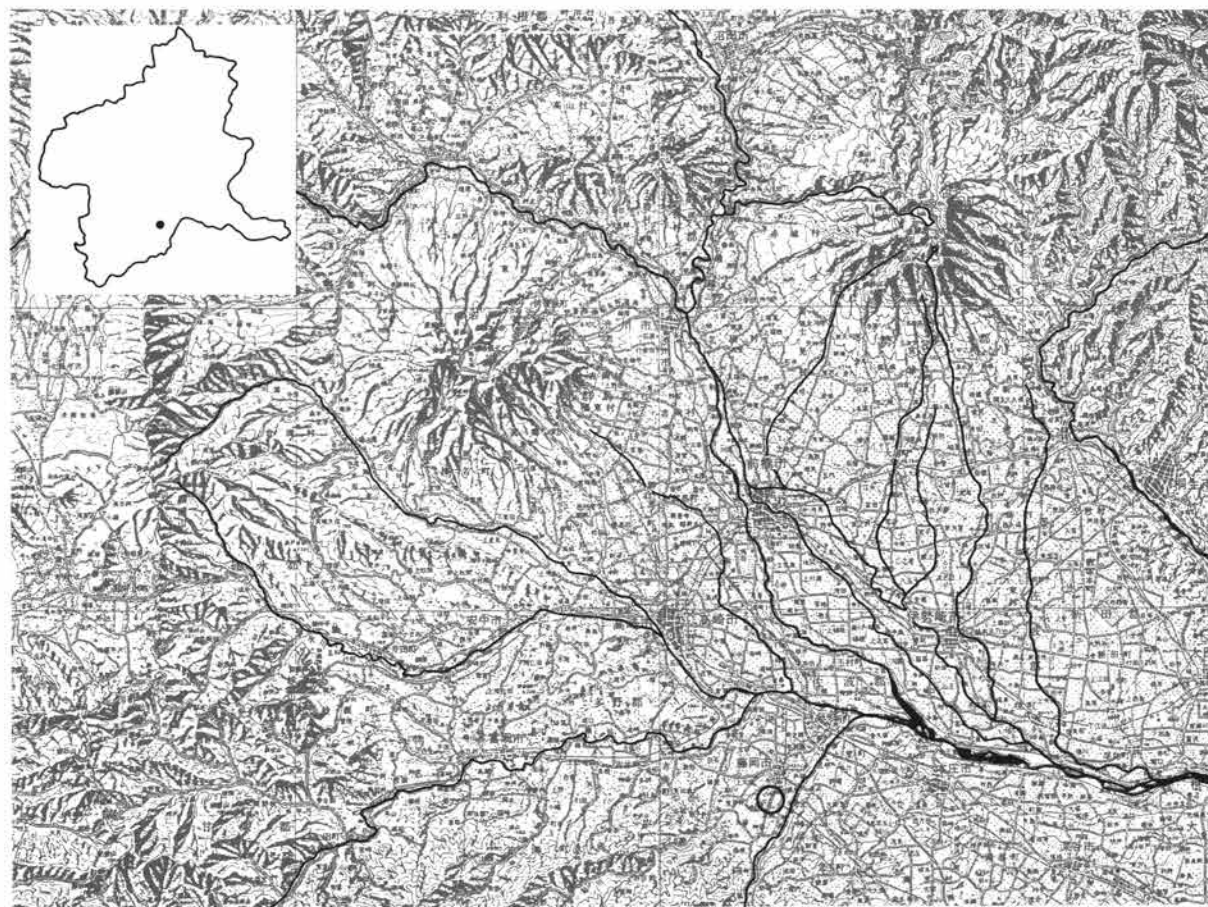


図1 群馬県の地勢と本郷山根遺跡の位置

0 20km

I 発掘調査の経過

の試掘を実施、一部に遺構を確認。

昭和62年度の概要は次のとおりである。

61年度の試掘結果を受け、河川課・事業団間で、5月20日付「一級河川笹川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約」が締結され、本郷団地の南、水田地帯の中の微高地約1,000㎡を7月16日～8月31日の約1ヶ月半を予定して調査を実施することとなった。遺跡名は、本郷山根とした。

調査は予定通り始まったものの梅雨、そして水田地帯故の排水不良に悩まされた。また、作業員の地元からの応募が少なく、高崎市や埼玉県上里町からの応援を得るなど難行を重ね、調査終了がやや遅れこんだものの約2ヶ月弱で調査を終了することができた。

本郷山根遺跡の整理は63年度に行われ、ここに報告できることになったが、発掘調査に際して多くの機関・個人の方に御協力を戴いた。記して感謝いたします。

群馬県土木部河川課・群馬県教育委員会文化財保護課・藤岡土木事務所・藤岡市都市開発部振興課・藤岡市経済部土地改良課・藤岡市教育委員会・藤岡市農協美九里支所・埼玉県上里町教育委員会・地元区長・地権者の皆様。

追記 国道254バイパスから本郷団地までの間は試掘が遅れていたが、本調査終了後文化財保護課により行われ、遺構が存在しないことが確認された。従って、笹川河川改修部分の内、本郷山根遺跡以北（下流）部分の調査は総て終了したこととなった。

2. 調査の方法と経過

調査範囲の設定と水対策 一級河川笹川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は昭和60年、61年度に調査を行った。今年度の調査は用地買収の終了した上流部分に群馬県教育委員会文化財保護課によって試掘の行われた部分の中で遺構のある約1,000㎡にあたる微高地部分の集落跡（古墳時代から平安時代）を調査した。61年度の調査方法同様遺構測量は国家座標系に組み入れられるように配慮した。61年度の経験から当時期の発掘調査は水量が多く、しかも水田地帯のため常備排水ができる設備を整えることと、近接する水田の水漏れを防ぐことを考慮に入れて調査を行う必要性が生じた。このため、大規模な排水施設をつくることはできないので、遺跡の周囲に細い溝を切り、底を笹川の水面よりやや上位に構築し、自然に排水ができるようにした。また、住居跡の床面や柱穴の底などはこれよりも低いことや、雨水等による増水で、地下水面が上昇することが十分に考えられたため、電気配線を行い、調査地点で水中ポンプがいつでも稼働できる状況に準備を行い調査を開始した。現在使用中の暗渠施設等もあり、調査は困難を窮めたが必至の努力により、なんとか現地調査を行うことができた。

調査に関する経過 7月16日事務所を開設し、発掘調査にとりかかる。調査区の表土掘削を開始し、排水用の溝を切り始める。調査区域境に安全柵を設けた。調査区は図2『本郷山根遺跡の調査区』で図示してあるスクリーン部分である。この部分は北側に河川改修の線引き部分がある場所よりも西側から東側にかけて低台地が広がり集落の密集する部分である。しかし、現在では水田化がなされている。この台地北側には竪穴住居跡は確認できず、掘立柱の建物跡と無数のピット群が検出された。調査区には5mグリットを設定した。河川改修工事用のセンター杭ののっている直線を基準線とした。座標は西から東へアルファベット、北から南へ数字で表

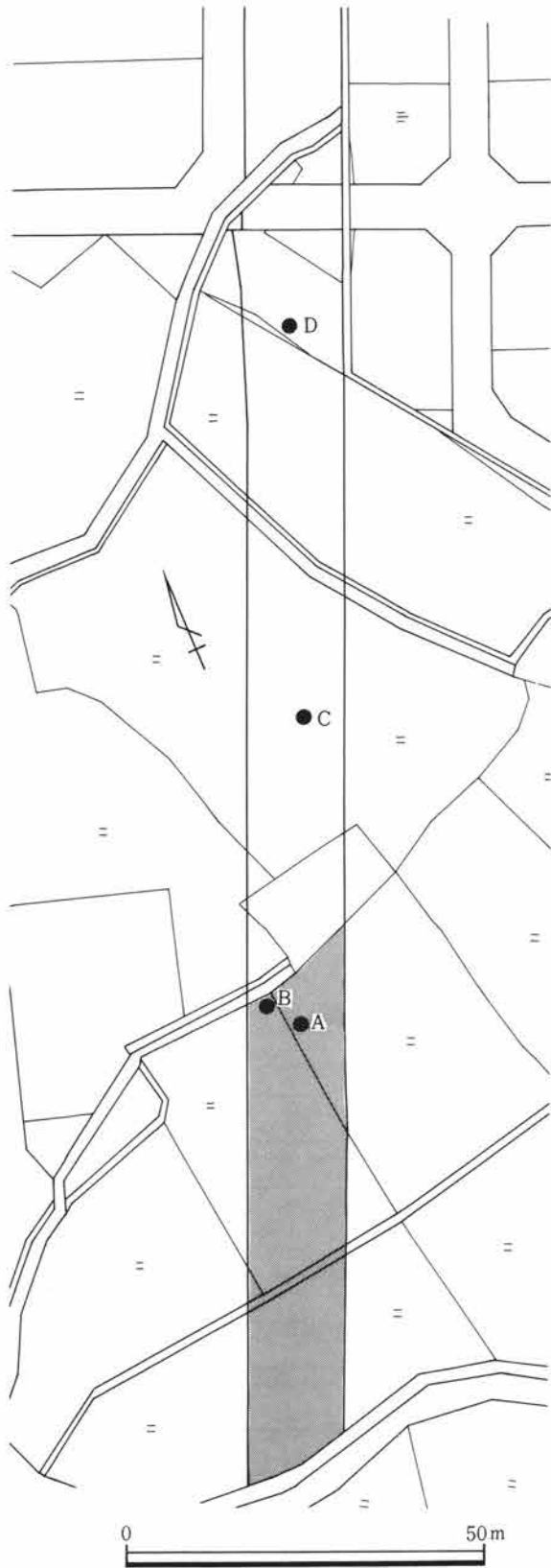


図2 本郷山根遺跡の調査区 A～D基本層序確認地点
 ■ スクリーンゾーン部分

現し、北西の隅にグリットポイントを設け、調査区を呼ぶことにした。遺構の調査にあたっては、遺構と基本土層との関係や遺構の新旧関係を見極めるように努めた。遺構内埋没土中の遺物と遺構との関係を知るために必要に応じて土層観察用のベルトを残して調査を行った。出土遺物は遺構の底よりもかなり浮いているものについては遺構名と土層を見極めて取り上げを行い、底に近いものについては出土位置図（平面図20分の1）に1点ずつ標高、出土層位、出土年月日を記入した。また、記録写真は6×9版のモノクロ写真と35mmのモノクロ写真、35mmのリバーサルフィルムにより全景、各遺構の全景、遺物出土状況、土層等を記録した。雨天の日は現場事務所において遺物の洗浄、注記を主に、他に記録写真の整理、図面の照合等も同時に行った。今回の主な検出遺構は古墳時代から平安時代にかけての住居跡が中心であったため、20分の1の遺構平面図、土層図、遺物出土状況図、掘り方図、10分の1のカマド平面図・土層図が主であった。また、本遺跡をのせる台地の成り立ちや自然環境の把握と遺跡の関係を明らかにしたいために地質の分析委託をも試みた。このようにして行った調査も8月下旬に撤収作業を行い、特に工事期間までの安全対策として現地の掘削部分に土羽をつけて崩壊防止作業を行い、完全に撤収とした。

整理作業は、昭和63年度事業として事業団本部において4月から行われた。主な作業としては報告書作成に必要な遺構等の図面整理の他に、出土した遺物の復元作業、実測、トレース、原稿執筆、レイアウト、校正等であった。具体的な整理方法等については本書の凡例に記載した。

I 発掘調査の経過

3. 基本層序

発掘調査終了時点で台地平坦部及び台地斜面部、低地部に合計7箇所の深掘りトレンチを設定して確認した(図2)。図3はその基本的な層序である。

A 台地平坦部 遺構は総てここから検出された。

I層は水田耕作土である。厚さは20~30cmと薄い。

I'層は水田の床土であり、赤褐色の鉄分凝集層が認められる。

II層は黄褐色粘性土層であり、この中に浅間一板鼻黄色軽石層(YP)に対比される可能性が高い部分がある。

III層は茶褐色砂質シルト質土層である。古墳時代以降の遺構の多くはII層から掘り込まれていた。

IV層は黄褐色粘性土層である。

V層は暗褐色粘性土層である。IV層下半部からV

層にかけては浅間一板鼻褐色軽石群(BPグループ)に対比される可能性がある。しかし、純層としては検出できなかった。第10号土坑はII層からここまで掘り込まれていた。

VI層は黄褐色粘性土層であり、藤岡粘土層である。本層の上部(資料22)に始良丹沢パミス(AT)層が検出された。

B 台地斜面部 調査区北側の台地落ち際の層位である。

I・I'層は台地平坦部とほぼ同じである。

II層は浅間A軽石層である。台地北側の落ち際のみ厚く認められた。

III層は暗青灰色粘土層である。ここまでが台地際の落ち込みであり、IV層以下は台地平坦部のII層以下に対比されるものと思われる。

IV層は黄褐色粘性土層である。本層上部に台地平

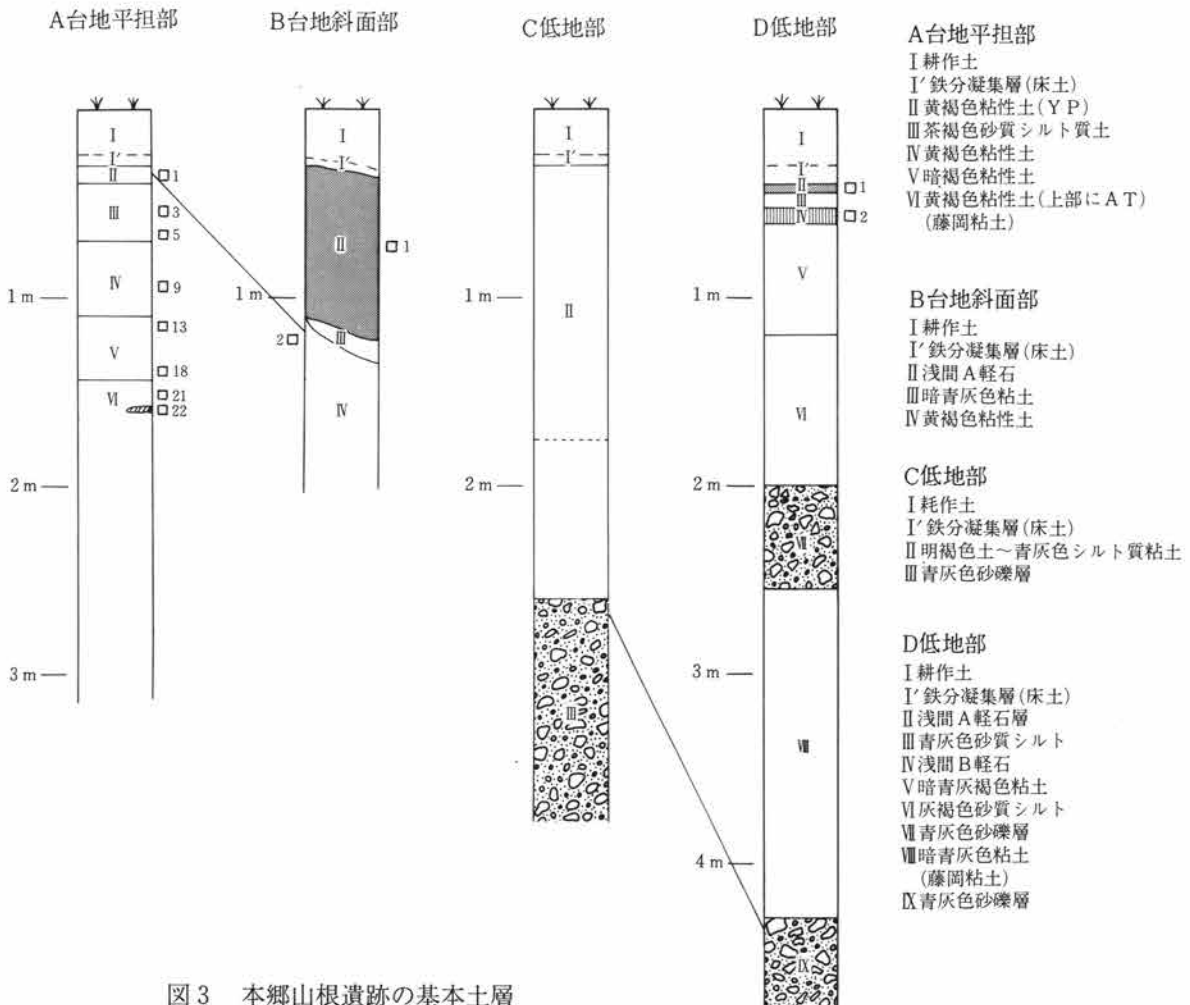


図3 本郷山根遺跡の基本土層

坦部のⅡ層に検出されたY Pが認められた。

C低地部

I・I'層は台地部とほぼ同じである。

Ⅱ層は明褐色～青灰色シルト質粘土層であり、厚さは2～3 mと非常に厚い。本層下部が藤岡粘土層に対比される可能性がある。

Ⅲ層は青灰色の砂礫層であり、藤岡台地の基盤をなしているものと考えられる。

D低地部

I・I'層は台地部とほぼ同じである。

Ⅱ層は浅間A軽石層である。

Ⅲ層は青灰色砂質シルト層である。

Ⅳ層は浅間B軽石層である。本地点でのみ確認された。

V層は暗灰褐色粘土層である。本郷尺地遺跡の完新世粘土層に対比される可能性が大きい。

Ⅵ層は灰褐色砂質シルト層である。

Ⅶ層は青灰色砂礫層である。本層はC地点では良く確認できなかった。

Ⅷ層は暗灰色粘土層であり、藤岡粘土層である。

Ⅸ層は青灰色砂礫層であり、基盤をなしている。

B・D地点では浅間A軽石が確認された。特にB地点ではその堆積が厚かったが、これは降下以後のなんらかの作用によるものと考えられる。

A地点Ⅱ～V層、B地点Ⅳ層、C地点Ⅱ層上部、

D地点V・Ⅵ層は地点によっては細かく分けることができるが、全体的に見るとシルト質であり、それぞれ対比されるものと考えられる。ただし、台地部に比べて低地部の方が、青味を帯び暗い感じがする。

この層の下にくる青灰色砂礫層（D地点Ⅶ層）は上のシルト質の部分の厚さが各地点ともほぼ一致することから約2万年以前の可能性が大きい。今後の調査を必要とする。D地点ではこの層の下に、それ以外の地点では対比できたシルト質層の下に藤岡粘土層の堆積が認められる。A地点では藤岡粘土層の上部までしか抜くことができなかったが、この層の下に基盤となる青灰色砂礫層があるものと思われる。現在低地となっている部分でも今回藤岡粘土層が確認されたところもあり、低地部だからといって藤岡粘土層がないとは言えない。また、A地点では藤岡粘土層中の上部にA Tが確認されたことにより、これまで同粘土層は、前橋泥流の堆積に伴って形成されたと考えられてきた（文献17・18）が、堆積開始時期はそれ以前であることがわかった。なお、本庄台地のうち、最も広い段丘面（仮に、本庄面と呼ぶ）を構成する砂礫層の上の粘土層中でもA Tが検出されており、藤岡面と本庄面は、ほぼ同時代面であることが明らかとなった。^(註1)

註1 (株)パリオサーヴェイテフラ分析報告書

A・B・C地点のテフラの特徴

本郷山根遺跡試料テフラ分析報告

パリオ・サーヴェイ株式会社

試料番号	軽石の量	軽石の最大径	軽石の色調	火山ガラスの量	火山ガラスの形態	鉱物組成	示標テフラ
A-1	少ない			多い	Pm>int	フェルシク鉱物(特に斜長石)に富む	As-YP
A-3	少ない			少ない	(Pm)	フェルシク鉱物(特に斜長石)に富む	
A-5	少ない			少ない	(Pm)	フェルシク鉱物(特に斜長石)に富む	
A-9	少ない			少ない	(Pm)	マフィック鉱物(特に斜方輝石)に富む	As-BPg
A-13	少ない			少ない	(Pm)	マフィック鉱物(特に斜方輝石)に富む	As-BPg
A-18	少ない			少ない	(Pm)	マフィック鉱物(石英を多く含む)	As-BPg
A-21	少ない			多い	bw>pm		
A-22	少ない			特に多い	bw>pm		A T
B-1	特に多い	7 mm	白色	多い	Pm	マフィック鉱物(特に斜方輝石)に富む	As-A
B-2	少ない			多い	Pm	フェルシク鉱物(特に斜長石)に富む	
D-1	特に多い	6 mm	白色	多い	Pm	マフィック鉱物(特に斜方輝石)に富む	As-A
D-2	特に多い	3 mm	褐色	多い	Pm	マフィック鉱物(特に斜方輝石)に富む	As-B

Pm：軽石型火山ガラス int：中間型火山ガラス bw：バブル型火山ガラス g：グループ

4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布

本郷山根遺跡のある群馬県藤岡市は、群馬県の南部にあり、関東平野の西南の縁に位置している。従って、藤岡市は南方が山地となっており、標高は高い。この山地は「多野山地」と呼ばれ、今から三億年前の古生代に海底に堆積した火山噴出物でできている極めて古い地形である。長い間に山体を造っている岩石は変成を受け、「三波川結晶片岩」いわゆる三波石を産出する。この山地帯からはそれと共に蛇紋岩や滑石も産出する。三波石は庭石に、蛇紋岩は磨いて置物や壁タイルなどの装飾品として利用され、藤岡瓦と共にこの地域の地場産業を支えている。また、滑石はお土産もの、大和のり、壁材などの材料、ベビーパウダーなどとして利用されている^(註1)。藤岡市内ではそうしたものをつくるための工場もある。滑石産業もこの地域では見逃してはならない産業のひとつである。

この多野山地から流れ出た河川は北流し、利根川へ流れ込んでいる。それらの河川によって、いくつかの地形面が造られている。

藤岡市街地のある台地は、神流川と鮎川のつくった開析扇状地で、南関東の立川面に相当し、「藤岡台地」と呼ばれている。基盤には神流川や鮎川の上流にある古生層や変成岩に由来する礫が厚く堆積している。今回報告する本郷山根遺跡は神流川の扇状地上に位置している。藤岡台地では基盤の礫層が露出しているところも多く、そこを地山として遺構が掘り込まれている遺跡が多い。しかし、本遺跡では基盤の礫層の上に藤岡粘土層、その上にいわゆる関東ローム層が厚く堆積しており、結晶片岩などの礫が露出しているところは認められなかった。

藤岡市の遺跡を概観すると図4のようになる。

旧石器時代の遺跡は、庚申山山麓や西側の段丘などの安定したローム層の堆積があるところに検出されている。本遺跡に位置的に近いものとしては国道245号線バイパスに関連して調査された北山遺跡がある。同遺跡ではA T前後の時期と考えられるナイ

フ形石器を中心とする石器群が出土している。本遺跡でもローム層の堆積は厚かったが、同時代の遺物は検出されなかった。

縄文時代の遺跡は台地の縁辺に数多く分布している。特に西側の段丘には小さな谷に区切られた尾根のひとつひとつに並ぶように中期を中心とする遺跡が立地している。本遺跡でも中期の遺物は多く出土し、遺構としては阿玉台式土器を伴った土坑も検出された。また、藤岡台地の縁辺には沖積土に埋積された後晩期の遺跡が目立つ。温井川の河川改修などにより調査された谷地遺跡や藤岡市立北中学校建設に伴って調査された沖遺跡などはその代表的なものである。

古墳時代以降の遺跡は鮎川や神流川に注ぐ小河川沿いに点々と分布する。特に緑埜や白石、芦田町周辺、本郷・小林、下栗須の台地などは遺跡の分布が多く、古墳の分布も集中している。これらの地域はやや広い沖積地沿いに弥生時代後期から集落が成立しているところであり、古墳時代から平安時代まで遺跡が継続して営まれている。藤岡地域全体の中でそれぞれ中心的な地点である。古墳時代には滑石を利用して様々な石製品を製作していたと考えられる遺跡もある。その代表的のものが竹沼遺跡である。同遺跡は鮎川沿いの扇状地上にあり、9軒の工房跡がある。本遺跡でも滑石の製作工房跡が検出されたが位置的には神流川の扇状地上にあり、竹沼遺跡とは藤岡台地では対峙する。後背地に滑石を産出する多野山地があるわけであり、こうした滑石製作工房跡は調査はされていないだけでまだまだあるものと思われる。奈良・平安時代になると下栗須の南の沖積地内の温井川沿いにも遺跡が分布するようになる。また、鮎川上流の丘陵部にはこの時期に瓦窯跡や須恵器の窯跡が多く造られるようになり、窯跡群を形成している。ここで作られた瓦はいわゆる国分寺瓦で、須恵器は群馬県内の古墳や集落遺跡からの出土遺物の中に見られることが、胎土分析の結果などからわかっている。

註1 志村 哲氏の御教示による。

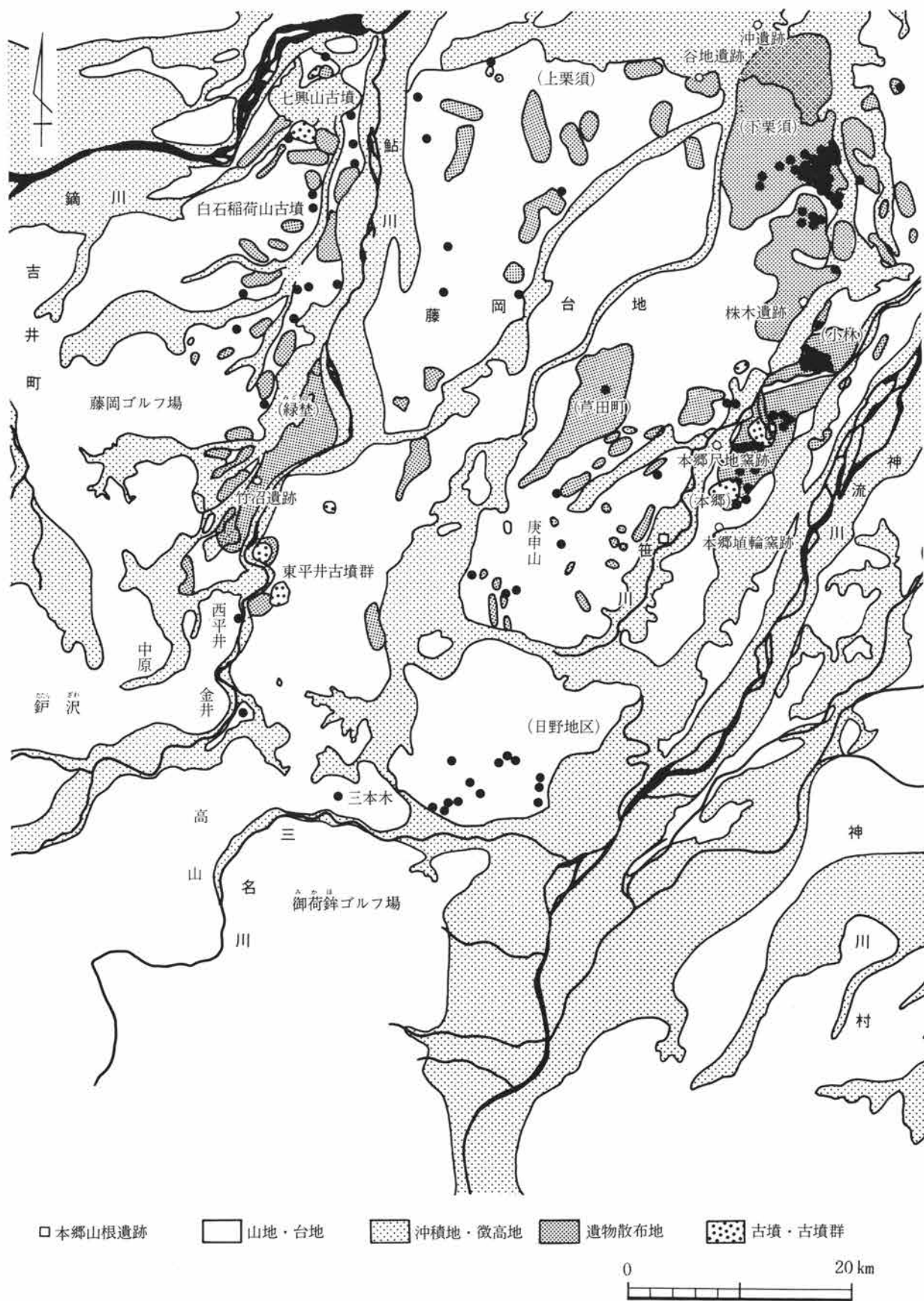


図4 藤岡地域の地形と主な遺跡分布

II 検出された遺構と遺物

1. 縄文時代

(1) 遺構

縄文時代の遺構としては陥穴状遺構1基、中期前半阿玉台式I a期と考えられる土坑1基の計2基のみである。その他に縄文中期土器片や石器を出土した風倒木痕が1基ある。

第10号土坑(陥穴状遺構)(図5、P L 2)

位置 C・D-23・24

主軸方位 長径方向N41°W

重複 1・2・3号溝の交差する下より検出された。

規模 長径1.74m 短径0.57m 深さ0.45m

形状 長楕円形を呈し、北端と南端部に段を有する。

埋没土 周辺部にロームブロックを含む壁の崩落土有り。

底面 ほぼ中央で半載したが、底面にピットは確認できなかった。

遺物出土状態 遺物は1点も出土していない。

遺存状態 平面プランは上の面では確認しにくかつ

たが、10cmほどさげた状態では明瞭であった。壁及び底はしっかりしていた。

第7号土坑(図5・7、P L 2・18)

位置 C・D-30

主軸方位 長径方向N75°E

重複 無し

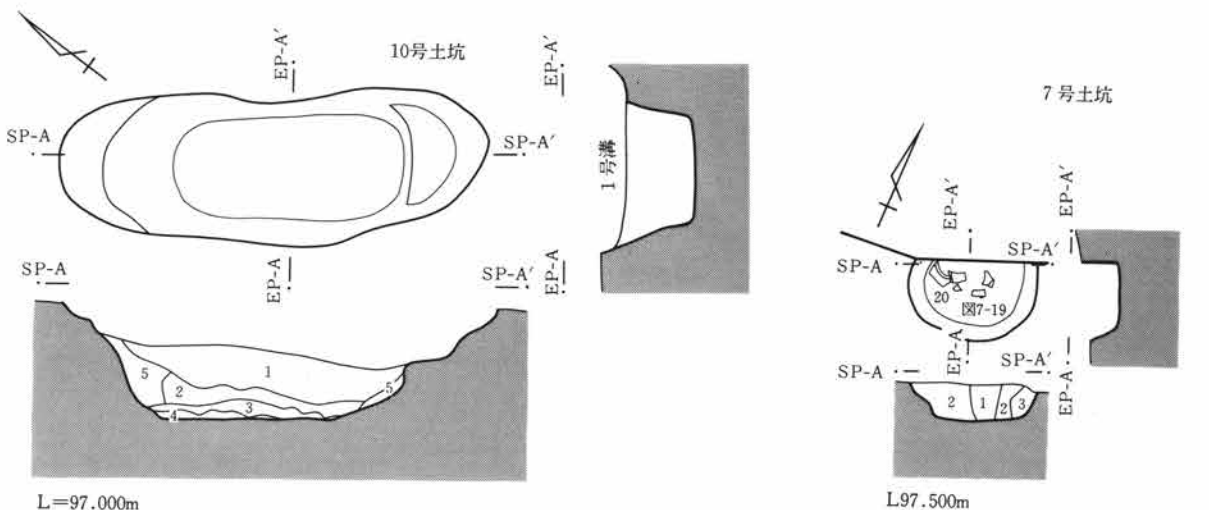
規模 長径0.51m 短径(0.33)m 深さ0.15m

形状 ほぼ円形を呈するものと考えられる。

埋没土 全体に焼土粒子を含む。

遺物出土状態 底面に網代痕を残さないのを特徴とする無文深鉢形土器(図7-19・20、P L 18)がほぼ中央より正位の状態で出土している。そのうち、輪積痕を残すものは欠損していた。その他に該期の土器片が数点出土している。

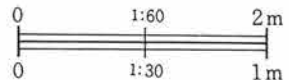
遺存状態 掘り方はしっかりしており、底面は比較的良くしまっていた。北側は水路のため調査することができなかった。



1. 暗褐色土 ローム粒子及び炭化物粒子を少量含む。
2. 暗褐色土 ローム粒子を1よりもやや多く含む。締りも良く粘性有り。
3. 暗褐色土 微細砂混じり。2よりも粘性は有る。ロームブロックを多量に含む。
4. 黄褐色土 ほぼローム。暗褐色砂質土(地山)を含む。
5. 黄褐色土 ロームブロック極多量、暗褐色土ブロック少量含む。粘性有り。

図5 第10、7号土坑

1. 褐色土 焼土粒子・白色鉱物粒子を含む。
2. 褐色土 焼土粒子・白色鉱物粒子・炭化物を含む。
3. 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。



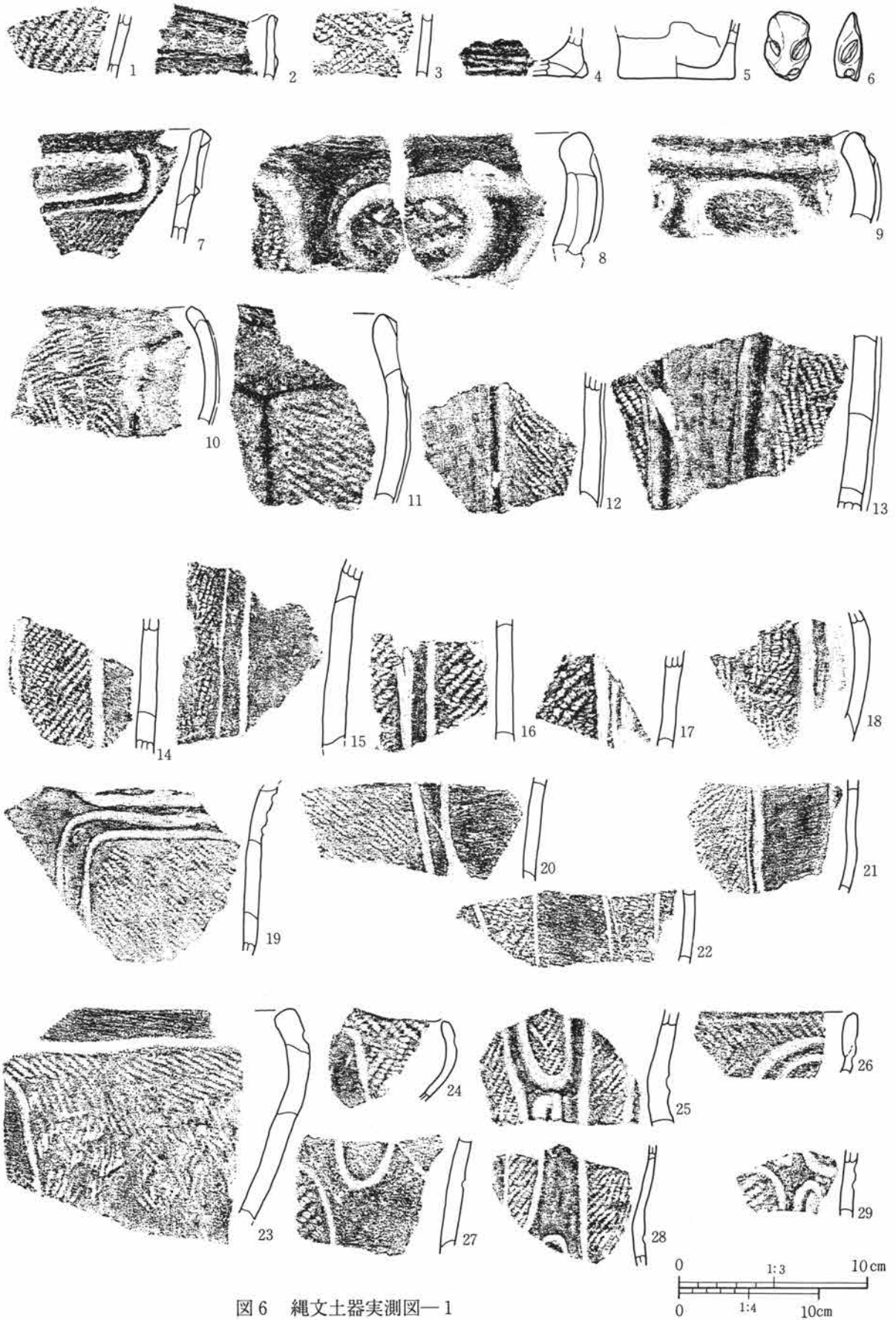
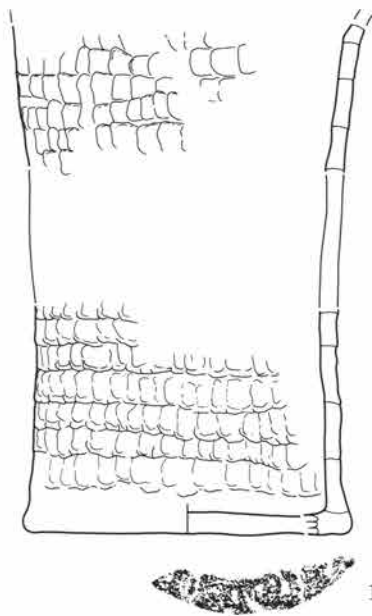
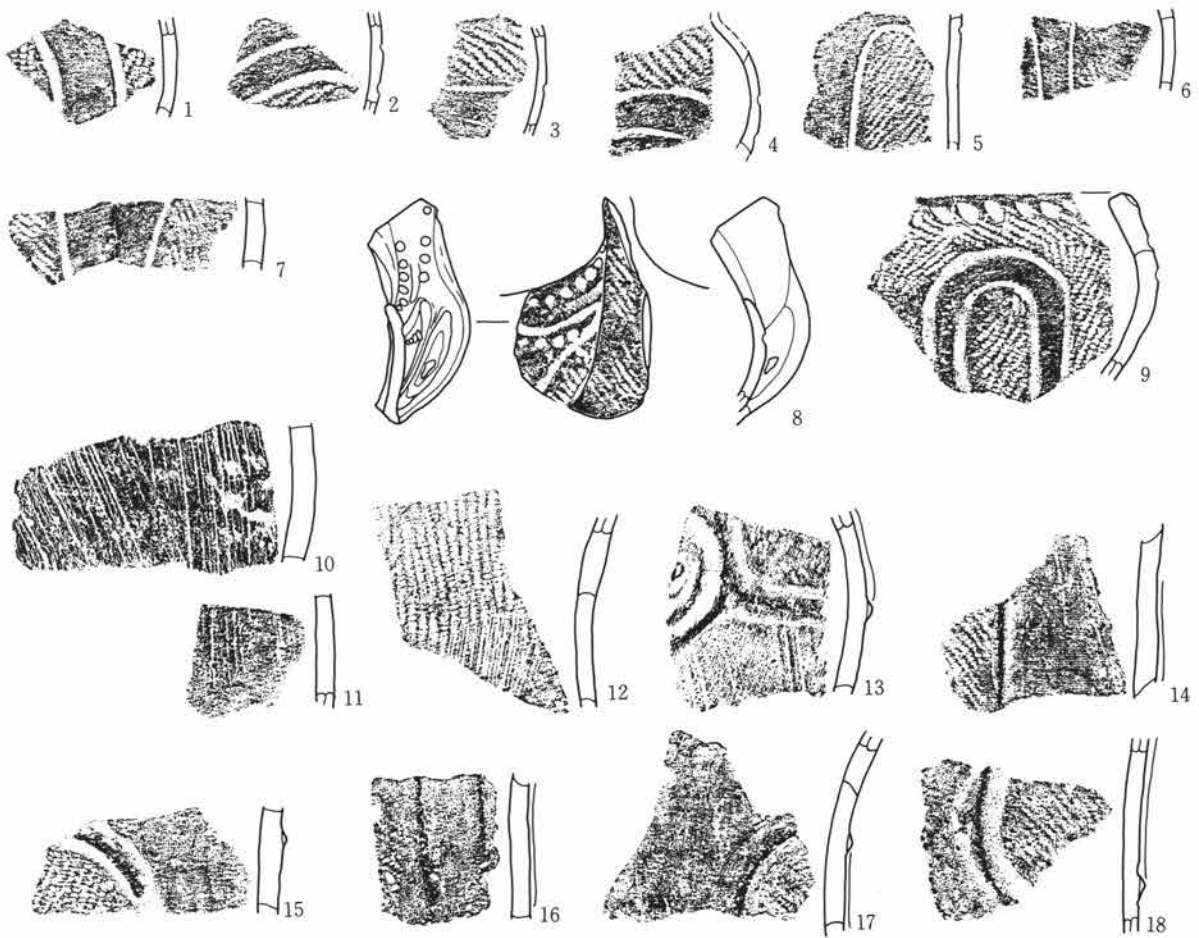


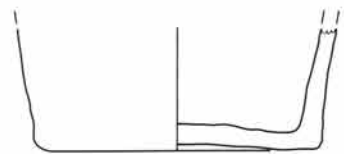
図6 縄文土器実測図一1

II 検出された遺構と遺物



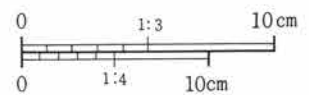
19(1/4)

第7号土坑



20(1/4)

図7 縄文土器実測図一2



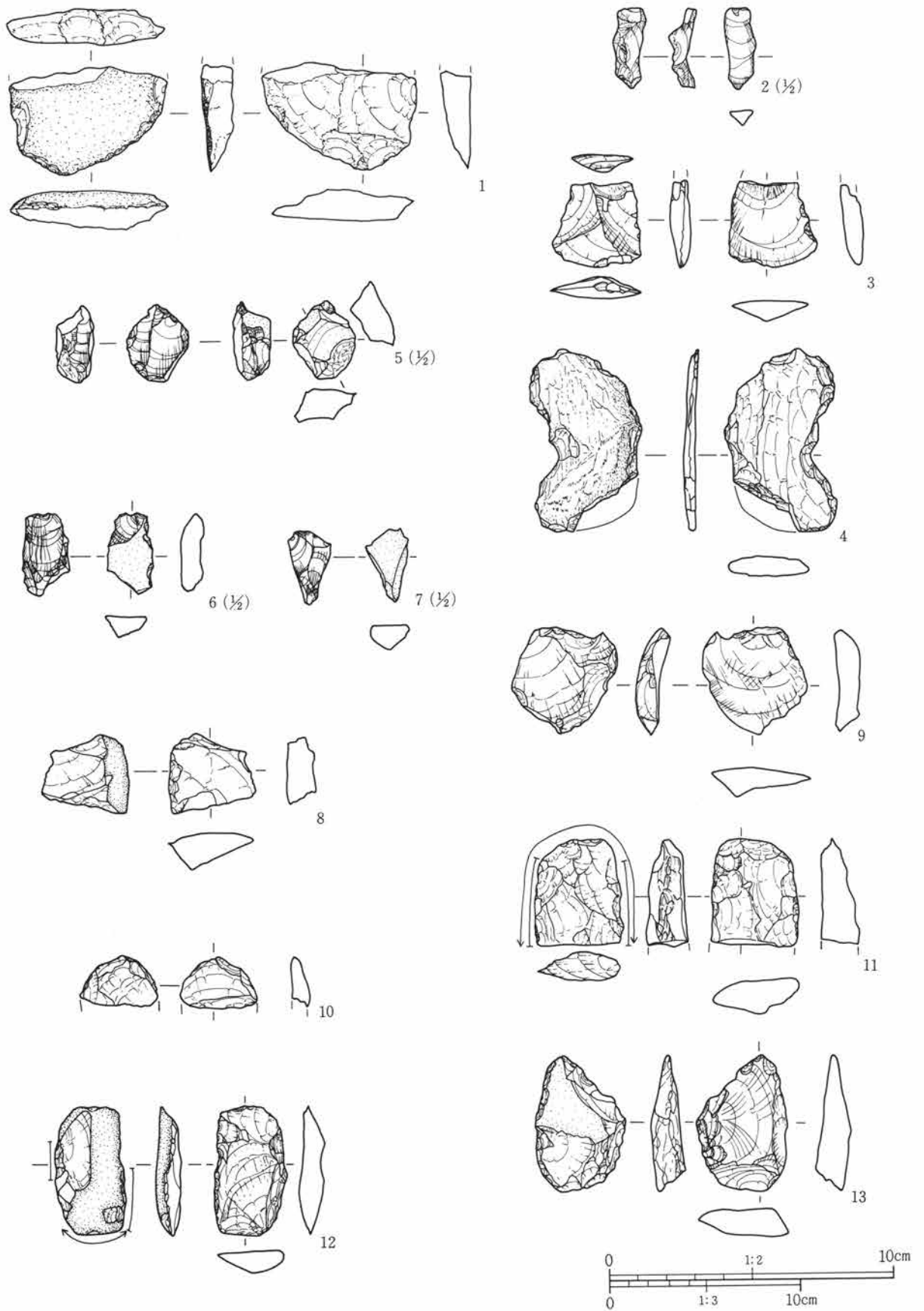
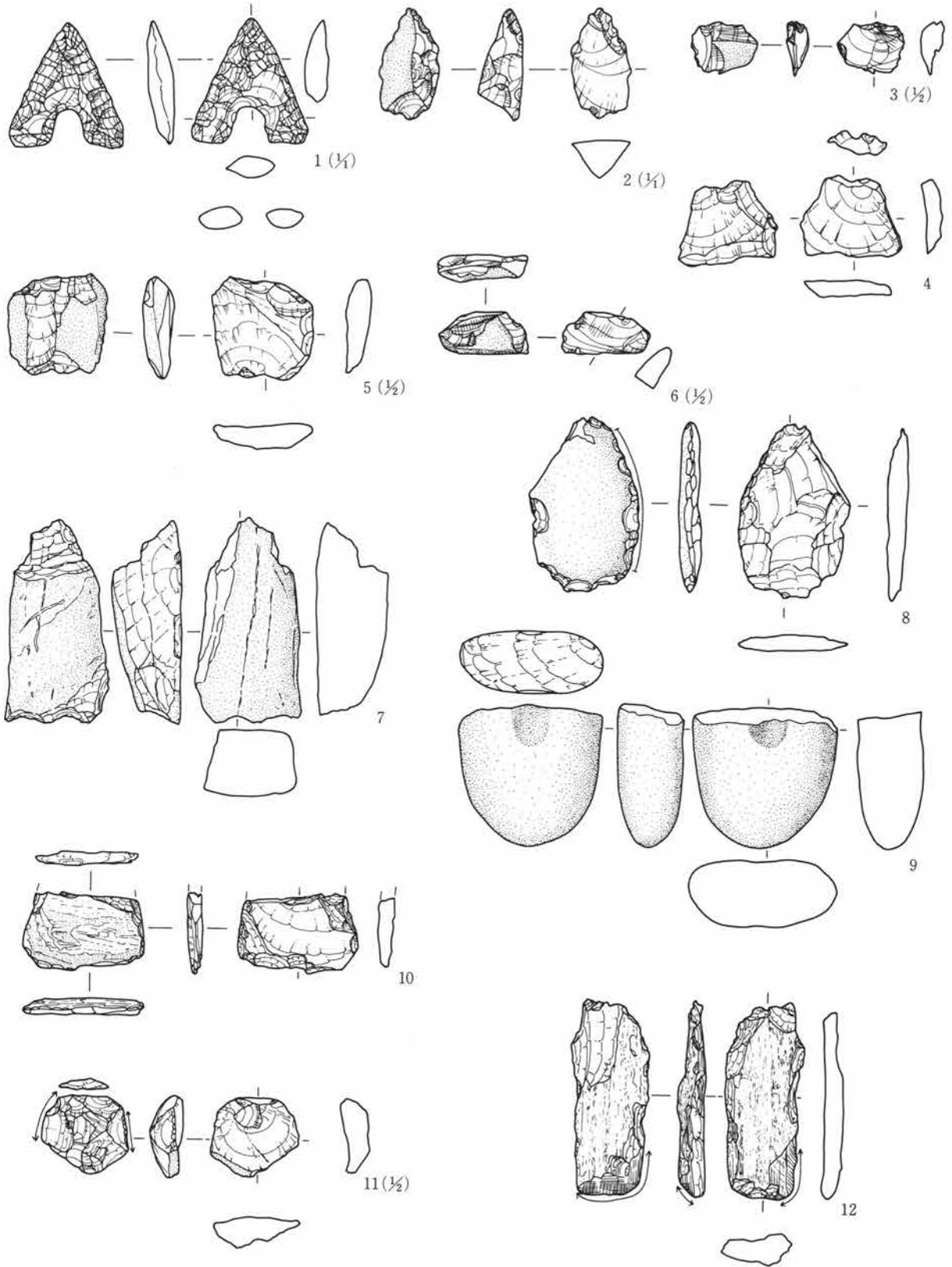


図8 第5号(1)、6号(2~4)、7号(5~12)、9号(13)住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



0 1:1 5cm

0 1:2 10cm
0 1:3 10cm

図9 第10号(1~9)、12号(10)、13号(11)、15号(12)住居跡出土石器

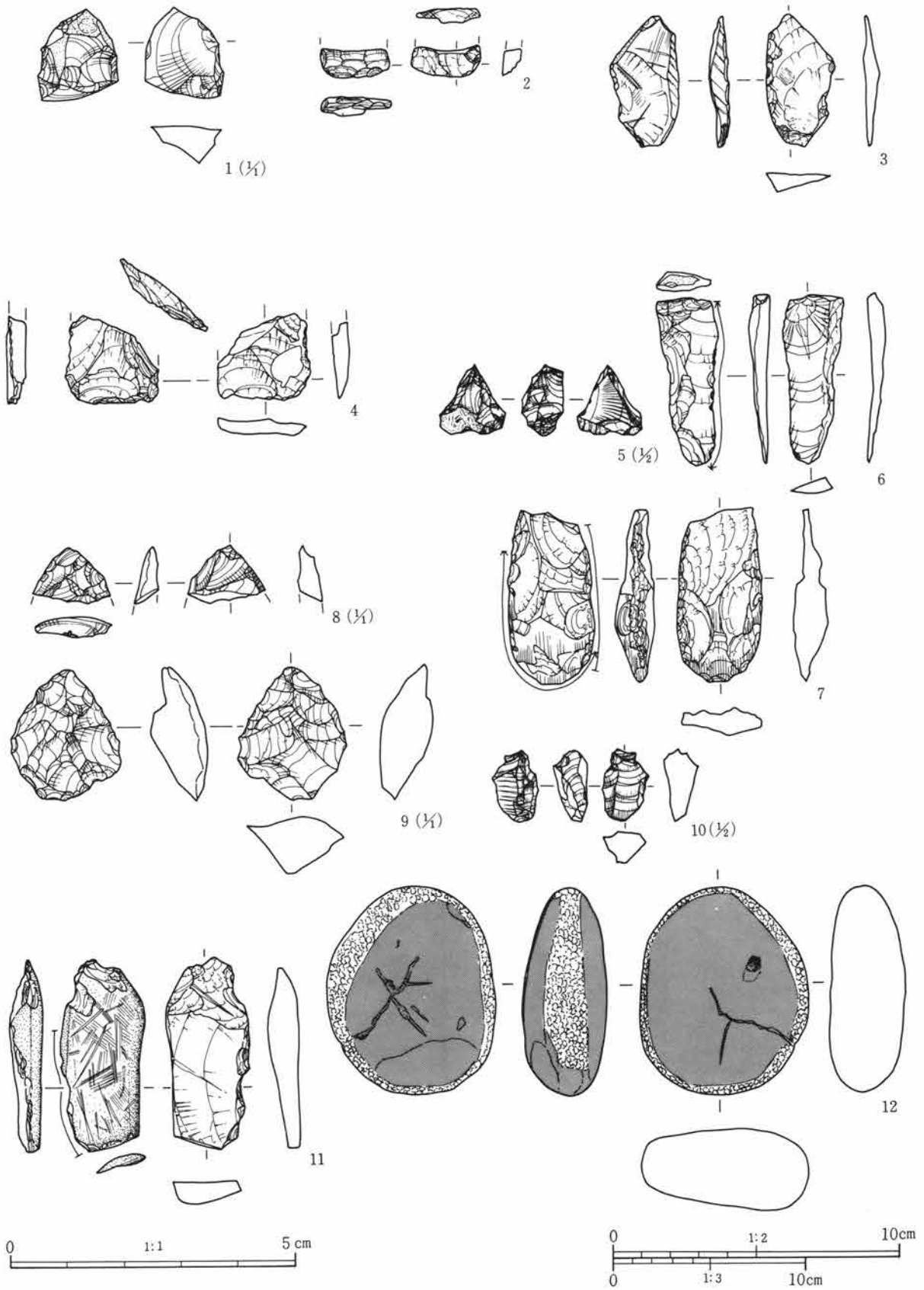


図10 第16号(1~3)、17号(4)、19号(5~7)、21号(8・9)、
22号(10)、24号(11)住居跡、第1号(12)溝出土石器

II 検出された遺構と遺物

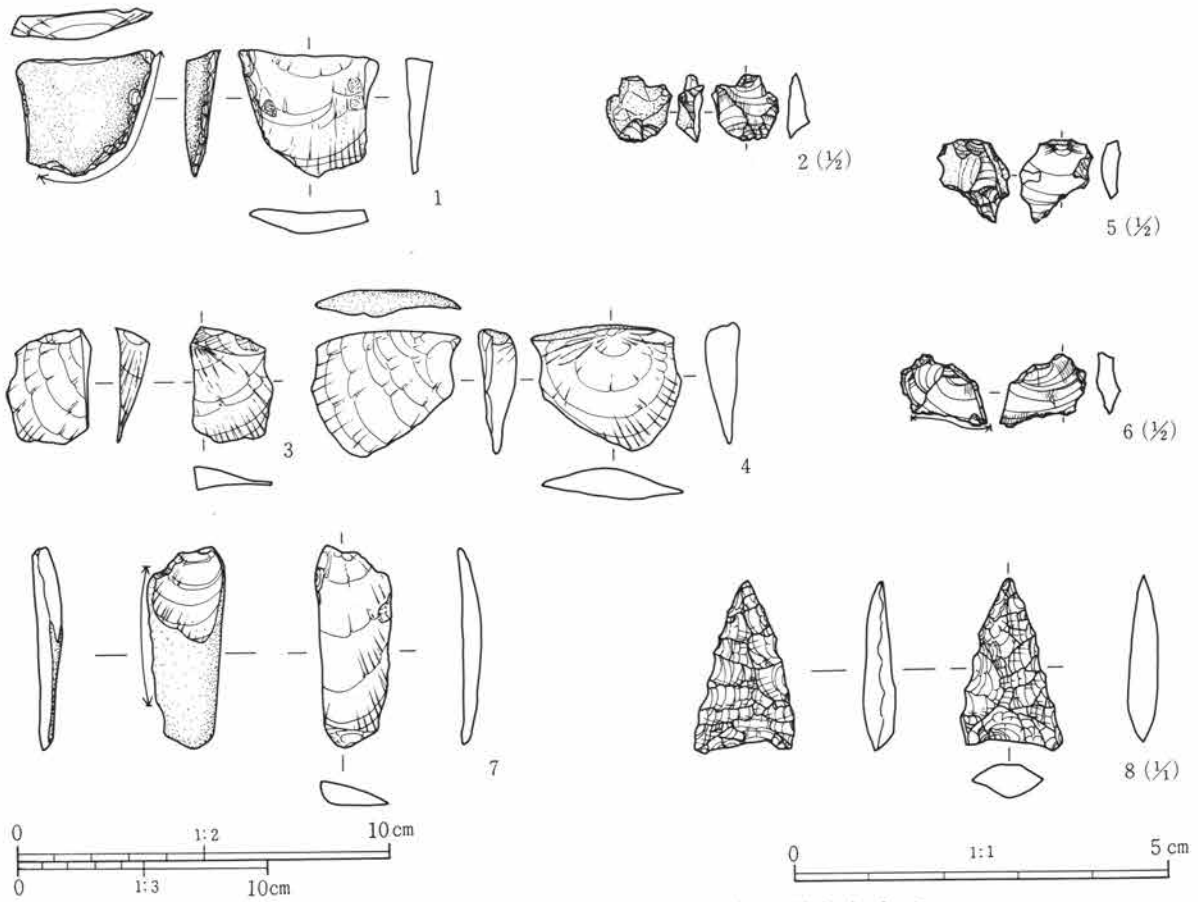


図11 第4号(1)、6号(2)、10号(3・4)、63号(5)ビット
C-27グリッド(6)、風倒木(7)、表採(8)出土石器

縄文時代石器集計表

遺構名	磨・敲・凹石	打製石斧	削器	加工・使用痕のある剥片	楔形石器	石鏃	石錐	石核	剥片	碎片	計
1号住									1		1
5号住				1							1
6号住	1	2		1					6		10
7号住	1	2							1		4
8号住									1		1
9号住			1								1
10号住	1		2	1	1	1	1		5		12
11号住									1		1
12号住		1									1
13号住				1							1
15号住	3	2									5
16号住		1	1	3	1				2		8
17号住				1							1
19号住		1						2	1		4
21号住						2			1		3
22号住								1	1	1	3
24号住									1		1
1号溝			1	1					1		3
4号ビット				1							1
6号ビット									1		1
風倒木				1					1		2
表採			1			1					2
概念図				1							1
合計	6	9	6	12	2	4	1	3	24	1	68

縄文土器観察表

番 号	器種・部位	①胎土 ②色調 ③焼土	文 様 の 特 徴	備 考
図6-1	深鉢胴部	①繊維・砂粒 ②鈍い褐色 ③良好	0段多条のLR縄文を横位に施す。	黒浜式
図6-2	深鉢口縁部	①繊維・細砂粒 ②褐色 ③やや軟質	器面は摩滅する。口唇部と口縁部に細隆線を貼りつける。	黒浜式
図6-3	深鉢胴部	①繊維・細砂粒 ②褐色 ③良好	0段3条RLと0段多条LRの羽状縄文を横位に施す。	黒浜式
図6-4	深鉢底部	①多量の繊維・砂粒 ②橙色 ③やや軟質	底径約16.0cm。腰部に条線が横位に走るが判然としない。	
図6-5	深鉢底部	①細砂粒 ②鈍い橙色 ③良好	比較的胴部の器肉は薄い。底部内面中央で肥厚し、端部は僅かに張り出す。内面は横撫で、外面は研磨。	諸磯式系
図6-6	突 起?	①細砂粒 ②鈍い褐色 ③軟質	深鉢に設けられる人面状の突起か?。目の表象と思われる相対称の刻みは深くなく、鼻の表象もやや雑である。	
図6-7	深鉢口縁部	①粗砂粒 ②褐色 ③良好	隆線による楕円～方形区画を口縁部文様帯とする。区画内は無文。胴部にLR縄文を横位に施す。	加曾利EⅡ新
図6-8	深鉢口縁部	①8砂粒・9細砂粒	8・9とも器面は荒れている。隆帯によって楕円区画を配列する。	加曾利EⅢ
図6-9	深鉢口縁部	②8灰褐色・9淡橙色 ③やや軟質	区画内は凹線が沿う。8の区画内は斜位のRL縄文が施される。	
図6-10	深鉢口縁部	①細砂粒 ②褐色 ③良好	細隆線が∩字状区画を描く。区画内、口唇部は磨り消す、地文はRL縄文を口唇部は縦位に、胴部は横位に施す。	加曾利EⅢ
図6-11 } 深鉢胴部 13	①粗砂粒・13細粒 ②褐色 ③11やや軟質 12・13良好	垂下隆線と磨り消し部。地文はRL縄文を施す。11は横位隆線よりの懸垂区画。12・13、隆線の両側を撫で、磨り消し部は研磨。	加曾利EⅢ	
図6-14 } 深鉢口縁部 22	①14・19・20・22粗砂粒 15～18・21細砂粒 ②16・17・19～21褐色 18灰褐色 22褐色 ③14・20やや軟質、他は良好	垂下沈線。沈線幅はやや広い。磨り消し部を持つ。19は外反する頸部で、2条の沈線で方形区画される。地文の縄文は、14～18、21・22、縦位RL。19はLR細縄文を縦位に、20はLRを縦位に施す。	加曾利EⅢ	
図6-23 } 深鉢口縁部 29 } 深鉢胴部	①23・27粗砂粒 他は細砂粒 ②23・25・27～29褐色 ③24・26・27・29やや軟質、他は良好	23、口唇下に凹線を廻らせ、24・26、沈線で∩字状モチーフを描く。25・27～29、U・∩字状モチーフを交互に配する。地文の縄文は、23、横位・斜位のLR。24・26、口唇部横位RL、胴部は縦位に施す。25・28・29は縦位RL。	加曾利EⅢ	
図7-1 } 4	①細砂粒 ②1・2・4鈍い褐色 3褐色 ③1・3やや軟質 2・4良好	1～2条の細沈線で弧を描く。沈線間は磨り消し、地文は細縄文を施す。		
図7-5 } 7	①5・6細砂粒 7粗砂粒 ②5褐色 6鈍い橙 7褐色 ③良好	1条の細沈線が弧を描き、∩字状のモチーフなどを施す。細縄文を地文とするが、6は摩滅のため判然としない。沈線間を磨り消す。	加曾利EⅢ	
図7-8	①細砂粒 ②淡褐色 ③良好	橋状把手だが孔径は小さく7×3mmで把手としての機能は少ない。口唇部に沿って円形の刺突文が施され、以下沈線・刺突文が交互に施される。把手部と口唇部の1部の地文は縦位の細縄文LR。	加曾利EⅢ	
図7-9	①細砂粒 ②鈍い褐色 ③良好	口唇部に指頭による刻みを施し、2条の凹線が∩字状モチーフを描く。地文は口唇部横位RL、胴部縦位LR。	加曾利EⅢ	
図7-10 } 13	①10・12粗砂粒 11砂粒 13細砂粒 ②10鈍い褐色 11～13褐色 ③良好	縦位の条線を施す。工具は恐らく櫛歯状工具であろう。11は腰部付近。12の縄文は斜位RL。13は頸部・隆線による区画文が口縁部に設けられ、胴部に数本単位の疎らな条線が施される。	加曾利EⅢ	
図7-14 } 18	①粗砂粒 ②17褐色 他は褐色 ③16軟質 他は良好	微隆起状の細隆線が器面を分割、区画する。区画内は地文を残す。16は腰部。15・17・18は円形区画か。	加曾利EⅢ新	
図7-19	①少量の雲母・砂粒 ②褐色～橙色 ③やや軟質	復元実測。胴部上半で僅かに外反し、緩やかに反り気味に落ち、底部端部は張り出す。器面全体を指頭押圧痕で飾られる。	阿玉台I a 7号土坑出土	
図7-20	①粗砂粒 ②鈍い褐色 ③やや軟質	極く僅かに上げ底。底径14.8cmを測る。端部は若干突出する。	7号土坑出土	

Ⅱ 検出された遺構と遺物

縄文時代石器観察表

番 号	器 種	出 土 位 置	長 さ	幅	厚 さ	重 量	石 質	備 考
図8-1	使用痕のある剥片	5号住No.25 (-12)	(5.6)	8.3	1.6	81.3	砂 岩	砥石に利用?
図8-2	剥 片	6号住フク土	2.8	1.1	0.9	1.8	黒 曜 石	
図8-3	使用痕のある剥片	6号住フク土	4.4	4.6	1.0	23.9	頁 岩	
図8-4	打 斧?	6号住No.70 (+16)	9.5	6.5	0.9	60.6	雲母石英片岩	右下半欠損
図8-5	石 核	7号住フク土	2.6	2.3	1.2	6.62	黒 曜 石	
図8-6	剥 片	7号住掘り方	2.8	1.5	0.9	3.88	黒 曜 石	
図8-7	碎 片	7号住フク土	2.5	1.5	1.1	3.01	黒 曜 石	
図8-8	加工痕のある剥片	7号住フク土	3.1	2.9	1.2	9.89	黒 色 頁 岩	
図8-9	使用痕のある剥片	7号住フク土	5.7	4.8	1.5	43.4	頁 岩	擦痕有り
図8-10	打 斧?	7号住フク土	4.1	2.6	0.9	9.92	頁 岩	加熱・赤変
図8-11	打 斧	7号住フク土	5.4	4.6	2.0	111.8	硬 質 泥 岩	刃部欠損
図8-12	打 斧	7号住フク土	6.7	3.6	1.5	43.4	頁 岩	
図8-13	削 器	9号住フク土	6.9	4.7	1.8	64.2	頁 岩	
図9-1	石 鏃	10号住フク土	2.1	1.9	0.4	1.22	チ ャ ー ト	
図9-2	石 鏃	10号住フク土	1.9	1.0	0.8	1.31	チ ャ ー ト	
図9-3	使用痕のある剥片	10号住フク土	2.2	1.5	0.7	1.95	黒 曜 石	
図9-4	削 器	10号住フク土	4.0	4.9	0.9	23.0	安 山 岩	
図9-5	楔形石器	10号住フク土	3.1	3.1	0.8	11.2	黒色安山岩	
図9-6	剥 片	10号住フク土	3.0	1.4	0.8	3.67	黒 曜 石	
図9-7	礫 器	10号住No.38 (+2)	10.1	5.2	3.4	265.1	砂 岩	
図9-8	打 斧	10号住フク土	8.6	5.5	1.0	63.9	輝 緑 凝 灰 岩	
図9-9	磨石・凹石・敲石	10号住フク土	7.0	7.1	3.5	291.0	輝 緑 岩	
図9-10	打 斧?	12号住フク土	6.1	3.8	0.8	28.7	黒 色 片 岩	
図9-11	使用痕のある剥片	13号住フク土	2.9	2.6	0.9	7.3	チ ャ ー ト	
図9-12	磨 斧?	15号住No.17 (+12)	9.8	3.9	1.6	88.0	緑 色 片 岩	
図10-1	削 器	16号住フク土	1.7	1.4	0.7	1.4	黒 曜 石	
図10-2	打 斧?	16号住フク土	3.5	1.3	0.8	4.7	黒 色 頁 岩	
図10-3	加工痕のある剥片	16号住フク土	6.7	3.4	1.0	21.4	頁 岩	
図10-4	加工痕のある剥片	17号住フク土	5.7	4.3	1.1	24.5	黒色安山岩	
図10-5	石 核	19号住フク土	2.6	2.0	1.4	6.29	黒 曜 石	
図10-6	削 器	19号住フク土	8.7	2.9	1.2	25.4	頁 岩	
図10-7	打 斧	19号住No.84 (-3)	8.9	4.4	2.1	86.4	頁 岩	
図10-8	石 鏃	21号住フク土	1.4	1.0	0.4	0.33	黒 曜 石	
図10-9	石 鏃	21号住フク土	2.2	1.8	0.9	2.72	黒 曜 石	
図10-10	石 核	22号住フク土	2.5	1.5	1.2	3.87	黒 曜 石	
図10-11	磨石・敲石	24号住フク土	9.9	4.3	1.8	89.3	頁 岩	
図10-12	敲石・磨石	1号溝フク土	10.6	8.7	4.4	297.1	砂 岩	
図11-1	使用痕のある剥片	4号ビットフク土	4.8	5.4	1.1	25.6	頁 岩	
図11-2	剥 片	6号ビットフク土	1.9	1.6	0.6	1.58	黒 曜 石	
図11-3	剥 片	10号ビットフク土	4.4	3.1	1.3	11.0	硬 質 泥 岩	火山灰含む
図11-4	剥 片	10号ビットフク土	5.7	4.9	1.3	34.9	頁 岩	
図11-5	剥 片	63号ビットフク土	2.1	1.8	0.6	1.68	黒 曜 石	
図11-6	使用痕のある剥片	C-27グリッド	2.9	1.6	0.6	1.57	黒 曜 石	
図11-7	使用痕のある剥片	風倒木	8.2	3.1	0.8	22.3	頁 岩	
図11-8	石 鏃	表 採	2.1	1.4	0.4	1.1	チ ャ ー ト	

2. 古墳時代～平安時代

(1) 遺構

古墳時代から平安時代に属すると考えられる遺構は住居跡26軒、溝3条、掘立柱建物跡1棟、土坑10基、ピット約600基が検出された。住居跡は26軒中ほぼ全体を調査することができたものは半分にあたる12軒ほどであった。その他のものは部分的にしか調査することができなかった。(なお、26軒中の1軒は小鍛冶遺構であるが、住居番号は発掘時の番号をそのまま使用し、24号住とした。)

全体の配置は調査区の南側に住居跡が集中し、複雑に重複していた。小鍛冶遺構は住居群から離れた第1号溝のすぐ南側で検出された。調査区南側では住居跡のない部分にピットがあったが、その数は少なく、深くしっかりした掘り方のものは少なかった。12・13号住よりも北側には500基以上のピット群が集中していた。そのうちでも第1号掘立柱建物跡付近より南側に深くしっかりした掘り方をもつものが多かった。それらの覆土には焼土及びロームブロックを含むものが多いという特徴があった。そのなかには柱痕が確認できたものもあったが、掘立柱建物跡になったものは1棟のみであった。第1号掘立柱建物跡よりも北側のピットはあまり深いものではなく、覆土に焼土粒子やロームブロックを含むものもほとんどなかった。数もそれよりも南に比べて少なくなる。さらに第1号溝以北には掘り方の深いものがなくなると同時にその数もかなり少なくなる。第1号掘立柱建物跡と切り合った南側に縄文時代の風倒木があった。調査区北側に溝が3条検出された。第1号溝と第2・3号溝はほぼ直角に切り合っていた。第2号溝の西側に沿って浅い柱穴列が検出されたが、この両者は関連あるものと思われる。調査区北端でこの遺跡がのる台地は終わり、それより北側は落ち込んで谷地となる。台地落ち際で厚い軽石の堆積が確認されたが分析の結果浅間A軽石であることがわかった。この堆積が雨水作用等の自然の力によるものなのか、あるいは人の力によるものなのか

ということは調査状況からはわからなかった。

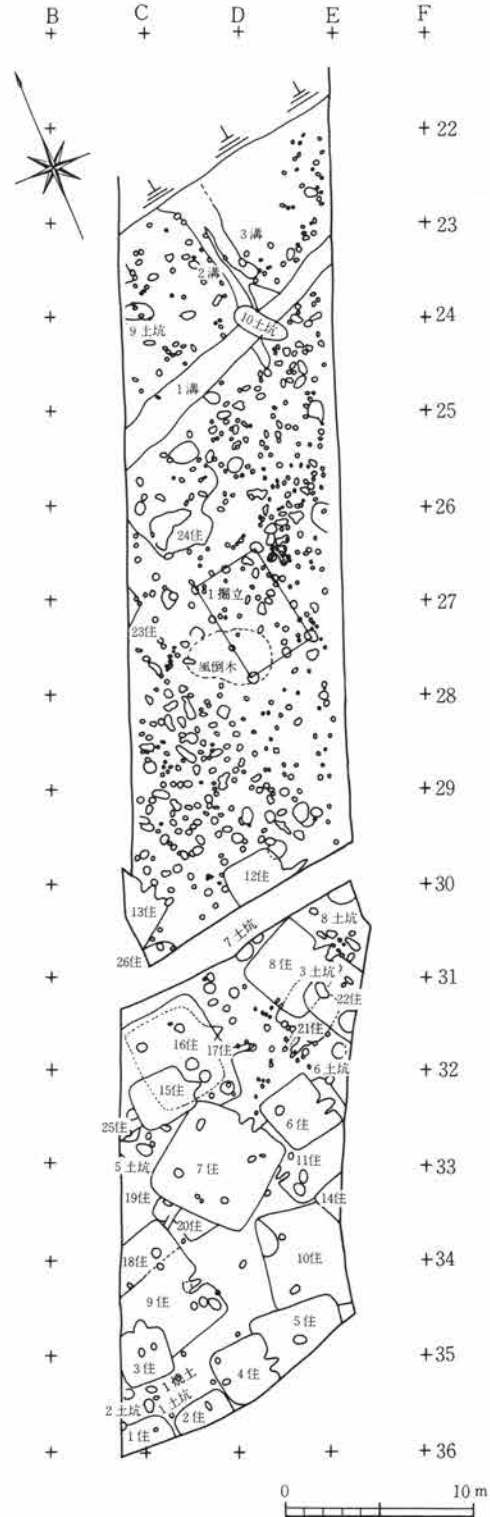
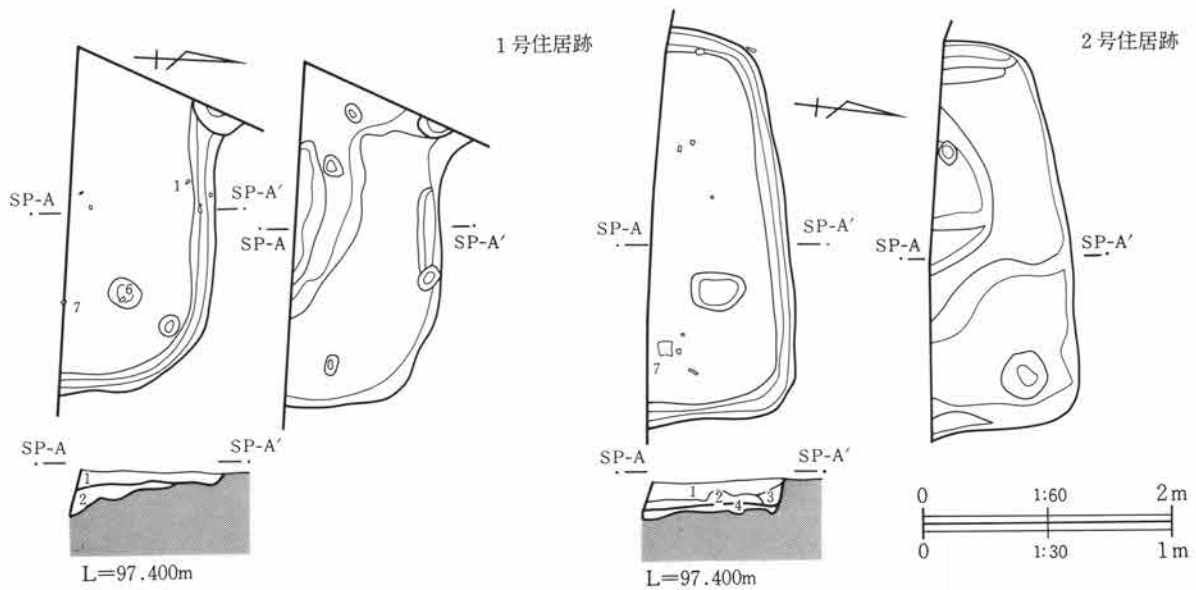


図12 本郷山根遺跡遺構配置図

II 検出された遺構と遺物



1号住

1. 暗褐色土 ローム粒子をやや多く、焼土粒子・カーボン粒子を少量含む。締りは比較的良好い。
2. 暗褐色土 極めて多量のロームブロック・粒子を含む。締りは良好い。焼土粗粒子を少量含む。

2号住

1. 暗褐色土 ローム粒子を少量。焼土粒子・カーボン粒子を微量含む。締りは良好い。色調はかなり暗い。
2. 暗褐色土 多量のローム粒子・ブロックを含む。カーボン粒子微量。1よりかなり明るく、黄色味が強い。締りは非常に良好い。
3. 暗褐色土 1よりも明るく、2よりも暗い。ローム粒子・ブロックをやや多く含む。締りは良好い。
4. 黄褐色ローム層 暗褐色土を少量含む。締りは良好い。

図13 第1号、2号住居跡

a 住居跡

1号住居跡(図13・48、P L 3・20)

位置 B・C-35 主軸方位 北壁方向N90°E

重複 無し。

規模 縦(2.73)m×横(1.19)m×深さ0.06m

形状 隅丸方形?

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土。

掘り方 極めて多量のロームブロック・同粒子を含む暗褐色土。中央部が窪んでいた。

床面 貼り床有り。中央部は掘り方の影響で僅かに窪んでいた。

貯蔵穴 不明。

周溝 有り。幅約20cm、深さ5cm

柱穴 北東部に長径26cm×短径22cm、深さ7cmの柱穴の可能性のあるピットが検出された。

遺物出土状態 小破片が全体から散在的に出土している。

カマド 不明。

備考 9世紀前半頃の住居と考えられる。

2号住居跡(図13・48、P L 3・20)

位置 C-36 主軸方位 北壁方向N78°E

重複 無し。

規模 縦3.1m×横(1.08)m×深さ0.18m

形状 隅丸方形?

埋没土 暗褐色土により埋没していたが、上部はロームブロック・同粒子が少なく、下部は多い。

掘り方 少量の暗褐色土を含むローム層により埋められていた。住居中央が南北に馬の背状に高く残りその両側は深い所で15cm~27cm程窪む。

床面 貼り床有り。周辺部を除き比較的良好く締まった面が検出された。

貯蔵穴 不明。

周溝 有り。幅約16cm、深さ5cm

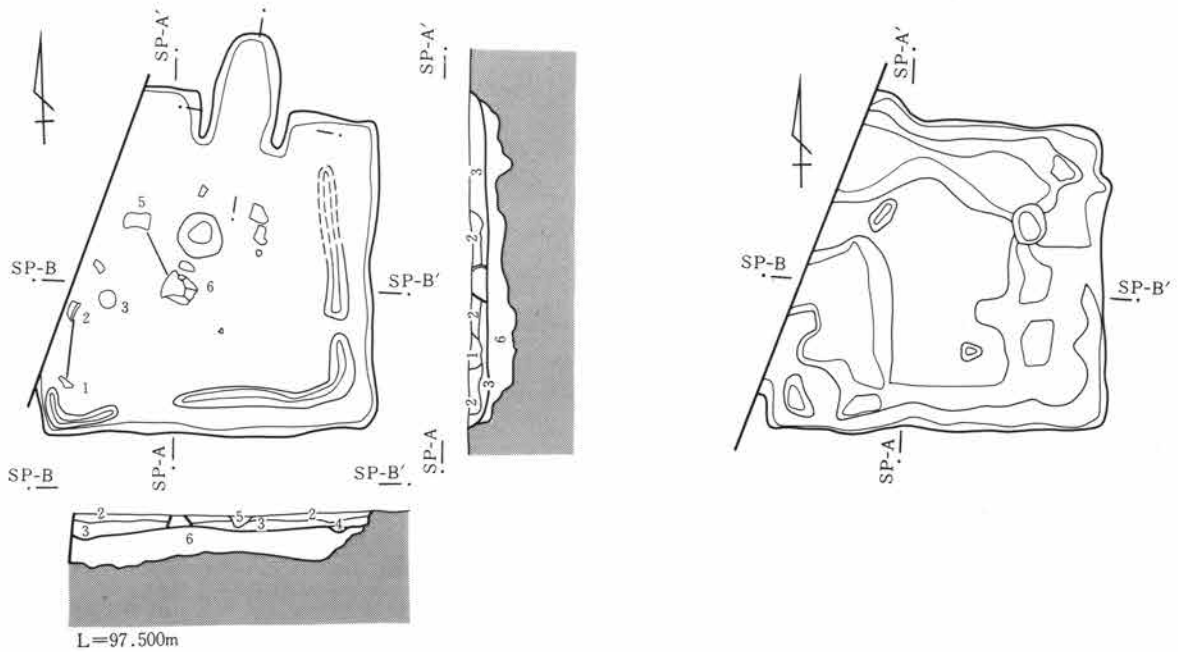
柱穴 北東部に長径42cm×短径30cm、深さ9cmのピットがあり、その可能性も考えられる。

遺物出土状態 小破片が散在的に出土している。

カマド 不明。

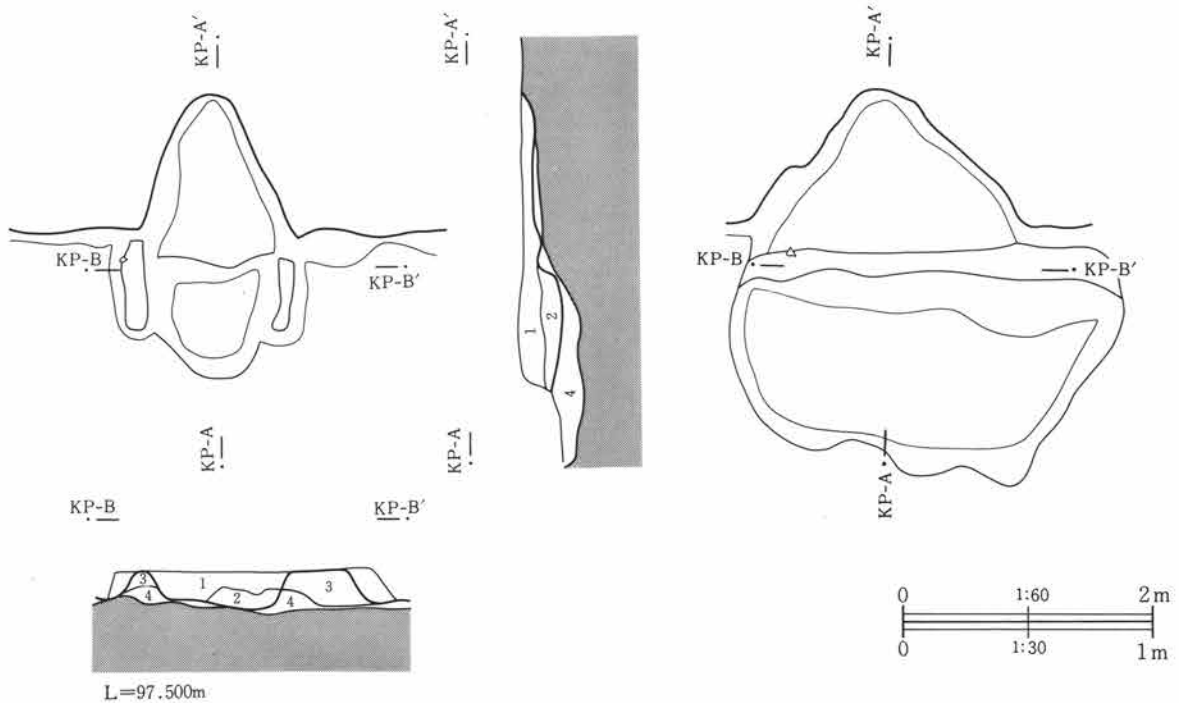
備考 6世紀後半頃の住居と考えられる。

2. 古墳時代～平安時代



3号住

1. 暗黄褐色土 部分的にロームブロック混入土有り。白色鉱物を含む。
2. 暗茶褐色土 ローム粒子が混入し、白色粒子を含む。粘性僅かに有り。
3. 暗褐色土 粘性土。壁際はロームブロックが僅かに入る。
4. 黒褐色土 周溝覆土。
5. 灰褐色土 焼土ブロック・ロームブロックを含む。
6. 暗褐色土 極めて多量のロームブロックを含む。炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性有り。若干、青灰色を帯びる。



3号住カマド

1. 褐色土 白色鉱物、焼土ブロックを少量含む。
2. 黒褐色土 白色鉱物、焼土ブロックを少量含む。僅かに粘性を帯びる。
3. 褐色土 ローム粒子を含む。焼土粒子を含む。(袖)
4. 褐色土 ローム粒子・小ブロックを多く、焼土粒子・小ブロックを少量、炭化物片を少量含む。

図14 第3号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物

3号住居跡(図14・48、P L 3・20)

位置 B・C-34・35 主軸方位 N12°E

重複 9号住に先行する。

規模 縦2.73m×横2.67m×深さ0.17m

形状 やや西壁側が開く正方形

埋没土 上半部はローム粒子を含む暗茶褐色土。下半部は暗褐色粘性土であり、壁際にはロームブロックが混じり、壁の崩落土と考えられる。

掘り方 極めて多量のロームブロックを含む暗褐色土により埋められていた。掘り方は深く、床面より30cmほど下がる。中央部は若干高く、周辺部は窪む。

床面 貼り床有り。掘り方の影響を受け、中央部は若干高く、周辺部はやや窪む。締りはやや弱い。

貯蔵穴 無し。

周溝 南壁から東壁にかけて壁よりも内側を間が途切れながら廻る。幅約15cm、深さ8cm

柱穴 無し。中央には長径36cm、短径35cm、深さ5cmのピットがある。

遺物出土状態 中央部で床面から甕や杯などの遺物がまとまって出土している。

カマド 位置 北壁中央よりやや東寄り

規模 全長1.12m 最大幅0.79m 焚き口幅0.42m

袖 有り。

煙道 住居壁より56cm外へ延る。燃烧部から煙道部へは段状を呈し浅くなる。

遺存状態 良好。燃烧部には明確な灰や焼土の層はなかった。

遺物出土状態 左袖に貼り付くように微細な破片が1点、掘り方からも同様なものが1点左袖の下から出土している。他に遺物は無い。

備考 7世紀後半頃の住居と考えられる。

4号住居跡(図15・48・71、P L 4・20・33)

位置 C・D-34・35 主軸方位 N85°E

重複 5号住に先行する。

規模 縦3.06m×横2.86m×深さ0.08m

形状 隅丸方形

埋没土 ロームブロックを含む褐色土である。

掘り方 暗褐色土ブロックを含む黄褐色土により埋められていた。南側と北西部に床下土坑がある。前者の規模は明確ではないが、後者は長径50cm、短径46cm、深さ12cmである。

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 北壁西寄りと南西コーナーで部分的に切れるが、その他はほぼ全周廻るものと思われる。幅約17cm、深さ7cm

柱穴 北西コーナーに長径28cm、短径26cm、深さ19cmのピットが、西壁中央に長径48cm、短径38cm、深さ27cmで、約24cmの大きさの角礫を出土したピットがある。いずれも柱穴の可能性はある。

遺物出土状態 遺物は東半に破片が散在しているが、いずれもほぼ床面直上からの出土である。

カマド 位置 ほぼ東壁中央

規模 全長0.82m最大幅(0.97)m 焚き口幅0.40m

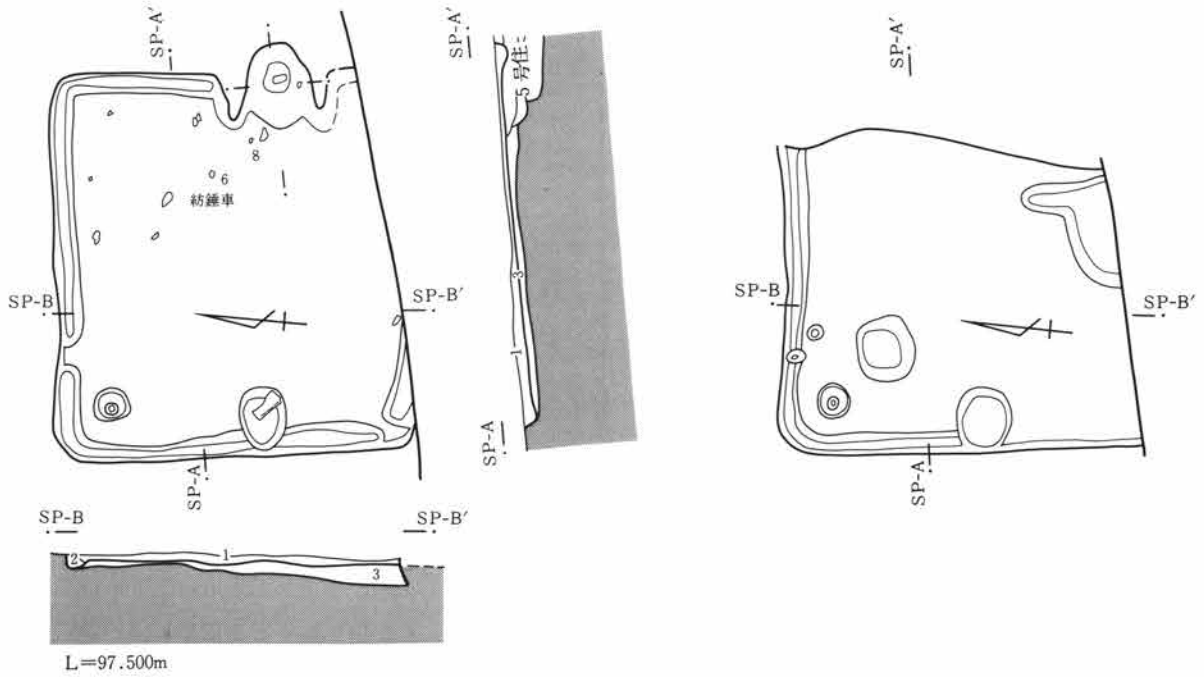
袖 有り。

煙道 住居壁を切り込んで約25cm外へ延る。

遺存状態 右袖は残りが悪く、不明瞭であった。燃烧部には約14cmの焼土ブロック層があった。中央部には砂岩製の支脚が立てられていた。掘り方は複雑に窪む。

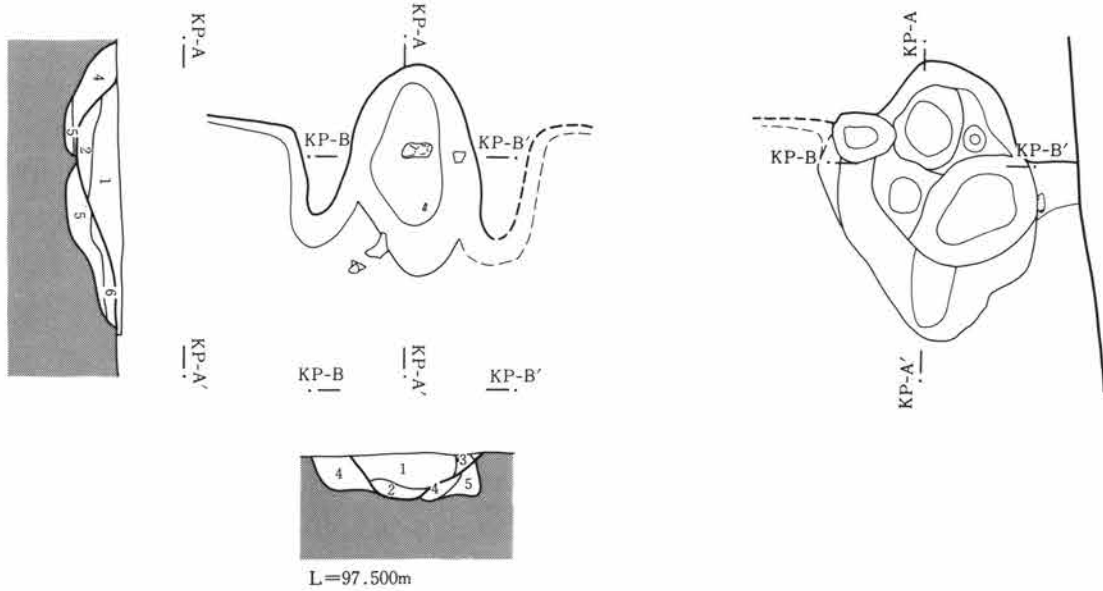
遺物出土状態 燃烧部手前より紡錘車、甕の口縁(図15-8、図48-14)と杯破片が出土している。

備考 9世紀中頃の住居と考えられる。



4号住

1. 褐色土 白色鉱物・ロームブロックを含む。
2. 黒褐色土 周溝覆土。軟質。
3. 黄褐色土 鉄分を含む。やや赤味を帯びる。暗褐色土ブロックを少量含む。



4号住カマド

1. 褐色土 焼土ブロック・ローム粒子を多量に含む。
2. 褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
3. 褐色土 焼土粒子を全体に含む。
4. 褐色土 黄色土粒子・多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
5. 褐色土ブロックと黒褐色粘土のブロックの混土 黄色土粒子を多量に含む。
6. 黄色土ブロックと黒褐色土ブロックの混土 (貼床)

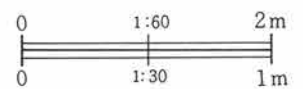
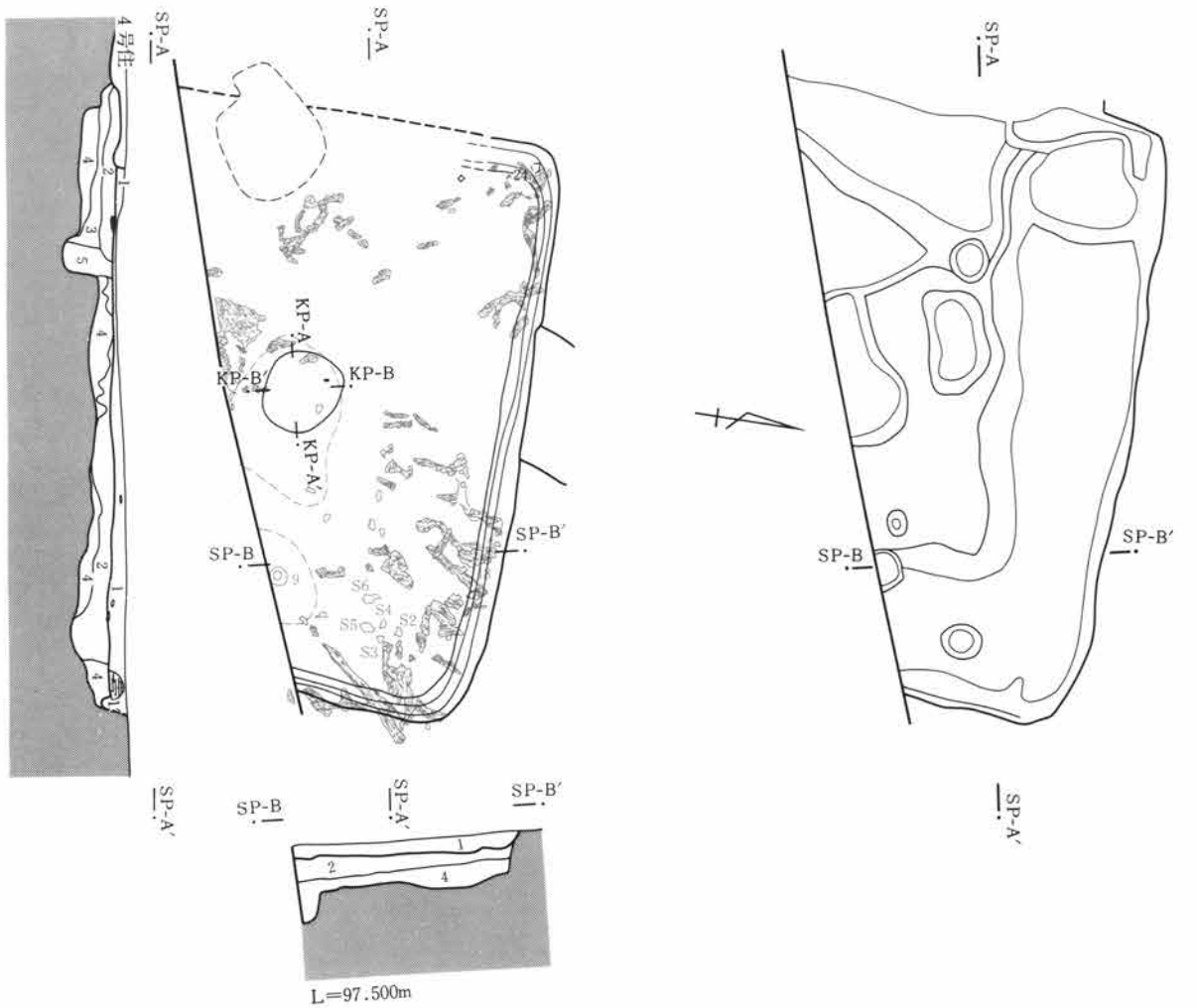


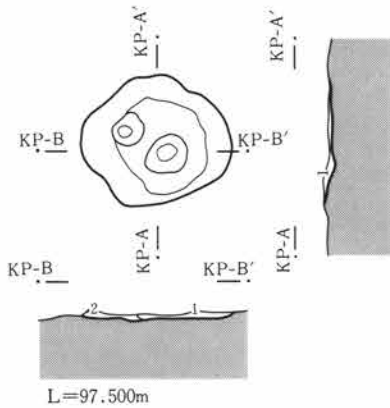
図15 第4号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



5号住

- 1. 褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土を含む。
- 1' 褐色土 1とほぼ同じであるが、ローム粒子を多く含み、縮りは1よりも弱い。
- 2. 暗褐色土 多量の黄褐色ロームブロックを含む。炭化物片(φ5mm前後~1cm)を少量含む。縮りは良い。
- 3. 暗褐色土とロームの混土 2よりもロームの含まれる量が多い。色調も明るく、黄色味を帯びる。縮りは弱い。
- 4. 暗黄白褐色ローム層 黄褐色ロームブロック・暗褐色土ブロックを少量含む。縮りは弱い。
- 5. 暗褐色土 ロームブロック・粒子を多めに含む。焼土粒子・炭化物片を多く含む。縮りは悪い。



5号住炉

- 1. 赤褐色土 焼土主体。暗褐色土をブロック状に少量含む。
- 2. 暗褐色土 ロームブロックを僅かに含む。

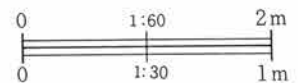
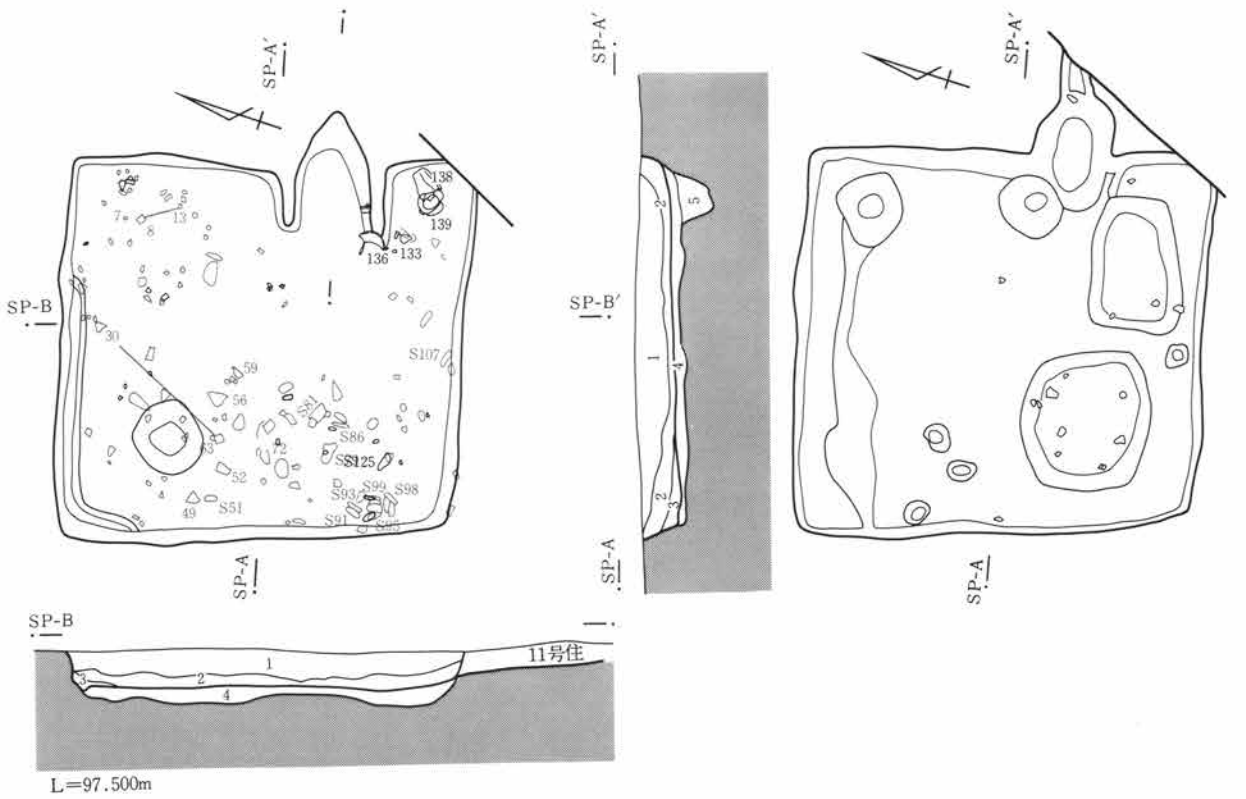


図16 第5号住居跡・炉

2. 古墳時代～平安時代



6号住

1. 褐色土 ロームブロック・焼土粒子・白色鉱物を含む。
2. 褐色土 焼土ブロックを含む。僅かに粘性有り。
3. 暗褐色土 焼土・炭化物・ロームブロックを含む。粘性有り。
4. 暗褐色土とロームの混土 焼土ブロックを僅かに含む。締りは良い。やや暗褐色土の方が多。
5. ほぼローム 若干の暗褐色土混じり。しまりは極めて良い。

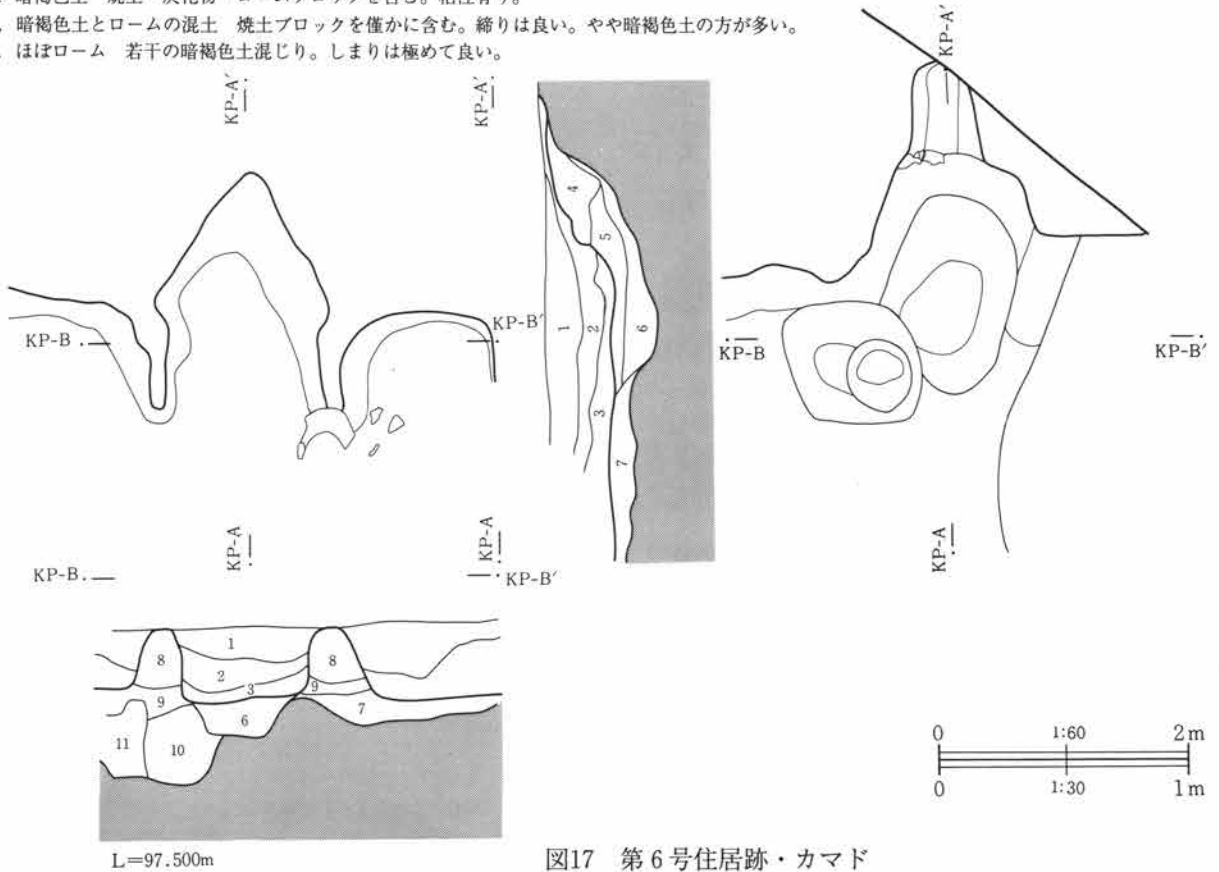


図17 第6号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物

5号住居跡(図16・49・71、P L 5・20・33)

位置 D-34 主軸方位 北壁方向N90°E

重複 4号住に後出する。

規模 縦4.51m×横(2.88)m×深さ0.15m

形状 隅丸方形?

埋没土 炭化物・焼土を多量に含む褐色土であり、火災にあっているものと考えられる。

掘り方 掘り方は深く、住居中央部はやや高く残る。充填土には多量のロームブロックが含まれる。

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であり、掘り方が深いせいかやや締まりは弱かった。中央部は焼けており、焼土が散乱していた。

貯蔵穴 不明。

周溝 有り。ほぼ全周廻るものと考えられるが、西壁側は4号住居跡のカマドに壊されており、確認することはできなかった。幅約22cm、深さ5cm

柱穴 北西部に長径34cm、短径30cm、深さ30cmのピットが、北東部に長径32cm、短径27cm、深さ11cmのピットが掘り方調査の際に検出されたが、この二者が柱穴の可能性がある。

遺物出土状態 遺物は住居中央の北東部寄りから高杯が出土している他は小破片が散在していた。それ以外に炭化材が住居の中心に向かって潰れたように検出された。

炉跡 位置 ほぼ中央

規模 長径61cm×短径51cm×深さ5cm

形状 やや歪んだ楕円形 内側は浅く皿状に窪み小ピットを二つもつ。遺物は一点の小破片出土。

備考 6世紀後半頃の住居と考えられる。

6号住居跡(図17・49・73~75、P L 6・20・33)

位置 D・E-32 主軸方位 N75°E

重複 11号住に先行する。

規模 縦3.0m×横3.18m×深さ0.30m

形状 隅丸方形

埋没土 焼土粒子・焼土ブロックを含む。

掘り方 ロームと暗褐色土の混土層により埋められていた。北東コーナーにピットを、南半部に床下土坑を二つもつ。両者とも遺物は小破片が出土しているのみである。

床面 貼り床有り。本来床面は堅く締っていたものと思われるが、水のためやや軟質になっていた。

貯蔵穴 南東コーナーより甕が出土しており、カマド右袖脇が貯蔵穴になる可能性が高い。

柱穴 無し。北西部に長径58cm、短径56cm、深さ33cmのピットがある。

周溝 有り。北西コーナーから北壁中央よりやや東寄りまで廻る。幅20cm、深さ3cm

遺物出土状態 かなり遺物出土量は多い。西半部からは礫が多く、特に南西コーナー付近からは長さ10数cmの棒状礫がまとまって検出された。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長2.02m 最大幅(1.80)m 焚き口幅1.07m

袖 有り。

煙道 住居壁より20cm外へ延る。

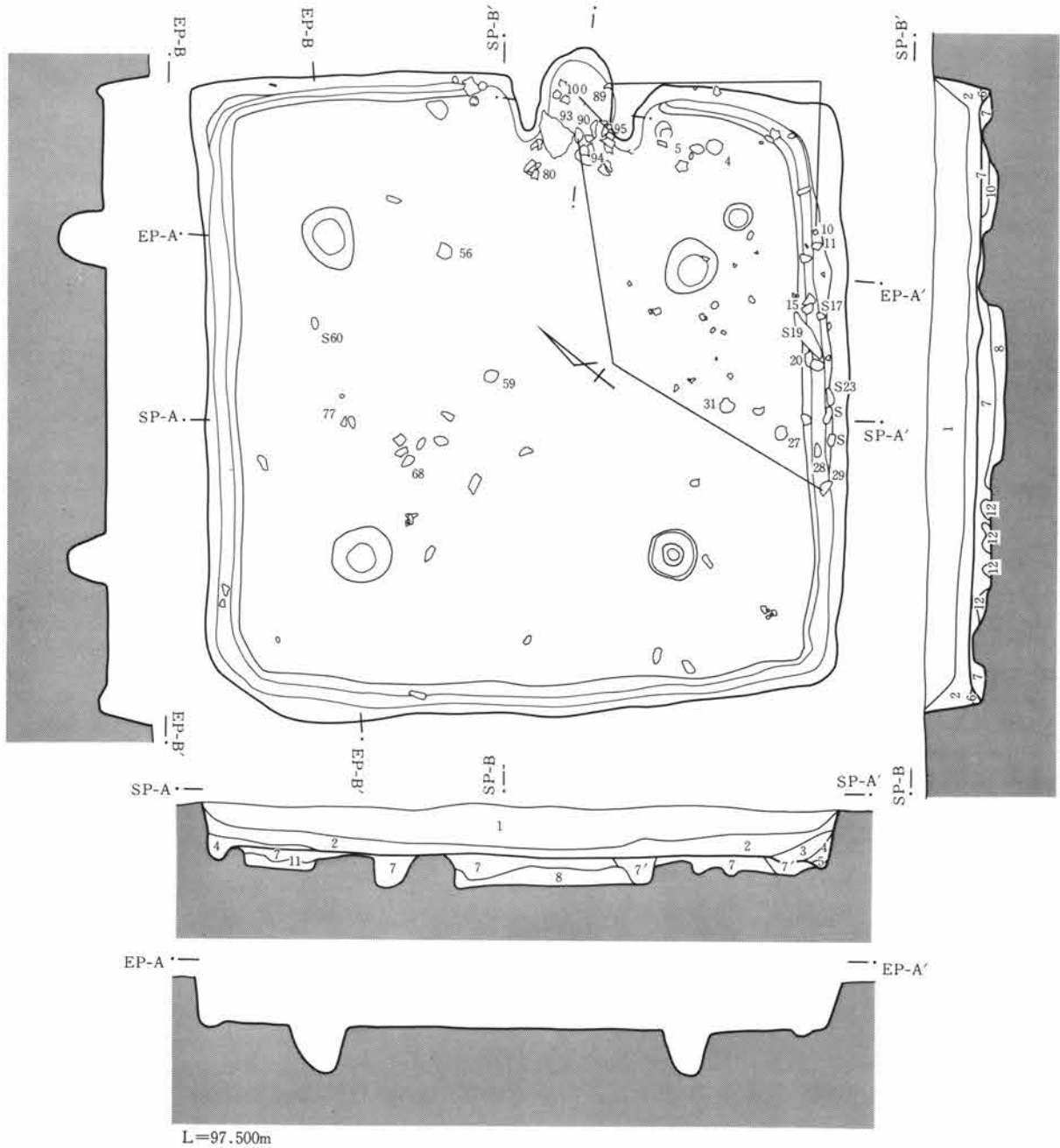
遺存状態 燃焼部から煙道部にかけて約5~15cmの焼土及び灰が確認された。左袖下には長径63cm、短径50cm、深さ46cmのピットが検出された。

遺物出土状態 右袖には甕が使用されていた。

備考 7世紀後半頃の住居と考えられる。

6号住カマド

1. 褐色土 ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を含む。
2. 褐色土 焼土粒子を含む。
3. 暗褐色土 僅かに焼土ブロックを含む。粘性有り。
4. 暗褐色土 焼土小ブロック多量、炭化物粒子・ローム粒子を僅かに含む。締りは弱い。
5. 暗褐色土 焼土小ブロックをやや多く、灰を極めて多量に含む。
6. 褐色土 ロームブロック・粒子をやや多く、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。締りは弱い。
7. 暗褐色土とロームの混土 焼土ブロックを僅かに含む。締りは良い。やや暗褐色土の方が多。
8. 暗褐色土 焼土粒子・土器片を僅かに含む。ローム粒子・炭化物粒子を極微量含む。
9. 暗褐色土 8よりも明るい。ローム粒子をやや多く、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
10. 暗褐色土 9よりもやや明るい。ローム粒子・ブロック多量、焼土粒子少量、炭化物粒子を極微量含む。締りは良い。粘性有り。
11. ほぼローム 若干の暗褐色土混じり。締りは極めて良い。



7号住

1. 褐色土 焼土粒子ブロック・ローム粒子・炭化物が全面に細かく入る。土器が混じる。
2. 暗褐色土 1層とほぼ同様であるが、炭化物が多くなる。粘性土。
3. 暗褐色土 炭化物・焼土を含む。ローム粒子は含まない。
4. 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
5. 黄色土 ローム流入土（二次堆積土）
6. 暗褐色土 周溝内堆積土。ロームブロックを一部含む。
7. 暗褐色土 多量のロームブロック・ローム粒子を含む。焼土粒子・炭化物粒子微量含む。締りは良い。
- 7'. 黒褐色土 7層よりも暗く、焼土ブロック多量、灰・炭化物を多めに含む。締りは弱い。
- 7''. 暗褐色土 7層よりもやや暗く、ロームの量も7層よりもかなり少ない。炭化物粒子を少量含む。
8. 明褐色土 7層に比べかなり黄色味を帯る。やや多くの焼土粒子・炭化物粒子を含む。
9. 暗褐色土 7層よりやや暗い。焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む。締りは良く、粘性あり。
10. 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。締りは良い。
11. ほぼローム 若干の暗褐色土ブロック混じり。
12. ロームブロック

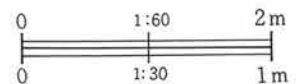
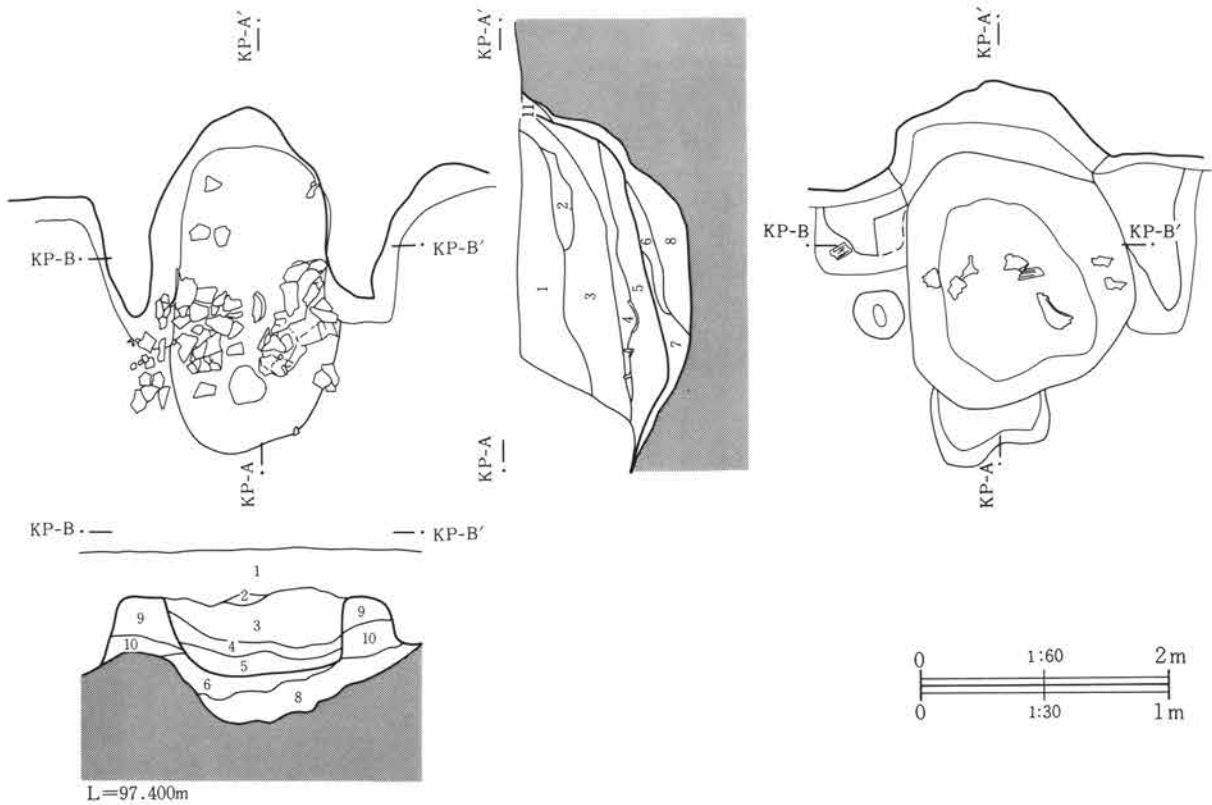


図18 第7号住居跡

II 検出された遺構と遺物



7号住カマド

1. 暗茶褐色土 白色鉱物粒子を少量含む。焼土粒子を僅かに含む。
2. 暗赤褐色土 焼土粒子を多量、白色鉱物を僅かに含む。やや粘性を持つ。
3. 暗灰褐色土 灰・焼土を多量に含む。
4. 赤褐色土 焼土ブロックを主体（天井の崩れ）。少量の灰を含む。
5. 灰層 少量の焼土ブロックを含む。
6. 灰と焼土ブロックの混土层 炭化物片を含む。
7. 灰層 多量の炭化物片を含む。焼土はほとんど含まれない。
8. 暗褐色土 粘性が弱い。ロームブロック・粒子、焼土ブロック・粒子を多く含む。炭化物片をやや多めに含む。9よりも明るい。
9. 暗褐色土 8層より暗い。滑石・岩片を微量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。締りは良い。
10. 暗褐色土 やや粘性あり。9層よりも暗い。焼土粒子を少量含む。ローム粒子極微量含む。
11. 赤褐色土 焼土层。少量の暗褐色土を含む。

図19 第7号住居跡カマド

7号住居跡(図18～20・50・51・75～77、P L 7・21・33・34)

位置 C・D-32・33 主軸方位 N56°E

重複 11・19・20号住に先行する。

規模 縦5.75m×横5.85m×深さ0.45m

形状 隅丸方形

埋没土 焼土粒子・同ブロック、ローム粒子、炭化物を含むが、下層の方が炭化物の量が多い。

掘り方 住居中心に長径185cm、短径160cm、深さ25cmの床下土坑があり、壁下周辺部は床より約20cm程窪み、その間は高く残る。充填土にはロームブロック、焼土粒子が多く含まれる。

床面 貼り床有り。周辺部は中央部に比べてやや締まりは弱い感じがした。湧水により全体に軟質化していた。

貯蔵穴 掘り方調査の際にカマド左袖外側に長径112cm、短径76cm、深さ21cmの土坑が確認されたが、これがその可能性がある。

柱穴 北西ピット 長径57cm、短径45cm、深さ36cm

北東ピット 長径51cm、短径44cm、深さ26cm

南西ピット 長径55cm、短径49cm、深さ32cm

南東ピット 長径45cm、短径44cm、深さ32cm

周溝 有り。住居壁下全周に廻る。幅約28cm、深さ6cm

遺物出土状態 遺物量は極めて多い。覆土中からは小破片の土器が多量に、床面に近いところでは中央部南西寄りと北東部からの出土が特に多い。南壁に沿うように多くの棒状礫が検出された。

カマド 位置 ほぼ北壁中央

規模 全長1.36m・最大幅1.04m・焚き口幅0.60m

袖 有り。

煙道 住居壁を切り込んで約35cm外へ延る。

遺存状態 焚き口部分はわずかに窪む。燃烧部に厚さ約10cmの灰層がある。袖にはやや粘性のある土が使用されている。掘り方は使用面より約18cm窪む。

遺物出土状態 燃烧部からは甕が潰れた状態で出土している。

備考 8世紀後半頃の住居と考えられる。

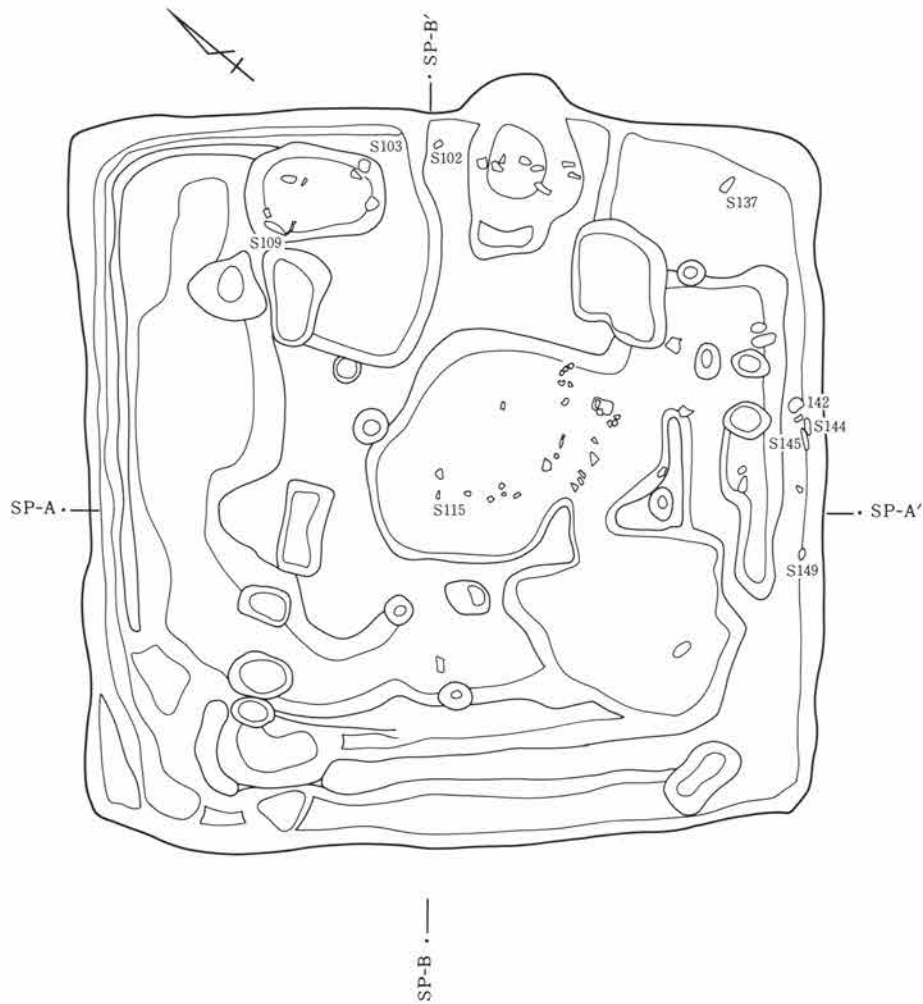


図20 第7号住居跡掘り方

II 検出された遺構と遺物

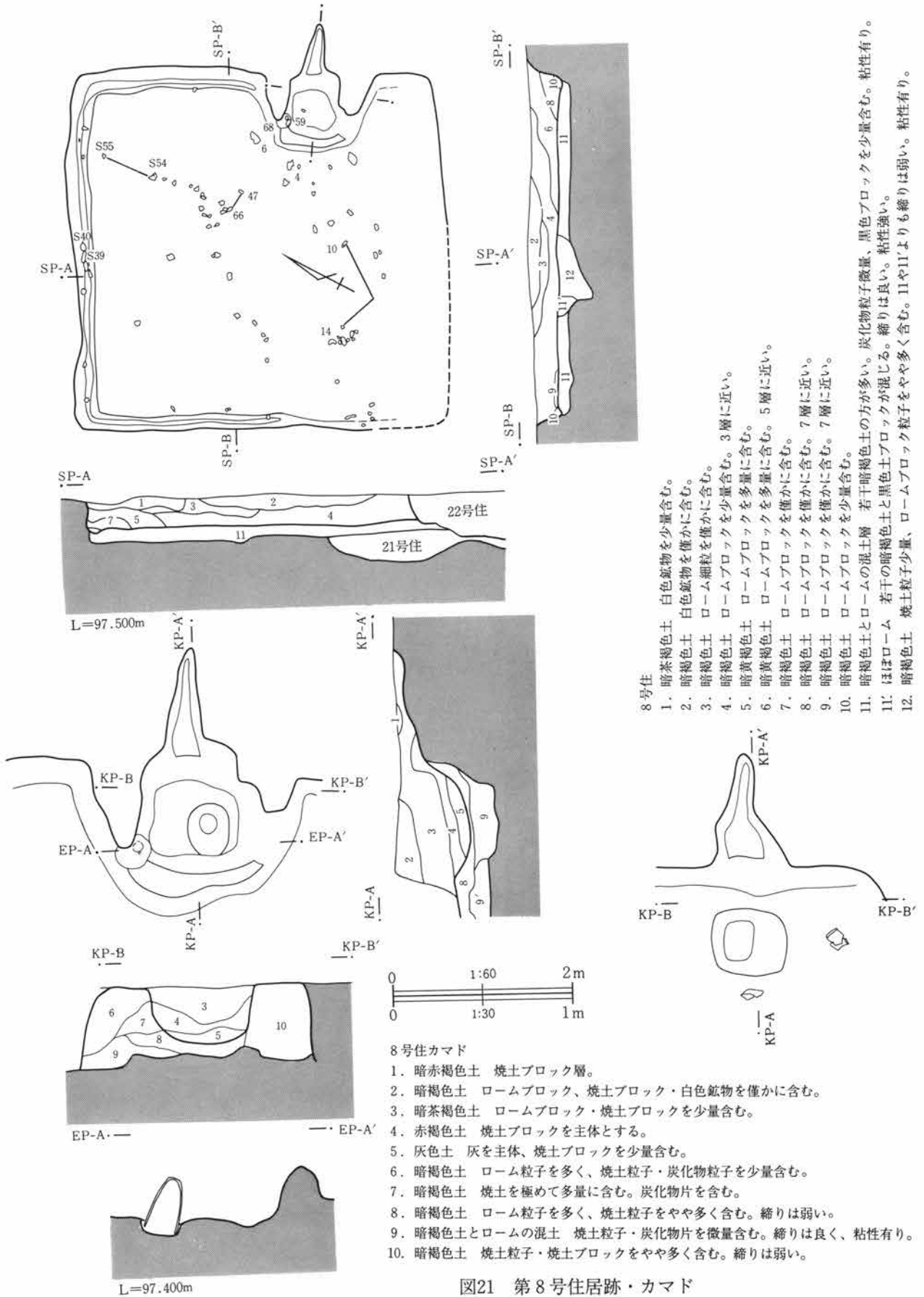


図21 第8号住居跡・カマド

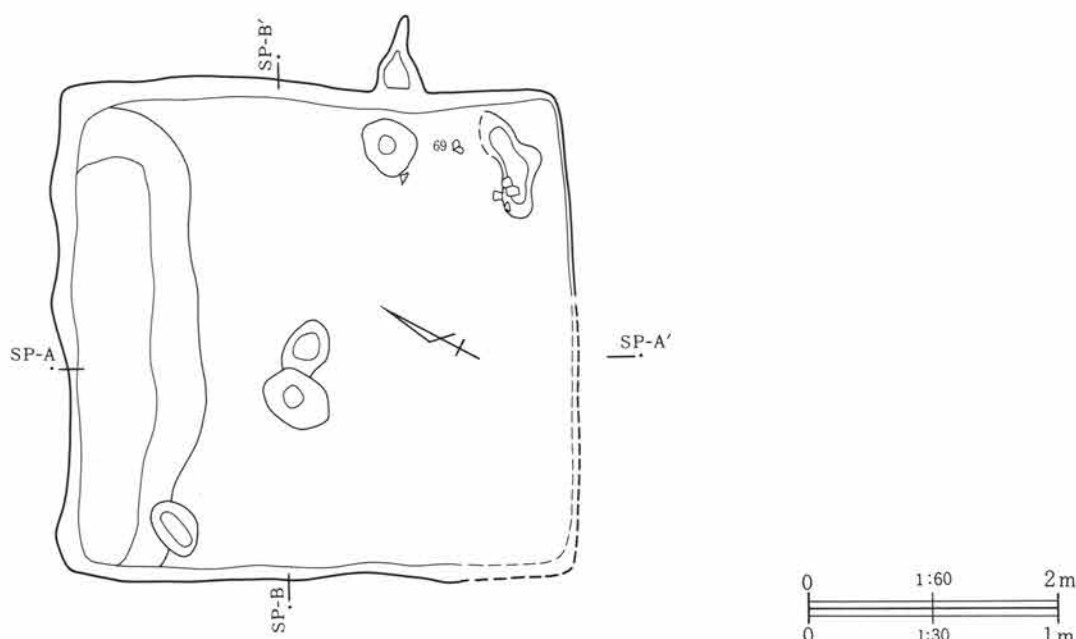


図22 第8号住居跡掘り方

8号住居跡(図21・22・52・78、P L 7・22・35)

位置 D-30・31 主軸方位 N64°E

重複 22号住に後出し、21号住に先行する。

規模 縦4.0m×横4.08m×深さ0.31m

形状 隅が若干丸くなる方形(南西部はセクション図より復元した。)

埋没土 全体にロームブロックが僅かに混入するが、部分的に多く含まれるところがある。

掘り方 北壁下が幅1m、深さ8cmの規模で細長く窪む。充填土には多量のロームブロックが混じる。南東コーナーのピット内からとカマド手前より土器小破片が出土している。

床面 貼り床有り。床面より掘り方まで約14cmの深さがある。床面は比較的良く締まっていたが、湧水のためやや軟質化していた。

貯蔵穴 掘り方調査の際に南東コーナーで検出された長径87cm、短径32cm、深さ13cmのピットがその可能性が高い。

柱穴 中央部に長径42cm、短径32cm、深さ21cmのピットと長径57cm、短径40cm、深さ34cmのピットがある。北西部に長径46cm、短径33cm、深さ5cmのピットがある。これらがその可能性が高い。

周溝 有り。東壁カマド左袖基から西壁中央部まで

廻る。幅約18cm、深さ4cm

遺物出土状態 遺物量が多いが、小破片が多い。北壁中央部からは棒状礫が5点ほどまとまって出土している。そのうち4点は一列に並んでいた。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長1.44m、最大幅1.08m、焚き口幅0.48m
袖 有り。

煙道 住居壁で段を有し、外に53cm延る。

遺存状態 燃焼部に5cmの灰層がある。その上には約6cmの焼土ブロック層があるが、これは天井の崩れと考えられる。燃焼部はやや窪む。

遺物出土状態 左袖先端部には甕(図52-4)が使用されていた。

備考 7世紀中頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

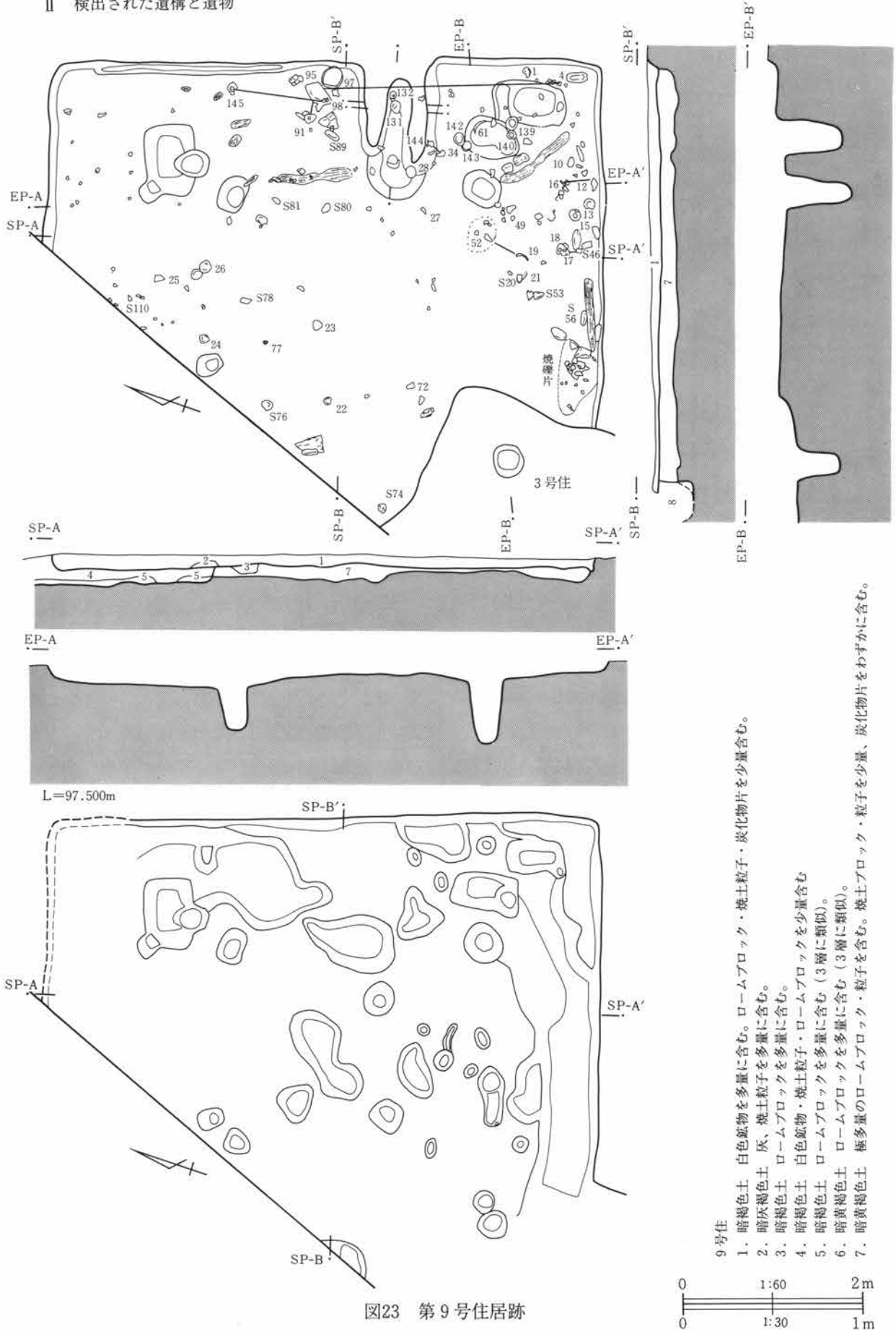


図23 第9号住居跡

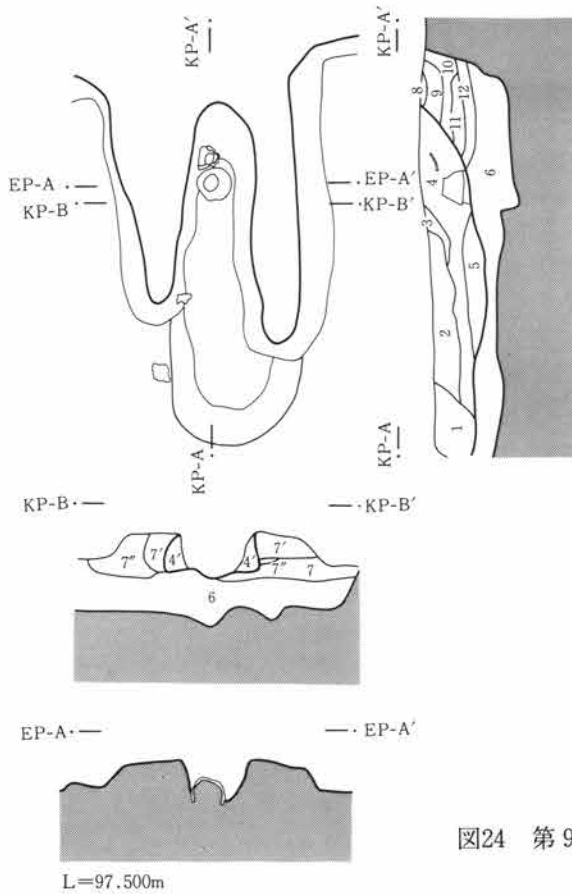


図24 第9号住居跡カマド

第9号住居跡 (図23・24・52～54・79・80、P L 8・22・23・35・36)

位置 B・C-33・34 主軸方位 N74°E

重複 18号住に後出し、3号住に先行する。

規模 縦5.09m×横6.17m×深0.11m 形状 方形
埋没土 埋没土は暗褐色～暗灰褐色土で非常に多くの炭化物材・炭化物片を含む。

掘り方 掘り方はかなり深く、極多量のロームを含む土により埋められている。ほぼ中央部に浅いピットがいくつかある。周辺部は若干窪む。

床面 貼り床有り。周辺部はやや軟らかい。

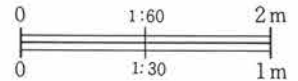
貯蔵穴 南東隅に平面形は長方形を呈する5cm×41cm、深さ40～50cmの規模のものが二つと北東隅に同規模のものが一つある。南東隅の貯蔵穴の周辺には完形の杯が数点まとまって出土している。

周溝 無し。

柱穴 有り。壁より約120cmの位置に3本、それよりややはずれた北西部に1本検出された。穴の形状は35cm前後の円形で深さは約35cmである。

9号住カマド

1. 暗褐色土 白色鉱物・ロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土 白色鉱物・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。
3. 暗茶褐色土 焼土粒子を多量に含む。
4. 暗茶褐色土 焼土粒子・灰・炭化物片を多量に含む。
- 4'. 暗茶褐色土 4よりも炭化物片が少なくなる。
5. 赤褐色土 焼土粒子主体。
6. 暗黄褐色土 黒色土・ロームの混合層を敷き込んである。
7. 灰白色粘土 袖
- 7'. 灰白色粘土 7層と同じだが焼けている。
- 7''. 灰白色粘土 一部に床と同じ土がのる。
8. 茶褐色土 白色鉱物少量含む。
9. 暗灰白色土 白色粘土・焼土ブロックを含む。(天井の崩れ)
10. 暗赤褐色土 焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む。(天井の崩れ)
11. 暗灰白色土 白色粘土粒子・焼土粒子を含む。(煙道内)
12. 灰白色土 白色粘土・焼土が一部に含まれる。(煙道内)



遺物出土状態 火災住居であり、極く多量の遺物が出土している。特にカマド周辺部から南壁にかけてはまとまって検出された。南壁西半では加熱により破碎した礫片も分布しており、一つの礫に接合することができた。この礫は表面が滑らかであり、加熱を受ける以前には磨石や敲石とセットで使用された可能性もある。本住居では土器だけではなく石器も多く出土しており、生活必需品として土器と同時に石器も多く使用されていたことを示す好資料であろう。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長1.34m 最大幅0.78m 焚き口幅0.26m

袖 有り。灰白色粘土を両袖に用いている。

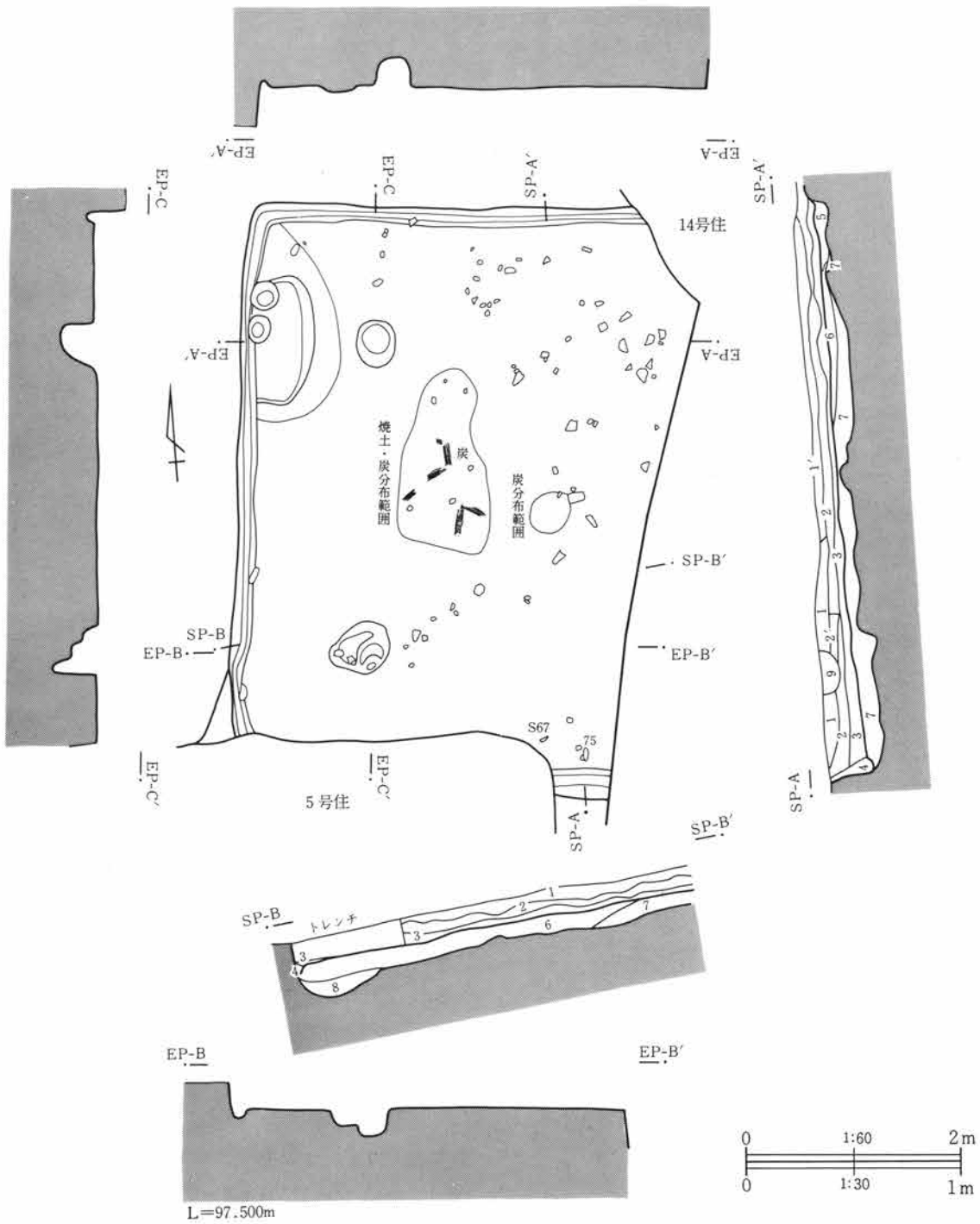
煙道 壁外には延ない。

遺存状態 天井部は削平されていたが、両袖は良く残っていた。燃焼部は若干窪み、10cmの焼土が認められた。

遺物出土状態 図53-14の土器が煙道の奥に逆位の状態で用いられていた。

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物



10号住

1. 暗褐色土 ローム粒子多量・炭化物粒子を微量、白色小粒子を少量含む。締りは良い。
- 1' 暗褐色土 1とほぼ同じであるが、ロームブロックを多量に含む。
2. 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。炭化物片をやや多く、焼土粗粒子を少量含む。
- 2' 暗褐色土 2に近いが、ローム粒子・ロームブロックはあまり含まれず、黒味が強い。
3. 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子を少量含む。2よりも黒味が強い。
4. 暗褐色土 2や3に比べて暗い。炭化物片をやや多く含む。焼土粒子はほとんど含まれない。
5. 暗褐色土とロームブロックの混土 ほぼ同量。焼土粒子微量含む。締りは良い。
6. 暗黄褐色土 黒褐色土を含む。多量のローム粒子・ロームブロックを含む。白色小粒子(岩片)を微量含む。
7. 暗黄褐色土 黒褐色土を含む。極めて多量のロームブロックを含む。6よりもやや暗い。
8. 黄白褐色土 かなり白っぽい。ロームに黒褐色土ブロックが混じる。6よりも締りは良い。
9. 黒褐色土 1に比べて暗い。ローム粒子を少量含む。白色小粒子をやや多く含む。

図25 第10号住居跡

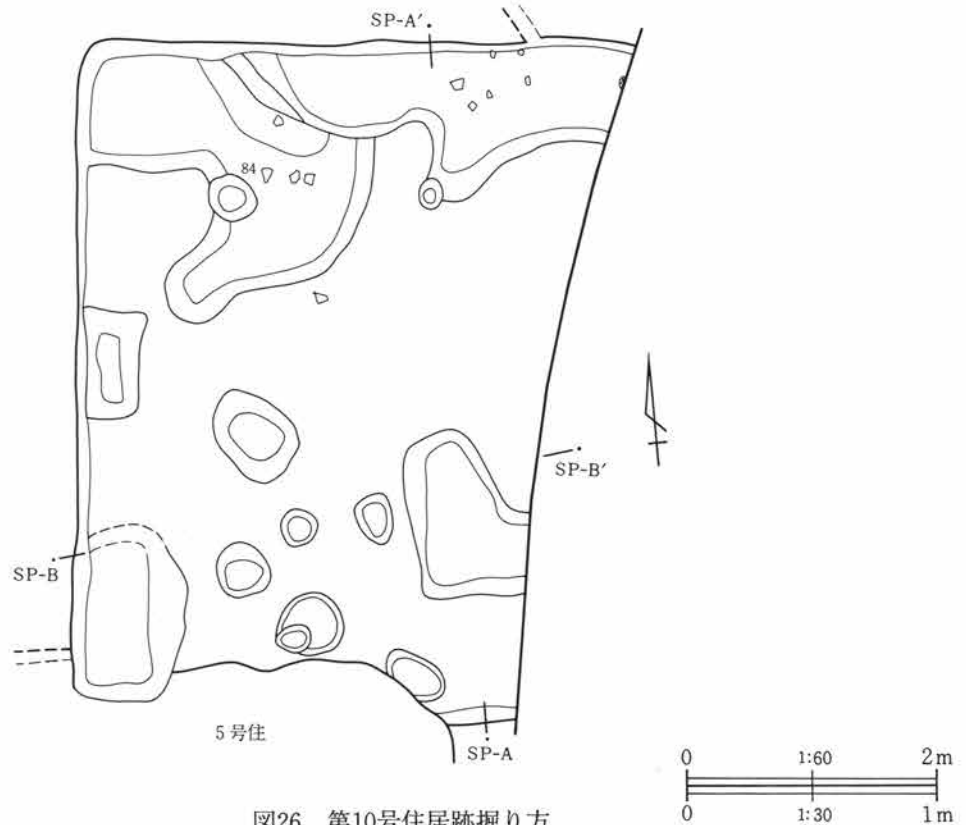


図26 第10号住居跡掘り方

第10号住居跡 (図25・26・54・81、P L 8・23・36)

位置 D・E-33・34 **主軸方位** 北壁方向N95°E

重複 5号住・14号住に先行する。

規模 縦(4.25)m×横(4.85)m×深さ0.32m

形状 方形

埋没土 暗褐色土でロームブロック・粒子を含む。

掘り方 ロームを多く含む土によって埋められていた。滑石の碎片が部分的に多く含まれるところがあった。11号住とは直接切り合わないが、本住居をつくる際に混入したものでなかろうかと想定される。北壁周辺部はやや窪む。西壁中央と南西部に長方形の浅いピットがある。南半には小ピットが5基検出された。

床面 貼り床有り。ほぼ全体が比較的良くしまっていたが、周辺部はやや軟らかい。中央部に一ヶ所の炭と焼土が散る範囲が、その東に炭のみが散る範囲が確認された。

貯蔵穴 有り。北西部に位置する。長方形を呈し、

規模は110cm×46cmで、低い周堤帯を持つ。

周溝 有り。幅10～15cm、深さ約10cmで、ほぼ全周を廻るものと思われる。

柱穴 有り。ほぼ径40cm前後で深さ約40cmのものが、壁から1mの位置の南西部と北西部にある。

遺物出土状態 東側に多くの土器破片が散っているが、ほとんどのものは縄文土器であり、住居に直接伴うものではないが、床面直上のももある。逆に土師器は床面より出土したものはほとんどない。その点では他の住居に比べてやや特殊である。

カマド 位置 東壁と考えられるが、規模その他は不明である。

備考 数少ない土師器からすると7世紀前半頃の住居ではなかろうかと想定される。

II 検出された遺構と遺物

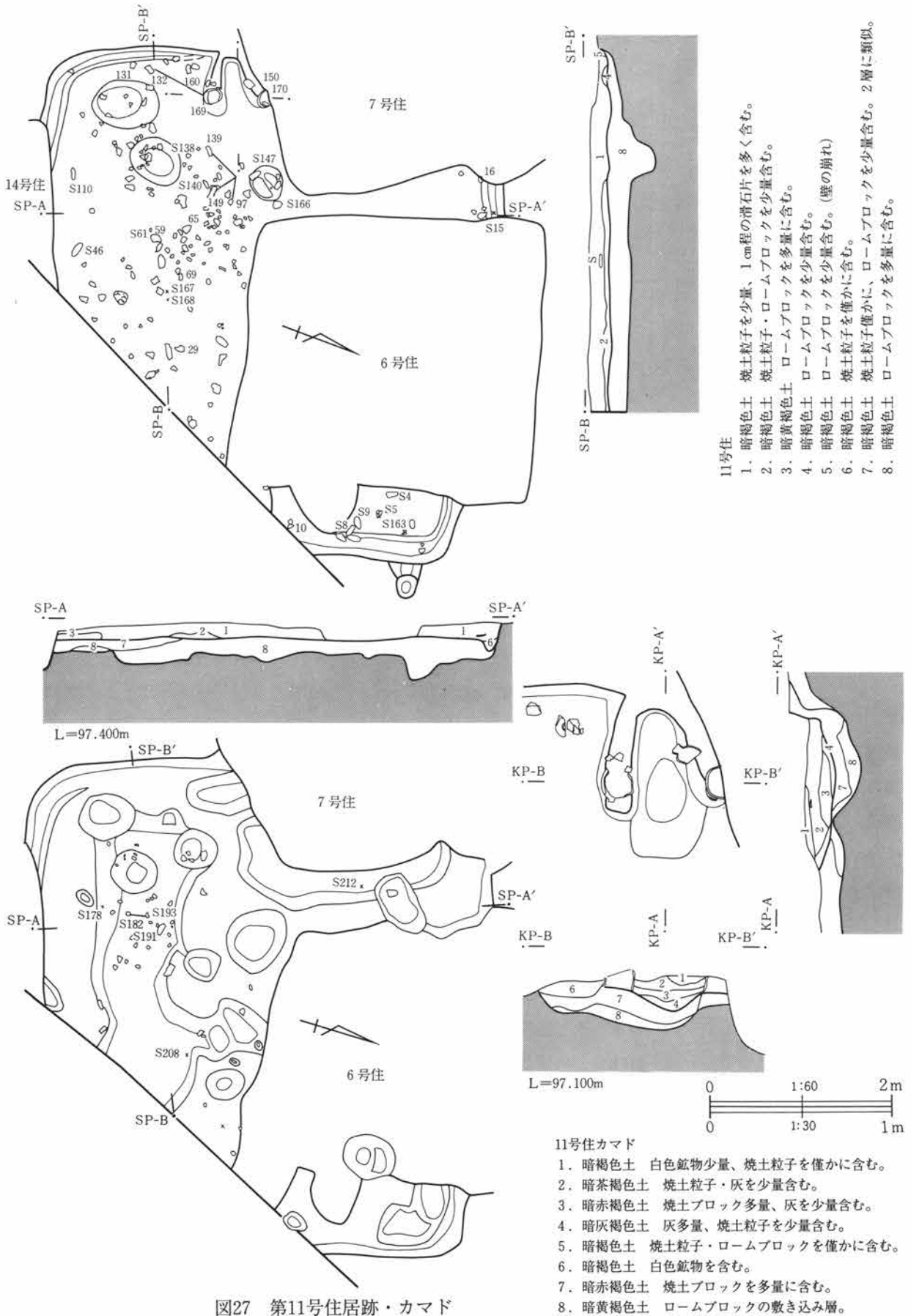
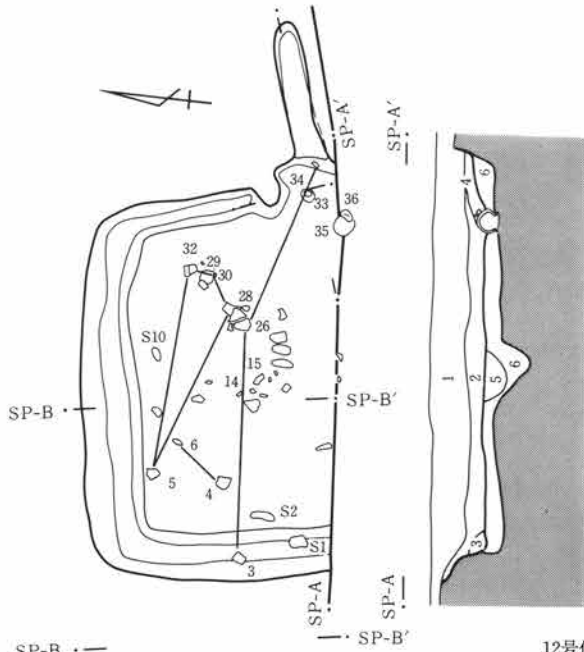
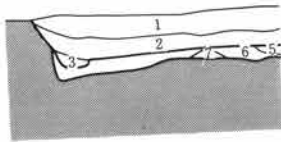


図27 第11号住居跡・カマド



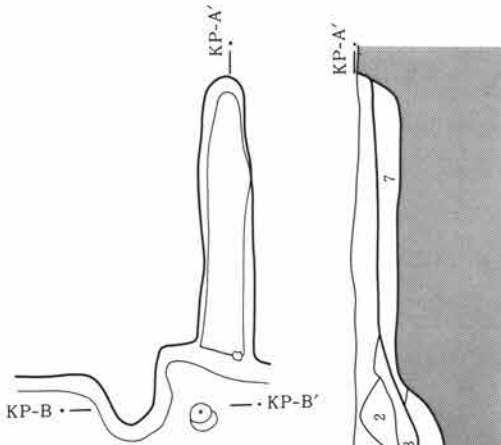
SP-B



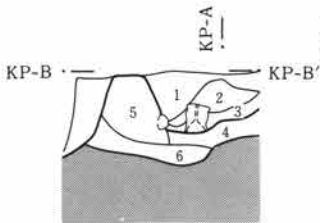
L=97.500m

12号住

1. 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物を僅かに含む。
2. 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む。炭化片を僅かに含む。
3. 暗褐色土 周溝覆土。ロームブロック・粒子を多量に含む。粘性有り。
4. 暗褐色土 焼土を多く含み、赤味を帯る。炭化粒子を少量含む。粘性有り。
5. 暗褐色土 やや黒い。カーボンを僅かに含む。粘性有り。(2層に近い)
6. 暗褐色土 ローム細粒子を多量に含む。やや砂質。
7. 暗褐色土 ロームブロック主体。



KP-B



L=97.100m

12号住カマド

1. 灰暗色土 焼土ブロックを僅かに含む。粘性有り。
2. 灰白色土 白色粘土を一部に含む。
3. 暗褐色土 焼土ブロックをまばらに含む。
4. 暗灰褐色土 焼土ブロック・粒子をやや多く、炭化物片を僅かに含む。
5層よりしまりは弱い。
5. 暗灰褐色土 焼土粒子・ローム粒子を少量含む。粘性有り。締り良し。
6. 黄褐色土 ロームブロック層。暗灰褐色土を含み、炭化物片を数点含む。焼土は含まない。
7. 暗褐色土 焼土ブロックを多く、炭化物片を少量含む。

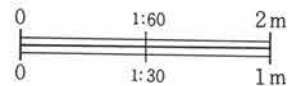


図28 第12号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物

第11号住居跡 (27・55・81～88、P L 9・23・24・36)

位置 D・E-32・33 主軸方位 N109°W

重複 6・7・14号住に先行する。

規模 縦(5.25)m×横(4.77)m×深さ0.20m

形状 若干隅の丸くなる方形を呈する。

埋没土 暗褐色土で、焼土粒子を少量、滑石片を多量に含む。

掘り方 ロームブロック・滑石片を多く含む土により埋められていた。北半を6号住と7号住により切られているが、南半部分には小ピットが多く検出された。そのいくつかは滑石製作の作業ピットの可能性があるが、壁の周りに粘土を貼ったり、それにつながる溝状の遺構等は検出されなかった。

床面 貼り床有り。比較的しまっていたものと思われるが、湧水のため軟弱化していた。

貯蔵穴 カマド手前に径45cm前後で深さ45cmのものが、南西部に50×60cmで深さ40cmのピットがある。

周溝 有り。幅20cm深さ4cmの規模でカマド部分を除いてほぼ全周廻るものと思われる。

柱穴 壁より1mの位置に径50cm前後のものが3本確認された。南東部のものは調査区外と考えられる。

遺物出土状態 土器はカマド周辺と南西部の柱穴内より、滑石などの石器類はほぼ全体から出土しているが、他の住居に壊されていない南半部分が多い。また、多くの結晶片岩製の棒状礫が出土しており、それらの表面を見ると自然面よりも若干滑らかなものや敲打痕を残すものが多い。滑石の加工にかかわった道具類と考えることができるであろう。

カマド 位置 西壁中央よりやや南寄り

規模 全長0.80m 最大幅0.70m 焚き口幅0.37m

袖 有り。両袖には甕(図55-8・11)が利用されていた。

煙道 住居外へは延ない。

遺存状態 右袖北半分は7号住により切られていた。燃焼部はやや窪む。天井部は耕作により削平されていた。

遺物出土状態 燃焼部での遺物の出土はない。

備考 6世紀中頃の住居と考えられる。

第12号住居跡 (図28・56・89、P L 10・24・37)

位置 C・D-29・30 主軸方位 N74°E

重複 無し。

規模 縦3.08m×横(2.05)m×深さ0.33m

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

埋没土 ローム粒子・焼土を含む暗褐色～黒褐色土。炭化物粒子は僅かに含まれる。

掘り方 ローム細粒子を多量に含む土により埋められていた。周辺部は窪み、西壁中央と住居中央にピットを持つ。

床面 貼り床有り。西半は若干窪む。床面は全体に良くしまっていたものと考えられるが、水漬きのため軟質化していた。

貯蔵穴 不明。

周溝 有り。幅20～25cm、深さ7cm前後でカマド部分を除いて全周廻るものと思われる。

柱穴 掘り方調査時に検出された住居中央のピット(長径76cm×短径40cm×深さ28cm)はその可能性がある。

遺物出土状態 ほぼ住居全体に散布する傾向があるが、ほとんどのものが床面より10～20cm浮いている。カマド手前の甕(図56-2)は逆位の状態で床面について出土した。

カマド 位置 東壁中央と思われる。

規模 全長1.44m 最大幅(0.62)m 焚き口幅(0.41)m

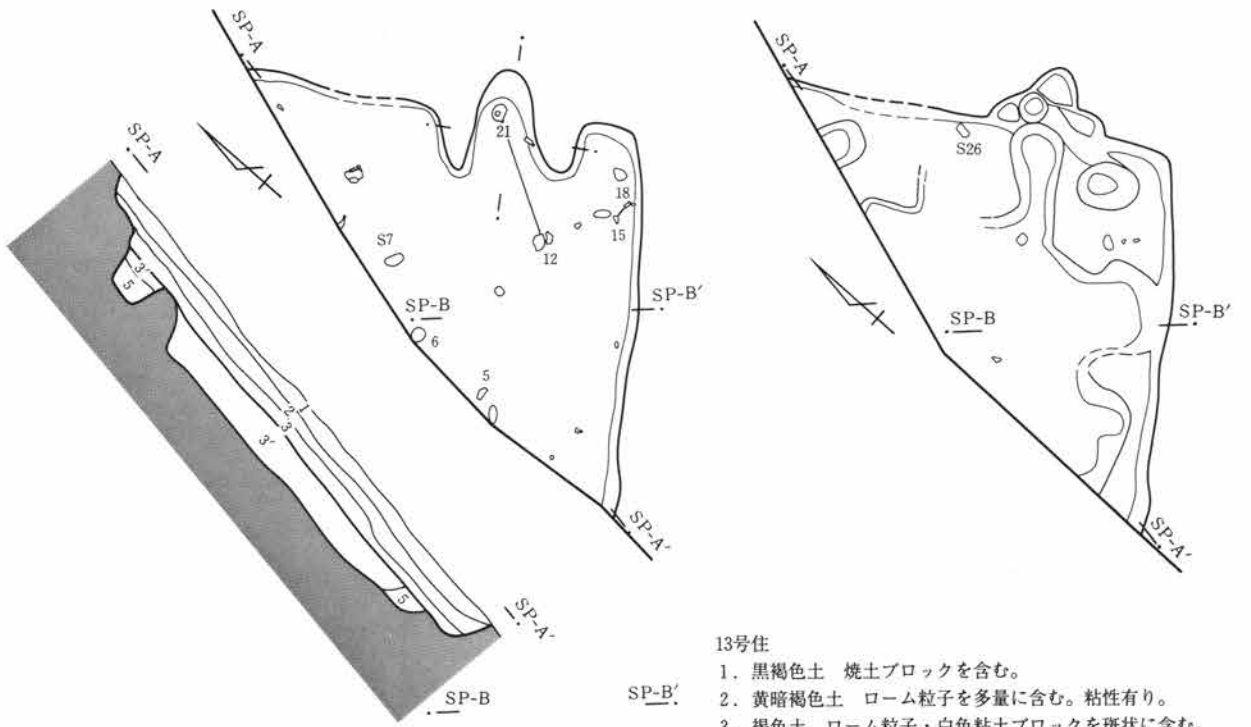
袖 有り。左袖のみ確認され、粘性土が使用されていた。

煙道 住居外へ110cm延る。

遺存状態 良好であり、煙道の壁は良く焼けていた。使用面には約6cmの焼土ブロックを含む暗褐色土が堆積していた。

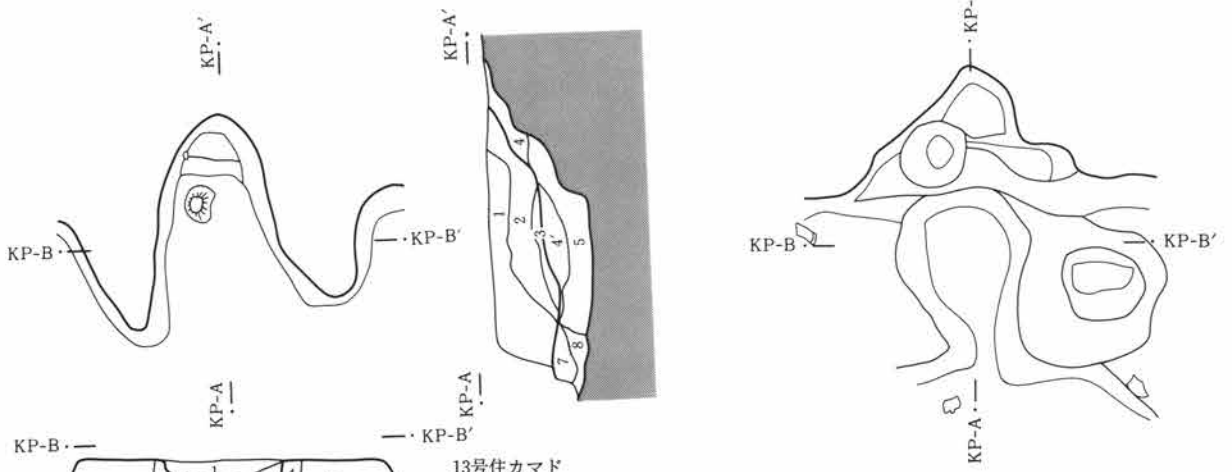
遺物出土状態 カマド中央より使用時の状況を伺い知ることができる状態で支脚(図56-10)が出土していることは興味深い。

備考 7世紀前半頃の住居と考えられる。



13号住

1. 黒褐色土 焼土ブロックを含む。
2. 黄暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。粘性有り。
3. 褐色土 ローム粒子・白色粘土ブロックを斑状に含む。
- 3' 褐色土 ローム粒子・白色粘土ブロックを含む。3と3'層の境にロームブロックが薄く入る。(床面)
4. 黄褐色土 流入土。
5. 暗褐色土 白色粘土ブロックを多量に含む。
- 5' 暗褐色土 白色粘土粒子を多く含む。



13号住カマド

1. 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
2. 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
3. 灰褐色土 灰主体。焼土ブロックを少量含む。
4. 赤褐色土 カマドの壁の焼け。
- 4' 赤褐色土 ほほ焼土。若干の暗灰褐色土を含む。締りは弱い。
- 4'' 暗褐色土 全体にやや焼けており、赤味を帯る。締りは良い。
5. 暗灰褐色土 白色粘土・黄褐色粘土のブロックを多く含む。締りは良い。粘性有り。
6. 暗灰褐色土 黄褐色粘土粒子を多く、焼土ブロックを少量含む。締りは良い。粘性有り。
7. 暗灰褐色土 焼土粒子を少量、褐色粘性土ブロックを極めて多量に含む。粘性強い。
8. 暗灰褐色土 極めて多量の焼土ブロックを含む。締りは悪い。

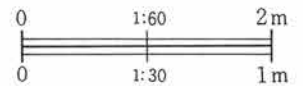


図29 第13号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物

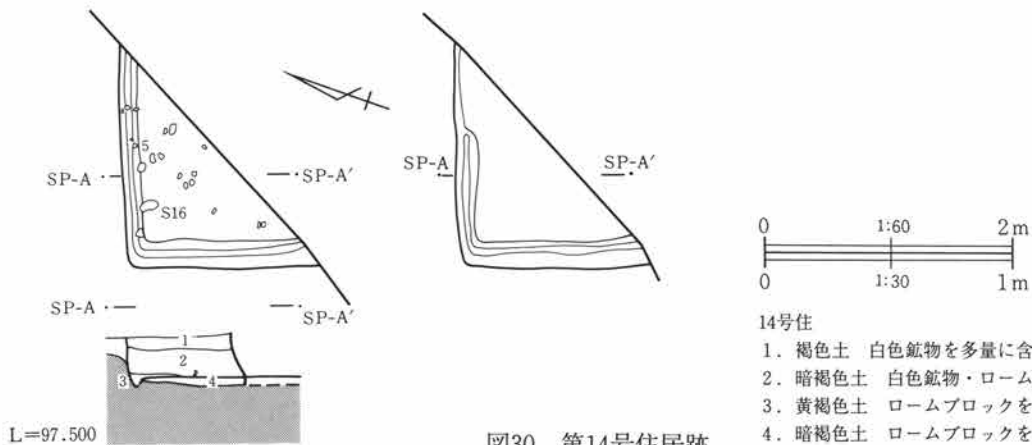


図30 第14号住居跡

第13号住居跡 (図29・57・90、P L 10・24・37)

位置 B-29・30、C-30 **主軸方位** N56°E

重複 無し。

規模 縦(2.95)m×横(3.20)m×深さ0.21m

形状 方形もしくは長方形

埋没土 上半は焼土ブロックを含む黒褐色土。下半はローム粒子・粘土ブロックを含む黄暗褐色～褐色土。

掘り方 掘り方は深く、床面より約25cmの間は粘土ブロックを含む暗褐色～褐色土により埋められていた。カマド手前はやや高いが、中央部は窪む。

床面 貼り床有り。床面下が深いと水の影響により、やや軟質化していた。西側は若干下がる。

貯蔵穴 掘り方調査時にカマド右側にピット(長径48cm、短径38cm、深さ16cm)が検出されたが、それがその可能性が高い。

周溝 無し。

柱穴 無し。掘り方調査時に径34cm程のピットが北西部に検出されたが、その可能性もある。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土しているが、北東部にやや集中する傾向が伺える。床面より10cm前後浮いているものが多いが、床面についているものも多い。

カマド **位置** 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長0.9m 最大幅0.95m 焼き口幅0.56m

袖 有り。両袖には粘性土が使用されていた。

煙道 住居外へ50cmほど延る。

遺存状態 比較的良好。燃焼部には8cmほどの焼土

層が残っていた。掘り方は段状を呈し、使用面より20cmほどの深さを有する。

遺物出土状態 燃焼部のかなり奥から甕の底部(図57-5)が逆位の状態で出土している。その底面は赤変しており支脚として使用されていたものと考えられる。

備考 6世紀後半頃の住居と考えられる。

第14号住居跡 (図30・57・90、P L 11・25・37)

位置 D・E-33 **主軸方位** 北壁方向N70°E

重複 10・11号住に後出する。

規模 縦(1.77)m×横(1.43)m×深さ0.32m

形状 方形もしくは長方形

埋没土 ロームブロックを含む褐色～暗褐色土。周溝及び住居周辺部床面には壁の崩れ土が堆積していた。

掘り方 ロームブロックを多く含む暗褐色土によって埋められていた。住居内側に向かってやや窪むが床面の状況とあまり大きな変化はない。約7cmほど床面より下がる。

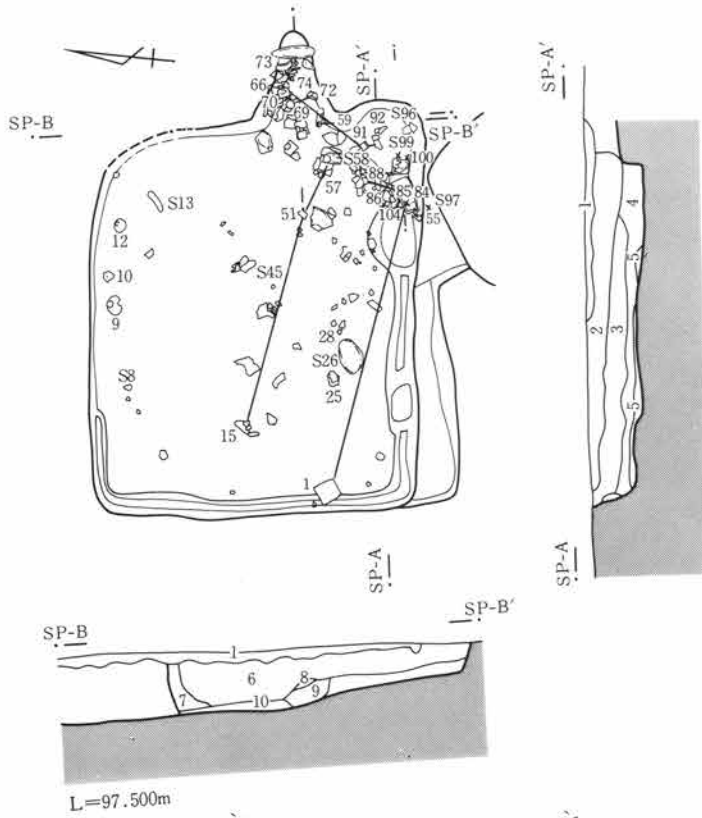
床面 貼り床有り。調査範囲内は比較的しっかりした面をもつ。

貯蔵穴・周溝・柱穴 不明。

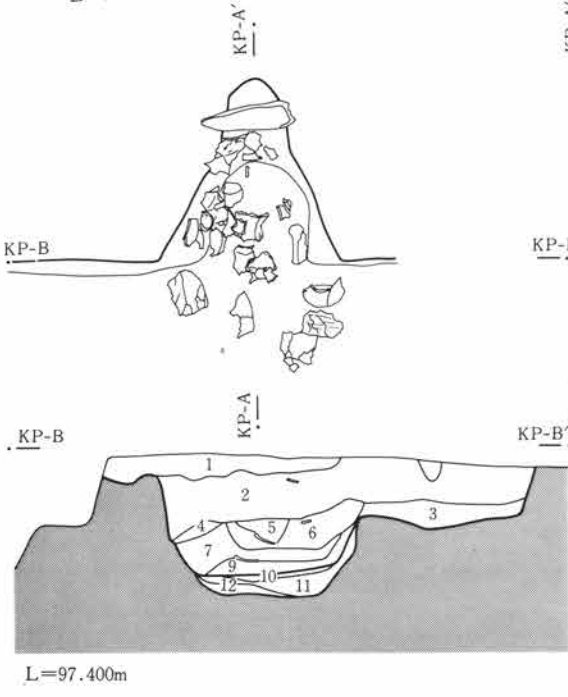
遺物出土状態 調査区内全体にほとんどのものが浮いた状態で出土しているが、(No.16)の石器は床に付いた状態で出土している。

カマド 不明。

備考 8世紀後半頃の住居と考えられる。



- 15号住
1. 黒褐色土 白色鈳物を少量、焼土粒(1cm)を僅かに含むやや砂質。
 2. 暗褐色土 白色鈳物を僅かに、焼土粒子を少量含む。
 3. 暗褐色土 焼土粒子・ロームブロックを少量含む。
 4. 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。(2・3層よりは多め)
 5. 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 6. 暗褐色土 白色鈳物を上半部に僅かに含む。焼土粒子を少量含む。
 7. 暗褐色土 6層に近いが、焼土粒子をほとんど含まない。
 8. 暗赤褐色土 焼土を主体とする。
 9. 暗褐色土 粘土ブロック、焼土粒子を少量含む。カーボンを僅かに含む。
 10. 暗黄褐色土 ロームブロックを主体とする。



- 15号住カマド
1. 黒褐色土 白色鈳物を少量、焼土粒子を僅かに含む。やや砂質。
 2. 暗褐色土 白色鈳物を上半部に僅かに、焼土粒子を少量含む。
 3. 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。
 4. 暗褐色土 粘土ブロックを多量に含む。若干赤味を帯びる。
 5. 暗褐色土 粘土ブロックを僅かに、焼土粒子を少量含む。
 6. 暗褐色土 粘土ブロックを多量、焼土粒子を少量含む。
 7. 暗褐色土 粘土ブロックを少量、焼土粒子を少量含む。
 8. 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。
 9. 暗灰褐色土 灰・焼土粒子を多量に含む。
 10. 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む。(カマド壁)
 11. 暗褐色土 焼土ブロックを少量、ロームブロックを僅かに含む。
 12. 暗赤褐色土 焼土ブロック・灰を多量に含む。

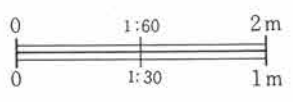
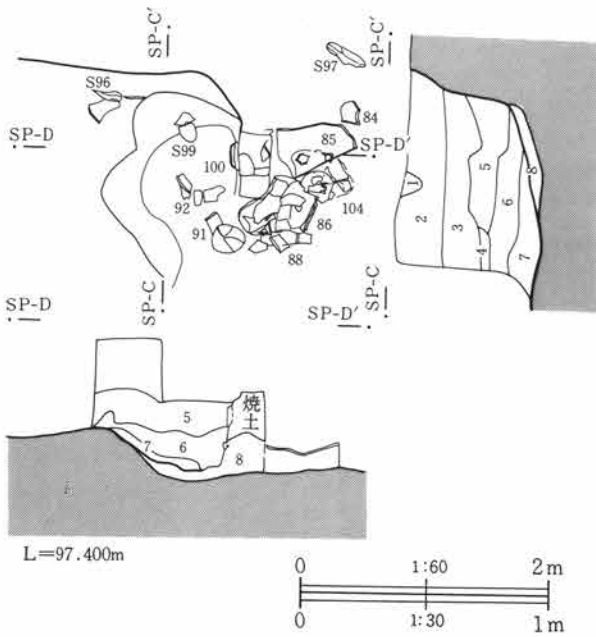


図31 第15号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



15号住貯蔵穴

1. 黒褐色土 やや砂質。白色鉱物を少量含む。
2. 暗褐色土 白色鉱物を少量含む。
3. 暗褐色土 白色鉱物を僅かに、焼土粒子を少量含む。
4. 灰褐色土 灰を多量に含む。
5. 暗褐色土 白色鉱物を僅かに含む。
6. 暗褐色土 焼土粒子を僅かに含む。
7. 暗褐色土 焼土粒子・ロームブロックを僅かに含む。

図32 第15号住居跡貯蔵穴

第15号住居跡(図31・32・58・59・91・92、P L 11・25・37・38)

位置 B・C-31・32 主軸方位 N82.5°E

重複 16・17号住に後出する。

規模 縦3.1m×横2.82m×深さ0.17m

形状 長方形

埋没土 焼土粒子を含む暗褐色土により埋没。

掘り方 検出されなかった。

床面 貼り床無し。床面は比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 有り。南東部に長径60cm、短径42cm、深さ7cmの楕円形を呈するピットがある。

周溝 有り。幅10cm、深さ6cmで貯蔵穴部分から北西部にかけて廻る。

柱穴 無し。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土しているが、カマド付近及び貯蔵穴周辺が多い。床面より10cm以下のものが多くほとんどのものが住居に伴うものと考えられる。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長0.73m 最大幅1.40m 焚き口幅0.42m

袖 無し。燃烧部の両側には礫が使用されていた。

煙道 住居外に74cm延びる。

遺存状態 良好。燃烧部には厚さ5cmの焼土粒子を含む灰が堆積していた。掘り方は燃烧部が若干窪みだけである。

遺物出土状態 燃烧部から多量の土器が石器類とともに出土した。煙突の仕切りには凹石が使用されていた。

備考 10世紀前半頃の住居と考えられる。

第16号住居跡(図33・60・93・94、P L 12・26・38・39)

位置 C-31・32 主軸方位 N82°E

重複 15・17号住に先行する。

規模 縦3.8m×横(4.7)m×深さ0.10m

形状 方形

埋没土 住居の大部分が17号住に壊されており、埋没土は失われている。

掘り方 ロームブロックを含む土により埋められていた。掘り方部分のみが、17号住の掘り方よりも深いために残存していた。周辺部は窪む。

床面・貯蔵穴・周溝 無し。

柱穴 無し。柱穴状のピットがいくつか見られるが、17号住に属するものと思われる。

遺物出土状態 掘り方覆土より、若干の遺物が出土している。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長(0.52)m

袖 不明。

煙道 住居外に延びていたと考えられる。

遺存状態 ほとんどが17号住に壊されていたため、煙出し部分のみ残存していた。

遺物出土状態 煙出し部分から甕破片が出土している。

備考 7世紀後半頃の住居と考えられる。

2. 古墳時代～平安時代

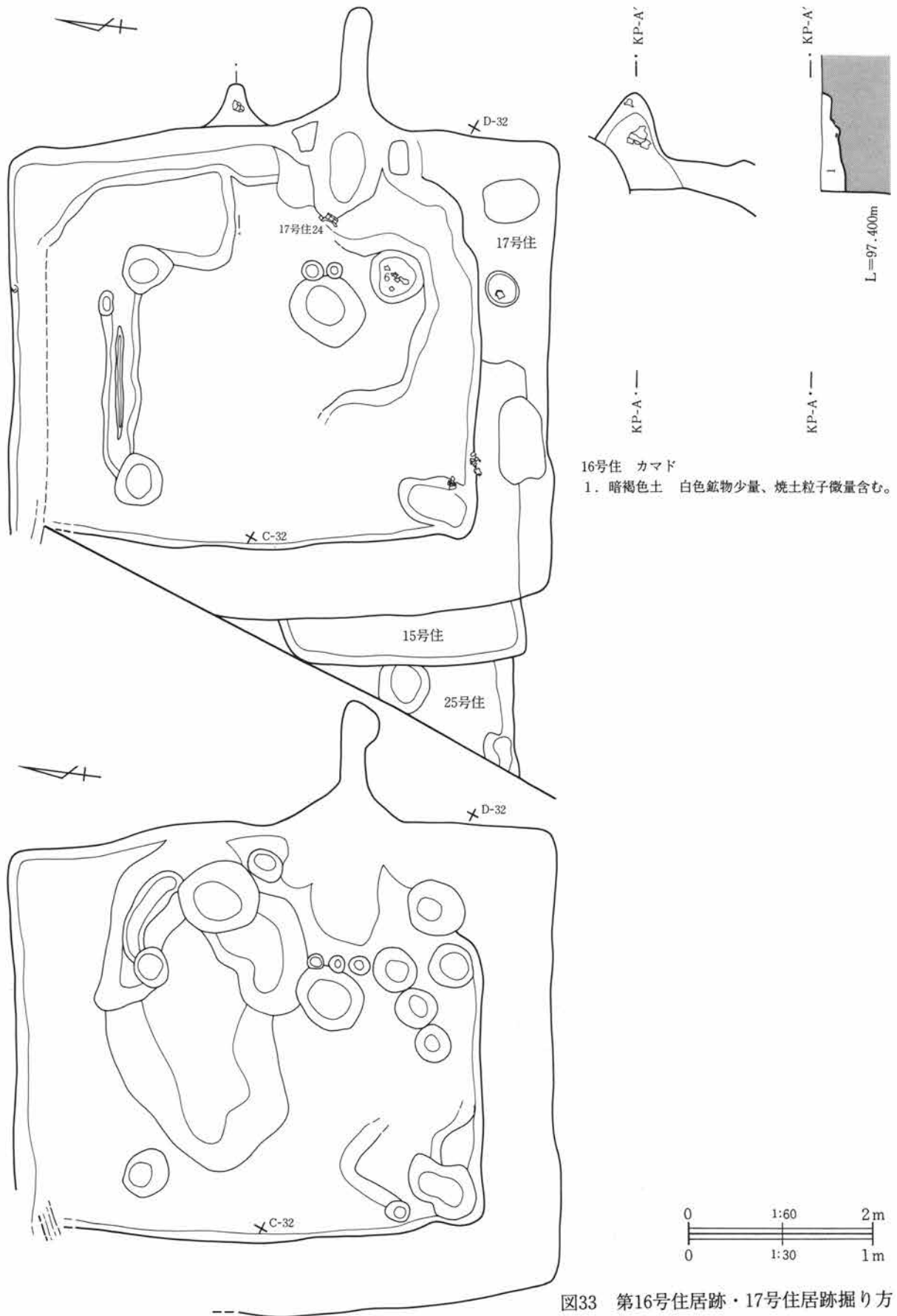


図33 第16号住居跡・17号住居跡掘り方

II 検出された遺構と遺物

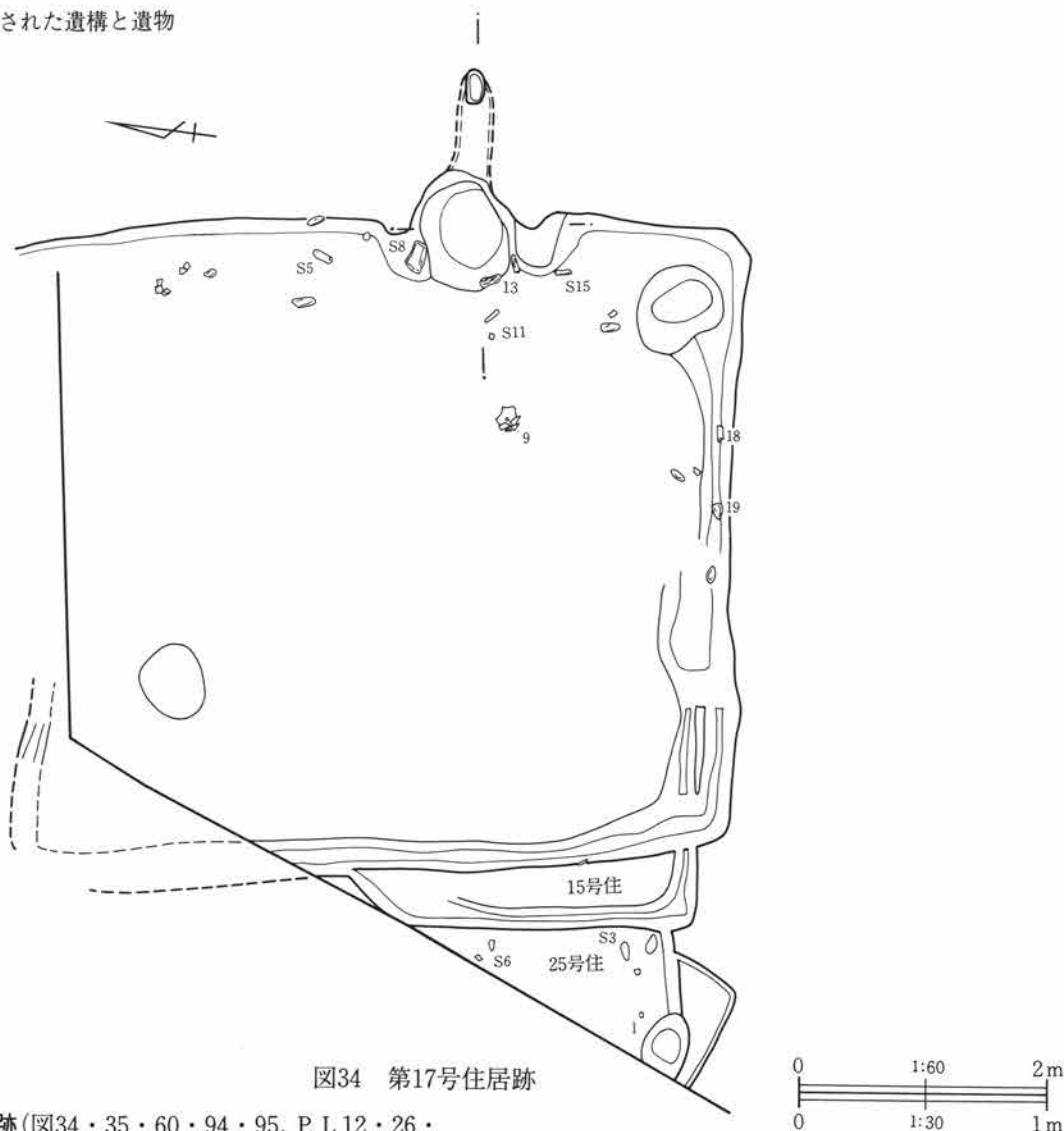


図34 第17号住居跡

第17号住居跡(図34・35・60・94・95、P L 12・26・

39)

位置 B・C-31・32 主軸方位 N79.5°E

重複 15号住に先行し、16号住に後出する。

規模 縦5.05m×横5.73m×深さ0.42m

形状 長方形

埋没土 焼土粒子を含む暗褐色土により埋没。

掘り方 ロームブロックを多く含む暗褐色土により埋められていた。ピットが認められたが、中央の16号住と重複する部分は多い。

床面 貼り床有り。硬くしまっていた。

貯蔵穴 有り。南東部に長径70cm、短径60cm、深さ20cmのものが検出された。

周溝 有り。南壁から北壁の一部に確認された。ほぼ住居全周に廻るものと想定される。

柱穴 有り。16号住掘り方調査時に検出されたピッ

ト群が相当か? 位置的には16号住の柱穴の可能性もある。規模は径50cm前後で40~50cmであり、南西部のものを除く3本は並ぶ。

遺物出土状態 カマド周辺の東壁及び南壁付近に敲石を中心とする遺物が検出された。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長2.32m 最大幅(1.40)m 焼き口幅0.63m

袖 有り。左袖先端は礫が、両袖には粘性土を使用。

煙道 住居外に120cmほど延びる。

遺存状態 かなり良好。煙出し部分がトンネル状に残っていた。約15cm程の灰層が確認された。掘り方は深く、燃烧部使用面は30cmほど窪む。

遺物出土状態 燃烧部手前から敲石が数点出土している。

備考 8世紀後半頃の住居と考えられる。

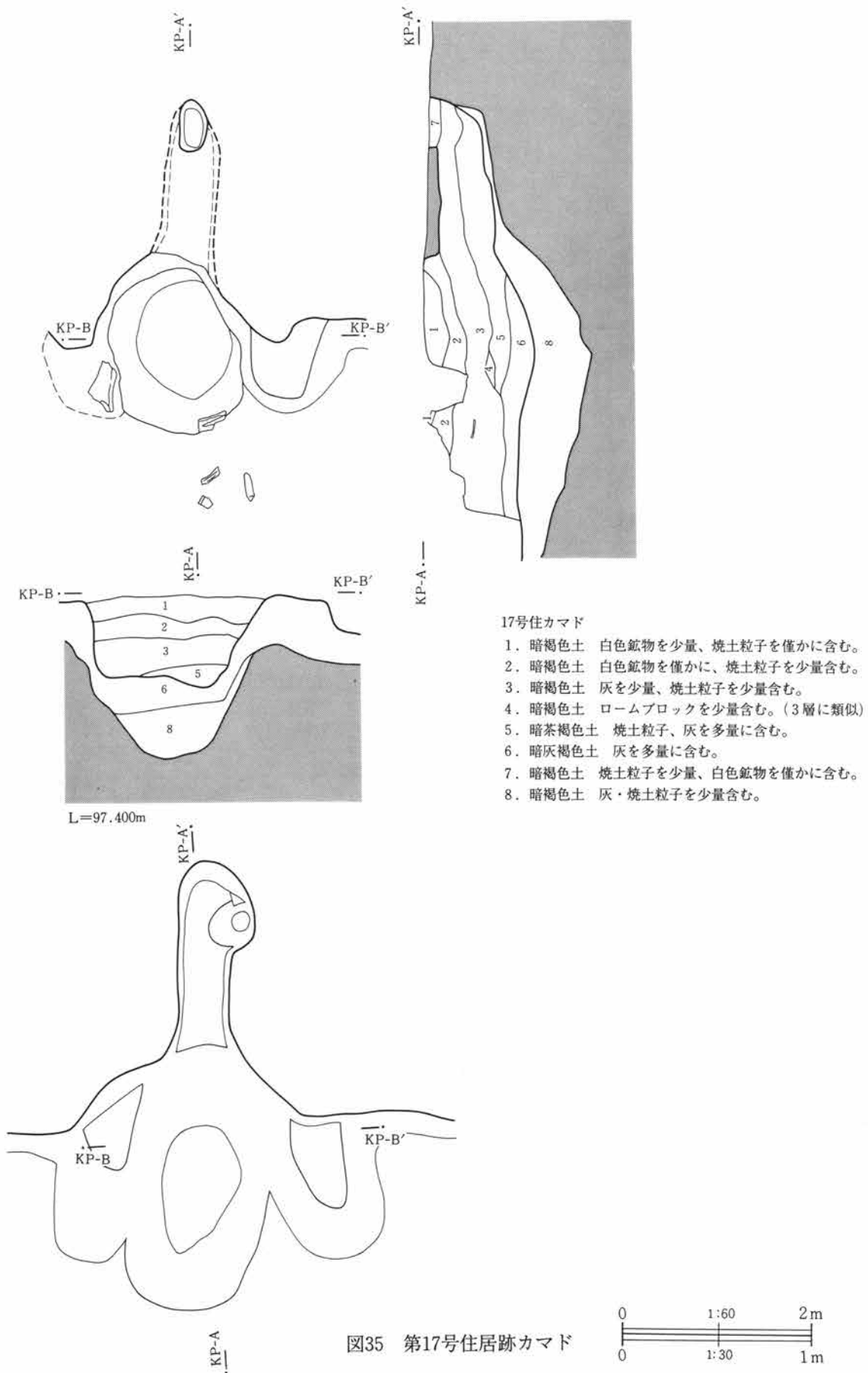
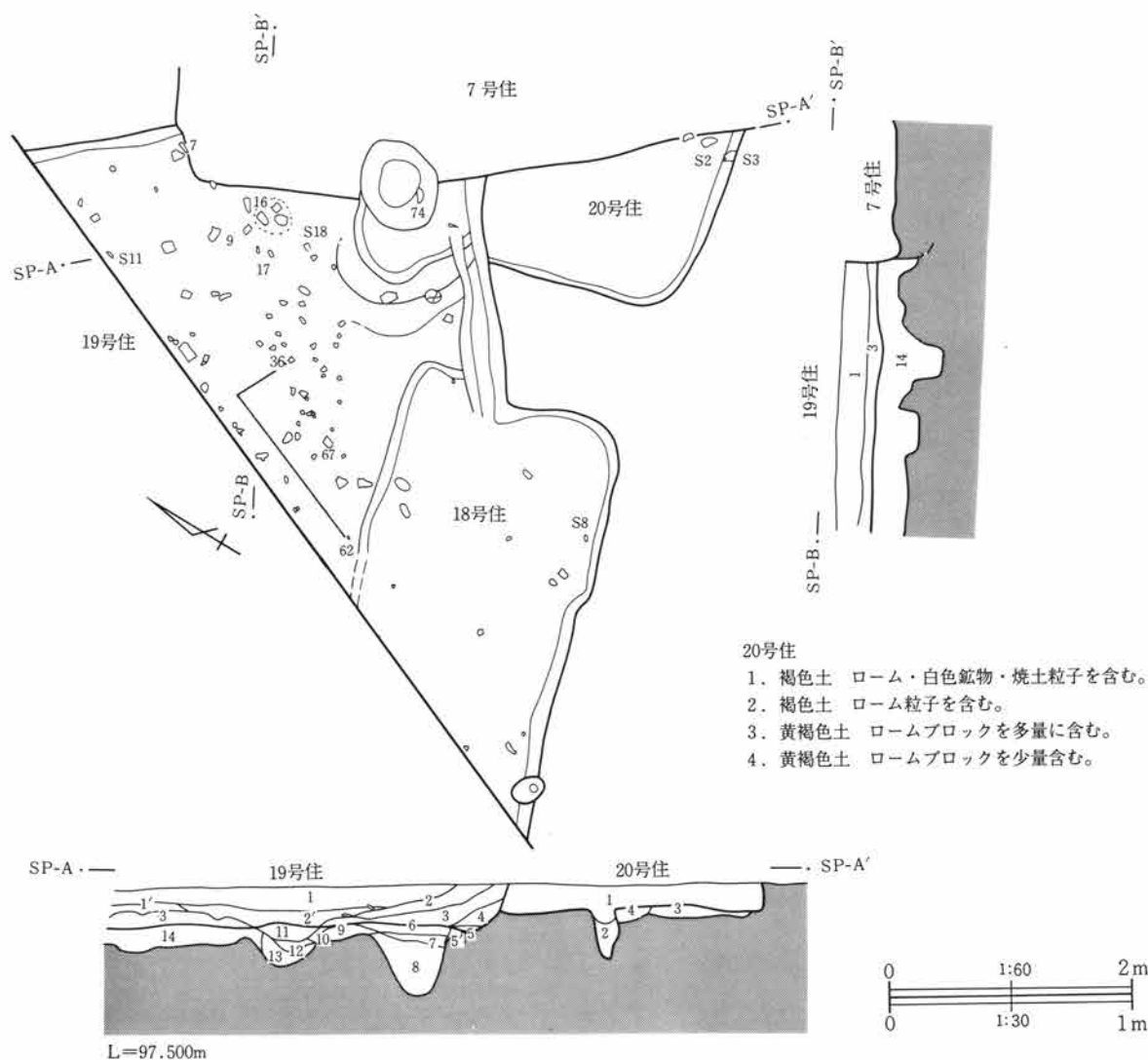


図35 第17号住居跡カマド

II 検出された遺構と遺物



- 20号住
1. 褐色土 ローム・白色鉱物・焼土粒子を含む。
 2. 褐色土 ローム粒子を含む。
 3. 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 4. 黄褐色土 ロームブロックを少量含む。

- 19号住
1. 褐色土 焼土粒子を多量に含む。
 2. 暗褐色土 焼土粒子、ロームブロックを多量に含む。
 3. 黒褐色土 小ロームブロック・炭化物を含む。一部に白色粘土を含む。
 4. 暗褐色土 白色鉱物・ローム粒子を多量に含む。
 5. 暗黄白色土 ローム・白色粘土ブロックを含む。締りは悪い。
 6. 暗黄白色土 白色粘土ブロック、黄白色土を含む。粘性強い。
 7. 黄褐色土 ロームブロックを僅かに含む。
 8. 黄褐色土 ロームブロック、白色粘土ブロックの混土層。
 9. 黄褐色土 白色粘土ブロック、黄白色土を含む。粘性強い。
 10. 黒褐色土 焼土粒子・ローム・白色粘土粒子を含む。
 11. 黒褐色土 白色粒子・白色粘土・ロームブロックを含む。
 12. 黄褐色土 白色粘土を一部含む。粘性土。
 13. 黄褐色土 白色粘土を多量に含む。粘性土。
 14. 暗褐色土 極めて多量の黄白色ロームブロック・粗粒子を含む。焼土ブロック粒子・炭化物片をやや多く含む。粘性有り。

図36 第18号、19号、20号住居跡

第18号住居跡(図36・37・61・96、P L 12・26・40)

位置 B・C-33・34 **主軸方位** 北壁方向N75°E
重複 19号住に後出し、7・9号住に先行する。
規模 縦(3.30)m×横(3.35)m×深さ0.22m
形状 北東コーナー部分が検出された。全体の形状は不明である。
埋没土 9号住に類似するが、炭化物はあまり含まれない。

掘り方 ビット等は検出されなかった。
床面 貼り床有り。
貯蔵穴・周溝・柱穴 無し。
遺物出土状態 小破片が覆土より出土しているのみであり、床面に付いた完形品は無い。
カマド 不明。
備考 6世紀後半頃の住居と考えられる。

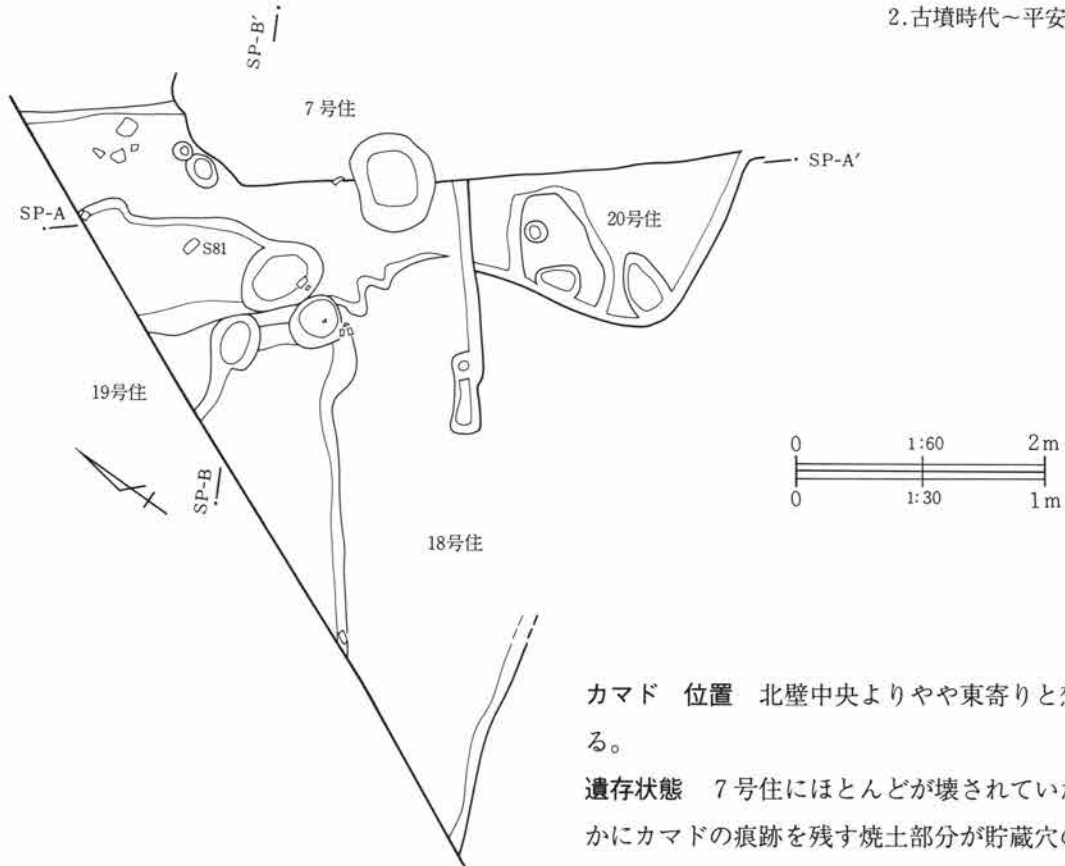


図37 第18号、19号、20号住居跡掘り方

第19号住居跡(図36・37・61・96、P L12・26・40)

位置 B-32・33、C-33 主軸方位 北壁方向N140°E

重複 20号住に後出し、7・18号住に先行する。

規模 縦(3.03)m×横(3.63)m×深さ0.28m

形状 方形もしくは長方形と想定できる。

埋没土 上層は焼土粒子を多く、下層は焼土粒子とロームブロックを多く含む土により埋没していた。

掘り方 ロームブロックを多く、焼土・炭化物をやや多く含む暗褐色土により埋められていた。西側は一段窪み、3つほどのピットがまとまって存在する。

床面 貼り床有り。比較的硬質。

貯蔵穴 7号住との境に低い周堤帯を持つ長径70cm、短径62cm、深さ50cmのものがある。

周溝 有り。南壁に幅20cm、深さ5cm程の規模のものが検出された。

柱穴 無し。ただし、掘り方調査時に検出されたピットがその可能性が考えられる。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土したが、北壁周辺のは比較的低位より出土したものが多。

カマド 位置 北壁中央よりやや東寄りと想定される。

遺存状態 7号住にほとんどが壊されていたが、僅かにカマドの痕跡を残す焼土部分が貯蔵穴の西隣より検出された。

備考 6世紀後半頃の住居と考えられる。

第20号住居跡(図36・37・62・96、P L13・27・40)

位置 C-33 主軸方位 南壁方向N167°E

重複 7・19号住に先行する。

規模 縦(1.55)m×横(2.80)m×深さ0.16m

形状 南西部のみ検出された。方形もしくは長方形。

埋没土 ローム・白色鉱物・焼土粒子を含む硬質の褐色土により埋没していた。

掘り方 掘り方は10cm程と浅く、ロームブロックを多量に含む褐色土により埋められていた。5～10cm程の高さを有する長径70cm、短径50cmの台状の高まりがある。

床面 貼り床有り。かなり硬質。

貯蔵穴・周溝・柱穴 無し。

遺物出土状態 7号住と重複する南壁付近より、敲石(図96-7・8)及び杯破片が出土している。

カマド 不明。

備考 住居跡の新旧関係からすると6世紀後半以前の住居と考えられる。

Ⅱ 検出された遺構と遺物

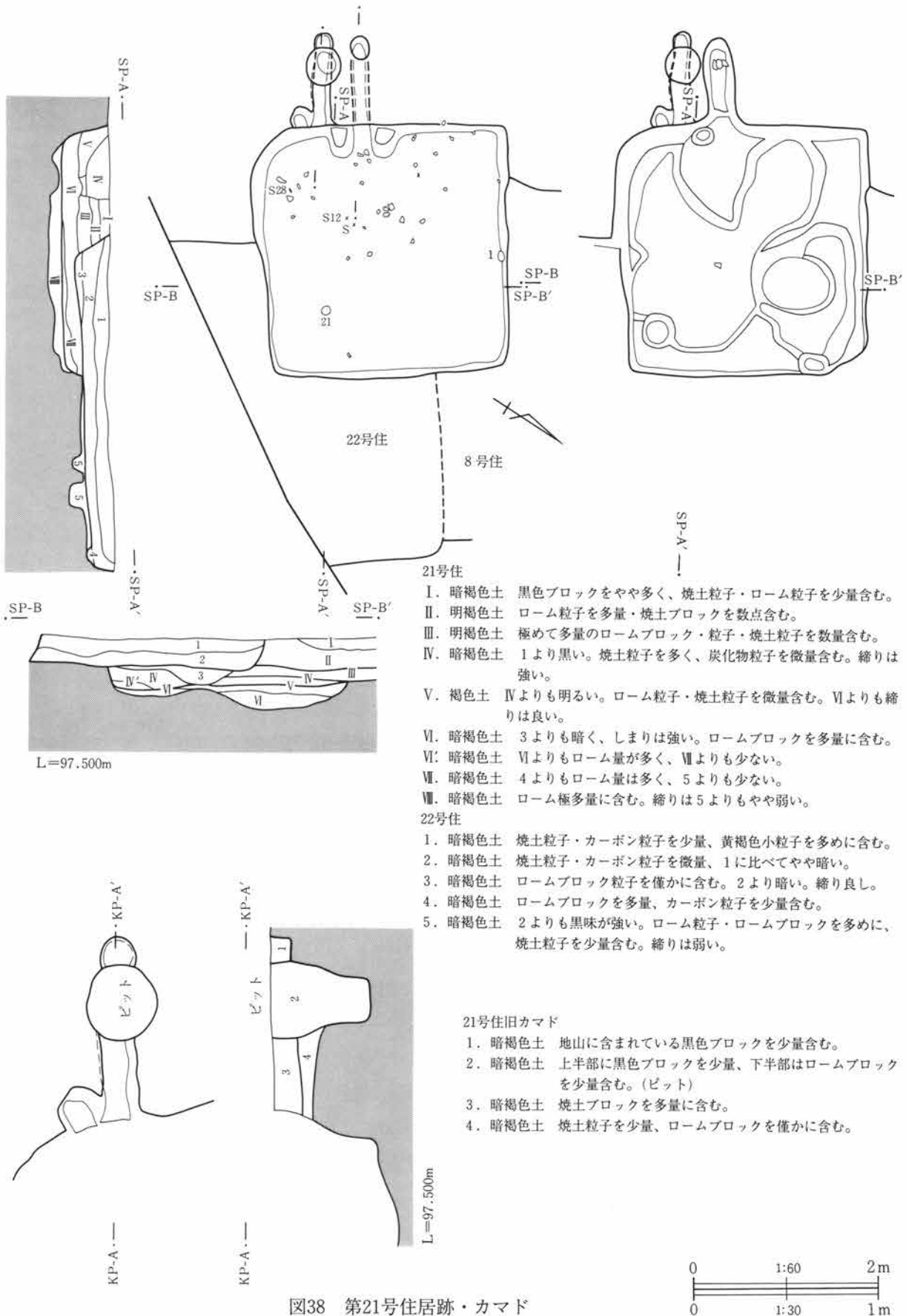
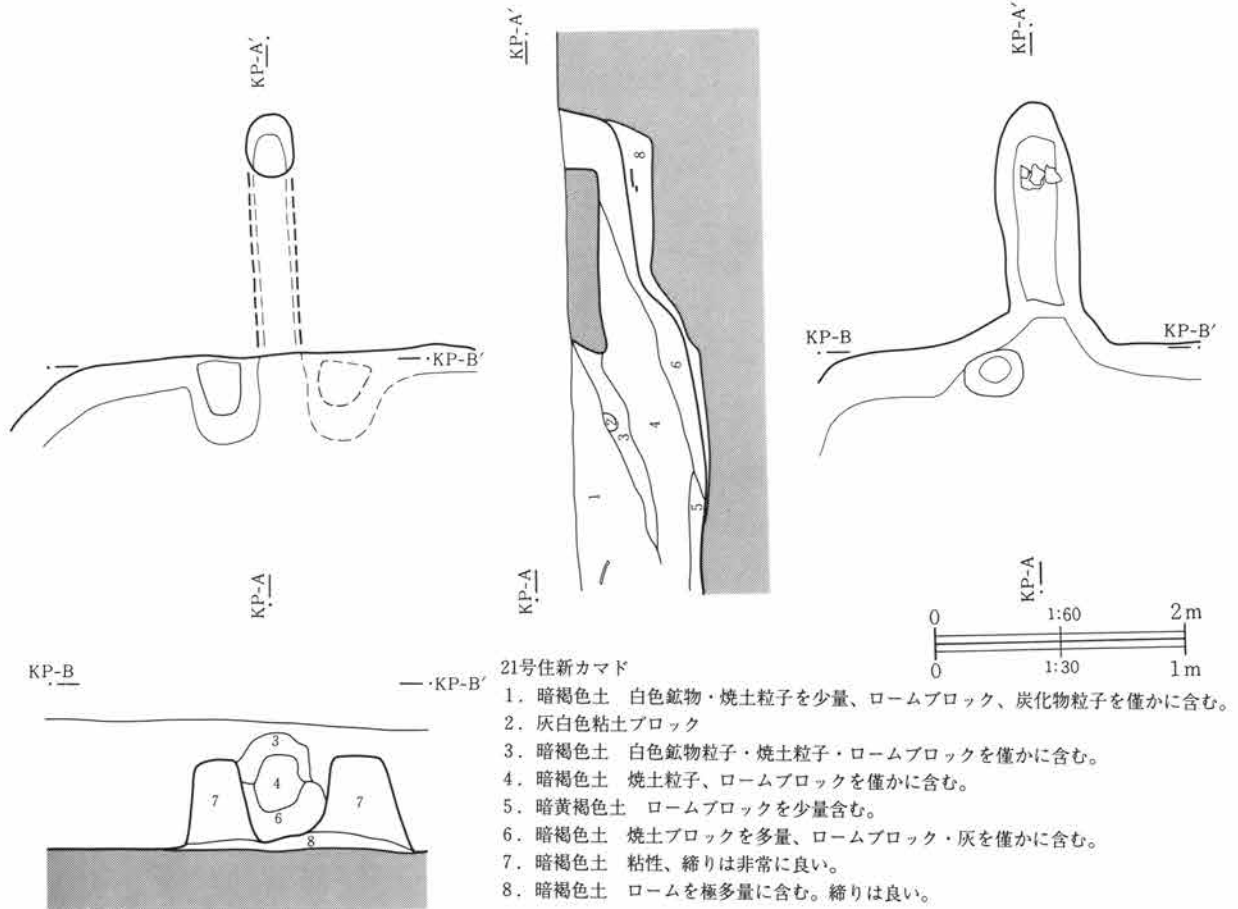


図38 第21号住居跡・カマド

2. 古墳時代～平安時代



21号住新カマド

1. 暗褐色土 白色鉱物・焼土粒子を少量、ロームブロック、炭化物粒子を僅かに含む。
2. 灰白色粘土ブロック
3. 暗褐色土 白色鉱物粒子・焼土粒子・ロームブロックを僅かに含む。
4. 暗褐色土 焼土粒子、ロームブロックを僅かに含む。
5. 暗黄褐色土 ロームブロックを少量含む。
6. 暗褐色土 焼土ブロックを多量、ロームブロック・灰を僅かに含む。
7. 暗褐色土 粘性、締りは非常に良い。
8. 暗褐色土 ロームを極多量に含む。締りは良い。

図39 第21号住居跡カマド

第21号住居跡(図38・39・62・97、P L13・27・40)

位置 D・E-31 主軸方位 N121°W

重複 8・21号住に先行する。

規模 縦2.7m×横2.7m×深さ0.5m

形状 方形

埋没土 上層は黒色土ブロック・焼土を含む明～暗褐色土。下層はロームブロックを多く含む暗褐色土。

下層は人為的に埋め戻された可能性がある。

掘り方 12cm前後の厚さのロームブロックと暗褐色土の混合土により埋められていた。北東部には長径90cm短径63cm深さ10cmの床下土坑があるが、埋め土は同様であった。住居中央より土師器甕破片出土。

床面 貼り床有り。床面は非常に良く締っていた。

貯蔵穴・周溝 無し。

柱穴 無し。ただし、南東部には径35cm、深さ37cmの円形のピットがある。

遺物出土状態 西半カマド付近よりほとんどのものが出土しているが、かなり浮いているものが多い。

新カマド 位置 西壁中央よりやや南寄り

規模 全長82cm 最大幅50cm 焚口幅20cm

袖 有り。

煙道 住居外に62cm程延る。煙突の径は16cm。

遺存状態 燃烧部から煙道にかけては良く焼けていた。袖には粘土が使用されていた。左袖はしっかり残っていたが、右袖はその痕跡があった程度である。

本カマド使用時には旧カマドは使用されていない。

遺物出土状態 煙道部より甕破片が出土している。

旧カマド 位置 南西コーナー

規模 全長80cm 最大幅40cm 焚口幅40cm

袖 無し。

煙道 住居外に60cm程延る。

遺存状態 煙道部は径25cm深さ35cmのピットにより一部壊されていた。袖の痕跡等は検出されなかった。

新カマド製作時に取り除かれた可能性がある。

遺物出土状態 遺物の出土は無い。

備考 6世紀後半頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

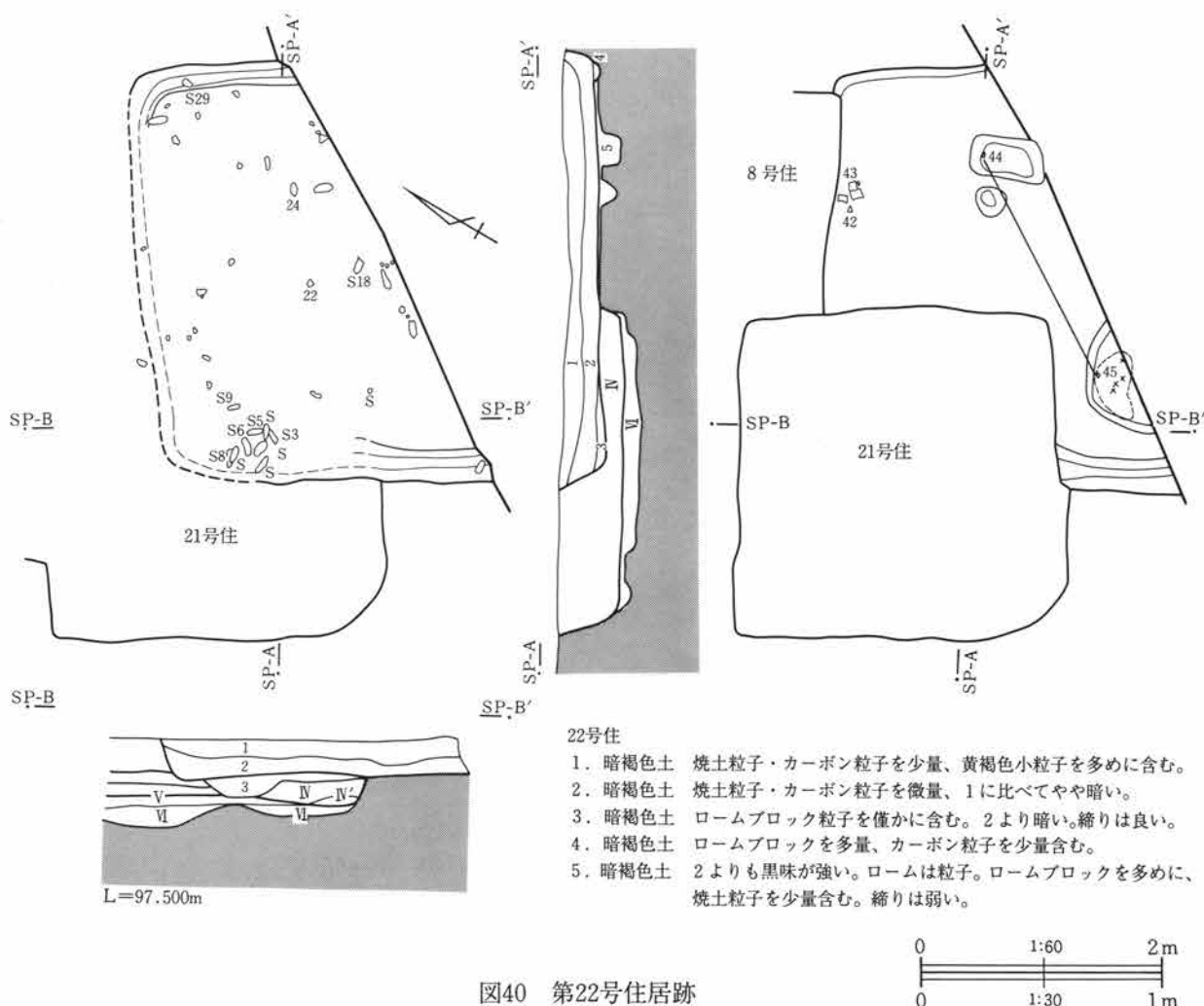


図40 第22号住居跡

第22号住居跡(図40・62・97・98、P L 13・27・40・41)

位置 D・E-30・31 主軸方位 北壁方向N53°E
重複 8・21号住に後出する。

規模 縦3.42m×横(2.58)m×深さ30cm

形状 方形を呈するものと考えられる。

埋没土 焼土粒子・炭化物粒子を含む暗褐色土であり、下層の方がやや暗い。

掘り方 ロームブロックを含む暗褐色土により、埋められていた。遺物はほとんど出土していない。南東部に径1mの床下土坑がある。

床面 貼り床有り。床面は比較的しっかりしていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅10cm、深さ4cmの規模でほぼ全周を廻っていたものと考えられる。

柱穴 無し。掘り方調査時に北東コーナー寄りに径25cm、深さ10cmのピットと長径60cm、短径32cm、深さ20cmのピットが検出されたが、この二つがその可能性がある。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土しているが、南西部壁付近の床面から棒状礫がまとまって出土している。こうした出土の仕方は本遺跡内では6号住の場合ときわめて類似している。また、7号住や8号住のようにほぼ壁に沿って検出される場合もある。それらのうちの多くのは敲石として使用された痕跡を残している。なお、その他の遺物は床面より若干浮いた状態であった。

カマド 不明。調査区外の東カマドと推定される。

備考 8世紀前半頃の住居と考えられる。

第23号住居跡 (図41)

位置 B・C-26・27 主軸方位 北壁方向N160°E

重複 無し。

規模 縦(1.3)m×横(1.6)m×深さ8cm

形状 方形もしくは長方形

埋没土 ローム粒子を少量含む暗褐色土。

掘り方 無し。

床面 貼り床無し。硬質の床面は検出されなかった。

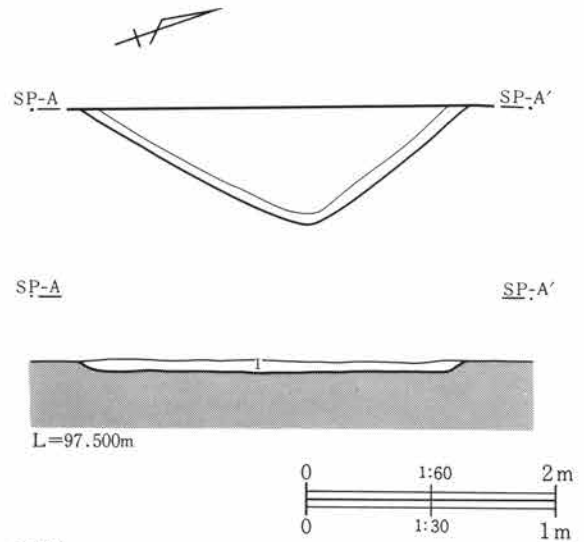
貯蔵穴 不明。

周溝・柱穴 無し。

遺物出土状態 遺物はほとんど出土していない。

カマド 不明。

備考 時期の特定ができるような遺物は出土していない。床面は比較的平坦であったが、あまり硬質ではなかったことからすると土坑の可能性もある。



23号住
1. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

図41 第23号住居跡

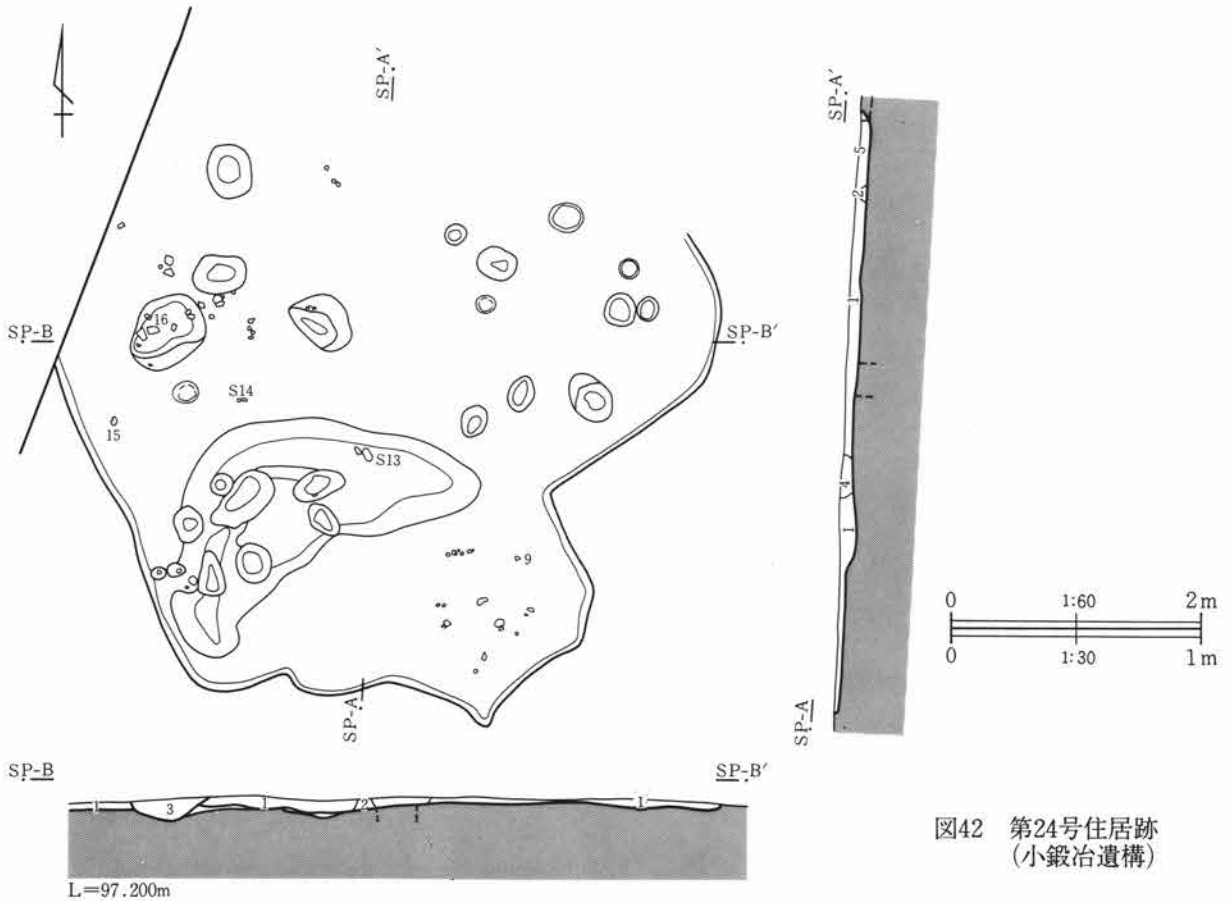


図42 第24号住居跡
(小鍛冶遺構)

24号住

1. 暗褐色土 やや黄色味を帯る。白色小粒子を微量に含む。僅かに砂質。
2. 暗褐色土 1より黄色味を帯る。1よりやや大きめの白色粒子を少量含む。1より粘性有り。
3. 暗褐色土 1よりも黒味が強い。焼土粒子・炭化物片を極微量に含む。チップを多く、鉄滓・スラグ片(φ1cm)を多めに含む。
4. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性有り。
5. 暗褐色土 1よりも黒味が強い。ローム粒子・白色小粒子を微量含む。

II 検出された遺構と遺物

第24号住居跡(小鍛冶)(図42・63・99、P L 14・27・41)

位置 B・C-25・26 主軸方位 北壁方向N24°W

重複 他の住居との重複は無し。

規模 縦(4.67)m×横5.17m×深さ0.03m

形状 方形もしくは長方形 南壁に張り出し部分を持つ。

埋没土 やや黄色味を帯びる暗褐色土であり、白色小粒子を微量含む。

掘り方 無し。

床面 貼り床無し。かなり浅く、住居プランは明確ではなく、北側の壁は残っていないかった。

廃棄穴 不明。 周溝 無し。

柱穴 無し。床面に多くの小ピットがあるが、支柱穴状に同規模で並ぶものはない。

遺物出土状態 炉の周辺部及び張り出し部分から土器小破片・敲石が出土している。覆土からは鉄滓も出土している。

炉 位置 中央よりやや西壁寄り

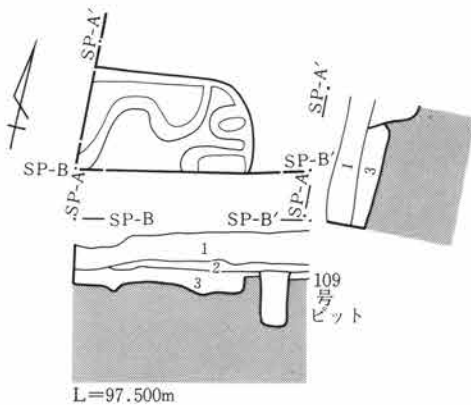
規模 長径62cm 短径52cm 深さ8cm

形状 楕円形

遺依存状態 底面及び床面は若干赤変していた。

遺物出土状態 羽口は横に寝た状態で検出された。覆土からは多量のチップ・小スラグ・鉄滓が出土した。土師器の甕の小破片も認められた。それらのものは使用後そのまま廃棄されたものと考えられる。

備考 南西部のピット・土坑は本遺構に伴わない可能性がある。発掘現場での住居番号をそのまま用いたがカマドや作業用炉以外の炉は検出されておらず、住居として兼用していない可能性が高い。比較的床面に近い位置から出土した遺物からすると6世紀後半の可能性はある。



26号住

1. 暗褐色砂質土 耕作土。
2. 暗褐色土 鉄分・マンガンの焼土粒子微量含む。締りは良い。
3. 褐色土 ロームブロック・焼土粒子を少量含む。全体にやや黄色味を帯る。

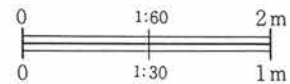


図43 第26号住居跡

第25号住居跡 (図34・63・99、P L 28・41)

位置 B-32 主軸方位 不明。

重複 15号住に先行する。

規模 縦(1.40)m×横(2.15)m×深さ0.15m

埋没土 白色小粒子を含む暗褐色土。

掘り方 東側に径53cm、深さ8cmのピットがある。

床面 貼り床無し。

貯蔵穴 不明。

周溝・柱穴 無し。

遺物出土状態 床面に付いた状態で土器小破片及び敲石が出土している。

カマド 不明。

備考 8世紀後半頃の住居と考えられる。

第26号住居跡 (図43、P L 15)

位置 C-30 主軸方位 北壁方向 N81°E

重複 無し。

規模 縦(2.80)m×横(1.61)m×深さ0.07m

形状 隅丸方形もしくは隅丸長方形

埋没土 ロームブロックを含む褐色土。

掘り方 無し。

床面 貼り床無し。良く締っていた。

貯蔵穴 不明。

周溝・柱穴 無し。

遺物出土状態 遺物の出土は無い。

カマド 不明。

備考 所属時期不明。

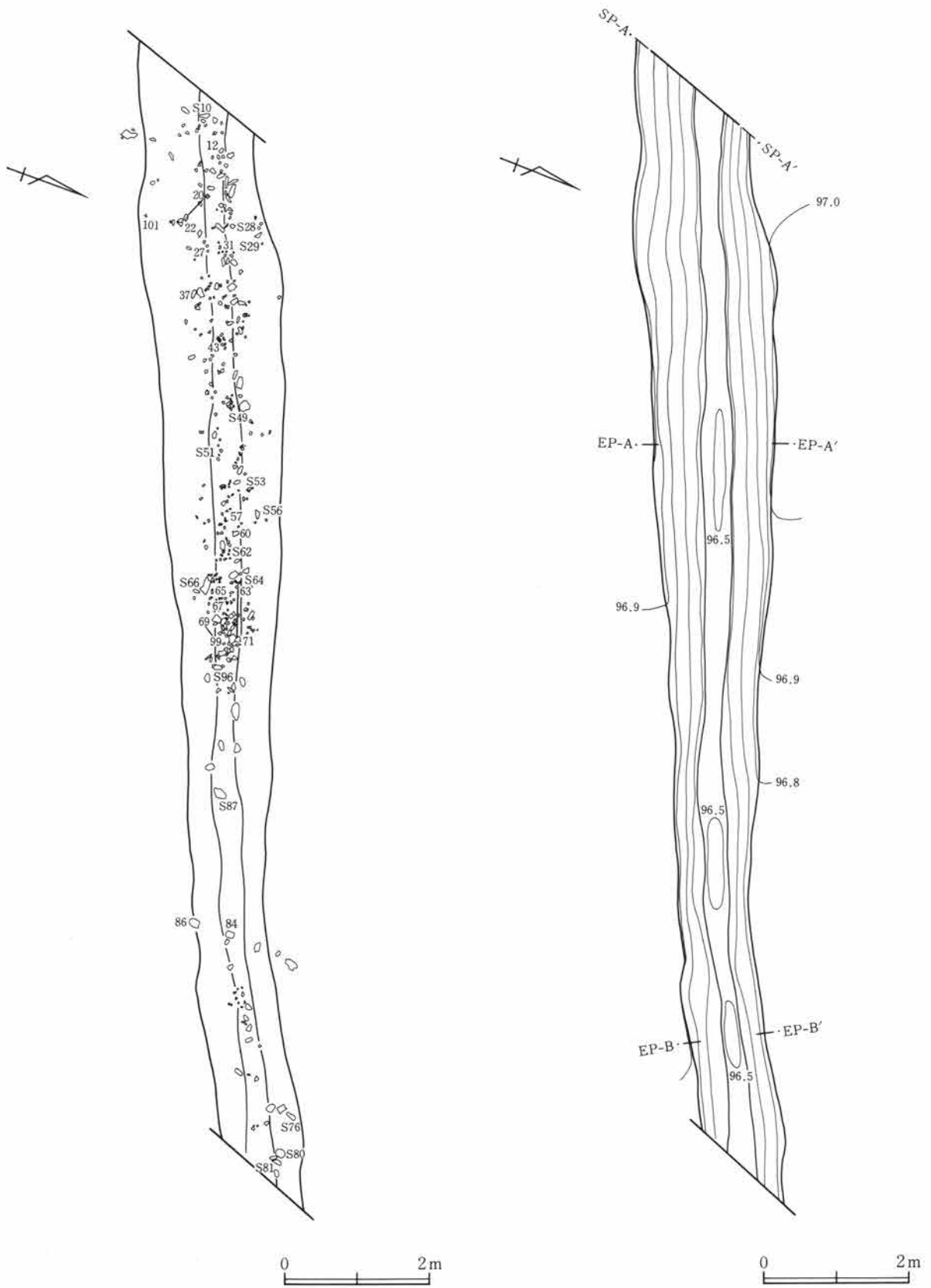


図44 第1号溝遺物・コンター図

II 検出された遺構と遺物

b 溝

溝は3本が検出された。底面に砂及び小礫が堆積しており水が流れていたことを推定させる。

第1号溝 (図44・45・64・65・100～104、P L16・28・29・41～43)

位置 調査区北側B-25グリッドからE-23グリッドにかけて斜めに検出された。

走行方位 N68°E

走行方向 西→東

重複 10号土坑に後出し、2号溝に先行する。

規模 上幅1.88m、下幅0.50m、深さ50cm

断面形状 二段掘り状を呈する。

埋没土 上層は焼土粒子を含む黒褐色土。下層は黒色土ブロックを含む暗褐色土。

遺物出土状態 3層を中心にして須恵器・土師器の破片及び敲石が極多量に出土している。同一固体の破片がまとまっていたり、いわゆるただの礫があまり入っていないかったりということからすると多くのものは流れ込んだものというよりむしろ廃棄したものと考えた方が妥当のように思われる。ただ全体の傾向からすると下の方がやや古いようであり、上面で検出されたものは極小破片が多い。また、縄文土器は小破片が数点しかないにもかかわらず、極多量の石器類が出土している。中にはその形態や表面の風化状況からして縄文時代のものと想定されるものもあるが、そうしたことからすると敲石はほとんどのものが住居群・ピット群と同時期と考えられる。

備考 出土遺物からすると6世紀から8世紀にかけて存続した可能性がある。

第2号溝 (図66、P L29)

位置 調査区北側C-22グリッドからE-24グリッドにかけて斜めに検出された。

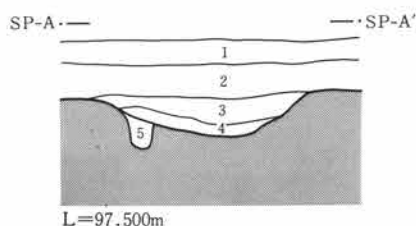
走行方位 E4°Wであり、ほぼ北方向と言える。

走行方向 南→北

重複 1号溝に後出する。3号溝とほぼ同時期。

規模 幅0.48m前後、深さ6～9cm

断面形状 やや深い皿状



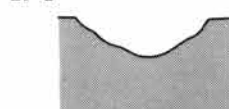
L=97.500m

1号溝西壁セクション

1. 暗褐色土 (表土) 耕作土
2. 黒色土 白色鉱物を多量に含む。色調はやや茶色味を帯びる。
3. 黒褐色土 白色鉱物を含まず、焼土細粒子を僅かに含む。
4. 暗褐色土 焼土細粒子を僅かに含む。地山の粘土層の黒色ブロックを多量に含む。
5. 暗褐色土 4層に近いが、(地山の)黄白色粘土ブロックを僅かに含む。



EP-B— —EP-B'



L=97.000m

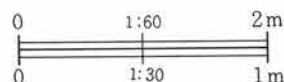


図45 第1号溝セクション・エレベーション

埋没土 砂質褐色土であり、しまりは弱い。

遺物出土状態 覆土より少量の小破片が出土している(図66-1～5)。遺物の割れ口はかなり摩滅しており、流れ込みと考えられる。

備考 西側に径15cm、深さ3～10cm程の小ピット列が確認されたが、これは本溝に伴う施設と考えられる。所属時期不明。

第3号溝 (図66、P L29)

位置 調査区北側C-22グリッドからD-23グリッドにかけて検出された。

走行方位 E4°Wであり、ほぼ2号溝と平行。

走行方向 南→北

重複 2号溝とほぼ同時期。

規模 幅0.68m、深さ5cm

断面形状 皿状

埋没土 2号溝とほぼ同じ。

遺物出土状態 覆土より土器小破片が出土している(図66-6～8)。遺物は流れ込みと考えられる。

備考 所属時期不明。

c 掘立柱建物跡・土坑・ピット群

1棟を調査した。その他に600基以上に及ぶピット群があり、柱痕の確認されたものもあるが、同規模で規則正しく並ぶものは検出されなかった。

第1号掘立柱建物跡(図46・68-8・9、P L 15・30)

位置 D・E-26・27 主軸方位 N14°W

重複 風倒木に後出する。

規模 2間(2.7m)×3間(3.9m)

形状 南北が長い。若干歪む。

柱穴 P1 規模 長径60cm 短径50cm 深さ60cm

形状は楕円形で南側にテラス状の段を有する。

P2 規模 長径50cm 短径45cm 深さ37cm

形状は不定形な楕円形である。

P3 規模 長径78cm 短径66cm 深さ54cm

形状は楕円形である。

P4 規模 長径32cm 短径32cm 深さ48cm

形状はほぼ円形である。

P5 規模 長径40cm 短径39cm 深さ39cm

形状はほぼ円形である。

P6 規模 長径42cm 短径42cm 深さ66cm

形状は円形である。

P7 規模 長径48cm 短径42cm 深さ50cm

形状はほぼ円形である。

P8 規模 長径69cm 短径49cm 深さ63cm

形状は楕円形である。遺物は覆土より土師器甕頸部及び須恵器甕破片が出土している(図68-89)。

P9 規模 長径42cm 短径36cm 深さ51cm

形状はほぼ円形である。

P10 規模 長径42cm 短径36cm 深さ51cm

形状は円形に近い楕円形である。

第1号土坑(図47・66、P L 16・29)

位置 C-35

主軸方位 N22°E

重複 南側のピットに後出する。

規模 長径63cm 短径60cm 深さ18cm

形状 ほぼ円形

埋没土 焼土・炭化物ロームブロックを含む。

底面 ロームが底面であり、しっかりしている。

遺物 覆土より土師器杯破片(図66-9)が出土している。

遺存状態 南側を小ピットにより切られていた。

備考 時期不明。

第2号土坑(図47・66、P L 16・29)

位置 B-35

主軸方位 N57°W

重複 無し。

規模 長径60cm 短径54cm 深さ27cm

形状 ほぼ円形

埋没土 焼土ブロックが多量に含まれる。

底面 しっかりしている。

遺物出土状態 主に須恵器の杯・椀・羽釜が出土している。

遺存状態 底面は焼けていない。西側は水抜きトレンチにより失われていた。

備考 10世紀前半頃の土坑と考えられる。

第3号土坑(図47・66・104、P L 16・29・43)

位置 D-32

主軸方位 N8°W

重複 8・21号住に後出する。

規模 長径(81)cm 短径48cm 深さ15cm

形状 楕円形

埋没土 炭化物・焼土粒子・灰を含む。

遺物出土状態 土師器甕口縁及び杯破片が出土している。

遺存状態 北側は8号住調査時に失われてしまった。

備考 8世紀後半頃の土坑と考えられる。

第5号土坑(図47)

位置 B・C-32

主軸方位 N52°W

重複 無し。

規模 長径90cm 短径54cm 深さ50cm

II 検出された遺構と遺物

形状 楕円形

埋没土 ロームを含む暗褐色土を主体とする。

遺物出土状態 遺物は出土していない。

遺存状態 底面はしっかりしていた。

備考 時期不明。

第6号土坑(図47・66、P L 29)

位置 E-31

主軸方位 N 30° E

重複 無し。

規模 長径80cm 短径75cm 深さ18cm

形状 ほぼ円形

埋没土 焼土粒子を微量含む。下層にはローム粒子・炭化物も含まれる。

遺物出土状態 覆土より土師器甕口縁部破片(図66-19)が出土している。

遺存状態 東側は水抜きトレンチにより壊されていた。

備考 時期不明。

第9号土坑(図47)

位置 B・C-23

主軸方位 N 60° W

重複 小ピットに先行する。

規模 長径(150)cm 短径84cm 深さ19cm

形状 不定形の楕円形

埋没土 上層は白色小軽石粒子を含む暗褐色土。下層はロームブロックを含む黒褐色粘性土。

遺物出土状態 覆土より土師器の小破片が出土している。

遺存状態 小ピットに壊されているが、それ以外のところの底面は比較的平坦である。

備考 時期不明。

第1号焼土遺構(図47)

位置 C-35

主軸方位 N 72° W

重複 無し。

規模 長径66cm 短径36cm 深さ6cm

形状 楕円形

埋没土 焼土層

底面 良く焼けていた。

遺物出土状態 遺物の出土は無い。

遺存状態 良好

備考 屋外炉としての機能が推定される。遺物が出土していないので時期の特定はできない。

第69号ピット(図47・68、P L 30)

位置 D-25

主軸方位 N 3° E

重複 無し。

規模 長径44cm 短径28cm 深さ24cm

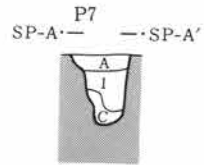
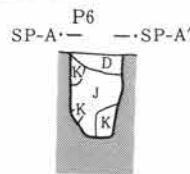
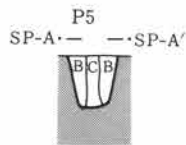
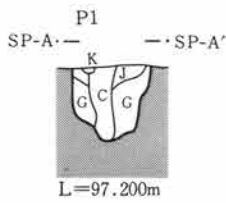
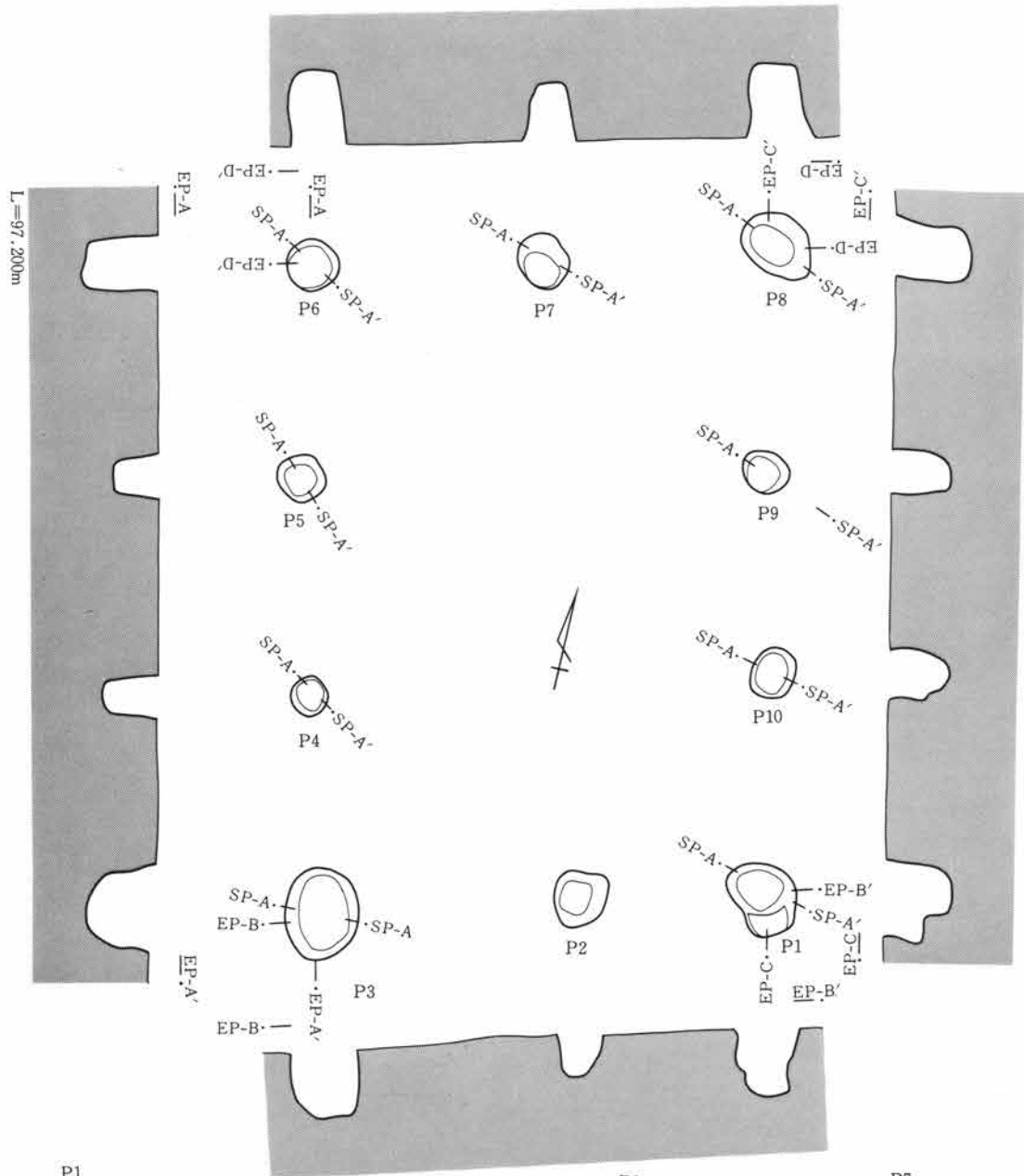
形状 若干中央がくびれる楕円形

埋没土 焼土粒子・白色細粒子を少量含む暗褐色土で、下の方が色調は暗く粘性は強い。

遺物出土状態 北半に横位に土師器の甕(図68-10)が出土している。

遺存状態 良好

備考 湧水のため底面が確認しにくかった。



1号掘立

- A 褐色土 焼土粒子・白色鉱物粒子を含む。
- B 暗褐色土 焼土粒子を含み、粘性有り。
- C 暗褐色土 砂質。
- D 暗褐色土 焼土粒子・白色粘土ブロックを含み、粘性有り。
- E 褐色土 焼土粒子・白色鉱物粒子・炭化物を含む。
- G 黄褐色土 焼土ブロック・ロームブロックを含み、粘性有り。
- I 暗褐色土 粘性有り。
- J 暗褐色土 ロームブロック・白色粘土ブロックを含み、粘性有り。
- K 暗褐色土 焼土粒子・ロームブロックを含む。砂質。

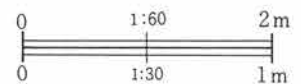
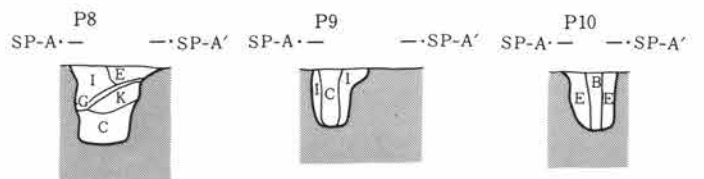
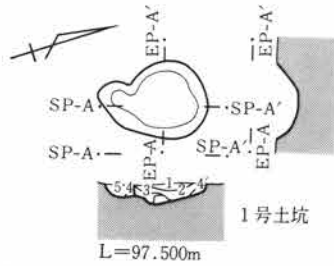


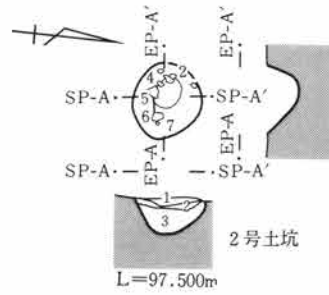
図46 第1号掘立柱建物跡

II 検出された遺構と遺物



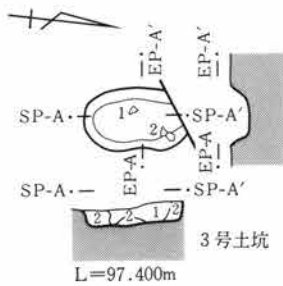
1号土坑

1. 黄灰色土 焼土・炭化物を少量含む。
2. 黄褐色土 ロームブロック、焼土を僅かに含む。
- 2' 黄褐色土 ロームの二次堆積土。
3. 暗赤褐色土 白色粒子を僅かに含む。
4. 黄色土 ローム層の流入土。
5. 褐色土 ロームブロックを全体に含む。



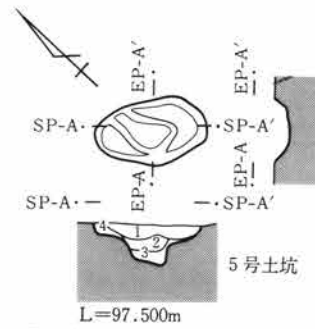
2号土坑

1. 黄灰色土 焼土・炭化物を含む。
2. 黄白色土 焼土・炭化物・ロームブロックを含み、粘性が強い。
3. 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含み、粘性が有る。



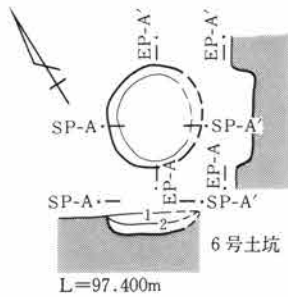
3号土坑

1. 黒褐色土 炭化物片を多く、灰少量、焼土粒子やや多く含む。締りは悪い。
2. 暗褐色土 焼土粒子やや多く、炭化物片微量含む。締りは良い。



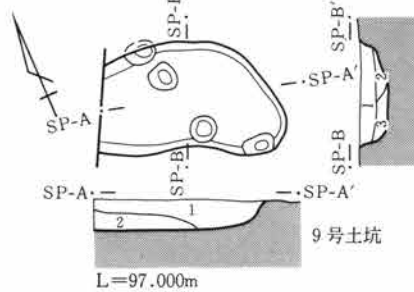
5号土坑

1. 暗褐色土 白色鉱物粒子・ロームブロック含む。締りは良い。
2. 暗褐色土 粘性が強い。
3. 暗褐色土 ローム粒子を含む。
4. 黄褐色土 ロームの二次堆積土。



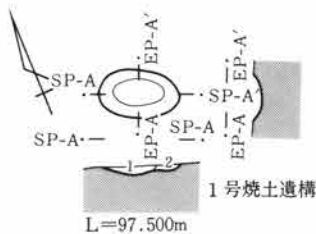
6号土坑

1. 暗褐色土 焼土粒子、白色粒子を微量含む。やや砂質。
2. 暗褐色土 ローム粒子少量、炭化物、焼土粒子微量含む。締りが強く、黒味を帯びる。



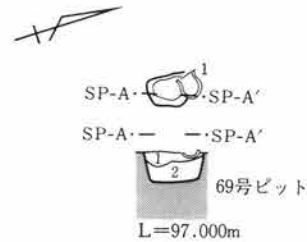
9号土坑

1. 暗褐色土 白色粒子(軽石)・土器片を含む。
2. 黒褐色粘性土 ロームブロックを少量含む。
3. 明褐色土 ロームブロックを多く含む。



1号焼土遺構

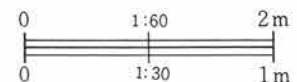
1. 赤褐色土 焼土層
2. 暗褐色土 ローム粒子、ブロックを含む。



69号ピット

1. 暗褐色土 焼土粒子、白色鉱物粒子少量含む。
2. 暗褐色土 1とはほぼ同様であるが、1よりも色調は暗く、粘性も強い。

図47 土坑、焼土遺構、ピット



2.古墳時代～平安時代

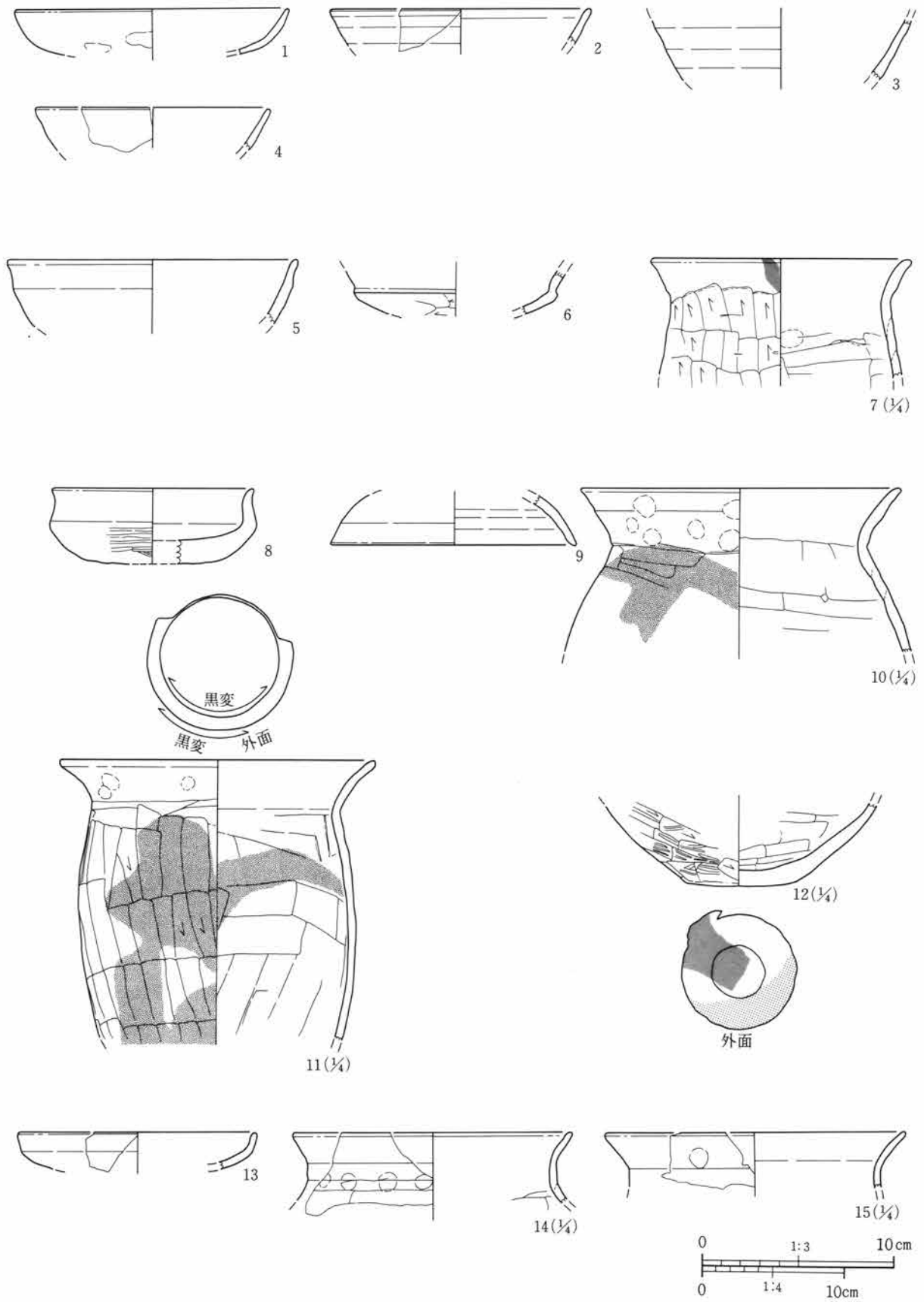


図48 第1号(1~4)、2号(5~7)、3号(8~12)、4号(13~15)住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

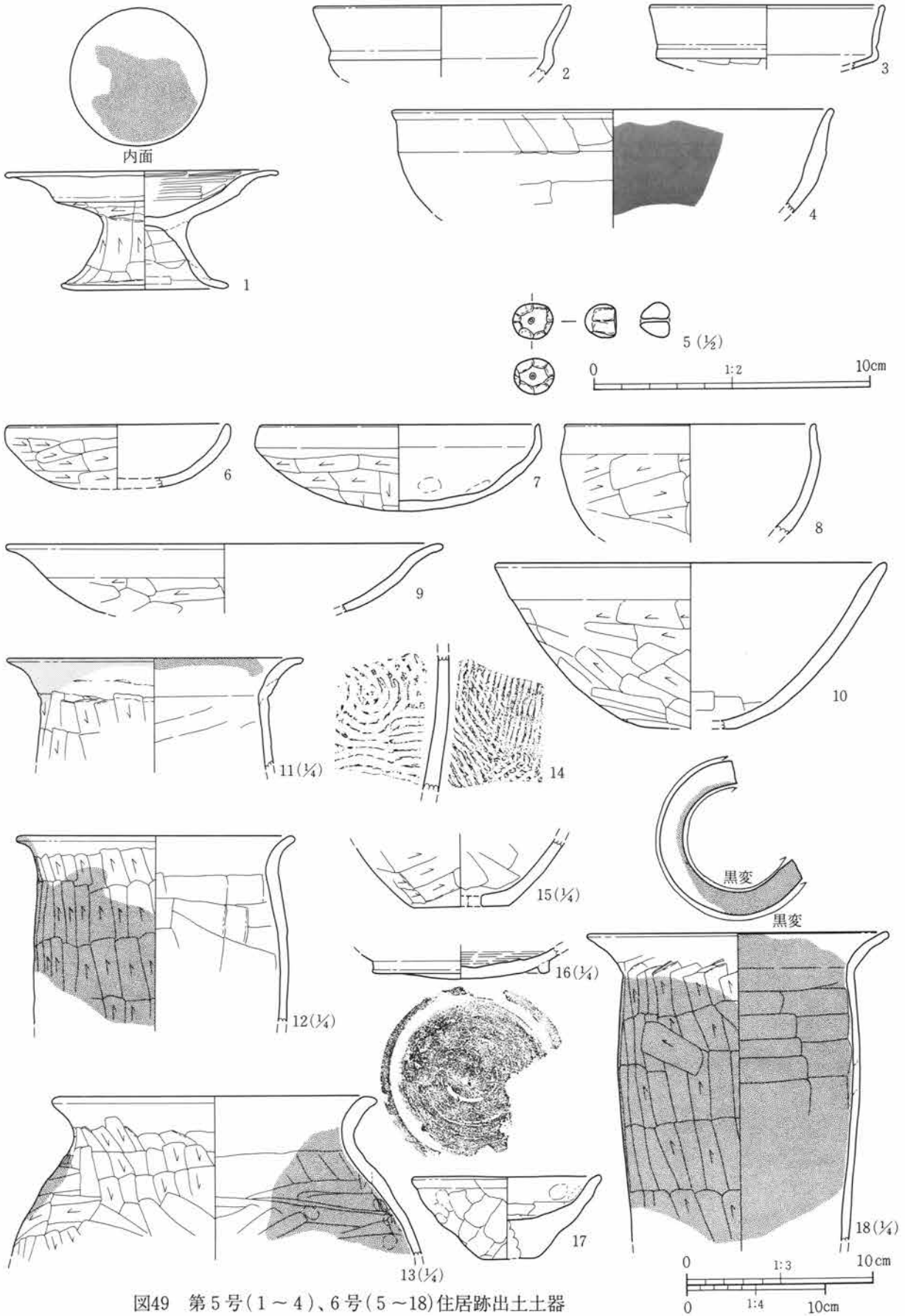


図49 第5号(1~4)、6号(5~18)住居跡出土土器

2.古墳時代~平安時代

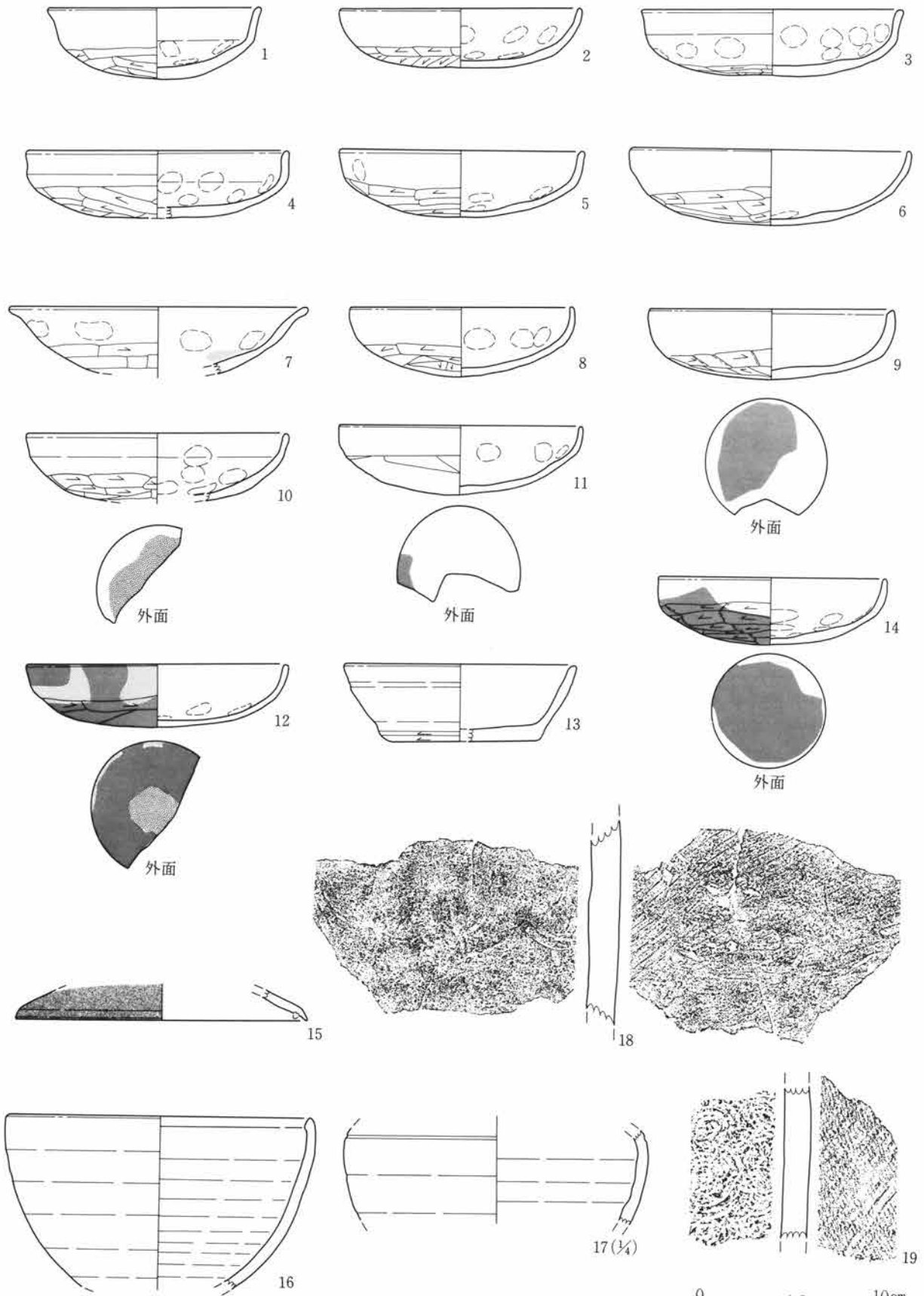


图50 第7号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

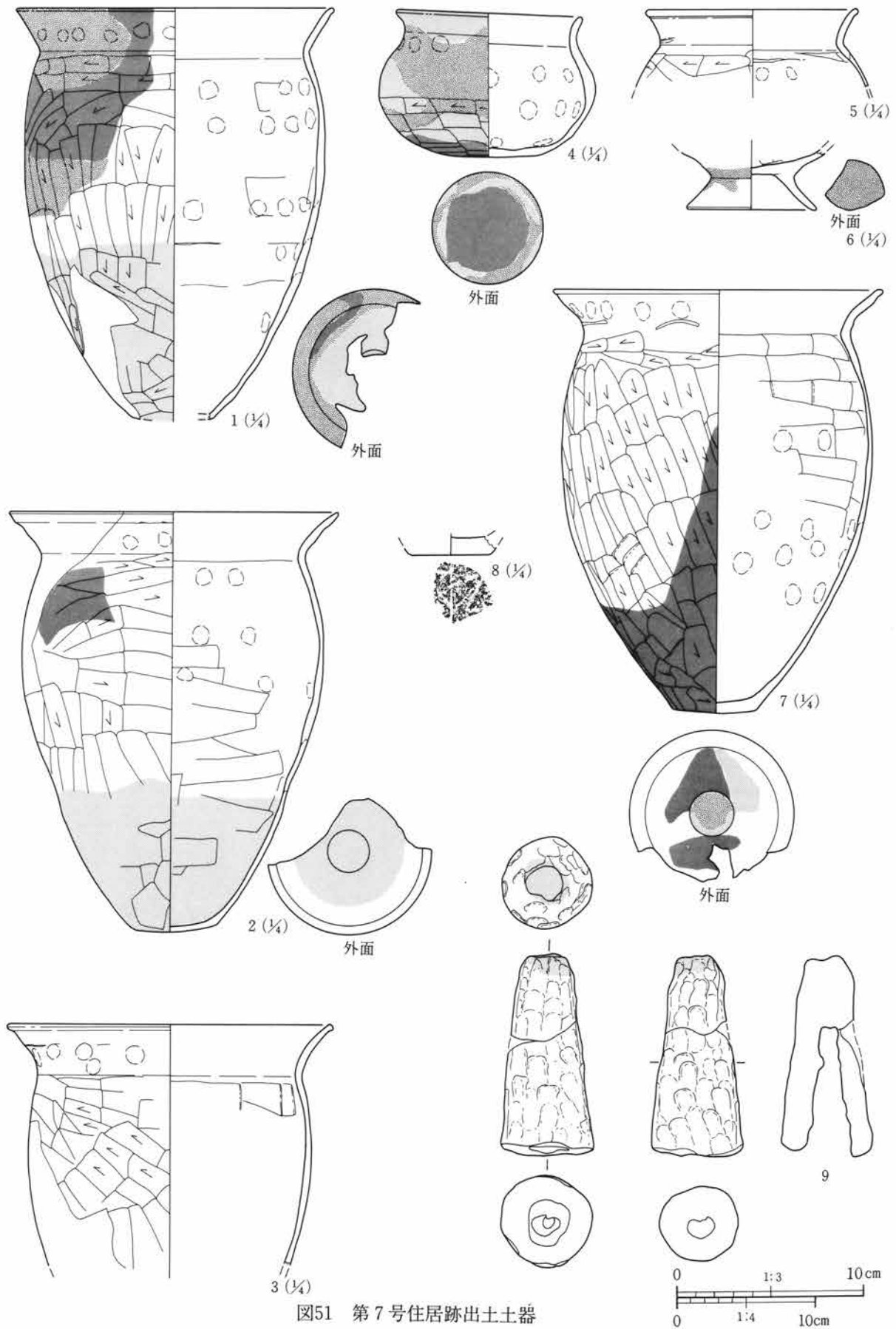


図51 第7号住居跡出土土器

2. 古墳時代～平安時代

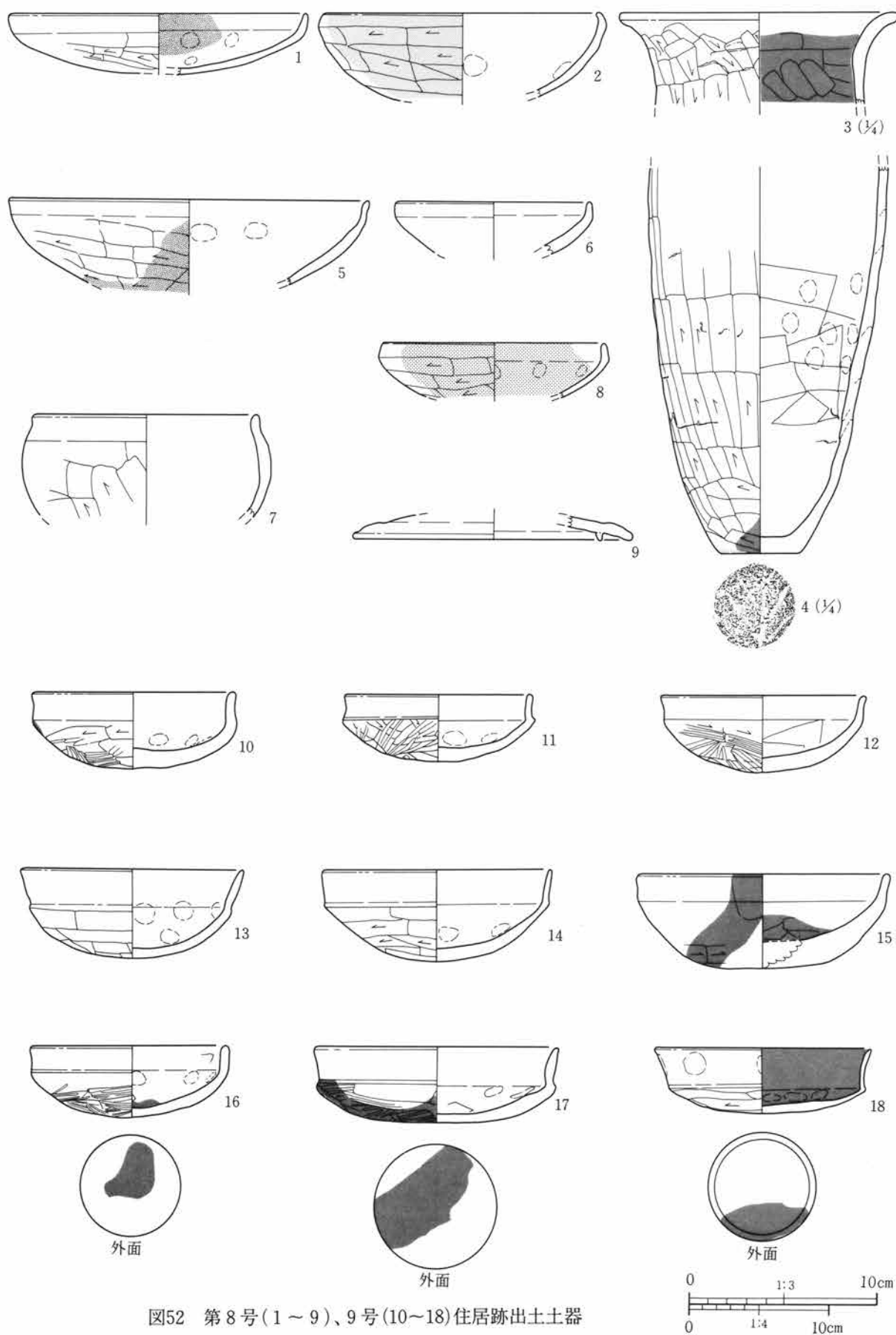


图52 第8号(1~9)、9号(10~18)住居跡出土土器

Ⅱ 検出された遺構と遺物

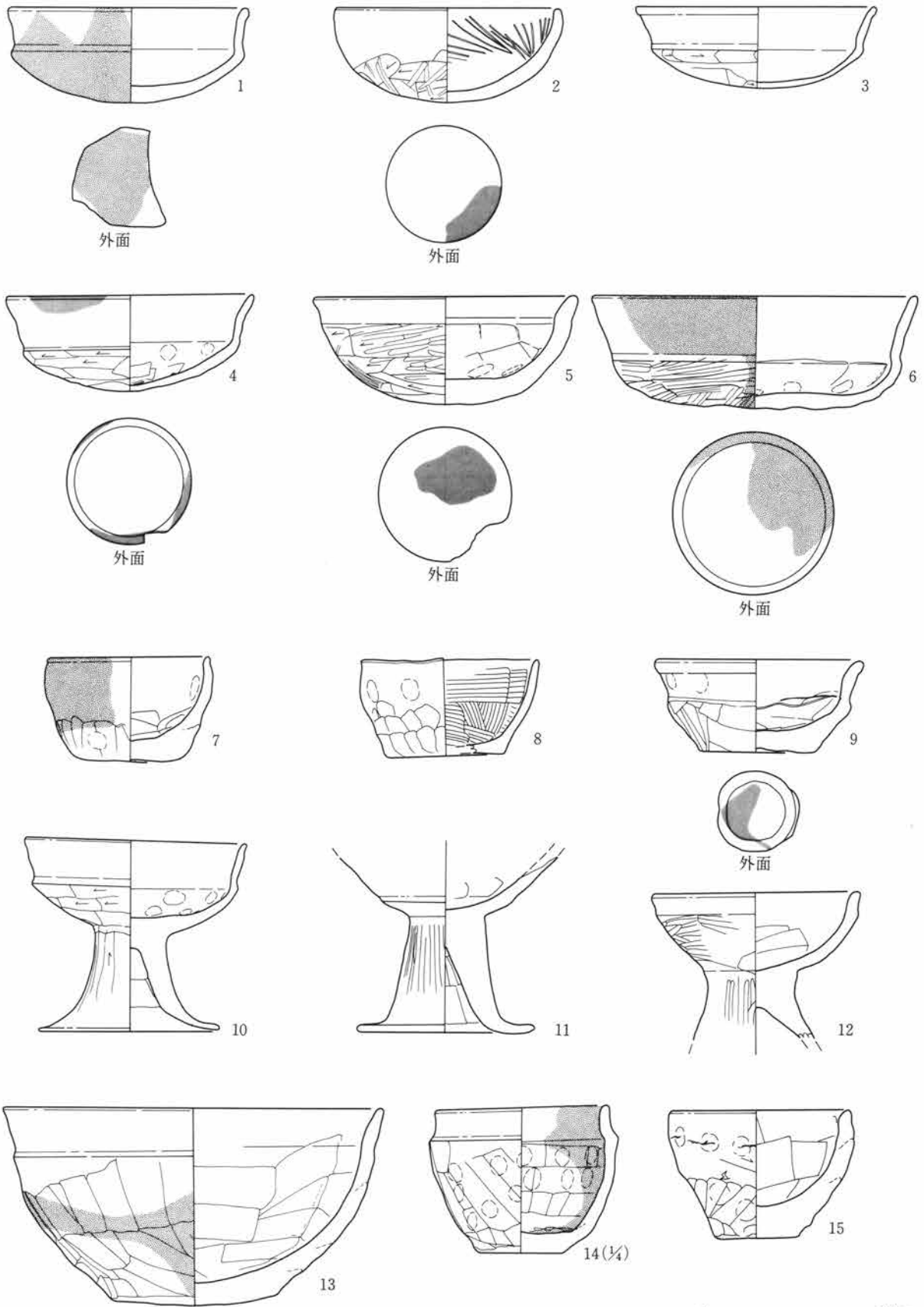


図53 第9号住居跡出土土器

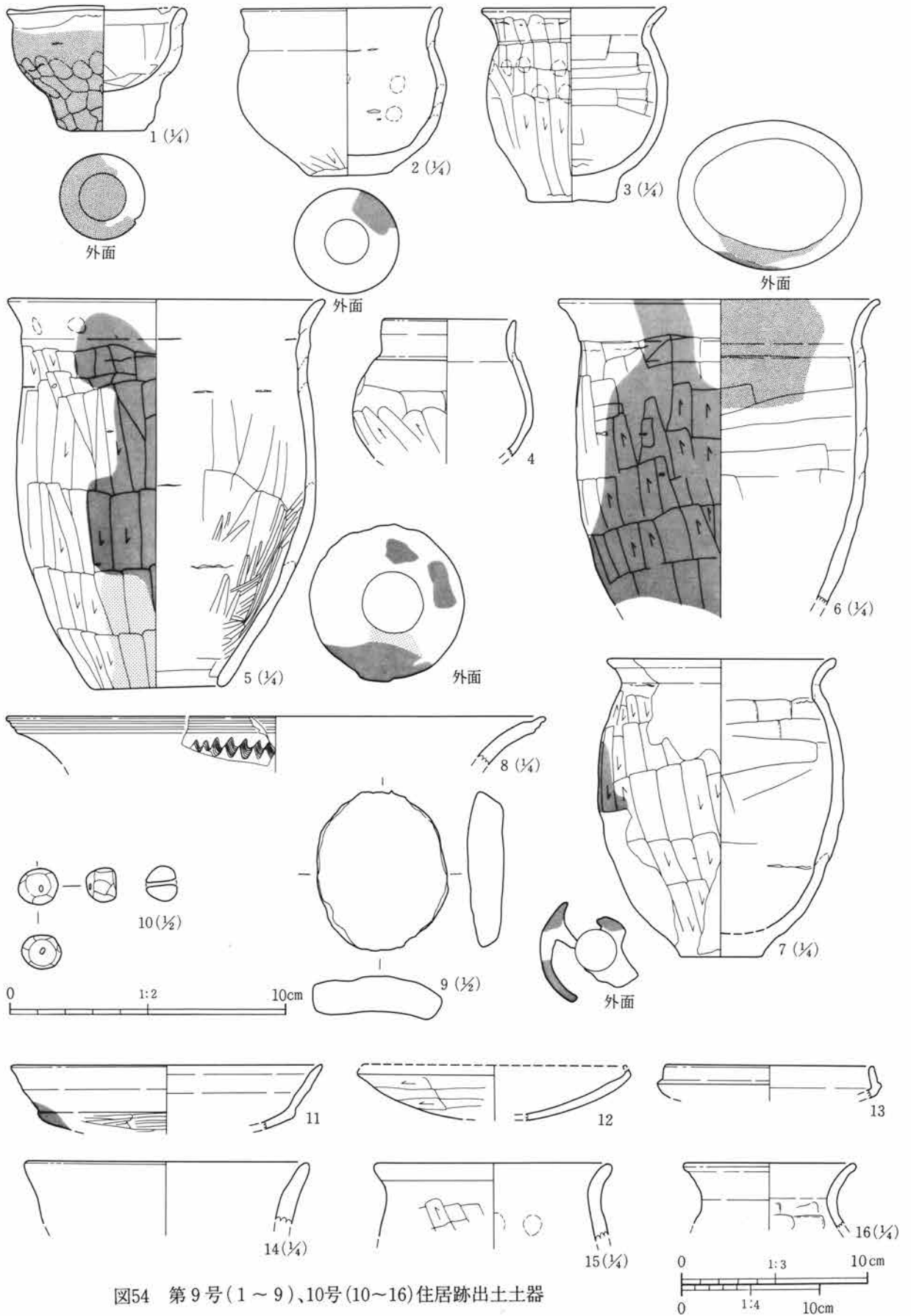


図54 第9号(1~9)、10号(10~16)住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

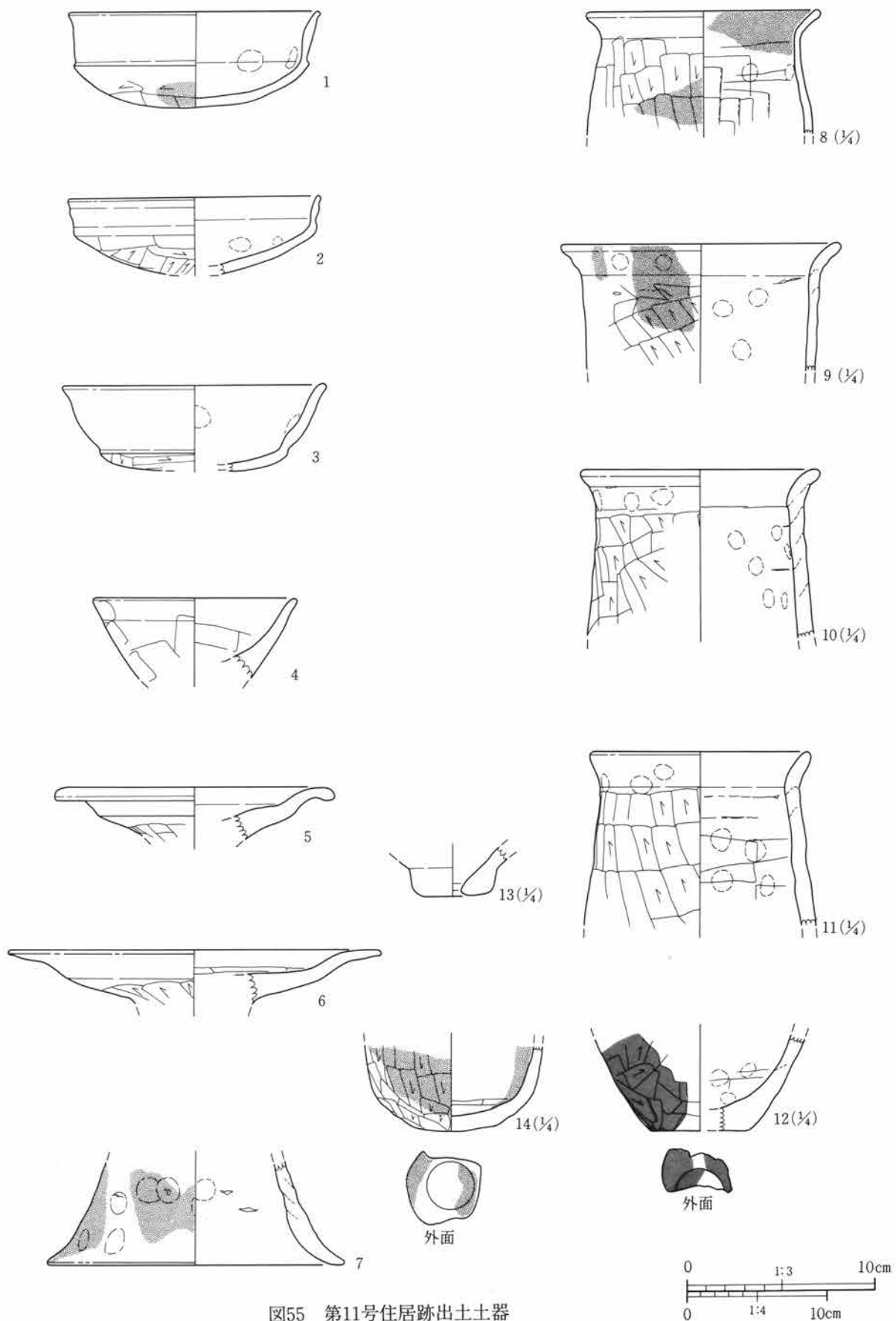


図55 第11号住居跡出土土器

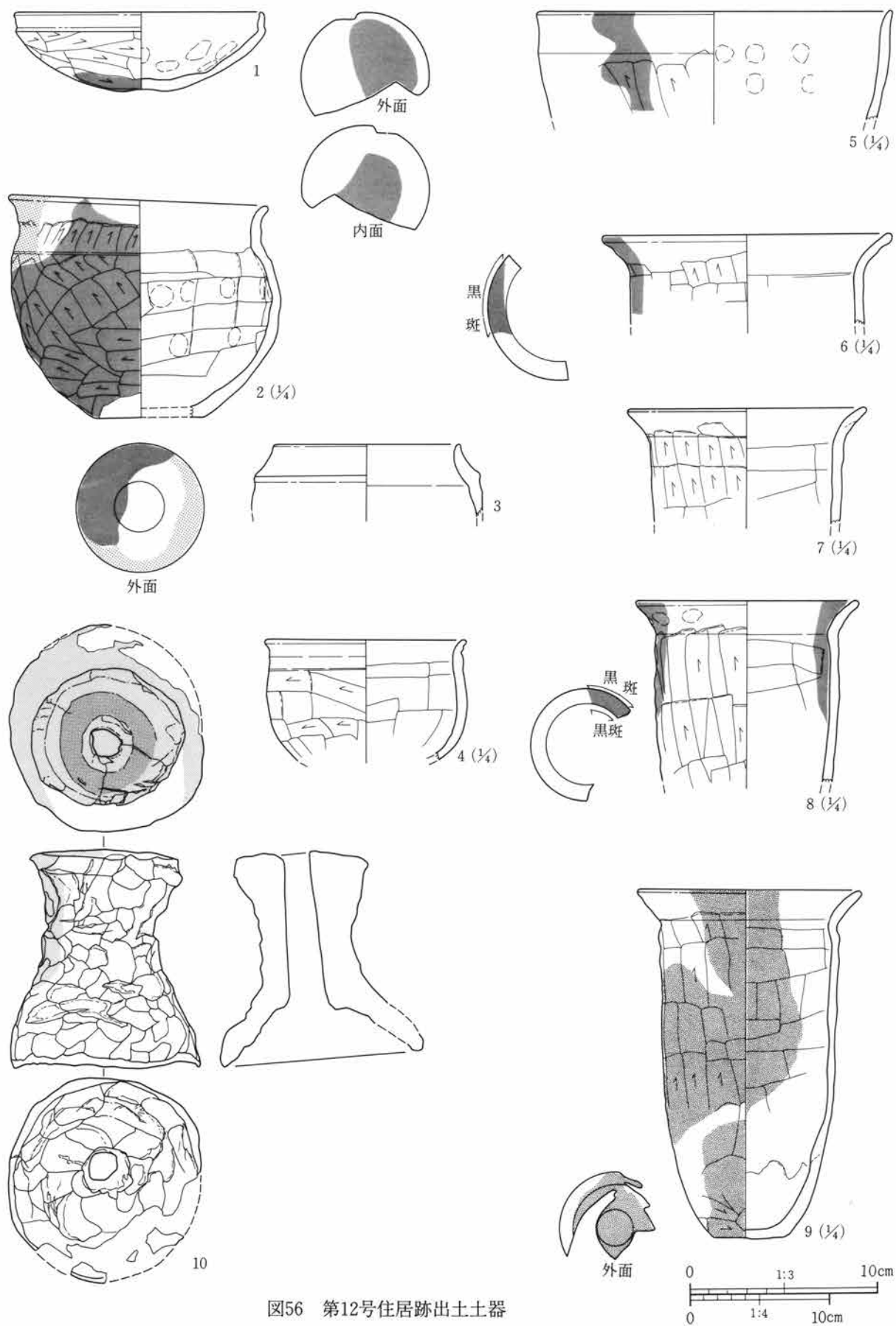


図56 第12号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

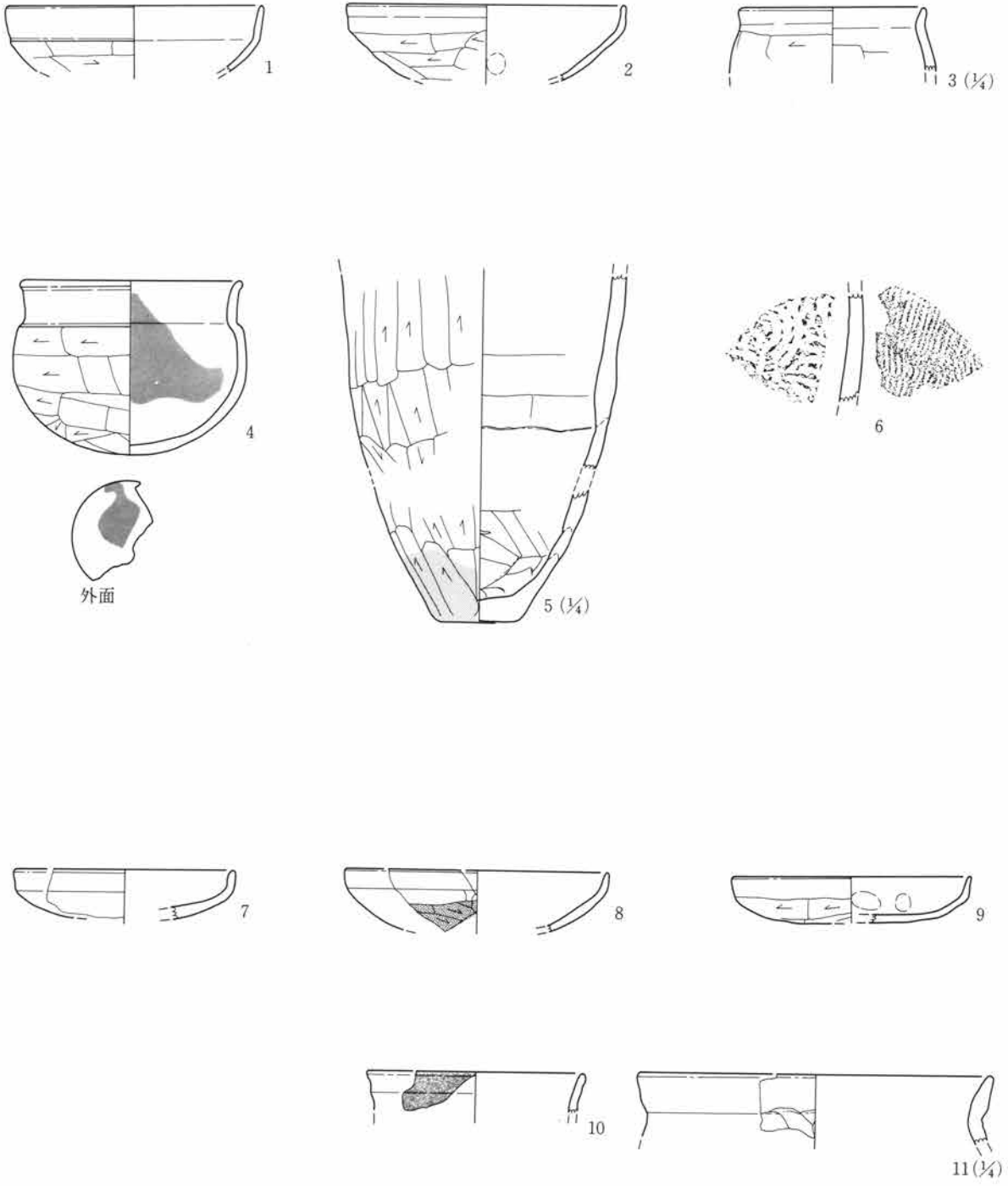


図57 第13号(1~6)、14号(7~11)住居跡出土土器

2. 古墳時代～平安時代

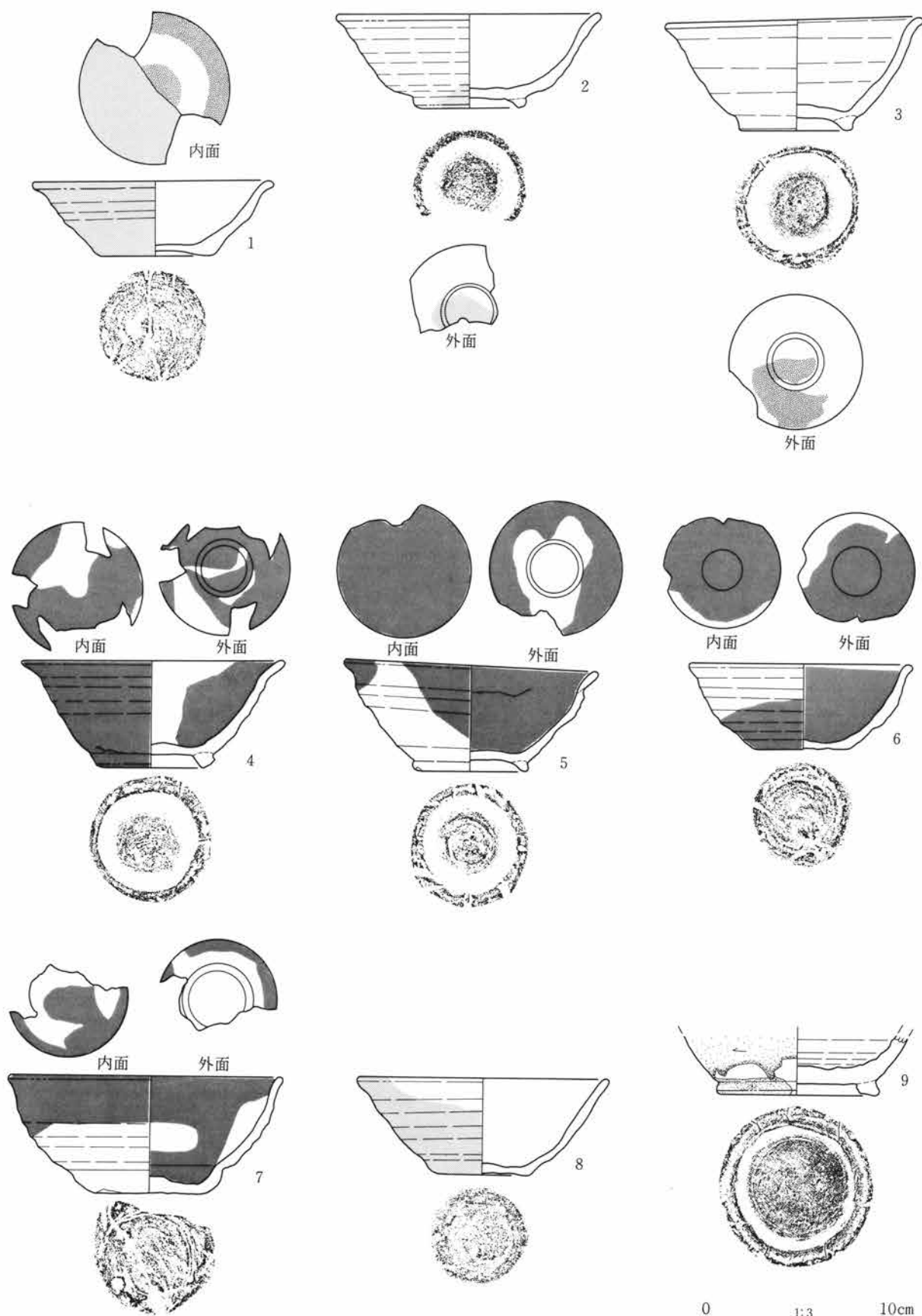


図58 第15号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

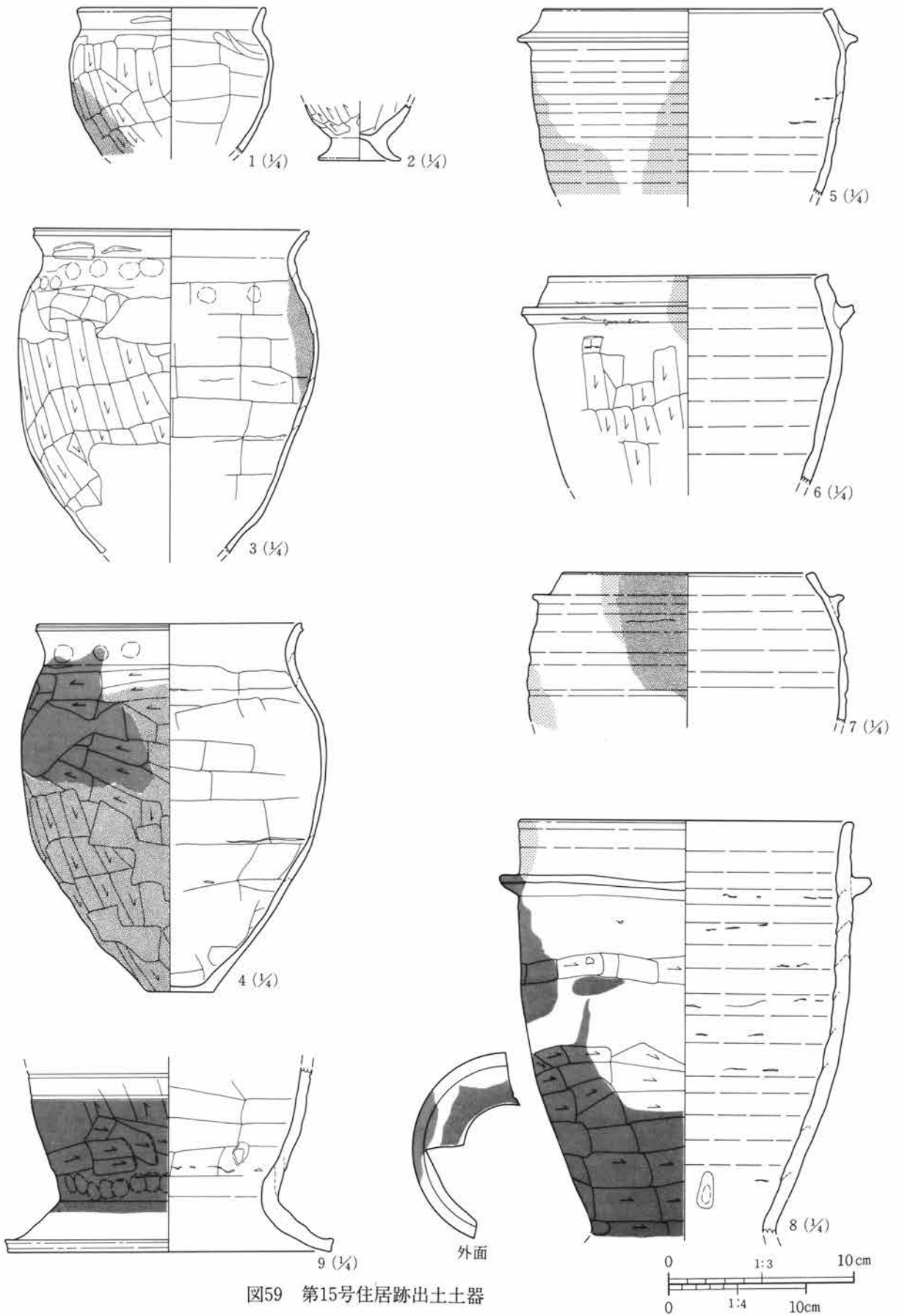


図59 第15号住居跡出土土器

2. 古墳時代～平安時代

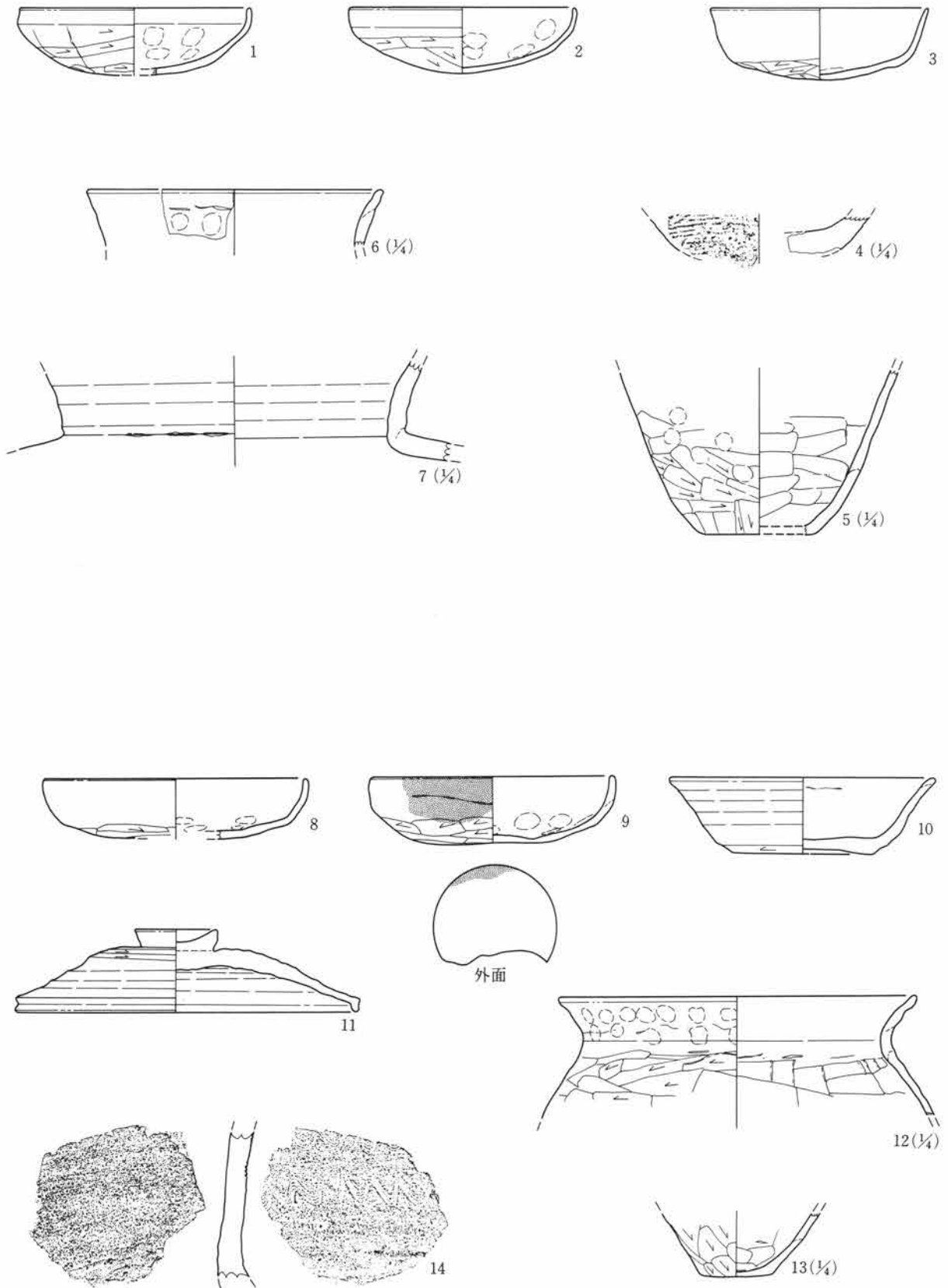
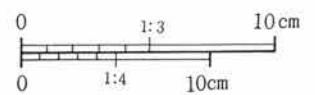


図60 第16号(1~7)、17号(8~14)住居跡出土土器



II 検出された遺構と遺物

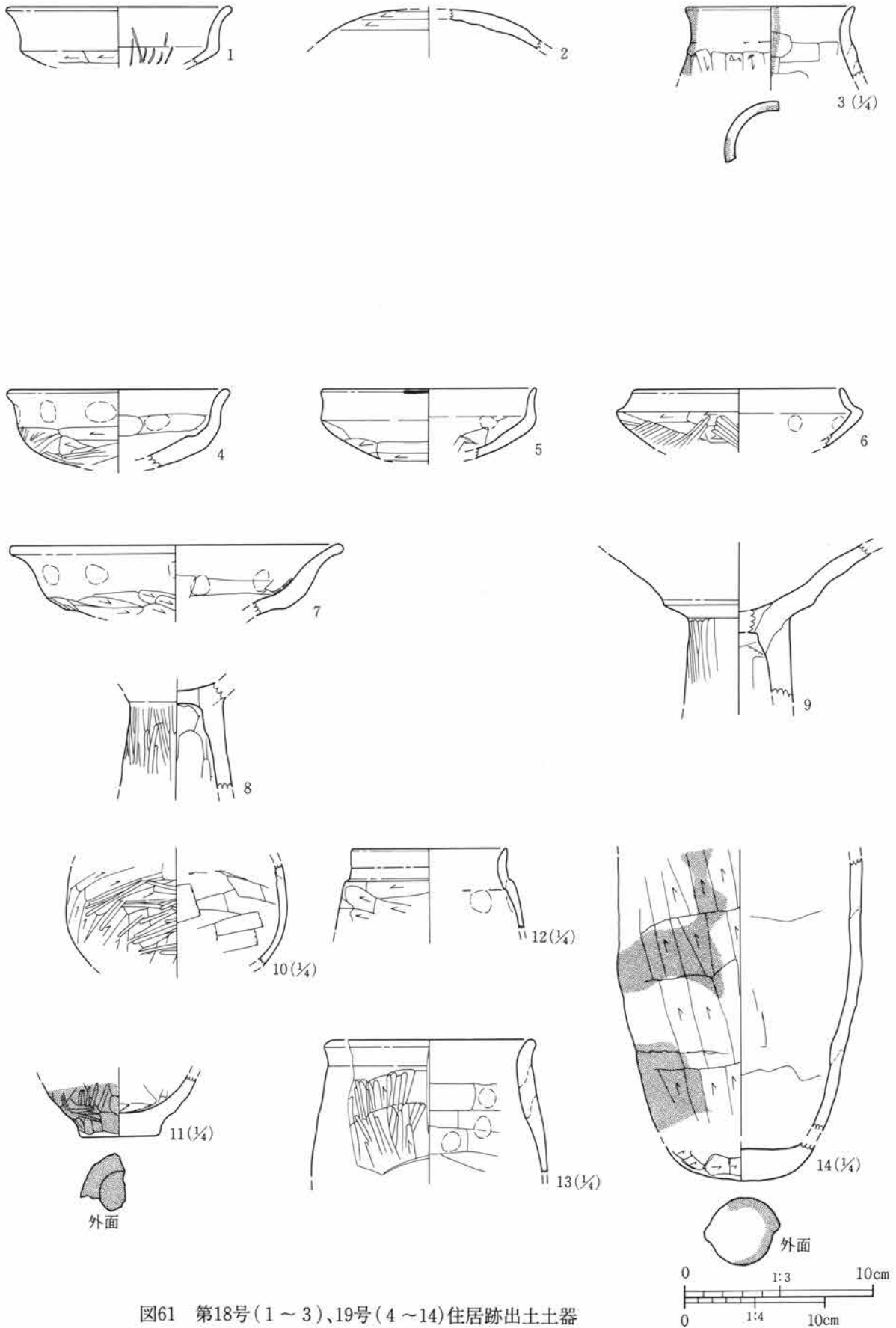


图61 第18号(1~3)、19号(4~14)住居跡出土土器

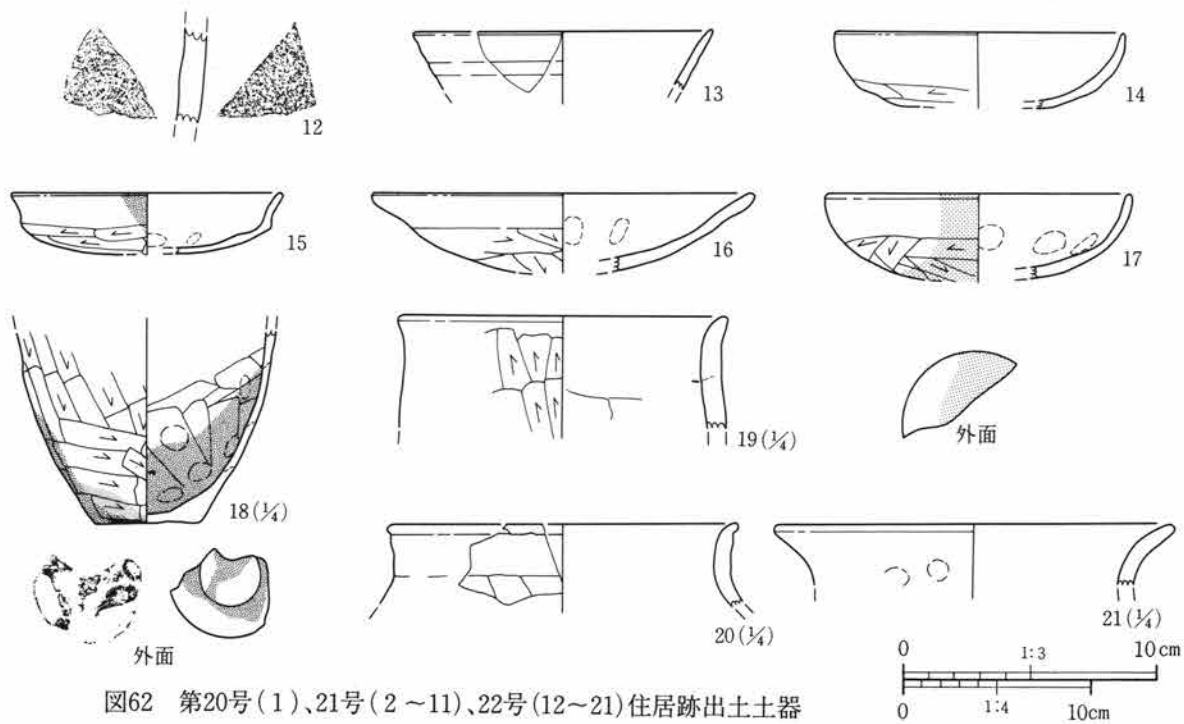
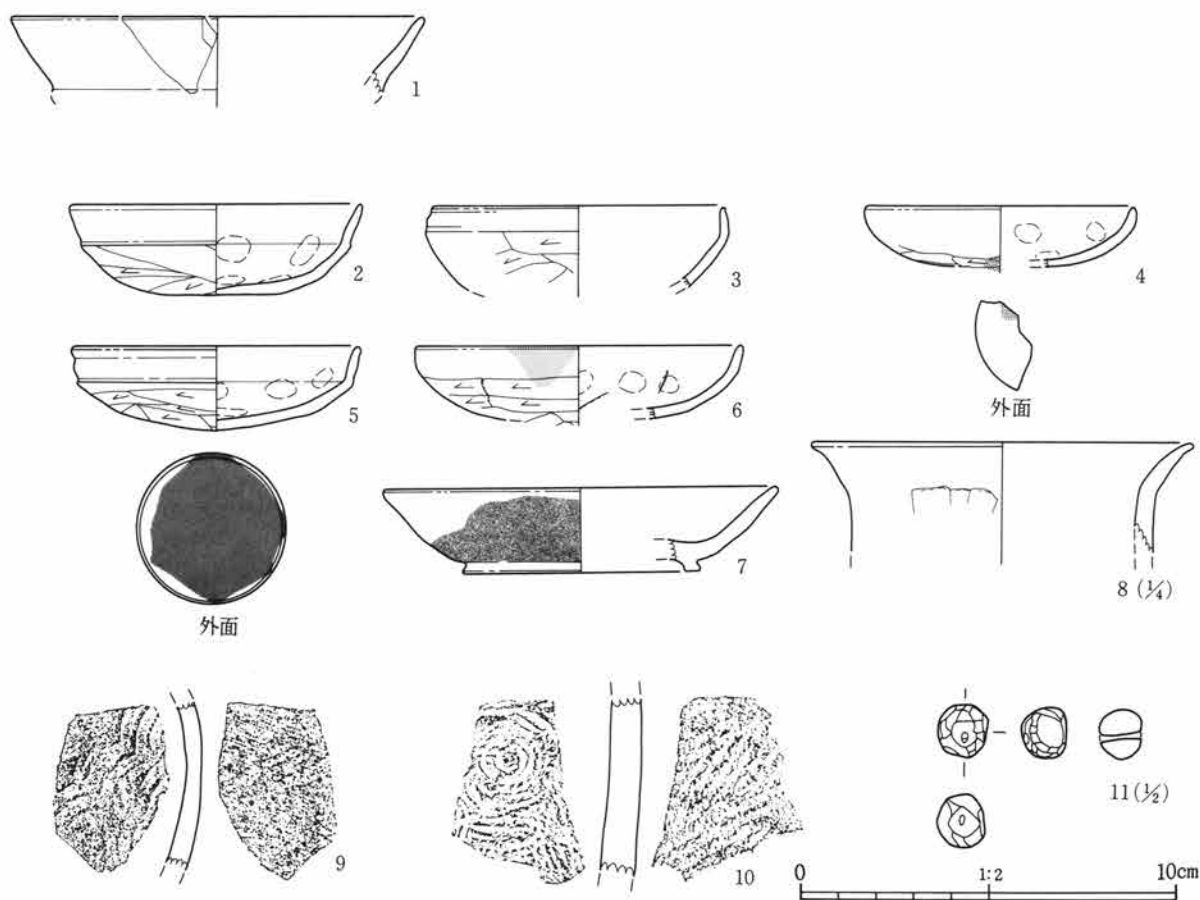


图62 第20号(1)、21号(2~11)、22号(12~21)住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

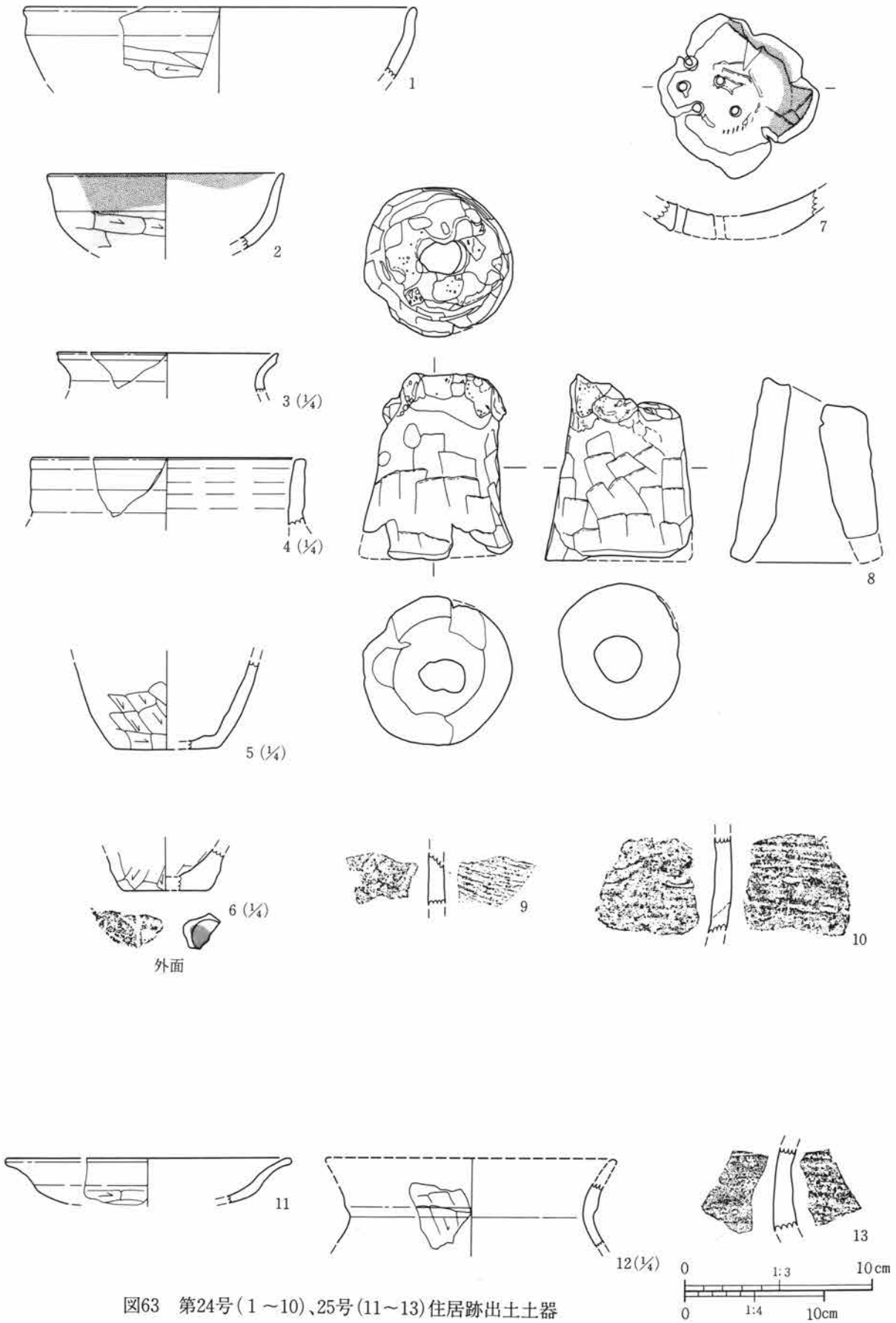


図63 第24号(1~10)、25号(11~13)住居跡出土土器

2. 古墳時代～平安時代

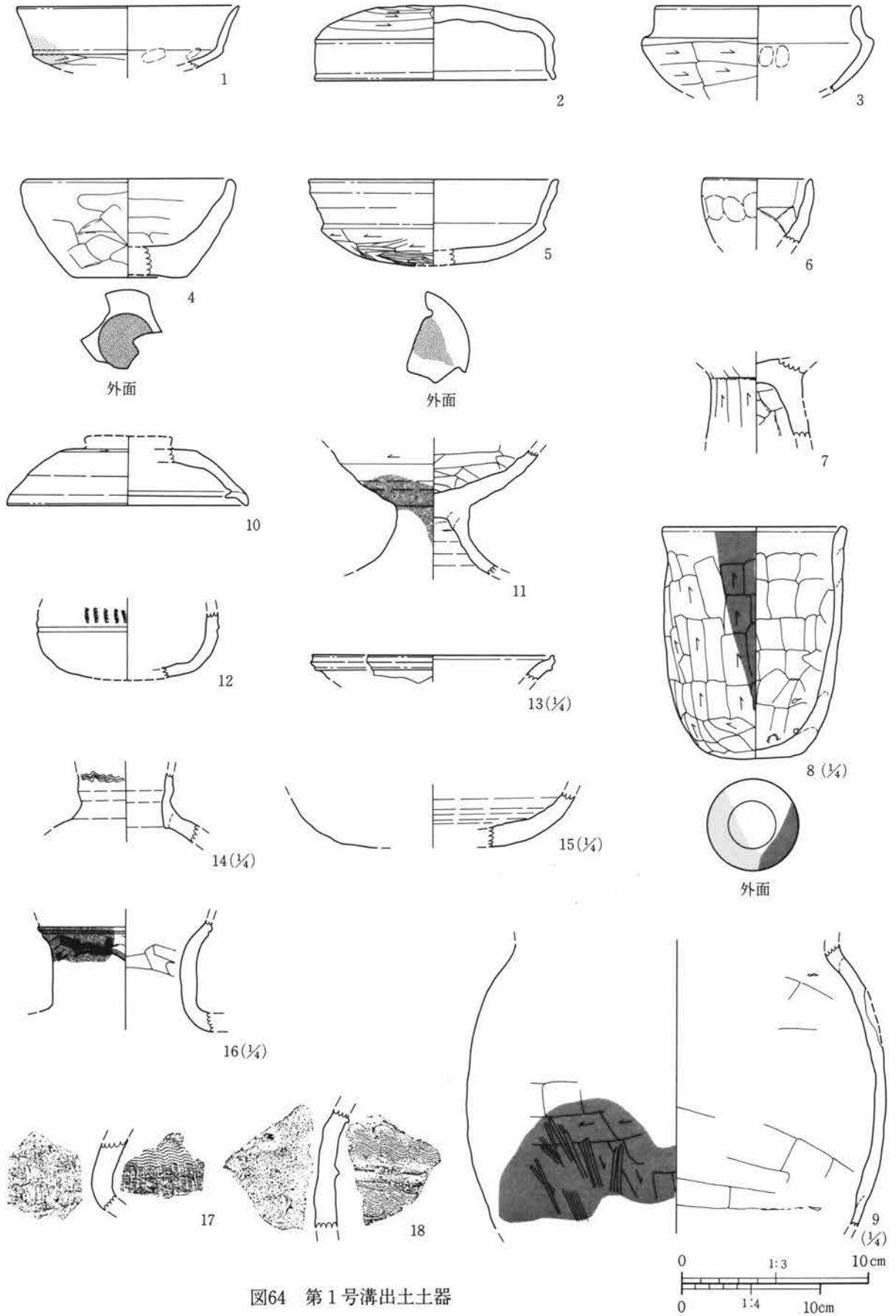


图64 第1号沟出土土器

II 検出された遺構と遺物

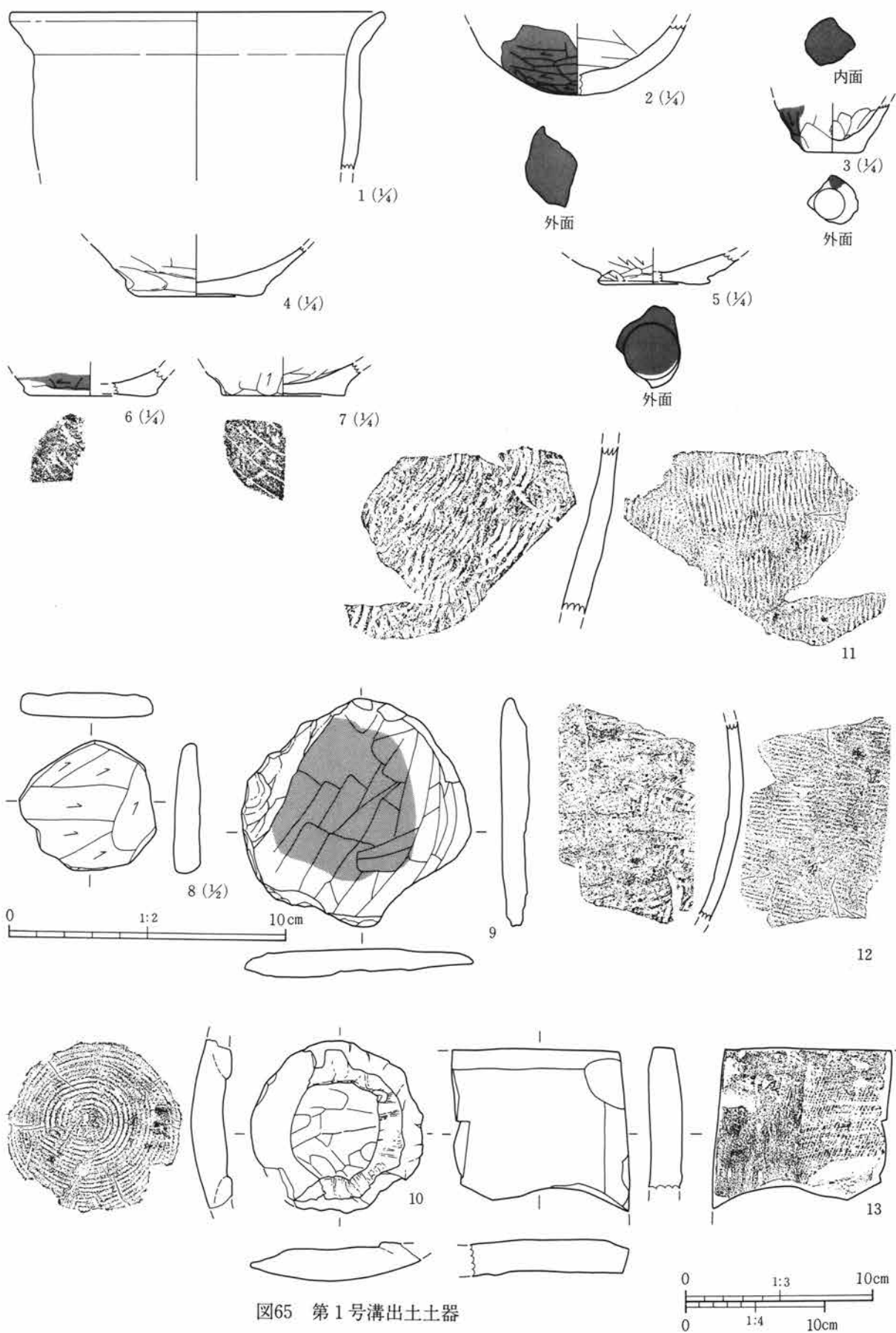


図65 第1号溝出土土器

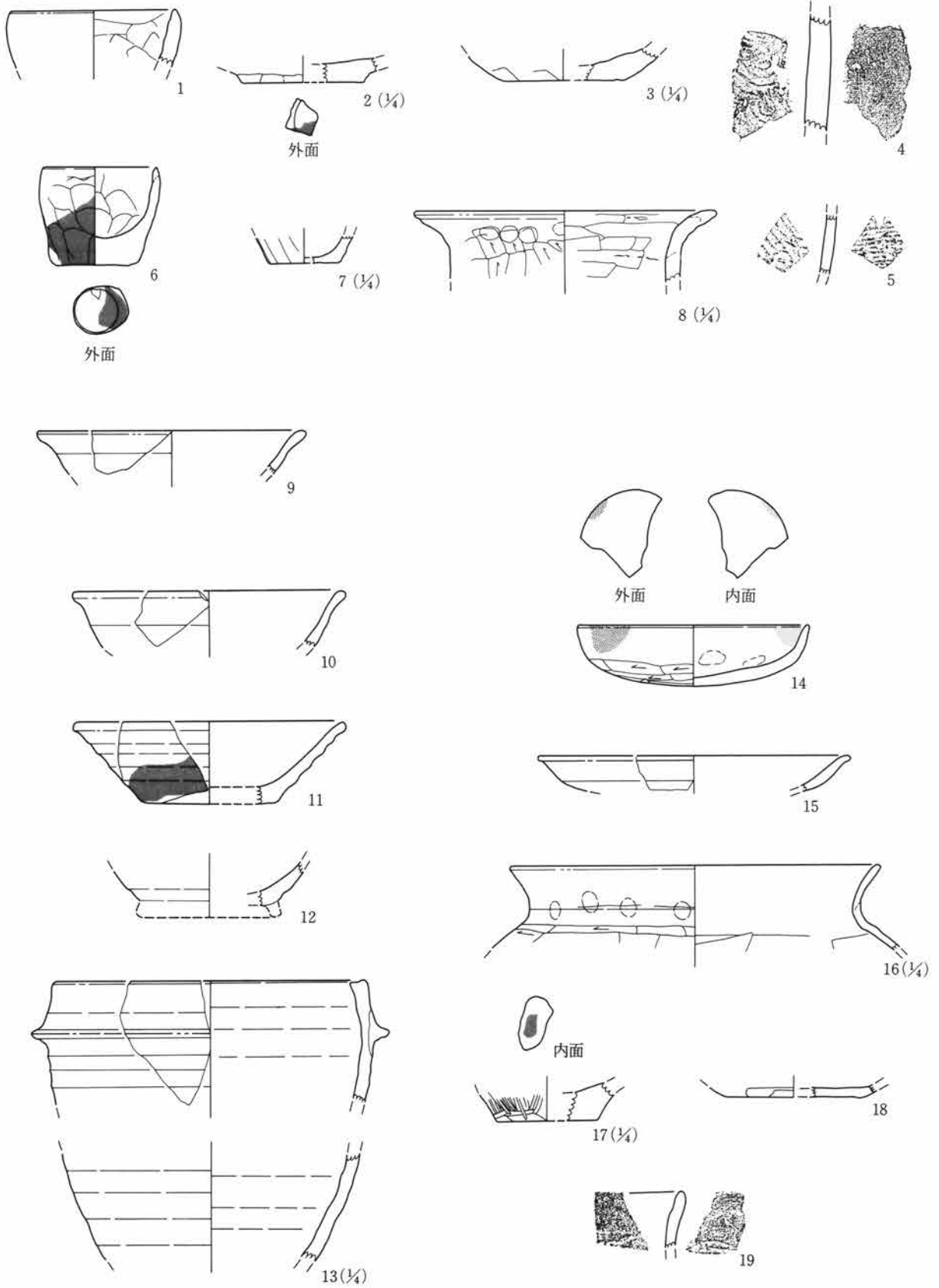


図66 第2号(1~5)、3号(6~8)溝、第1号(9)、2号(10~13)、
3号(14~18)、6号(19)土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物

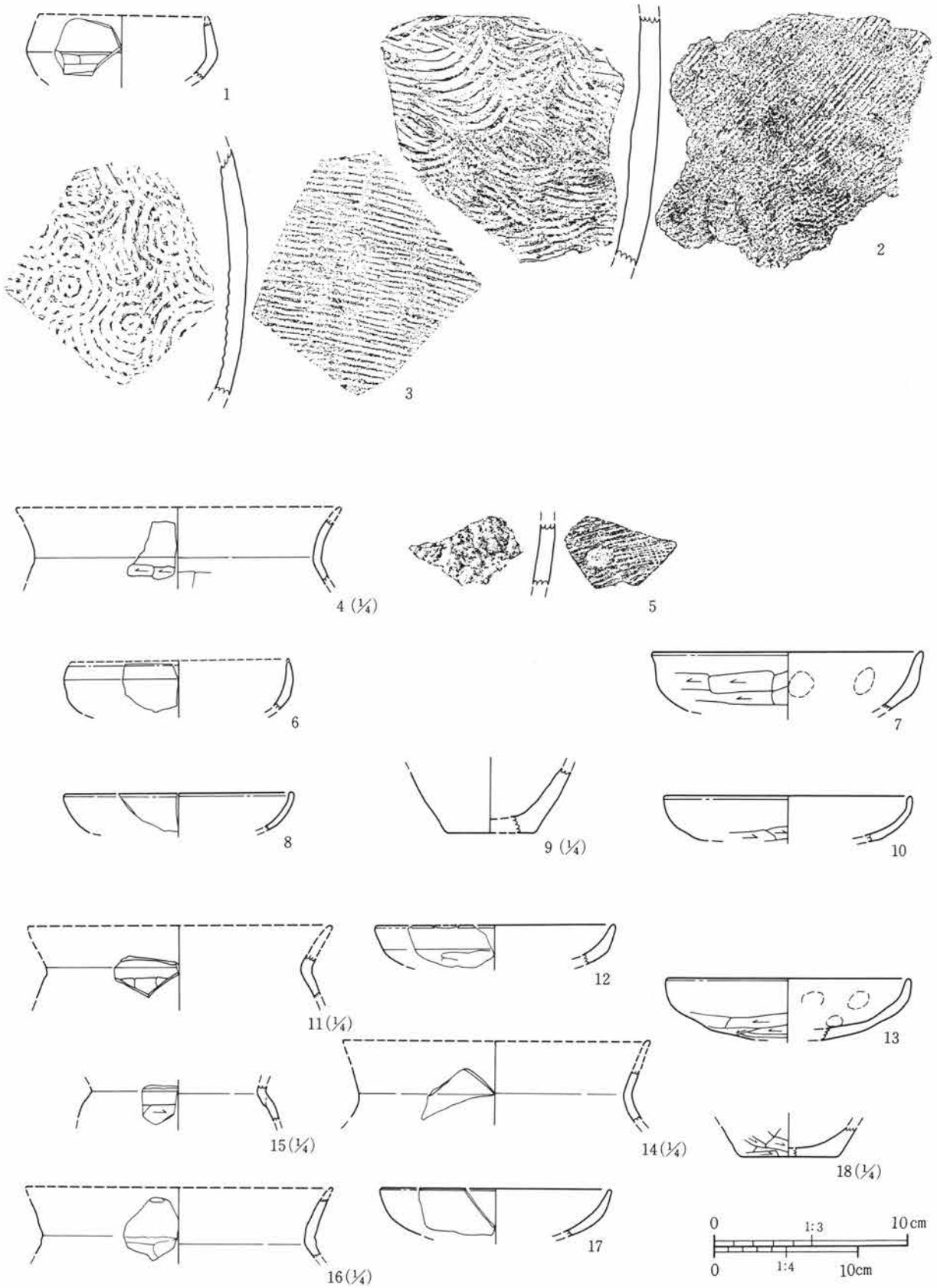


図67 第2号(1~3)、3号(4)、6号(5)、14・15号(6)、20号(7)、24号(8)、25号(9)、26号(10)、28号(11)、29号(12)、33号(13)、36号(14)、38号(15・16)、39号(17・18)ピット出土土器

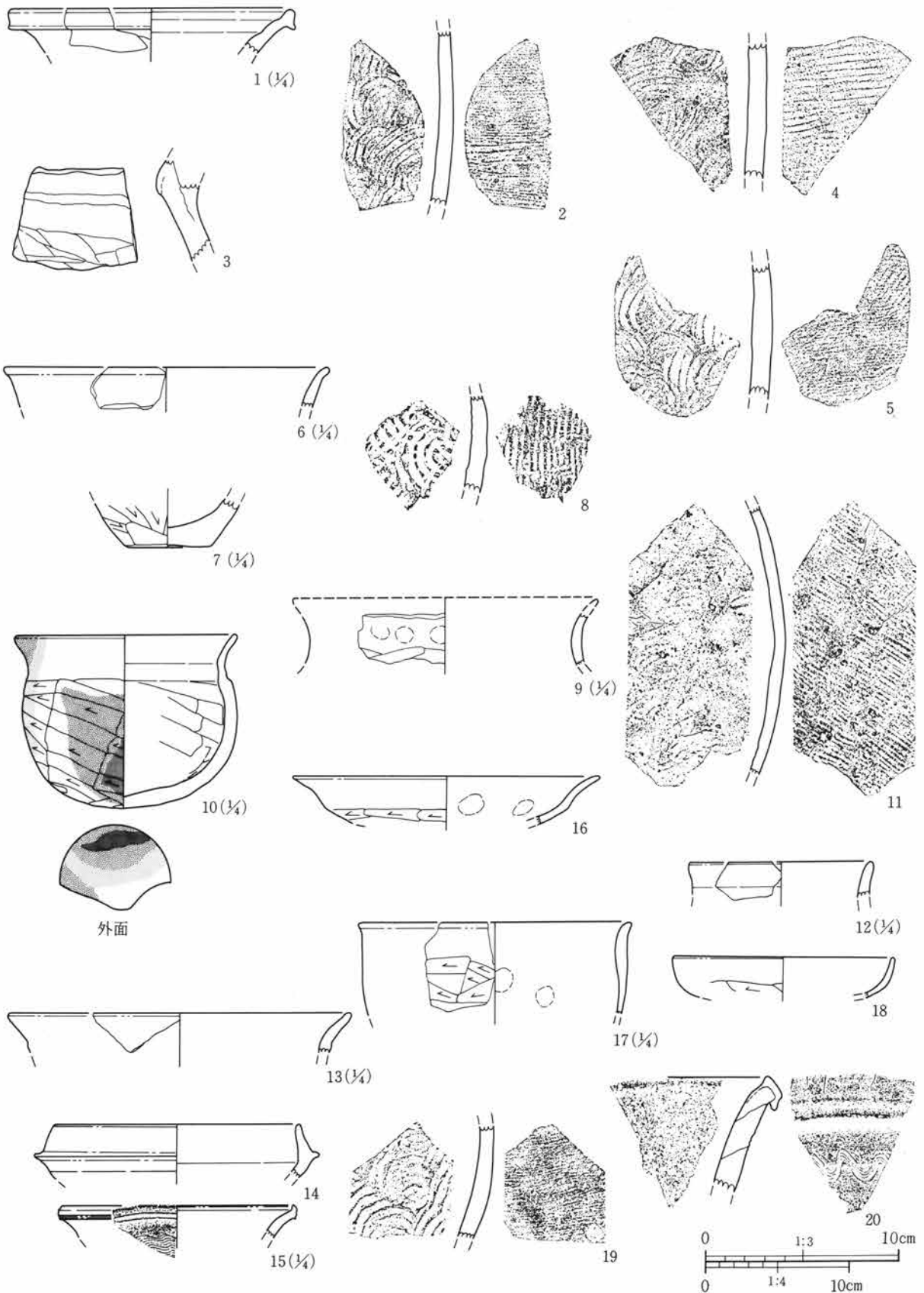


図68 第41号(1・2)、44号(3)、46号(4・5)、48号(6・7)ピット、第1号掘立柱建物跡柱穴8(8・9)、69号(10)、70号(11・12)、80号(13~15)、106号(16)、120号(17)、126号(18)、129号(19)、130号(20)ピット出土土器

II 検出された遺構と遺物

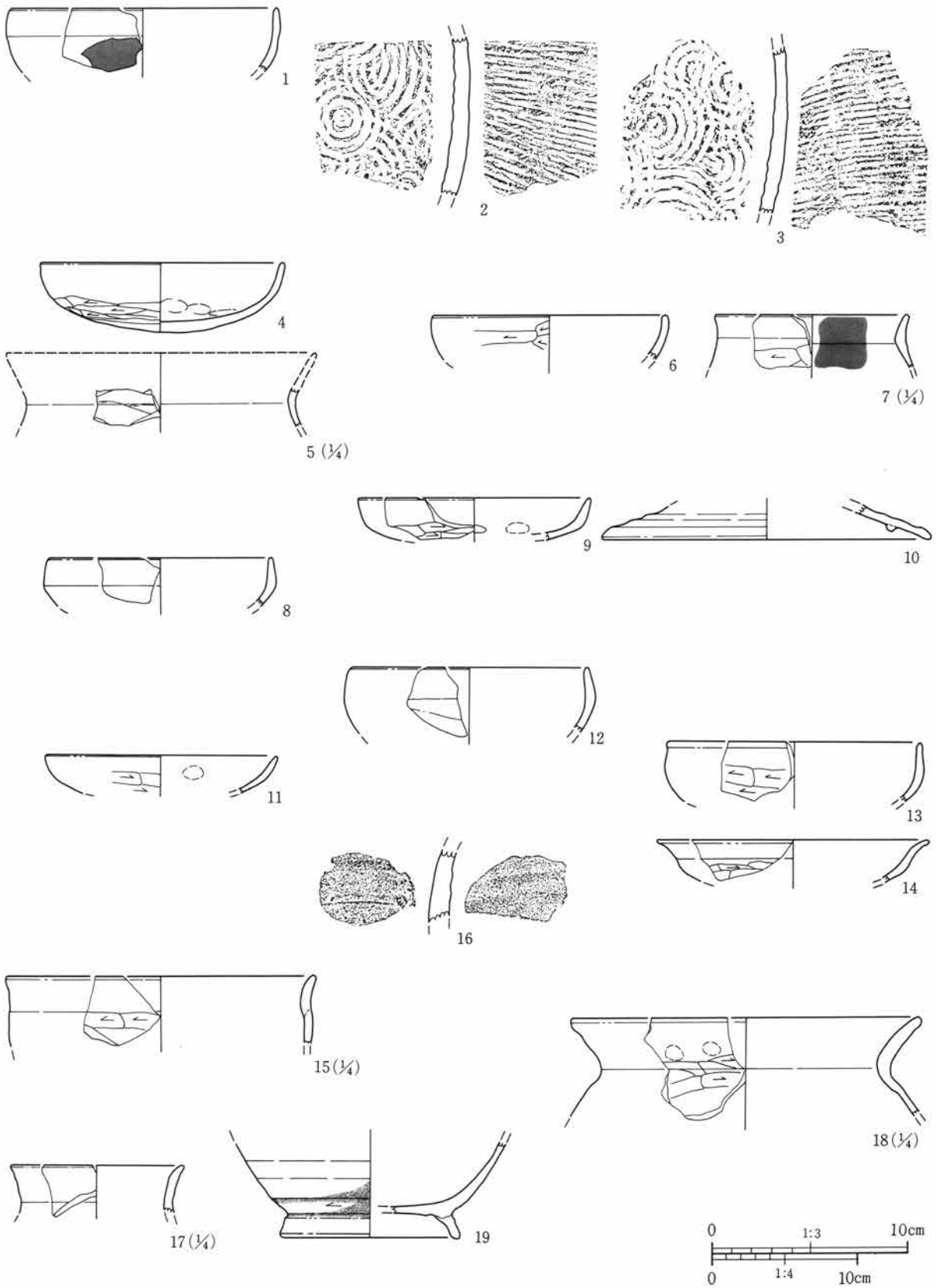


図69 第144号(1)、168号(2)、169号(3)、182号(4・5)、184号(6・7)、189号(8)、200号(9・10)、203号(11)、204号(12)、207号(13・14)、232号(15)、344号(16)、346号(17)、352号(18)、385号(19)ピット出土土器

2. 古墳時代～平安時代

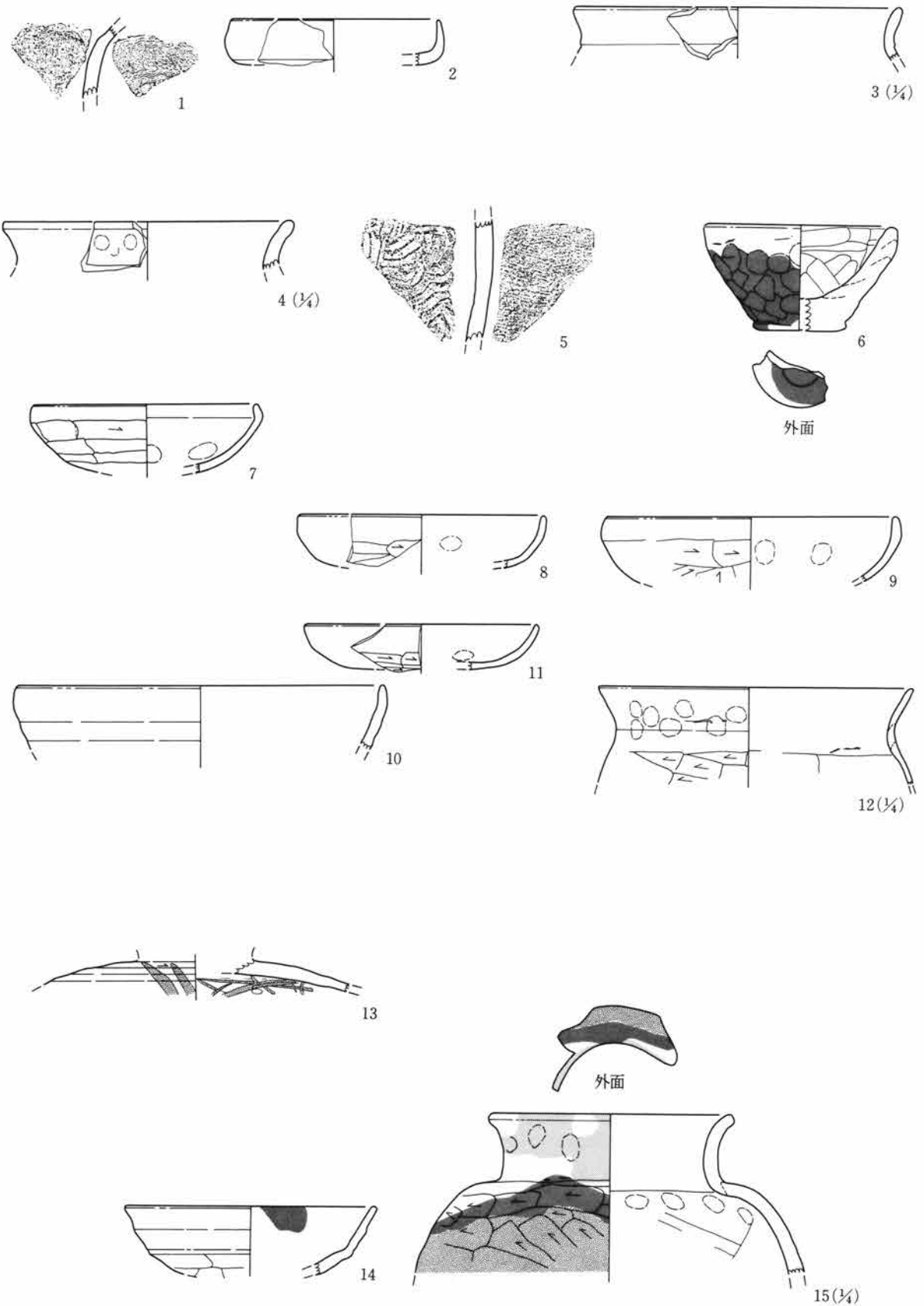


図70 第420号(1・2)、443号(3)、444号(4)、488号(5)、495号(6)、535号(7)、564号(8～12)、566号(13)、600号(14・15)ピット出土土器

0 1:3 10cm
0 1:4 10cm

II 検出された遺構と遺物

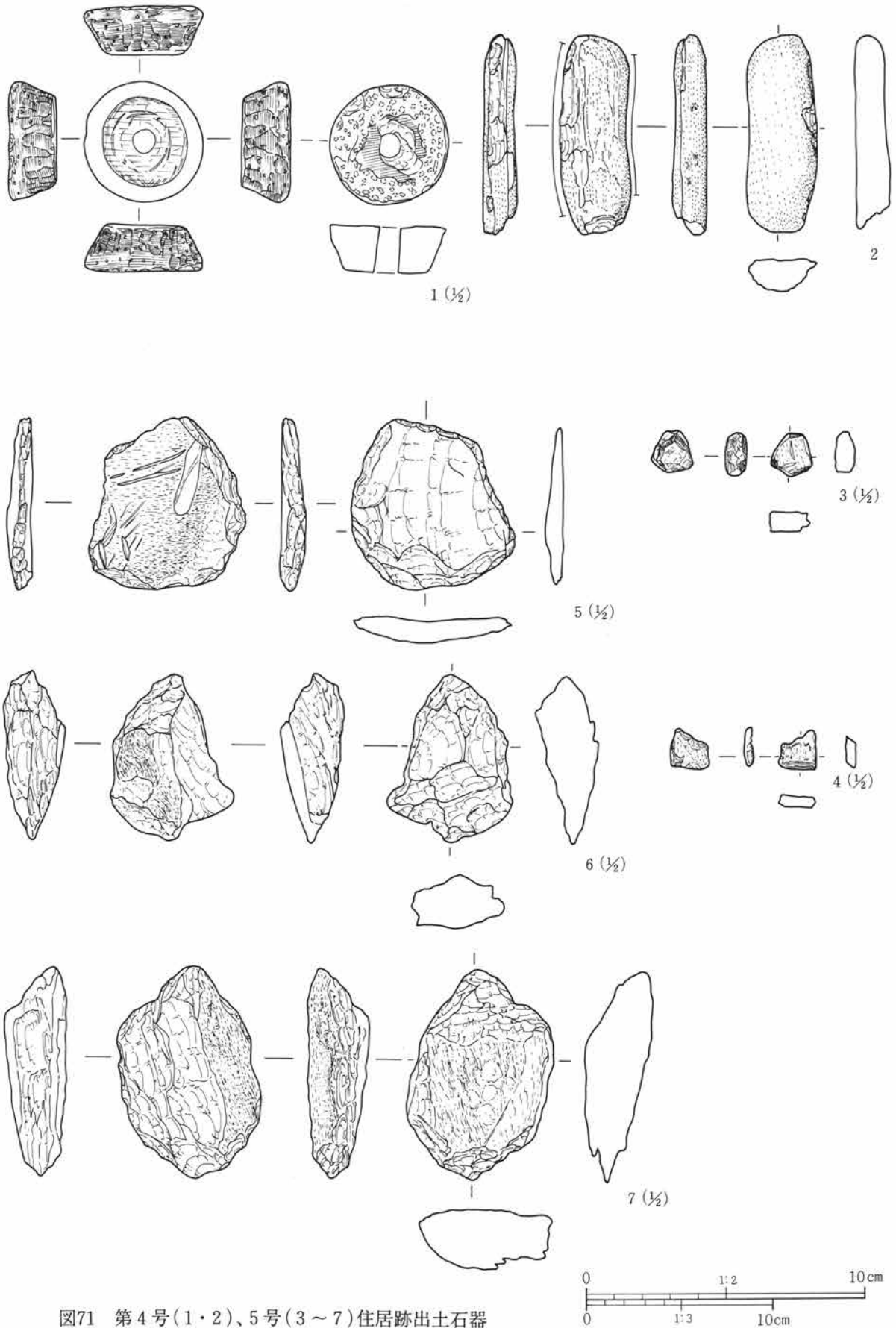


図71 第4号(1・2)、5号(3～7)住居跡出土石器

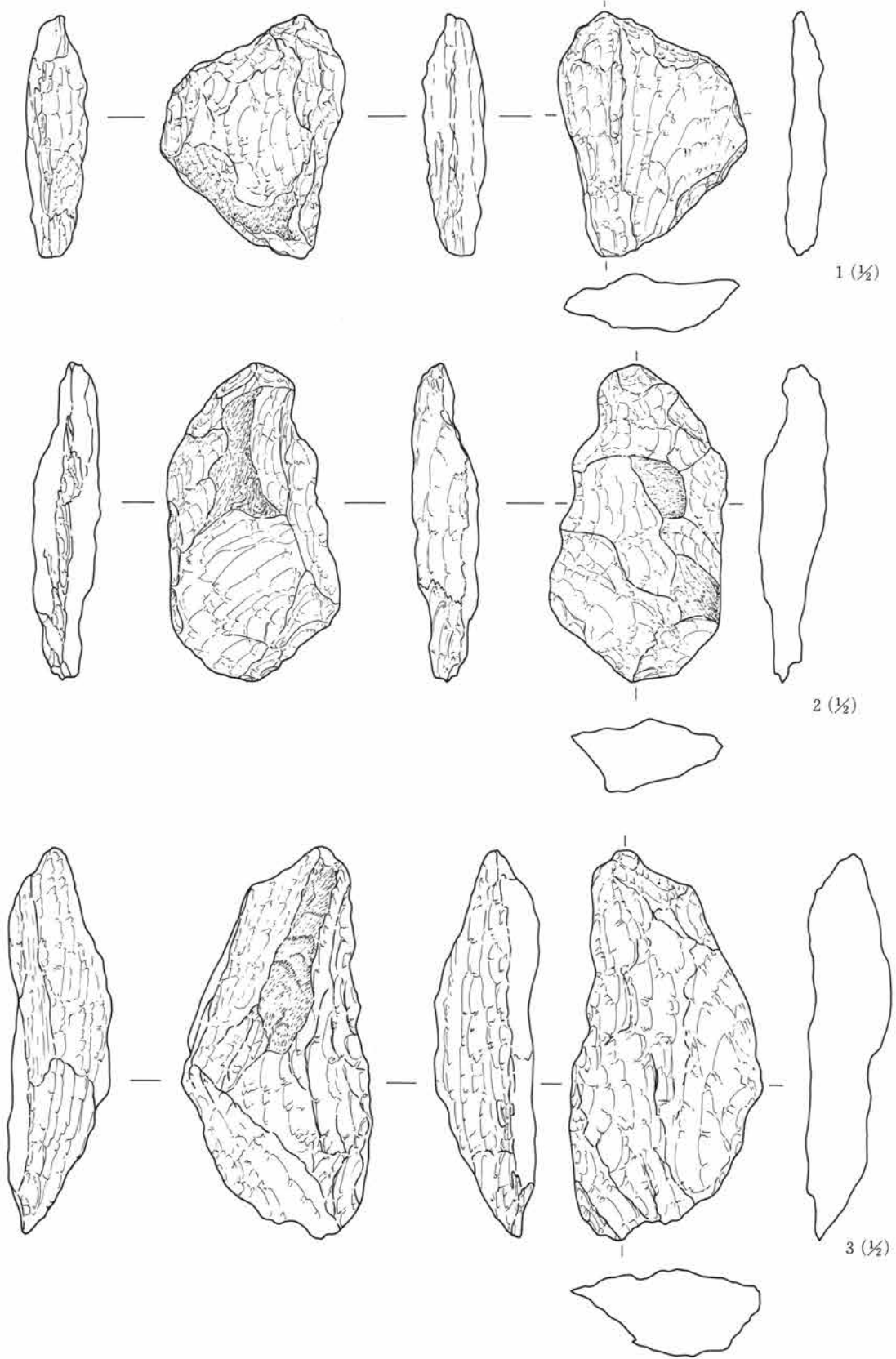
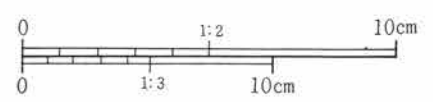


图72 第5号住居跡出土石器



II 検出された遺構と遺物

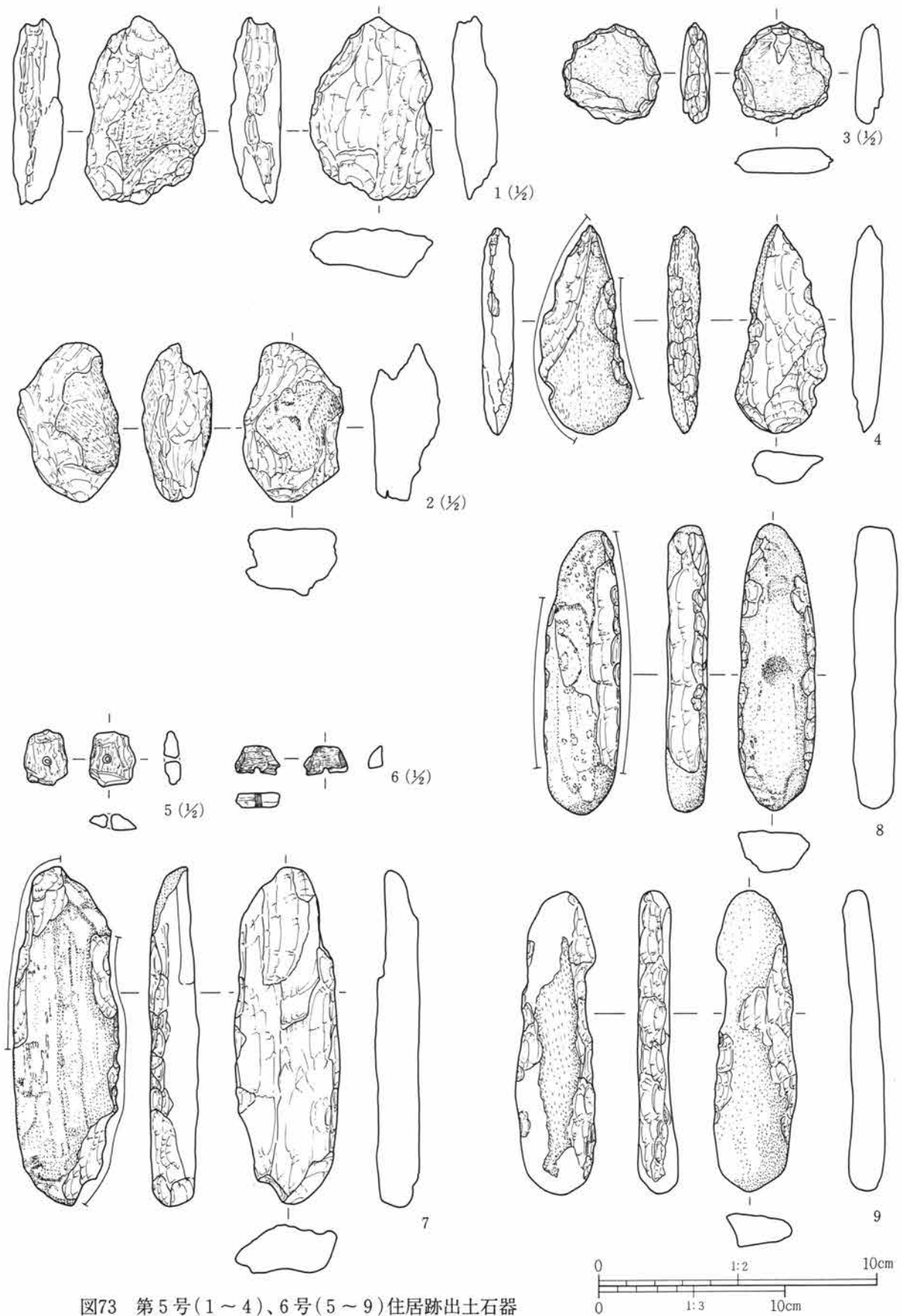


图73 第5号(1~4)、6号(5~9)住居跡出土石器

2. 古墳時代～平安時代

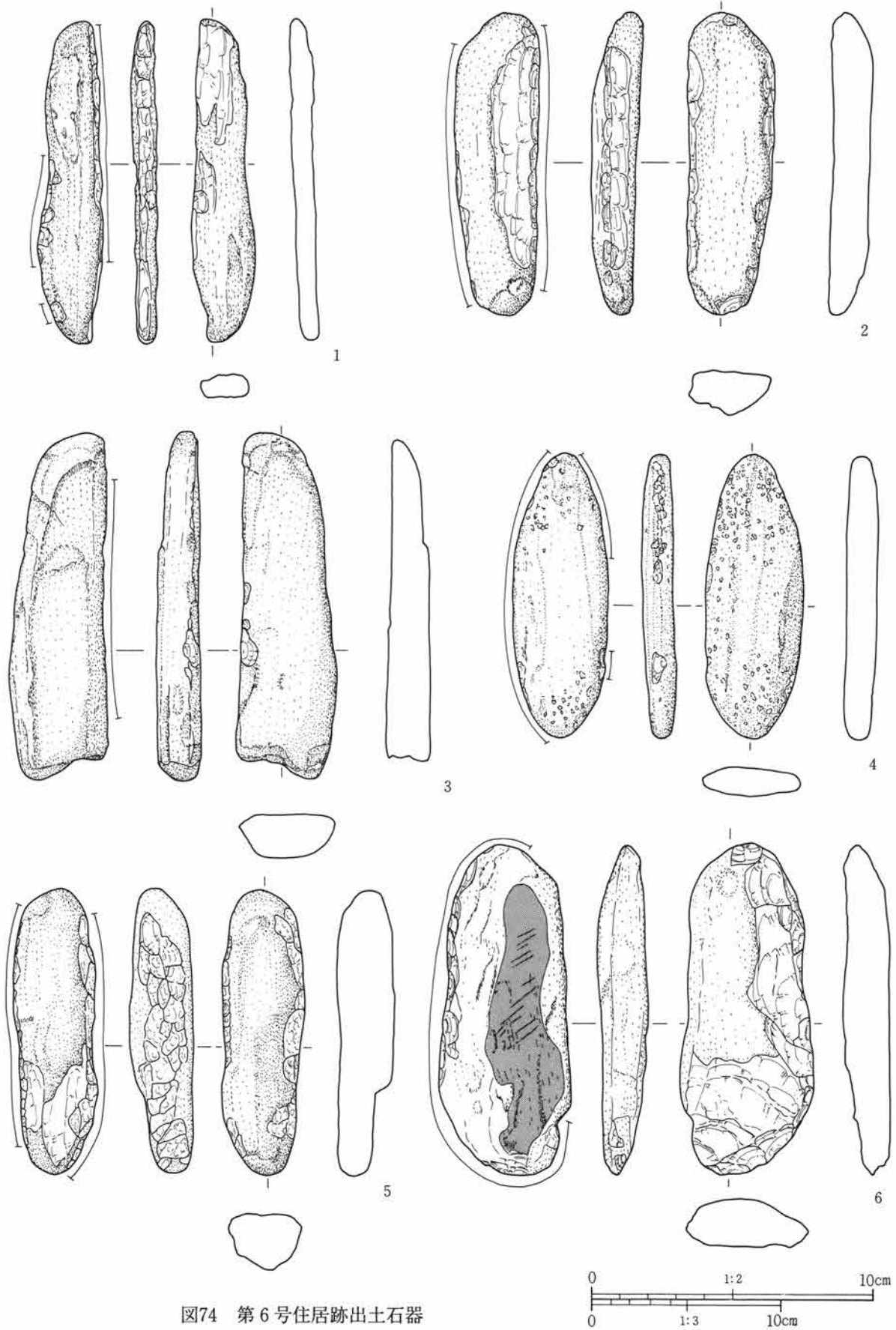


图74 第6号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

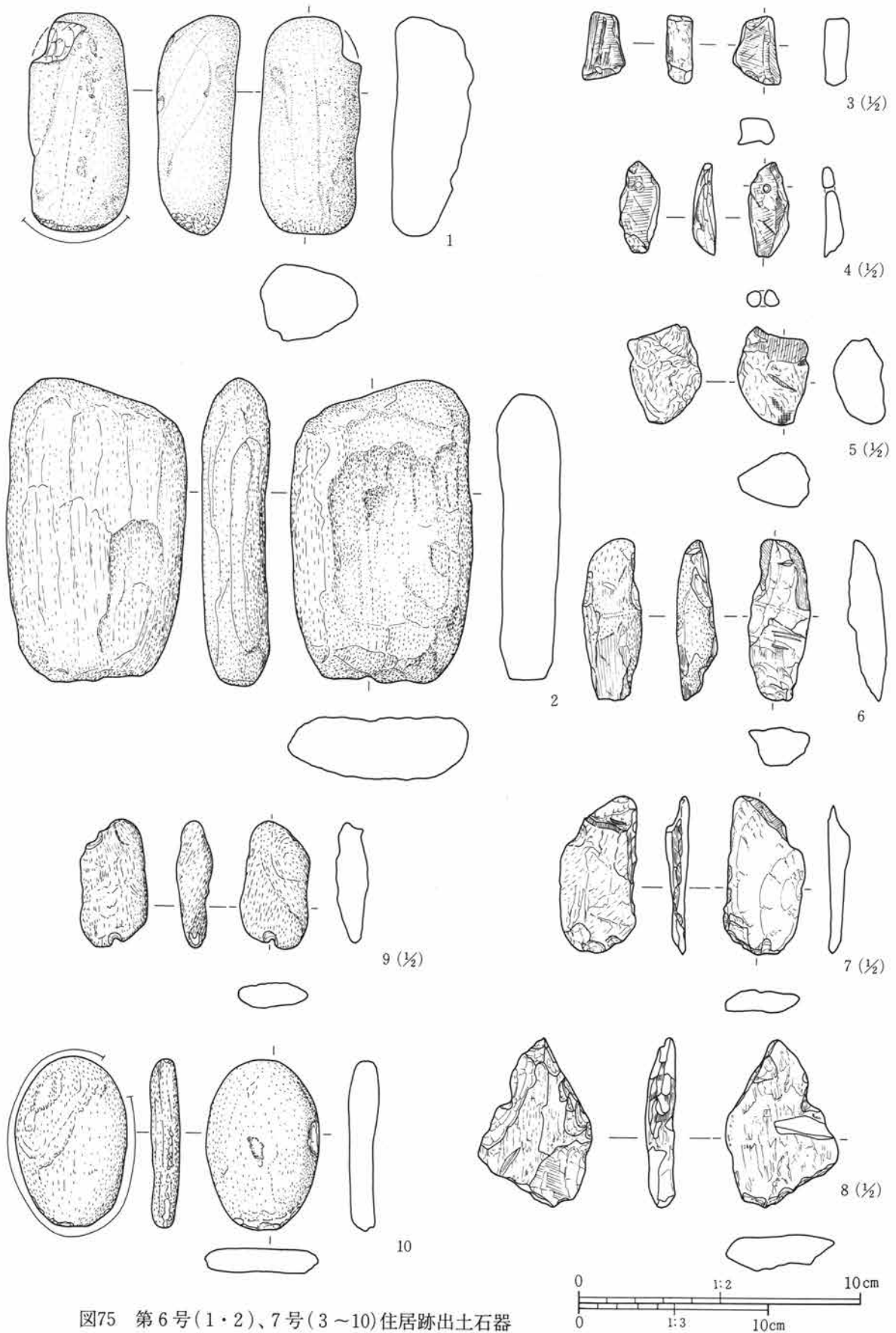


図75 第6号(1・2)、7号(3~10)住居跡出土石器

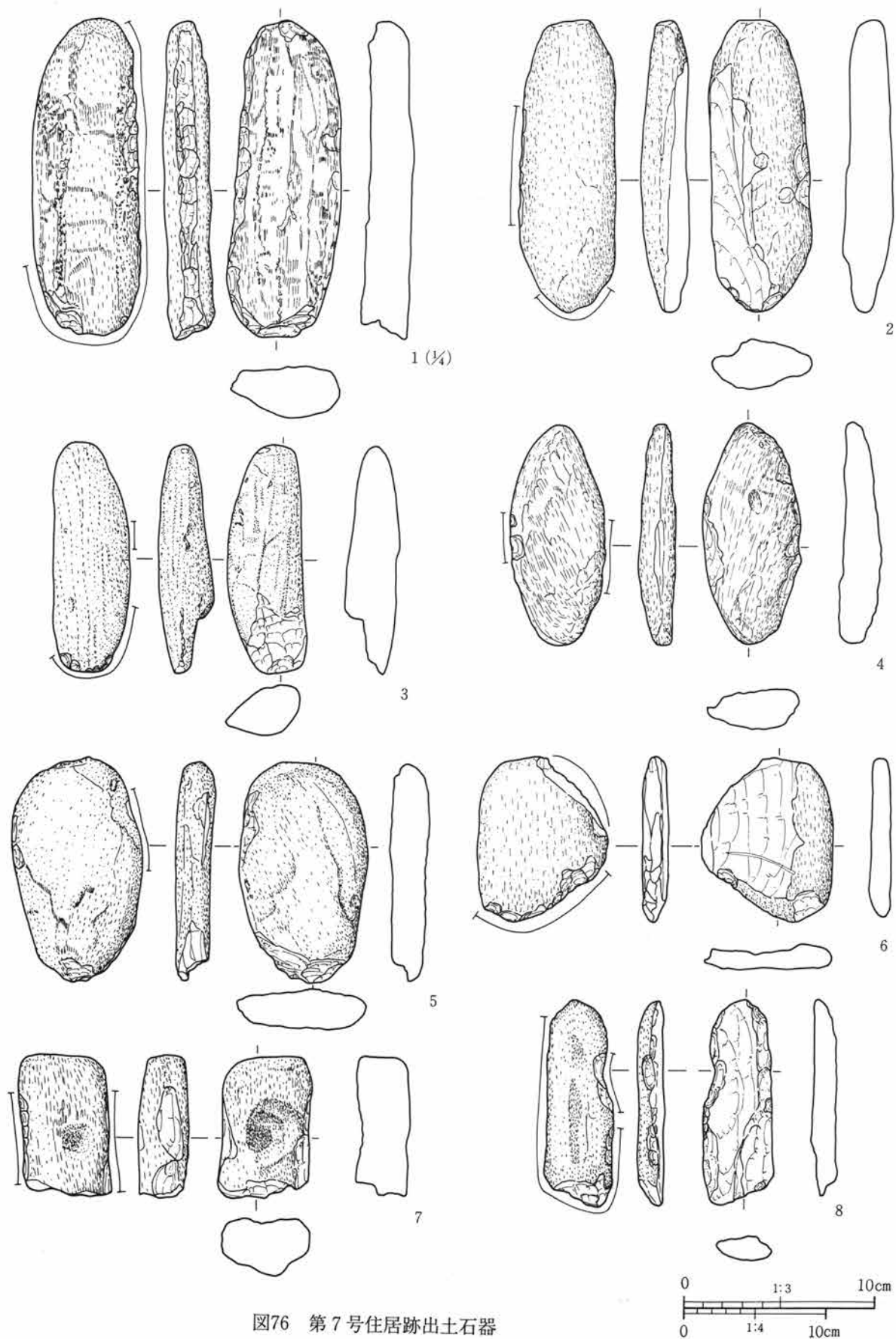


图76 第7号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

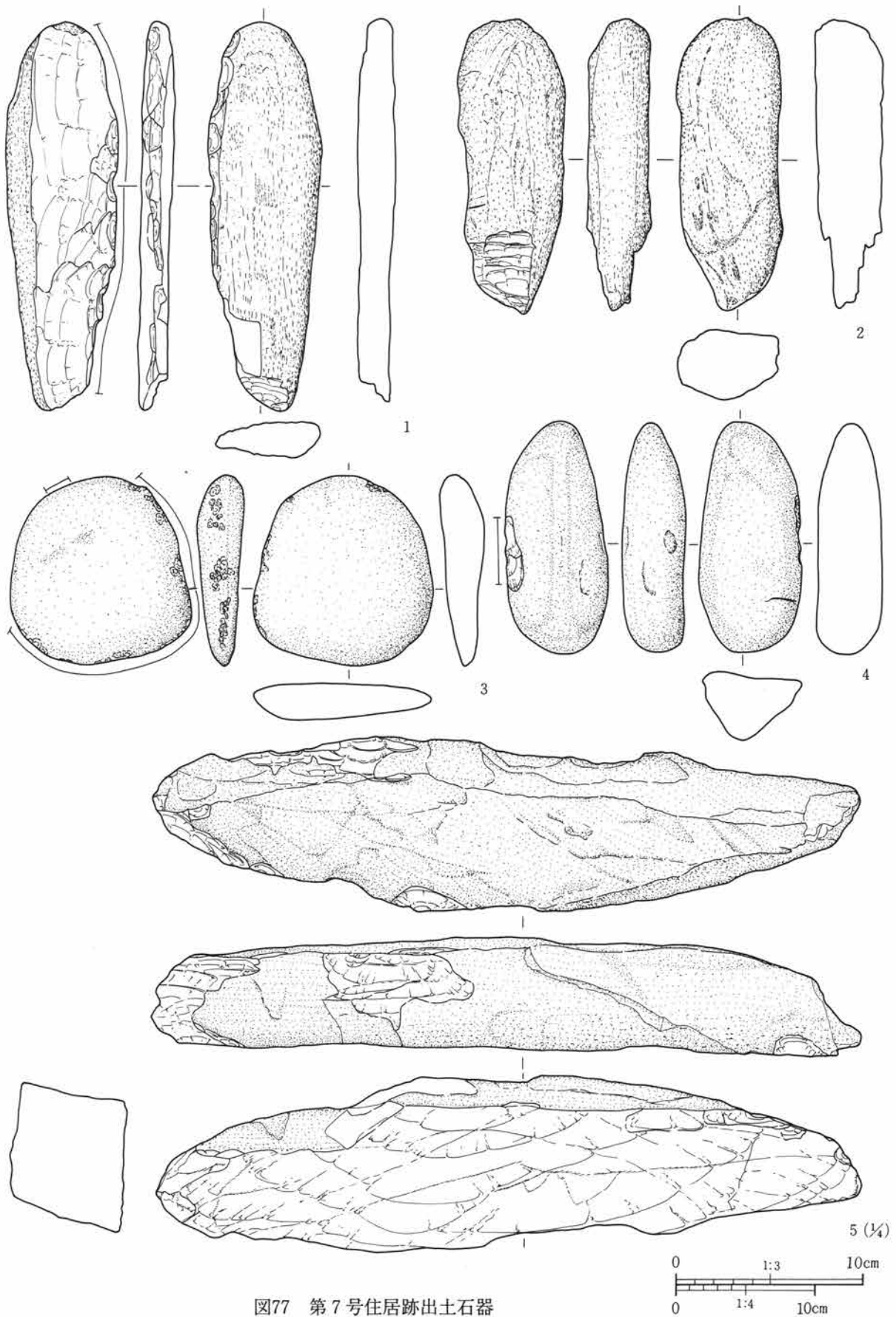


図77 第7号住居跡出土石器

2. 古墳時代～平安時代



图78 第8号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

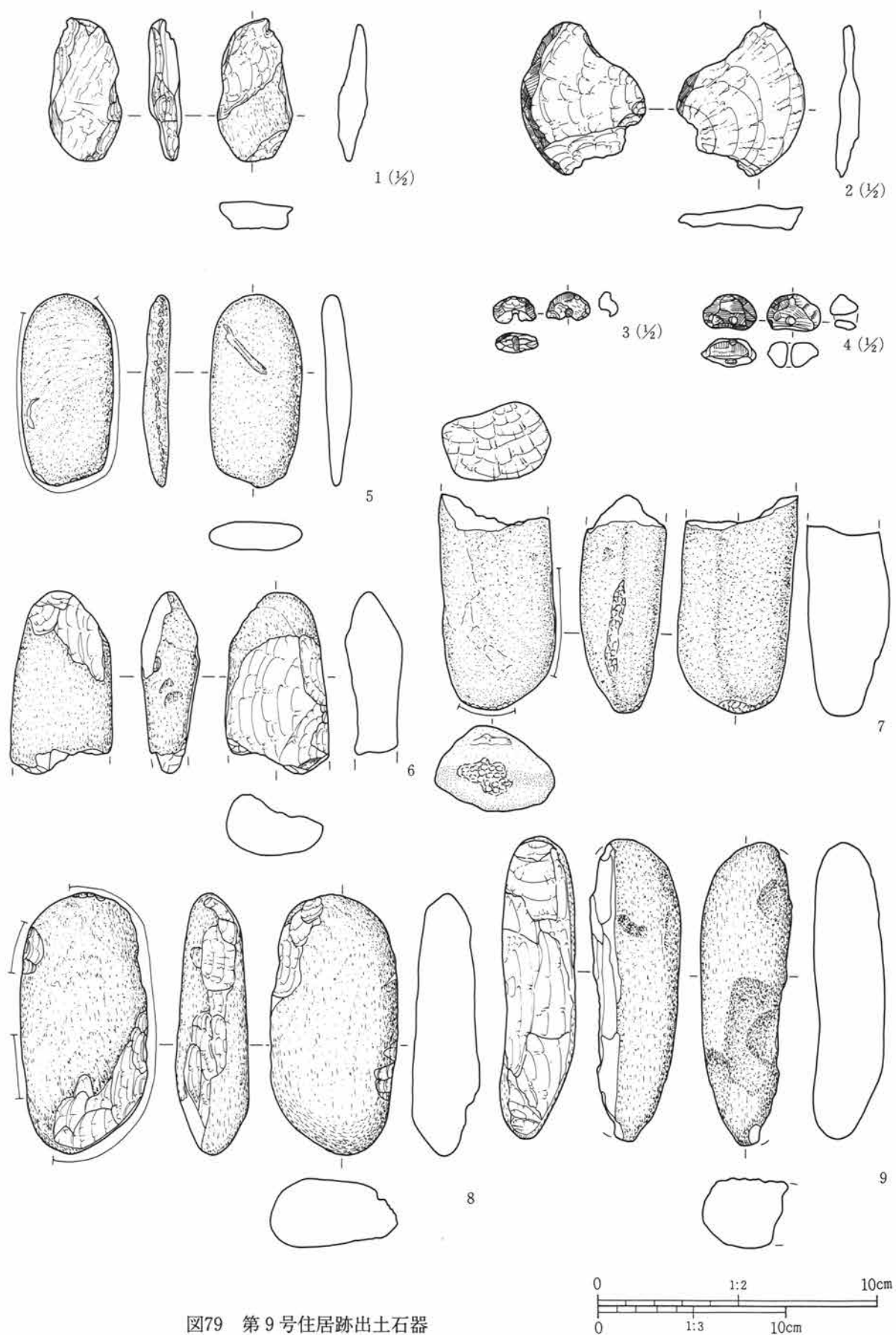


図79 第9号住居跡出土石器

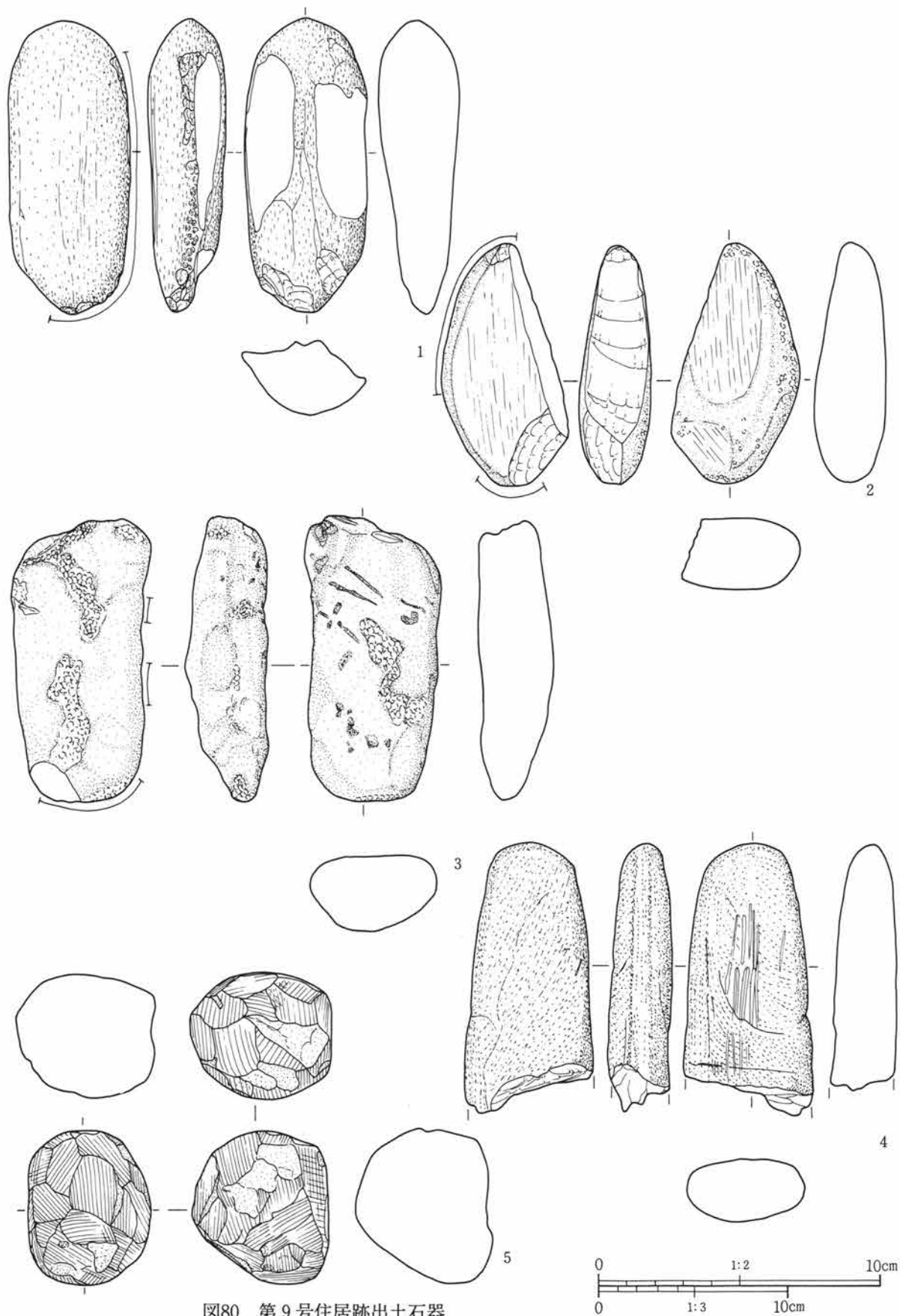


図80 第9号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

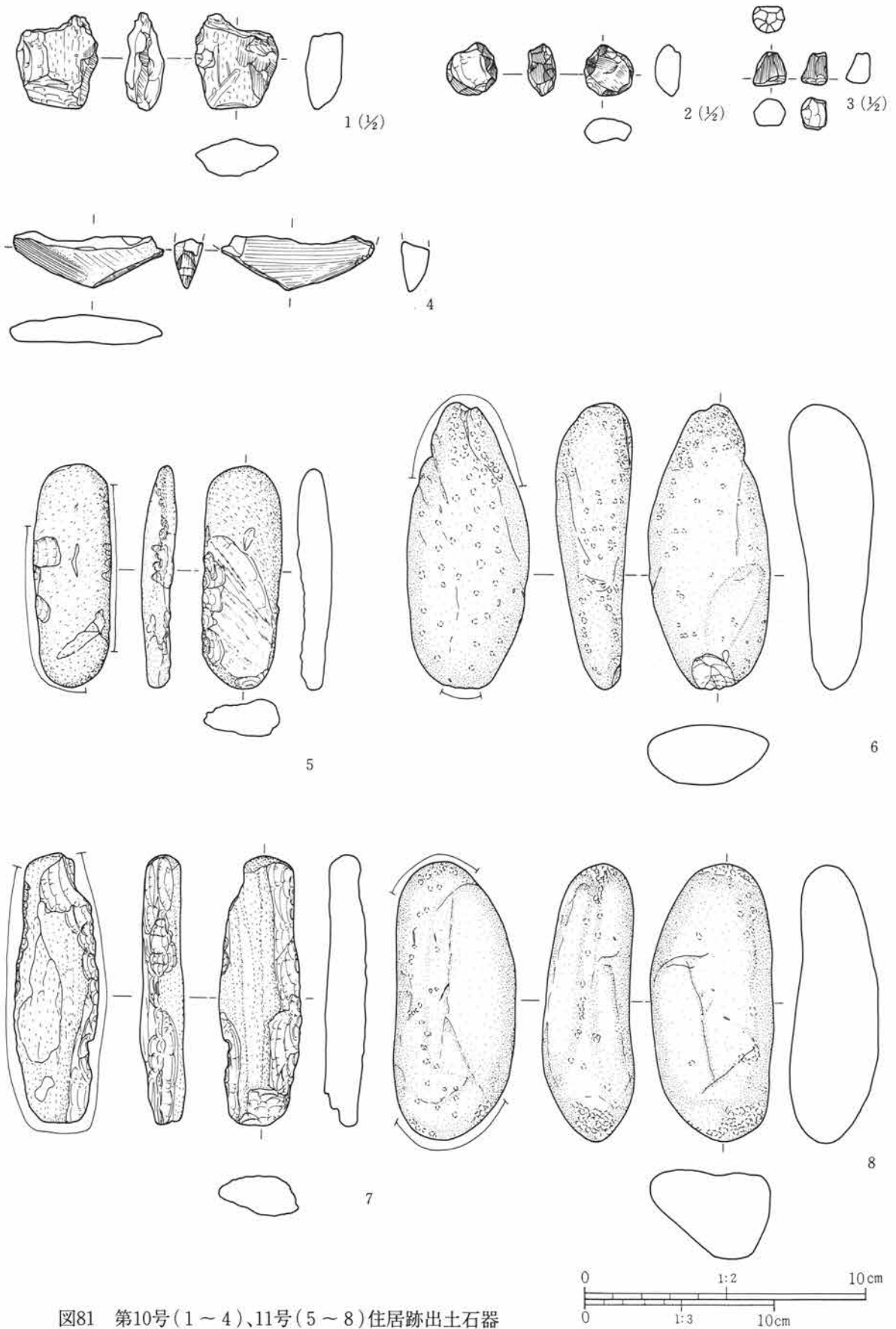


図81 第10号(1~4)、11号(5~8)住居跡出土石器

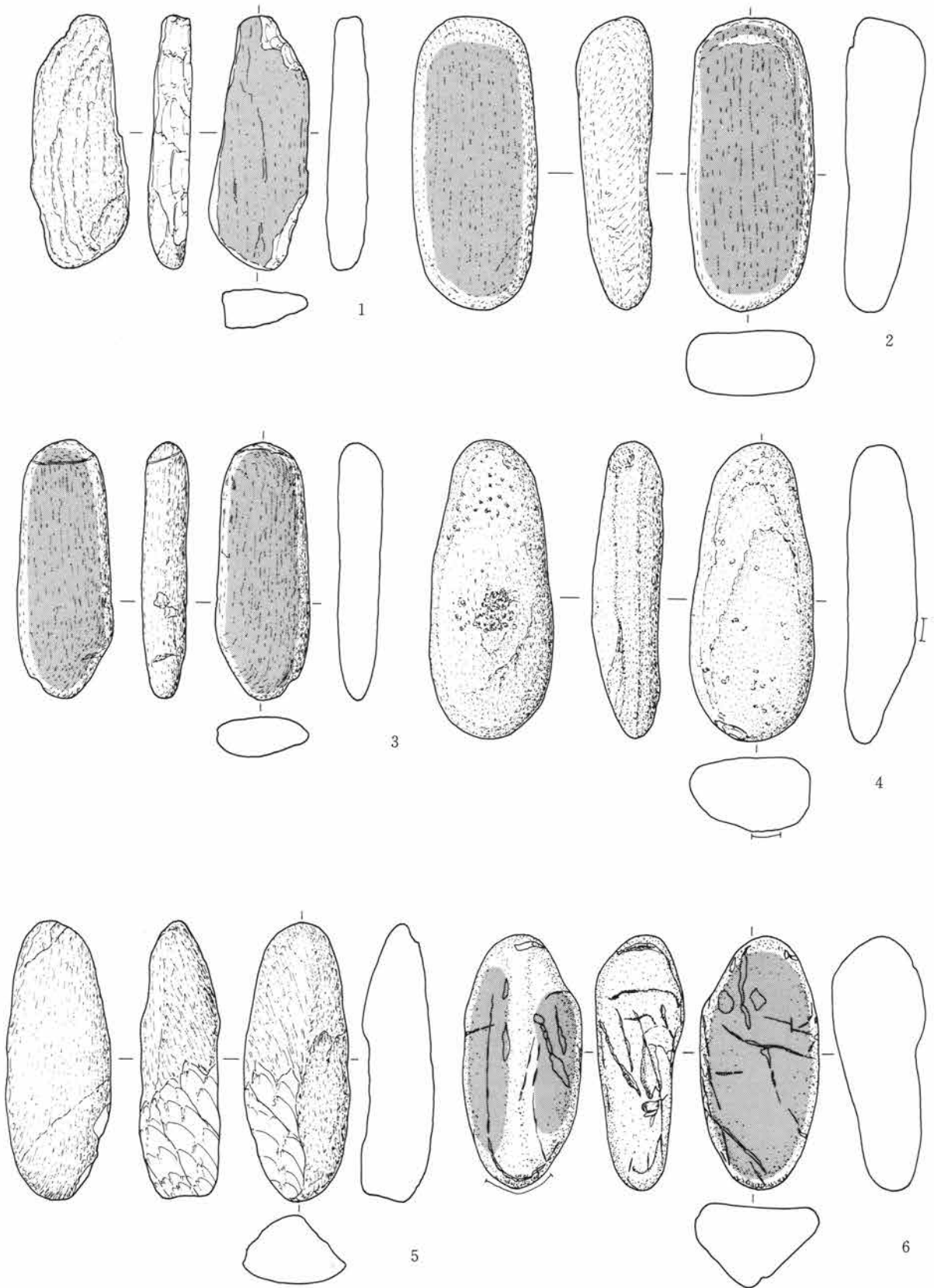


图82 第11号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

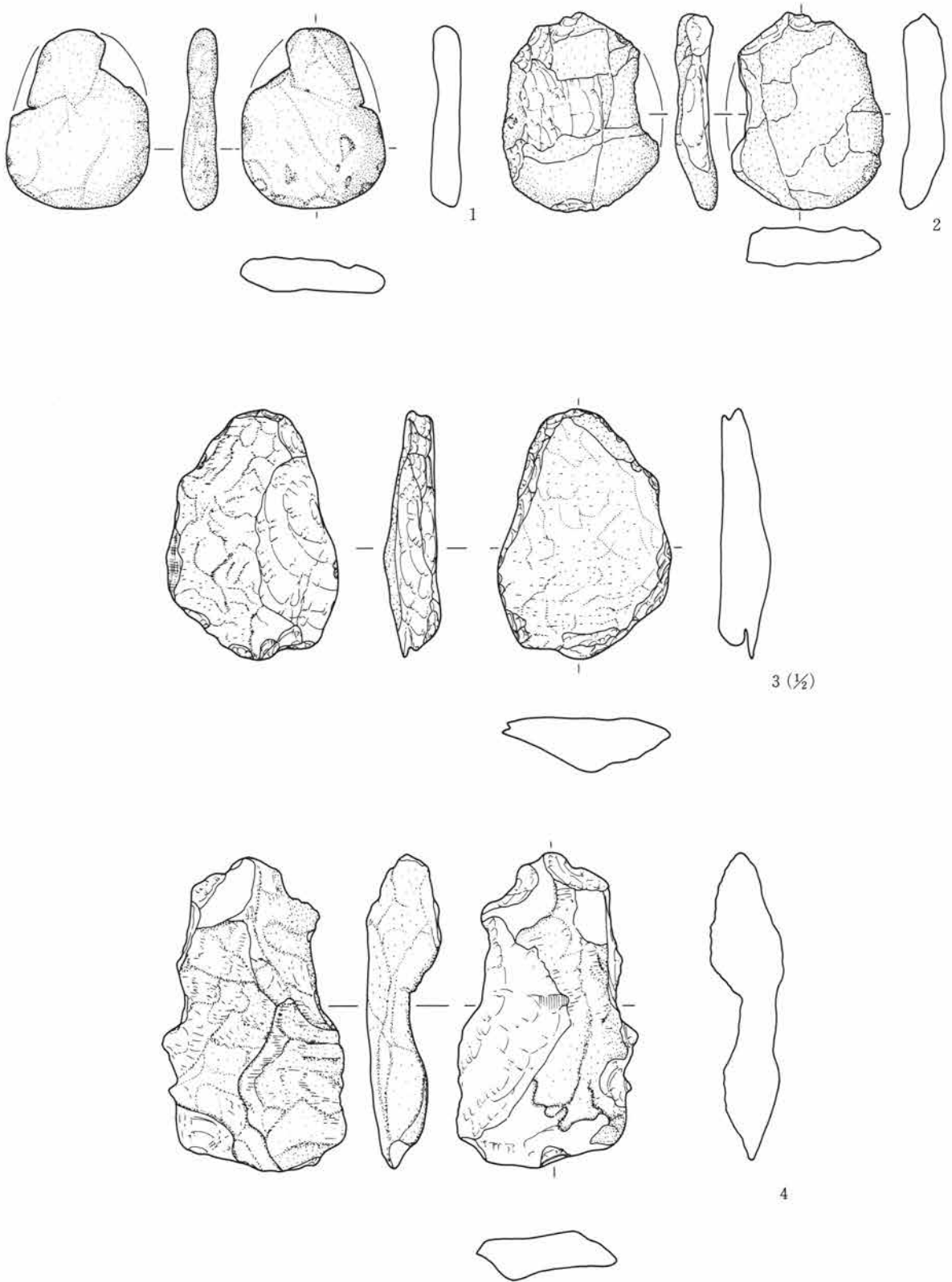


図83 第11号住居跡出土石器

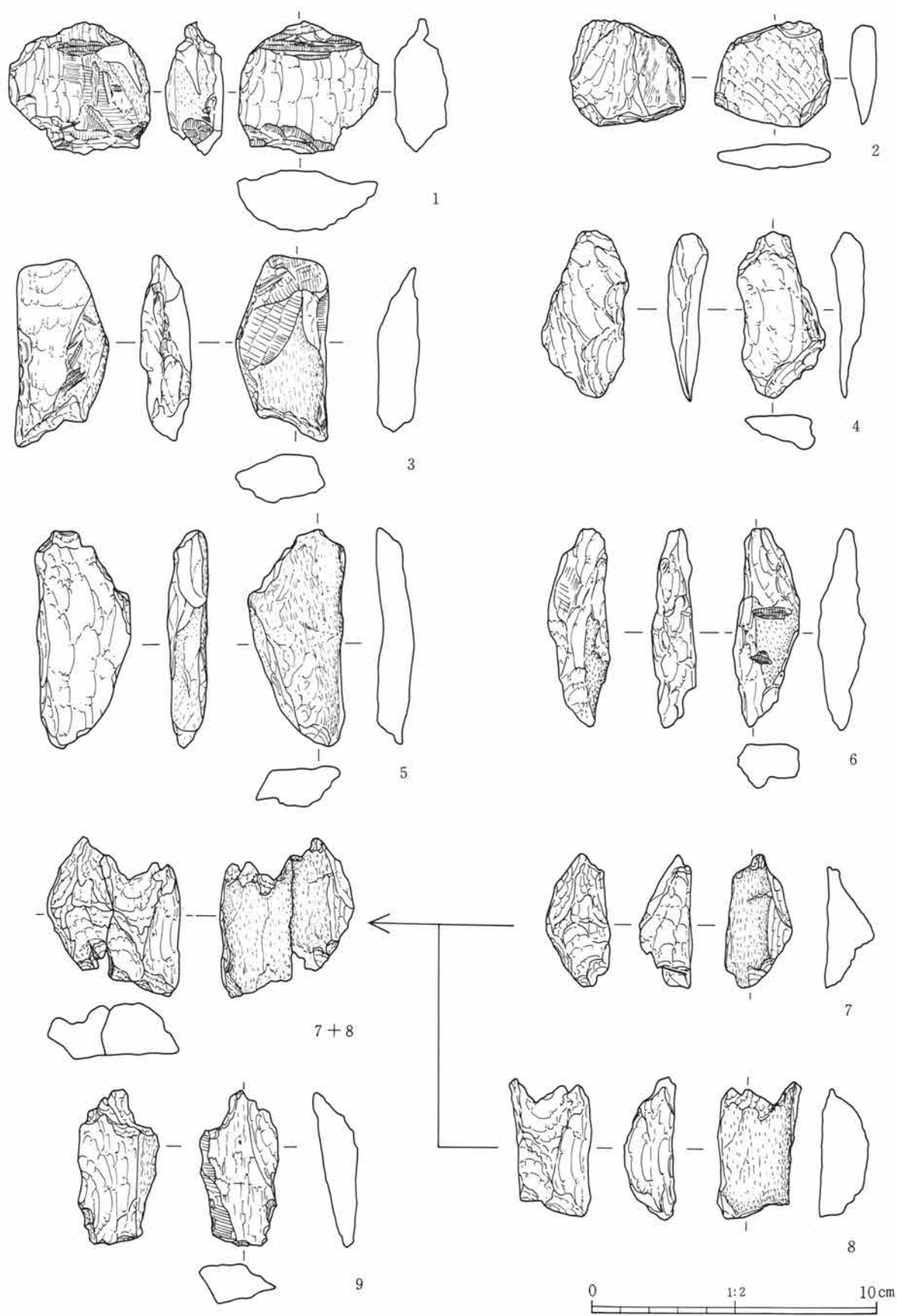


图84 第11号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

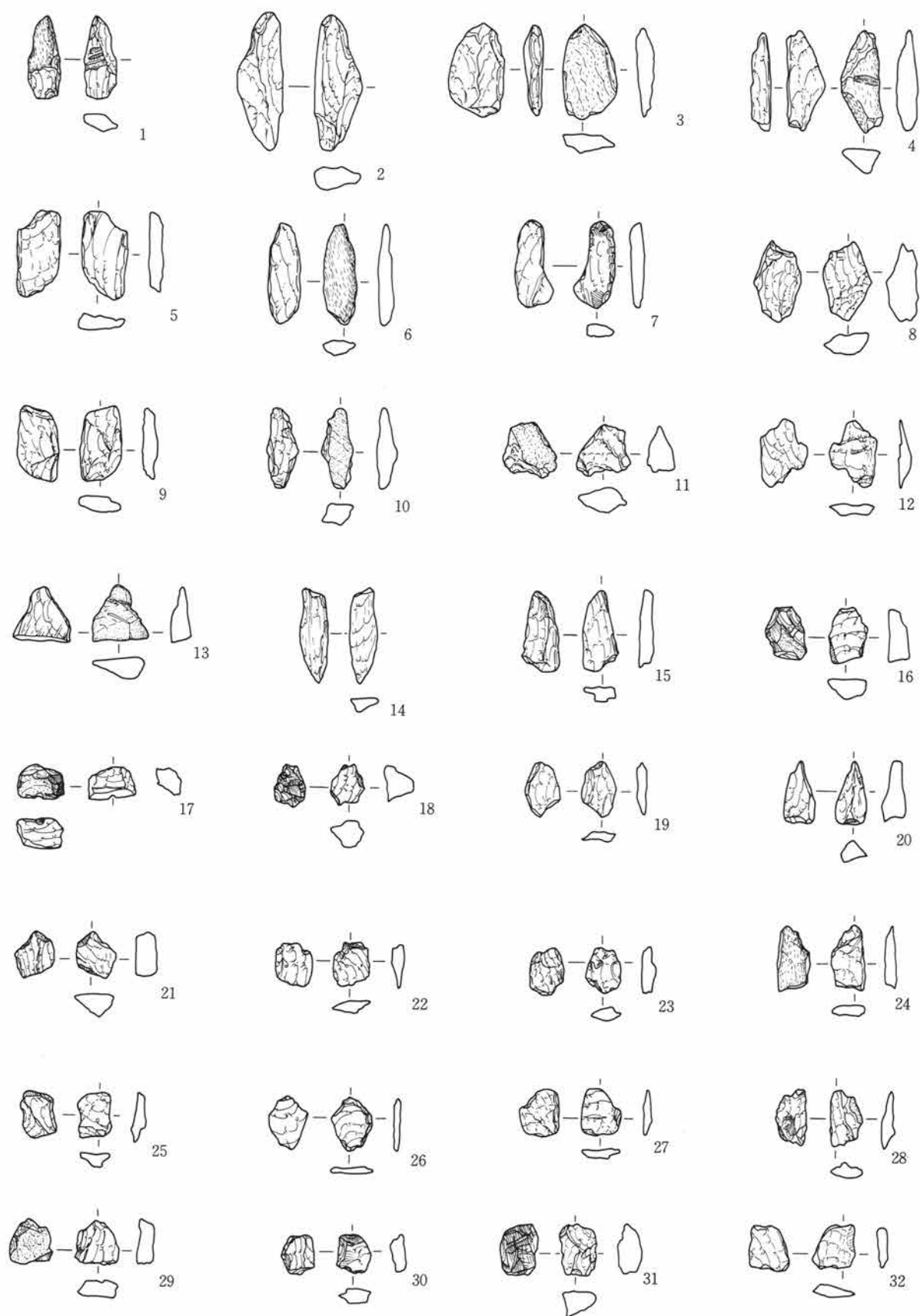


図85 第11号住居跡出土石器

0 1:2 10cm

2. 古墳時代～平安時代

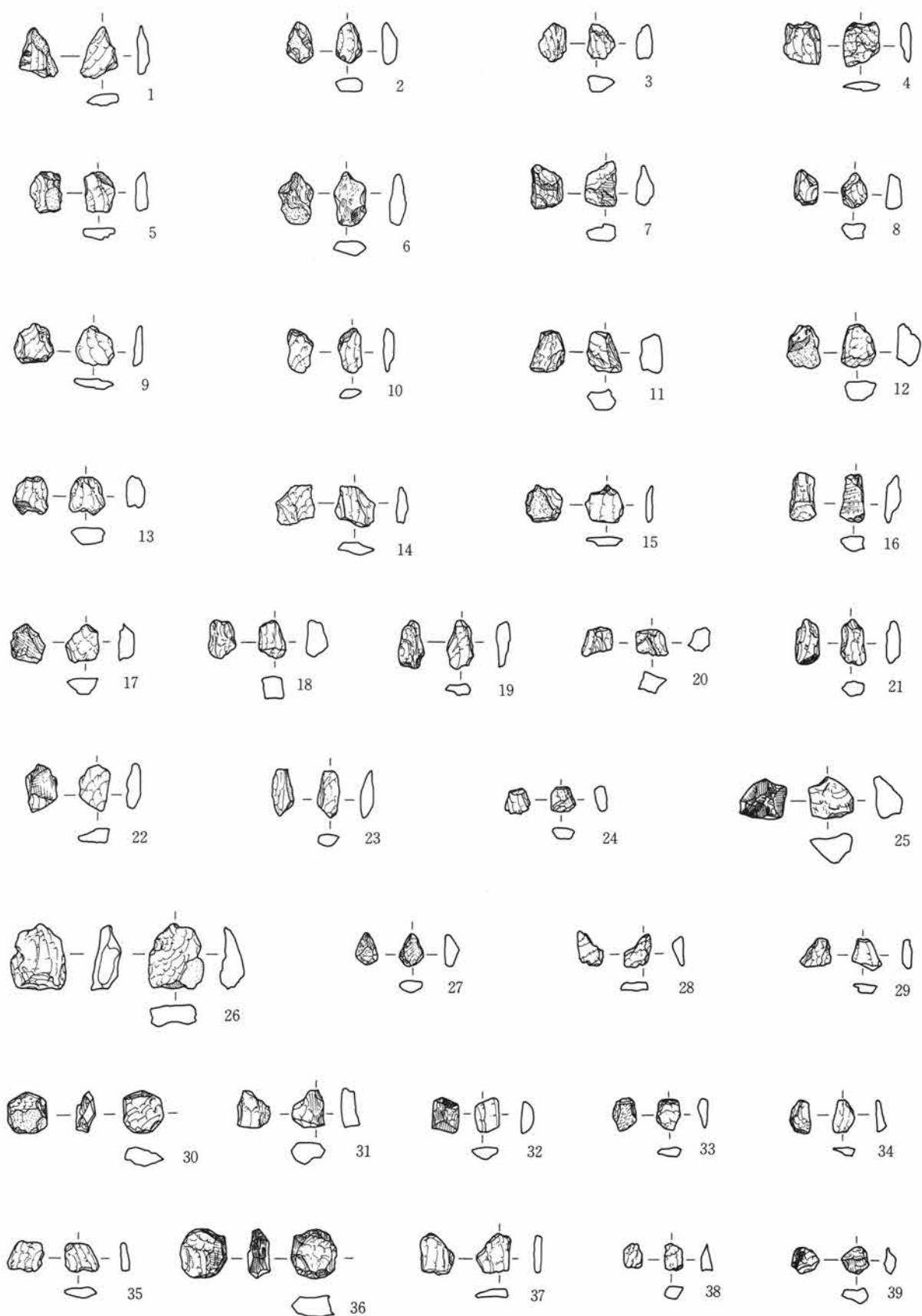


図86 第11号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

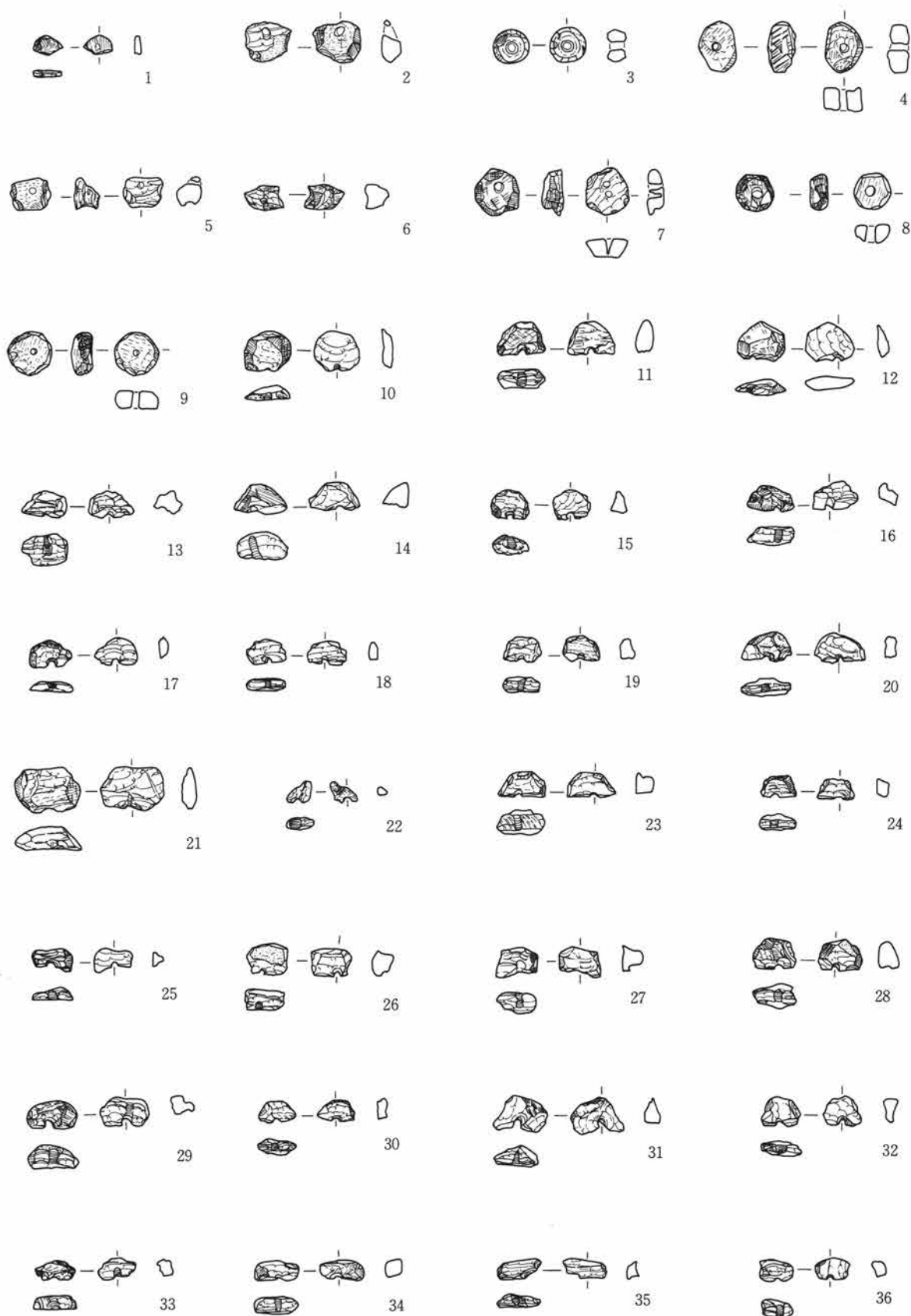


図87 第11号住居跡出土石器

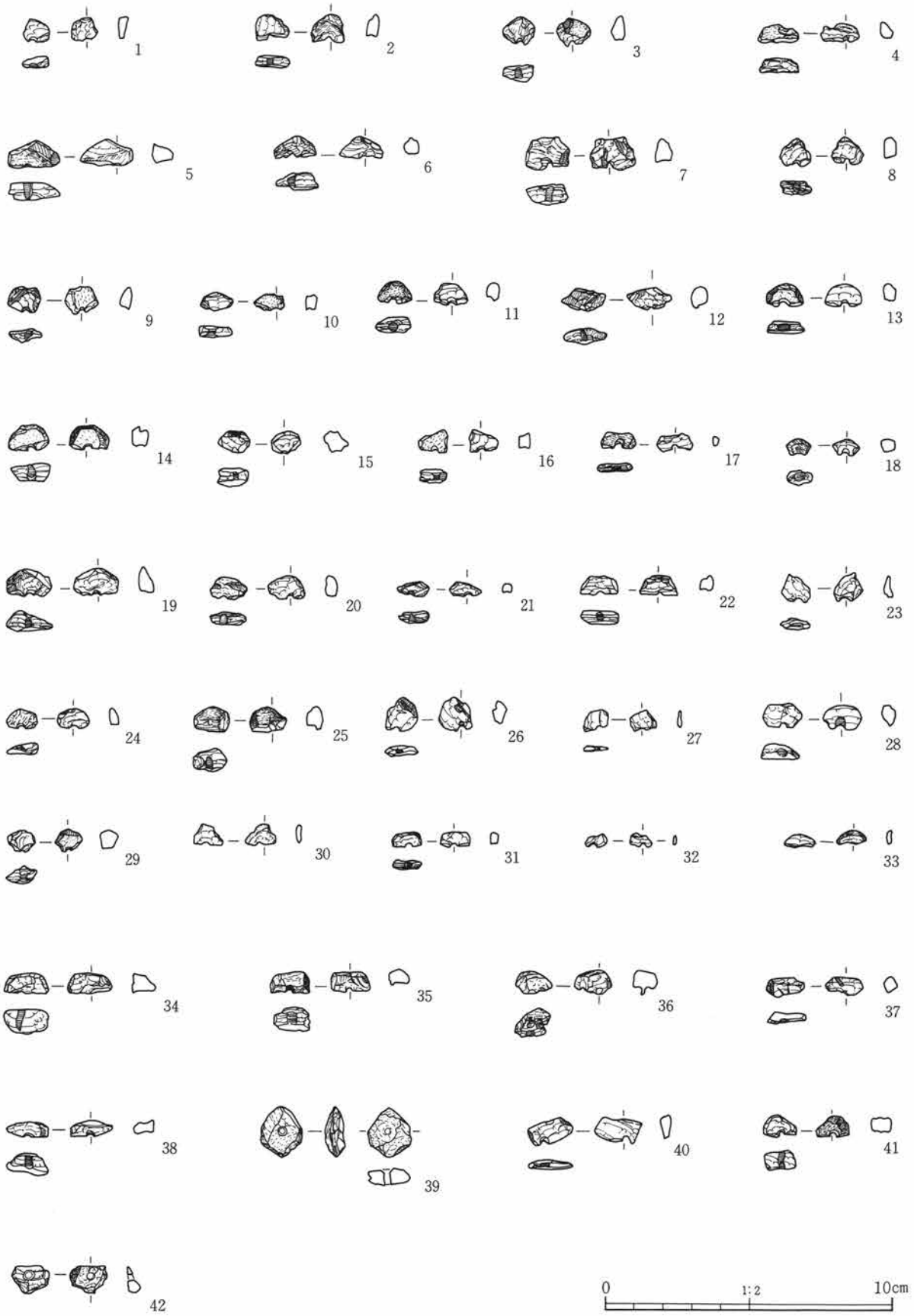


图88 第11号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

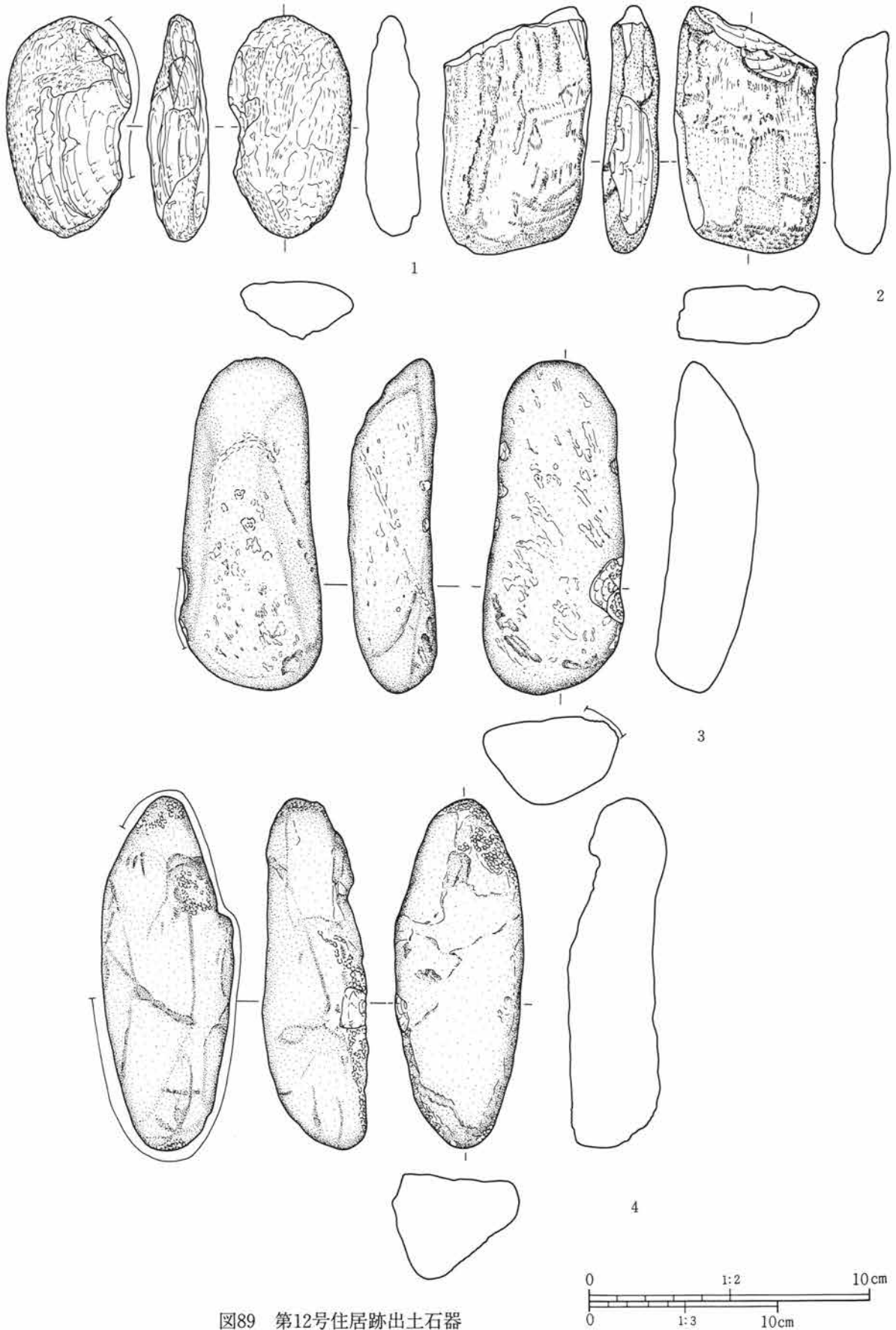


図89 第12号住居跡出土石器

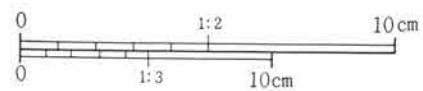
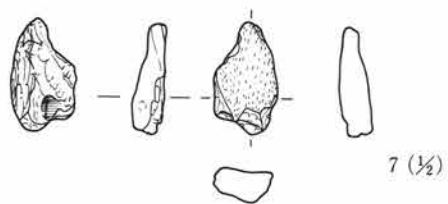
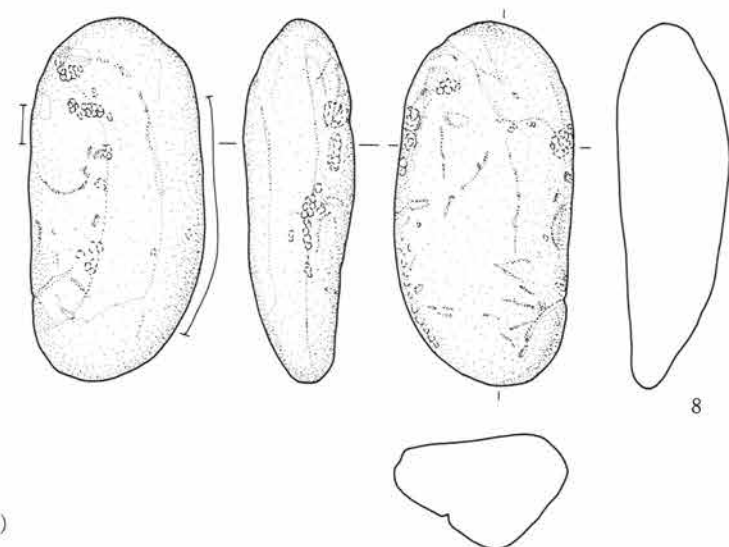
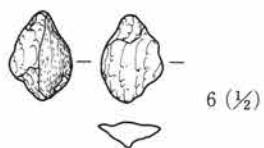
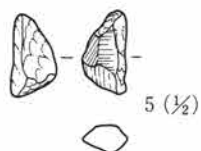
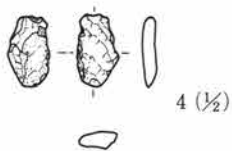
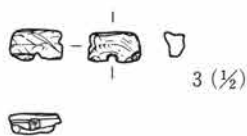
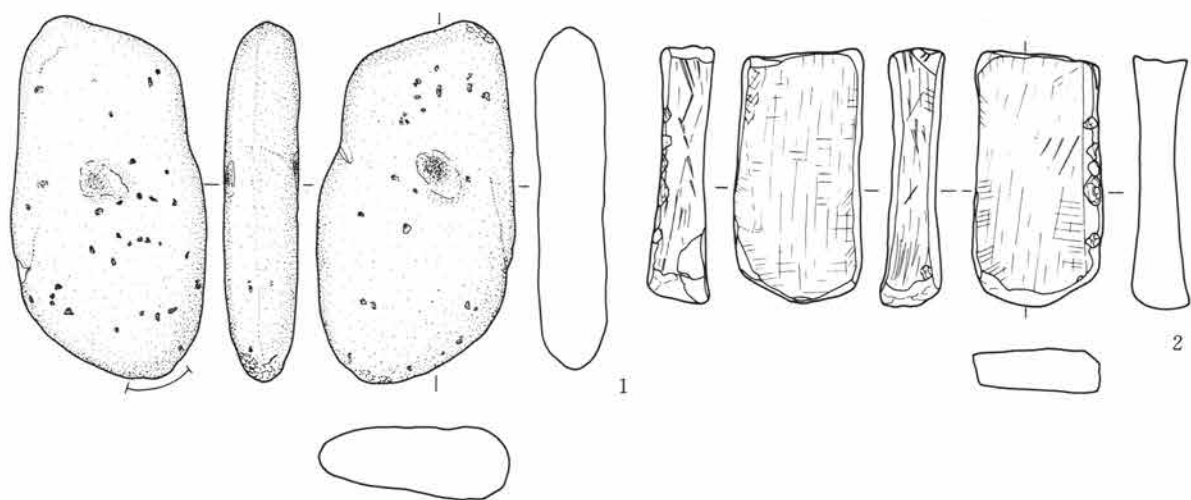


図90 第13号(1・2)、14号(3～8)住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

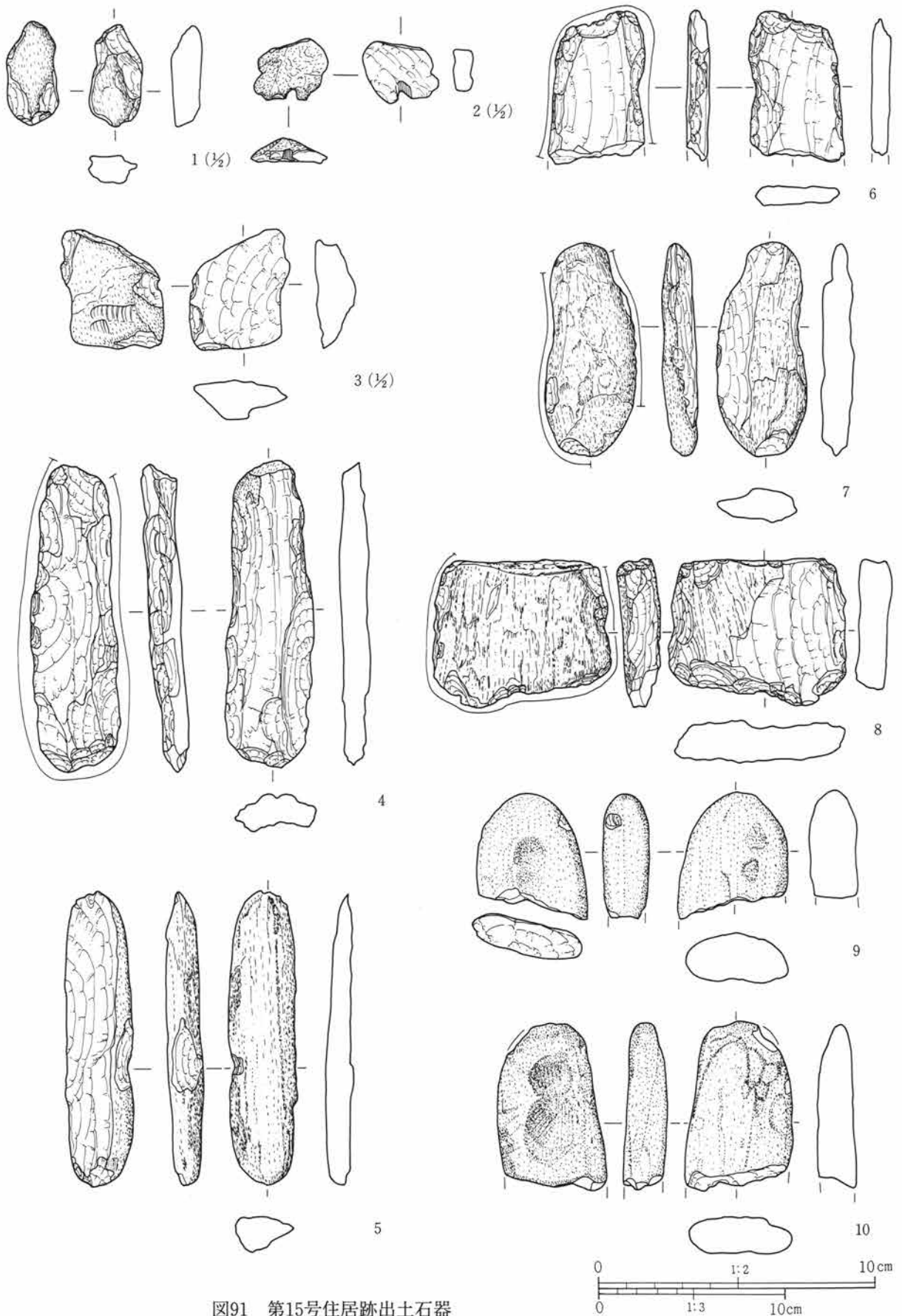


図91 第15号住居跡出土石器

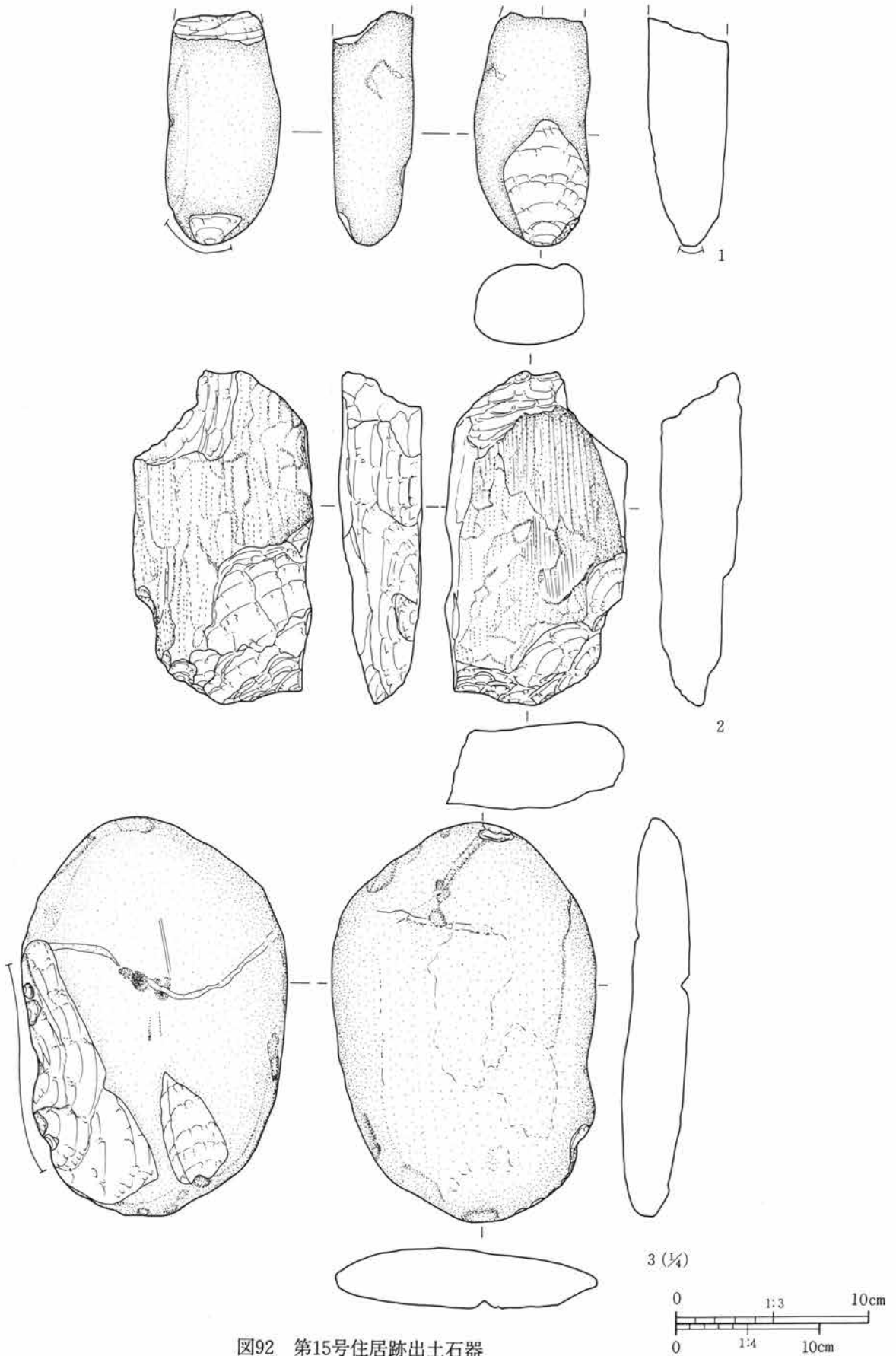


図92 第15号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

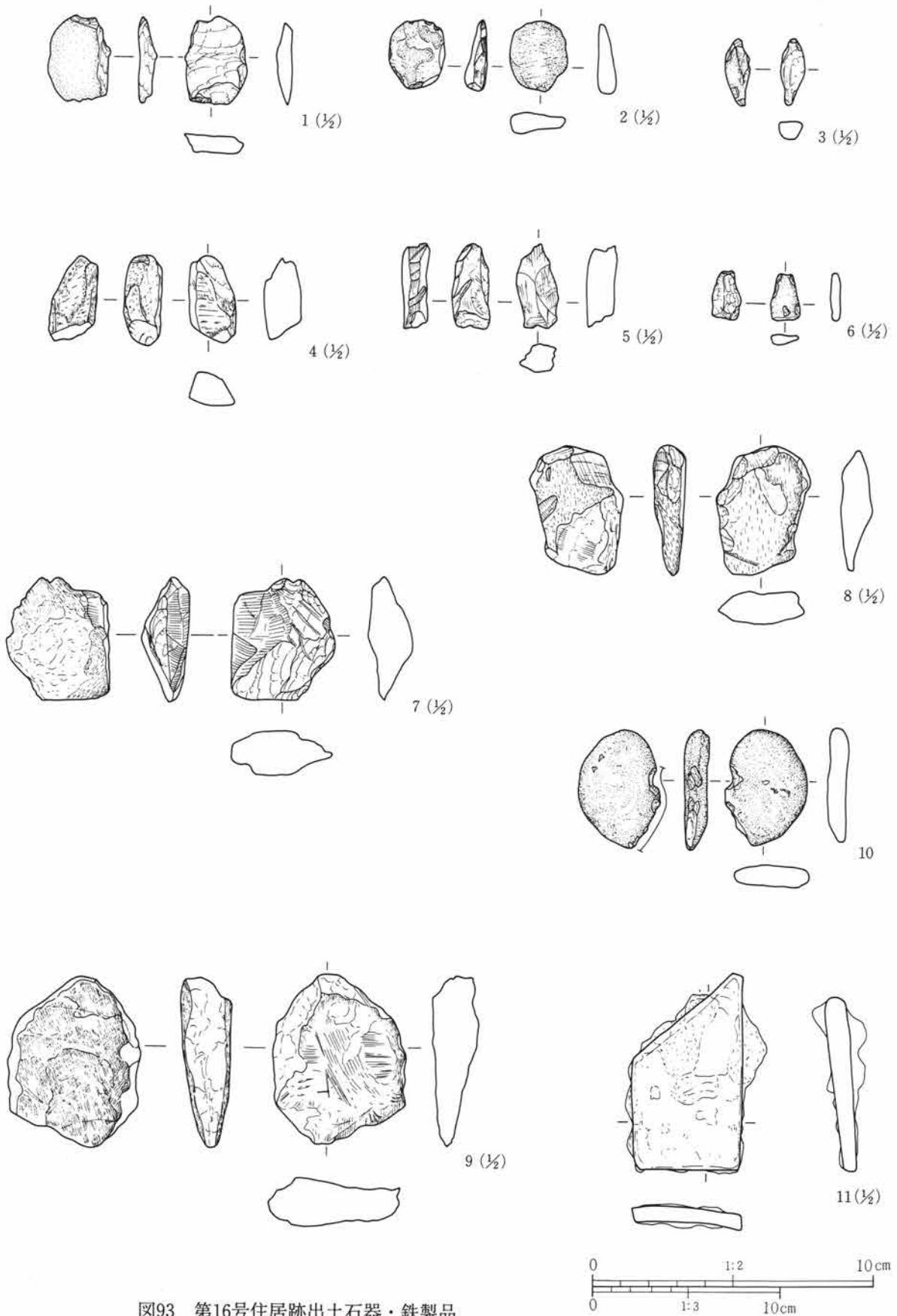


図93 第16号住居跡出土石器・鉄製品

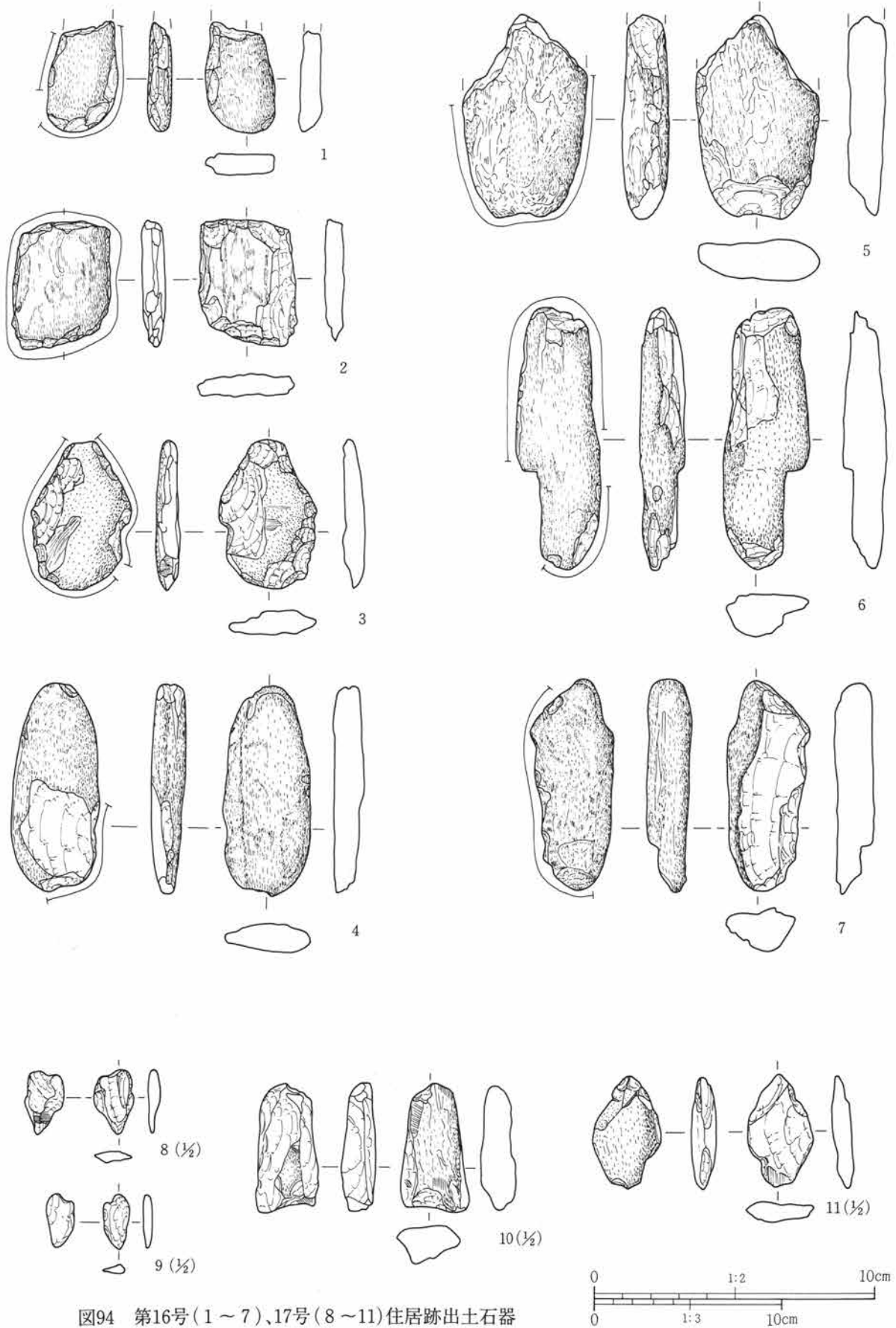


図94 第16号(1~7)、17号(8~11)住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

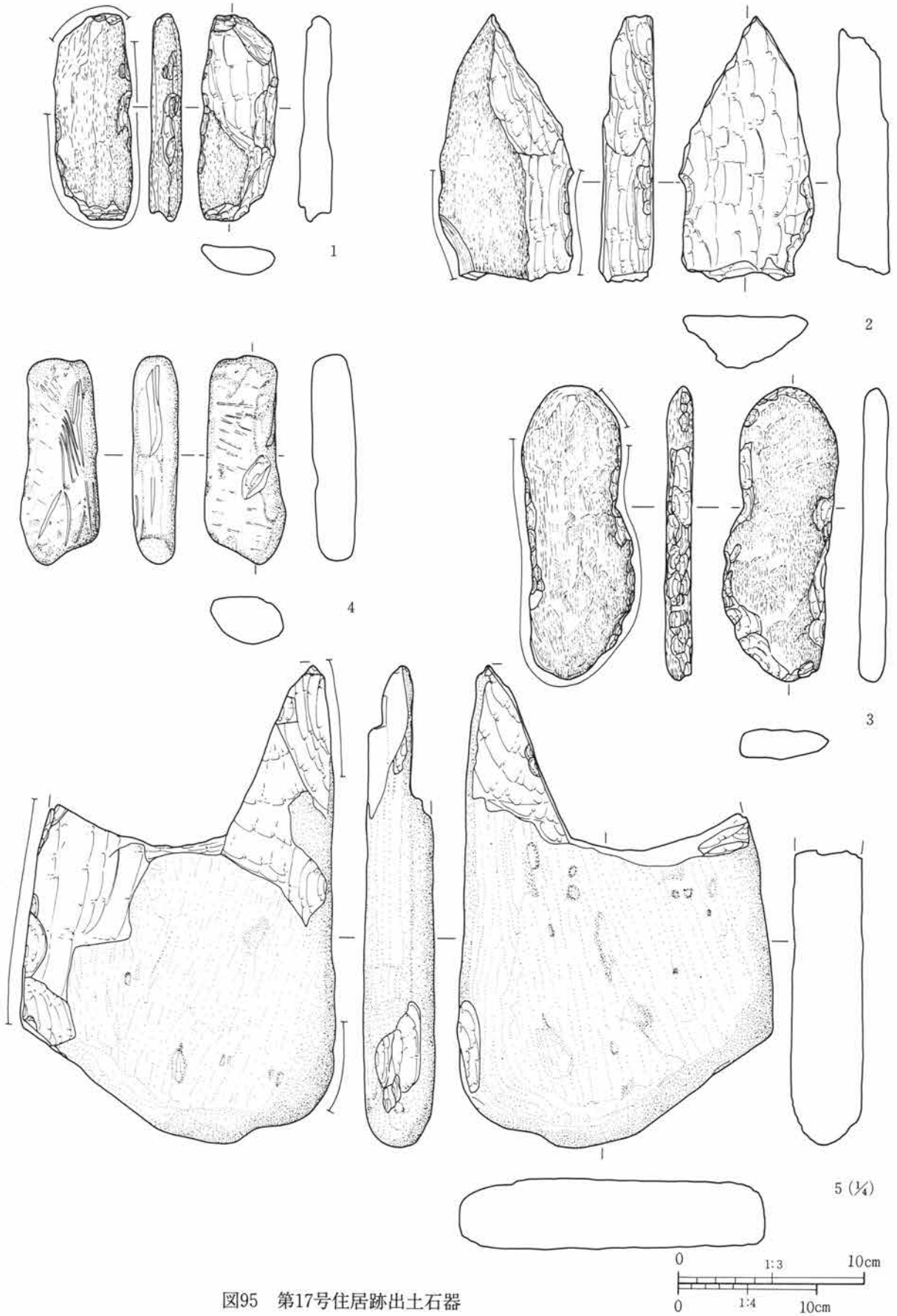


図95 第17号住居跡出土石器

2. 古墳時代～平安時代

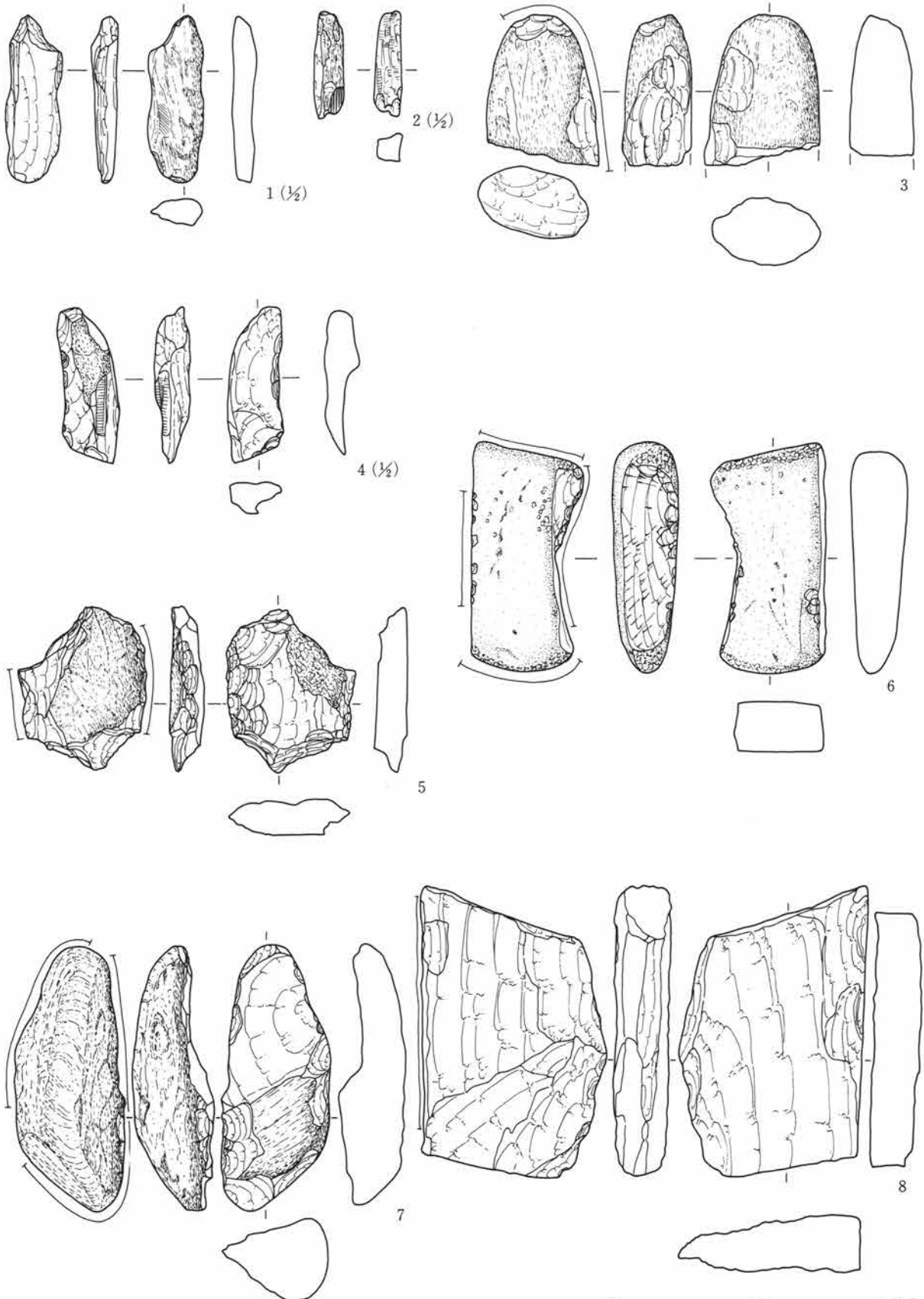


図96 第18号(1～3)、19号(4～6)、
20号(7・8)住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

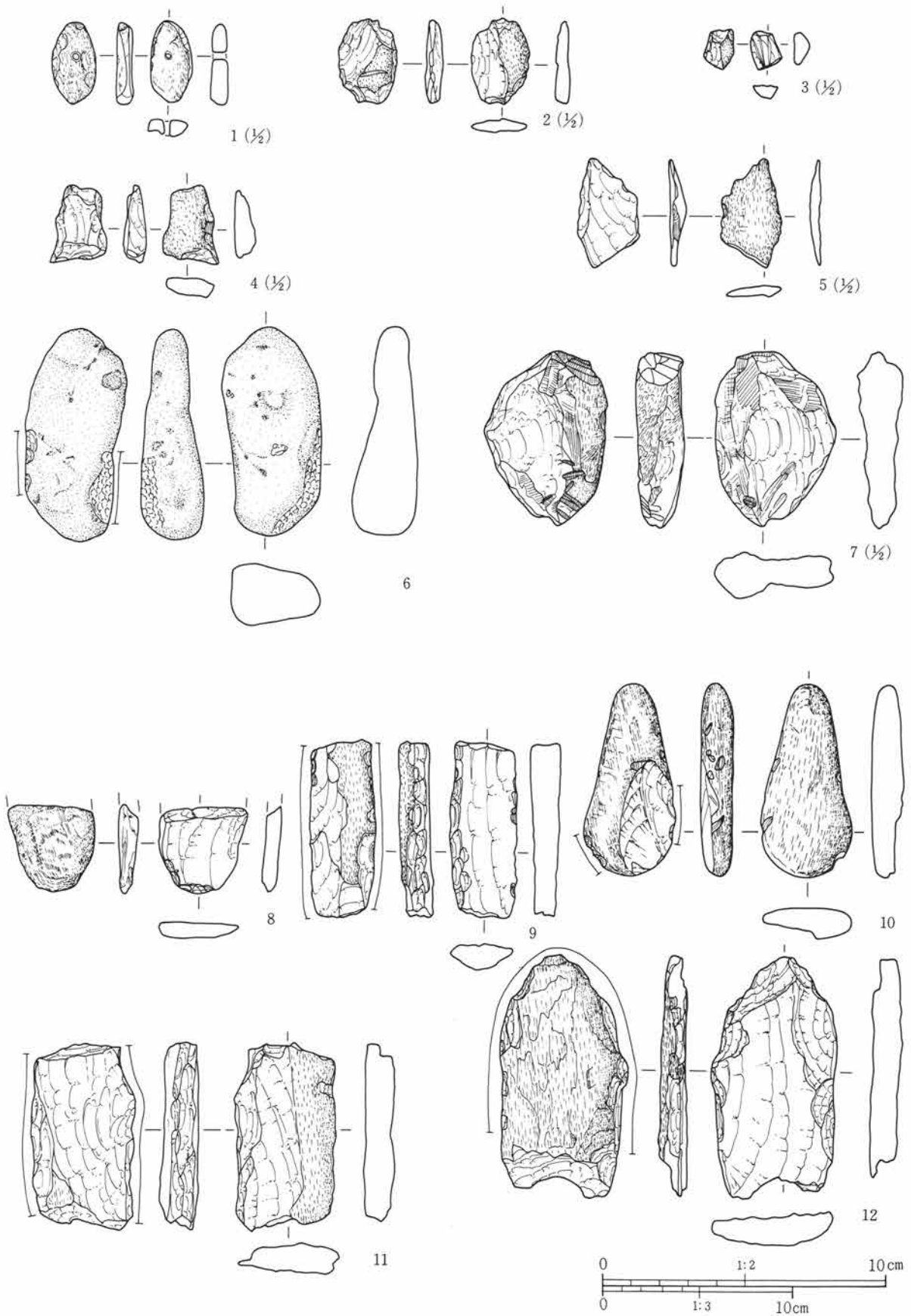


図97 第21号(1~7)、22号(8~12)住居跡出土石器

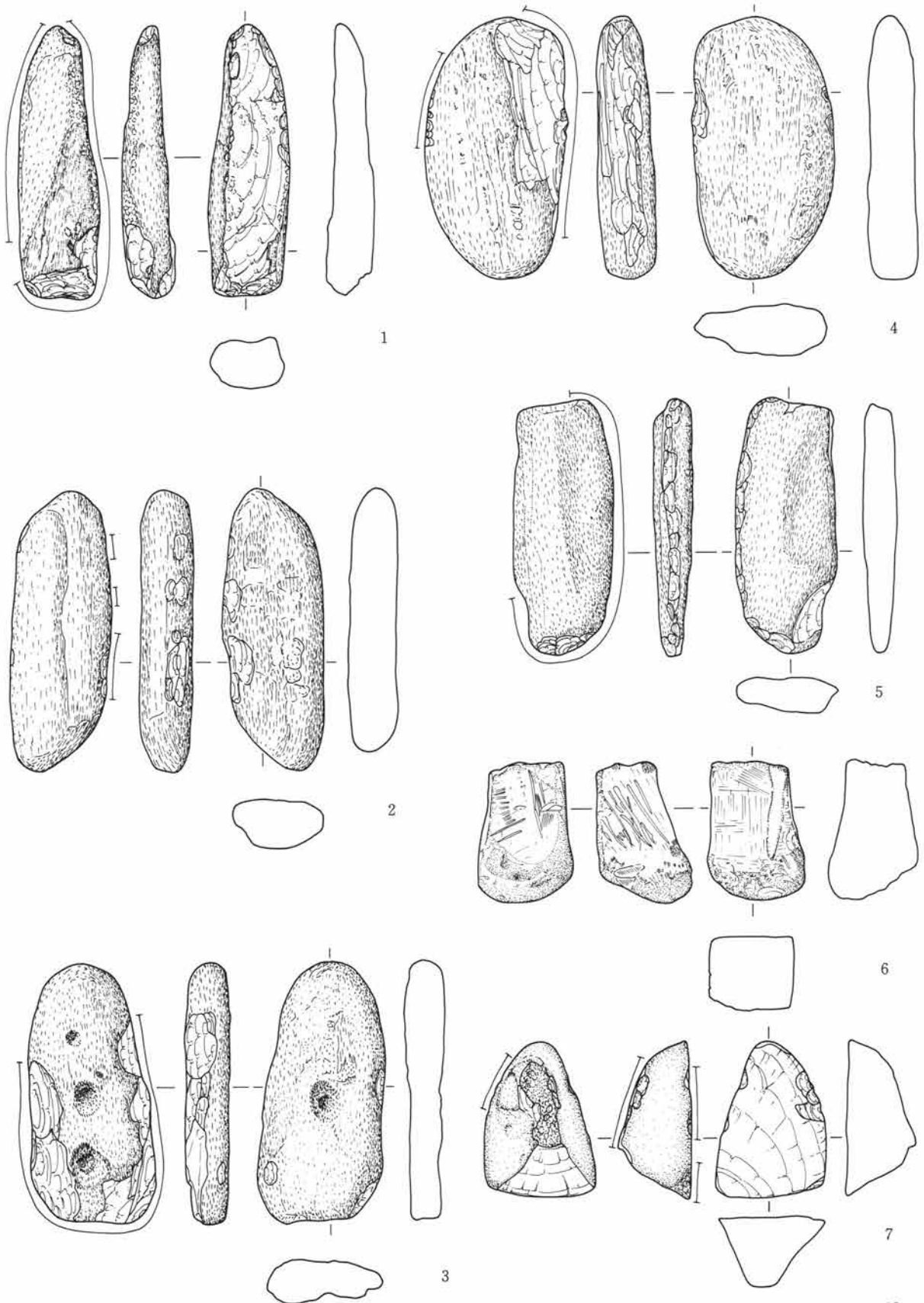


図98 第22号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

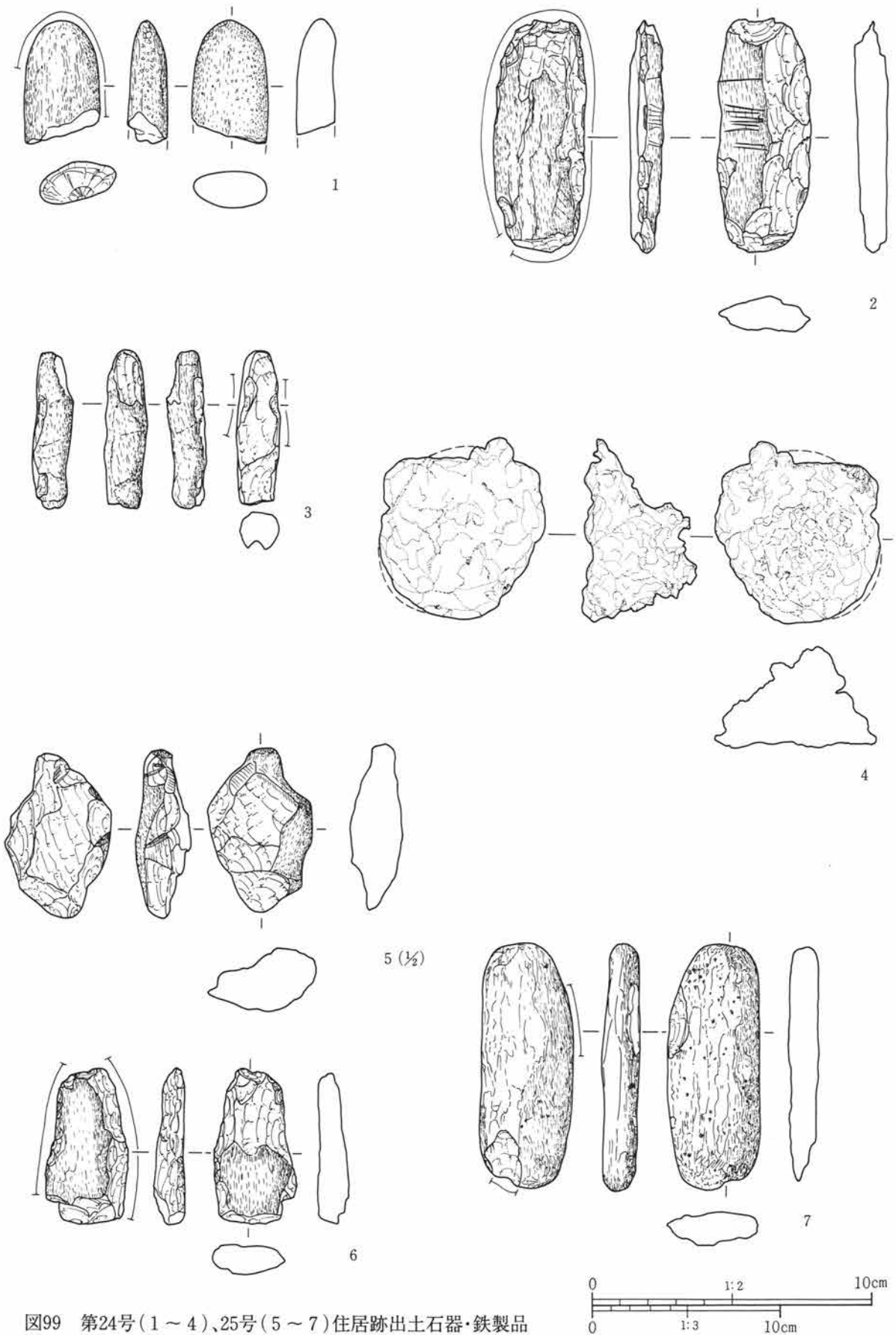


図99 第24号(1~4)、25号(5~7)住居跡出土石器・鉄製品



图100 第1号溝出土石器

Ⅱ 検出された遺構と遺物

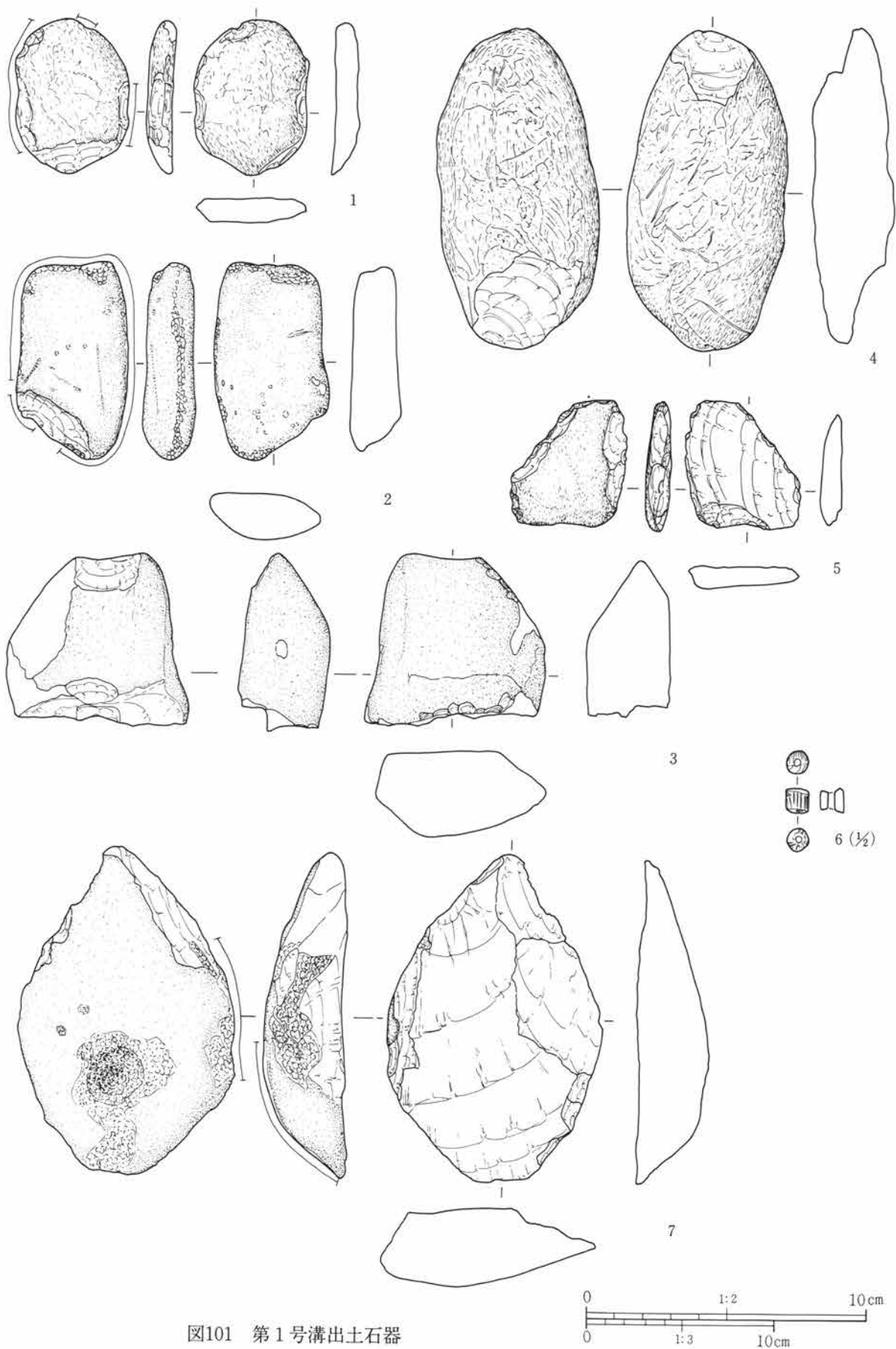


図101 第1号溝出土石器

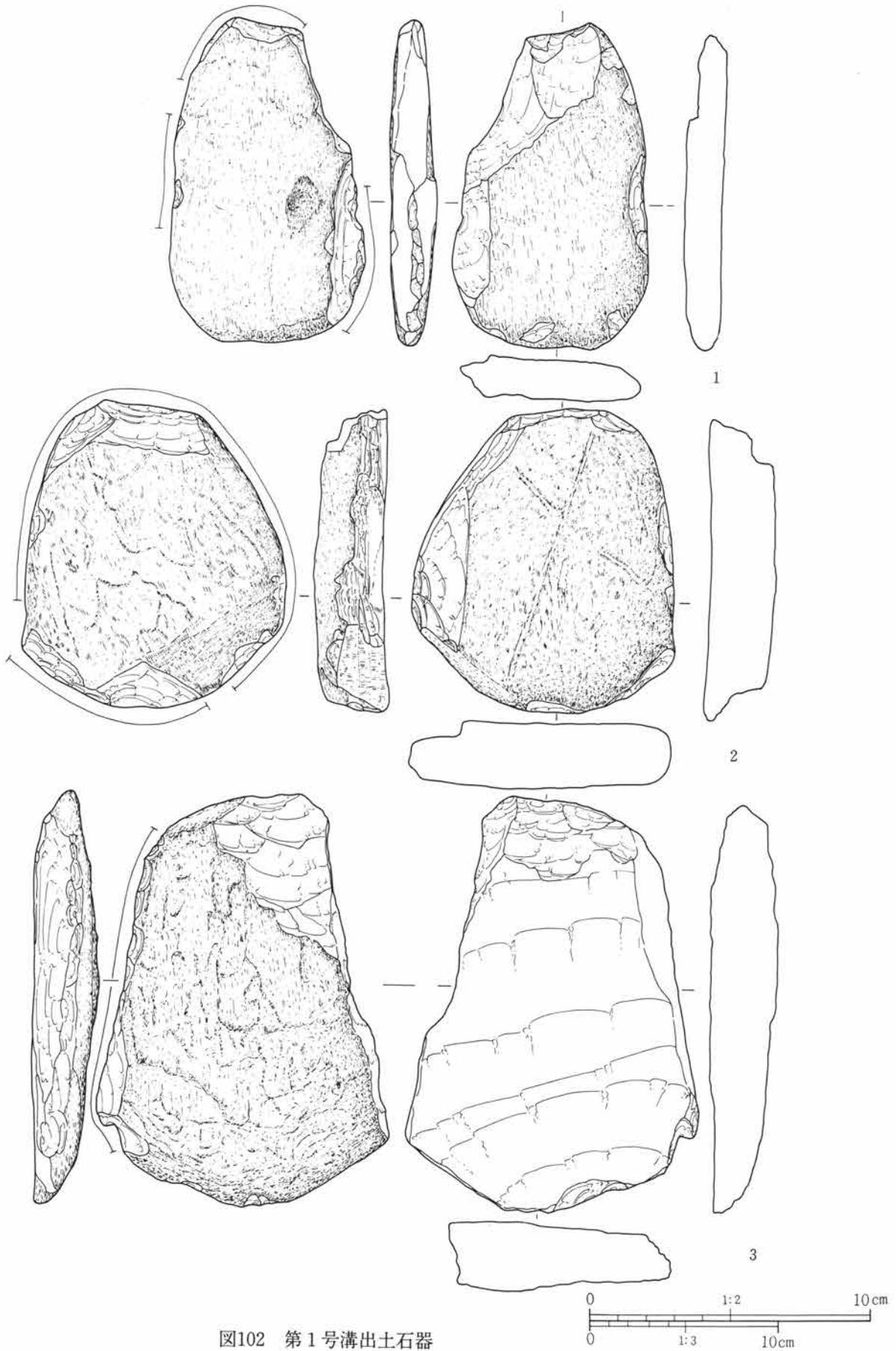


图102 第1号沟出土石器

II 検出された遺構と遺物

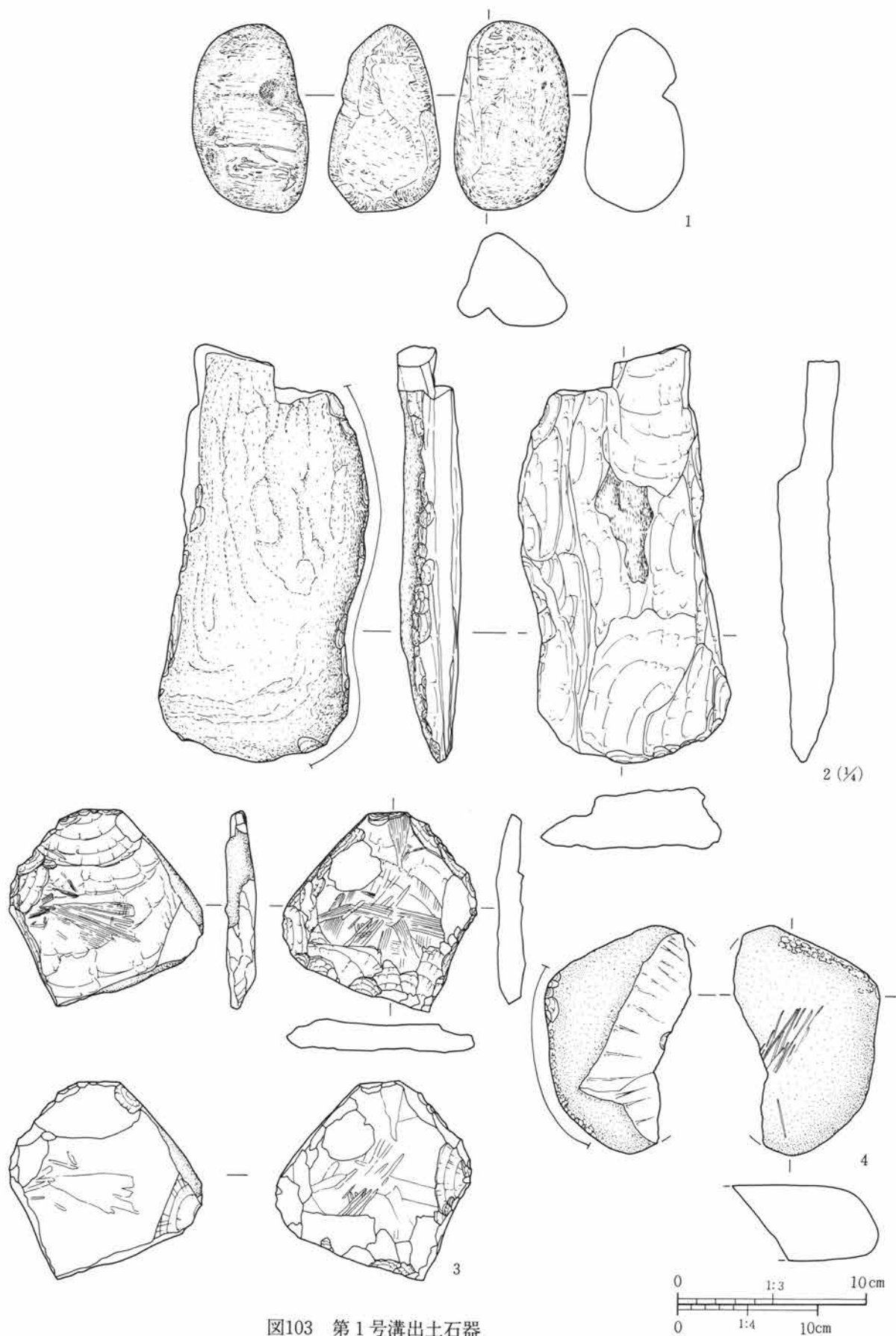


図103 第1号溝出土石器

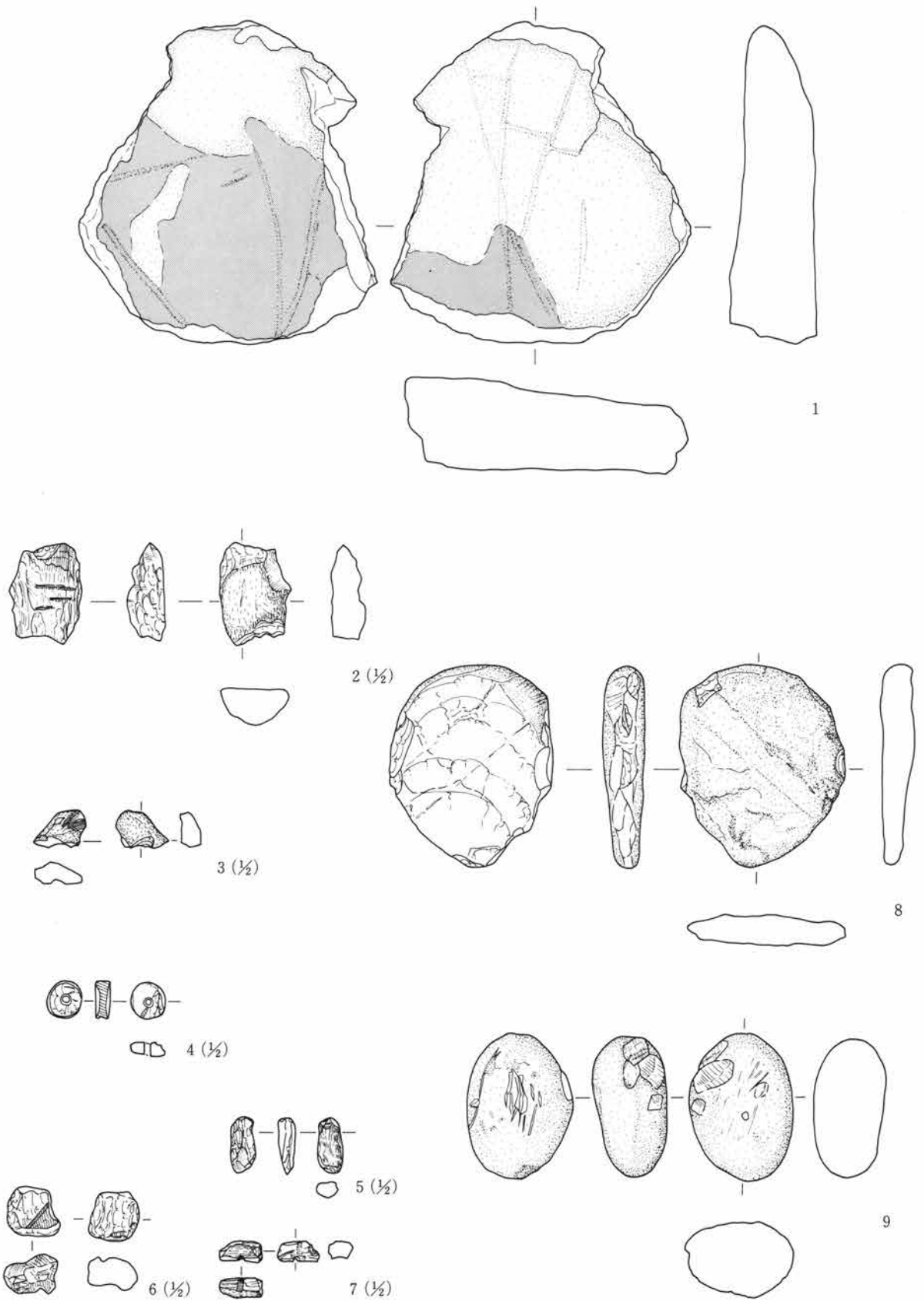
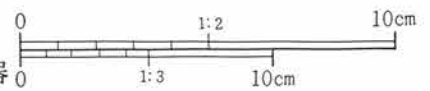


図104 第1号溝(1)、第3号土坑(2)、第11・12号(3)、73号(4)、
334号(5)、344号(6・7)、440号(8)、545号(9)ピット出土石器



II 検出された遺構と遺物

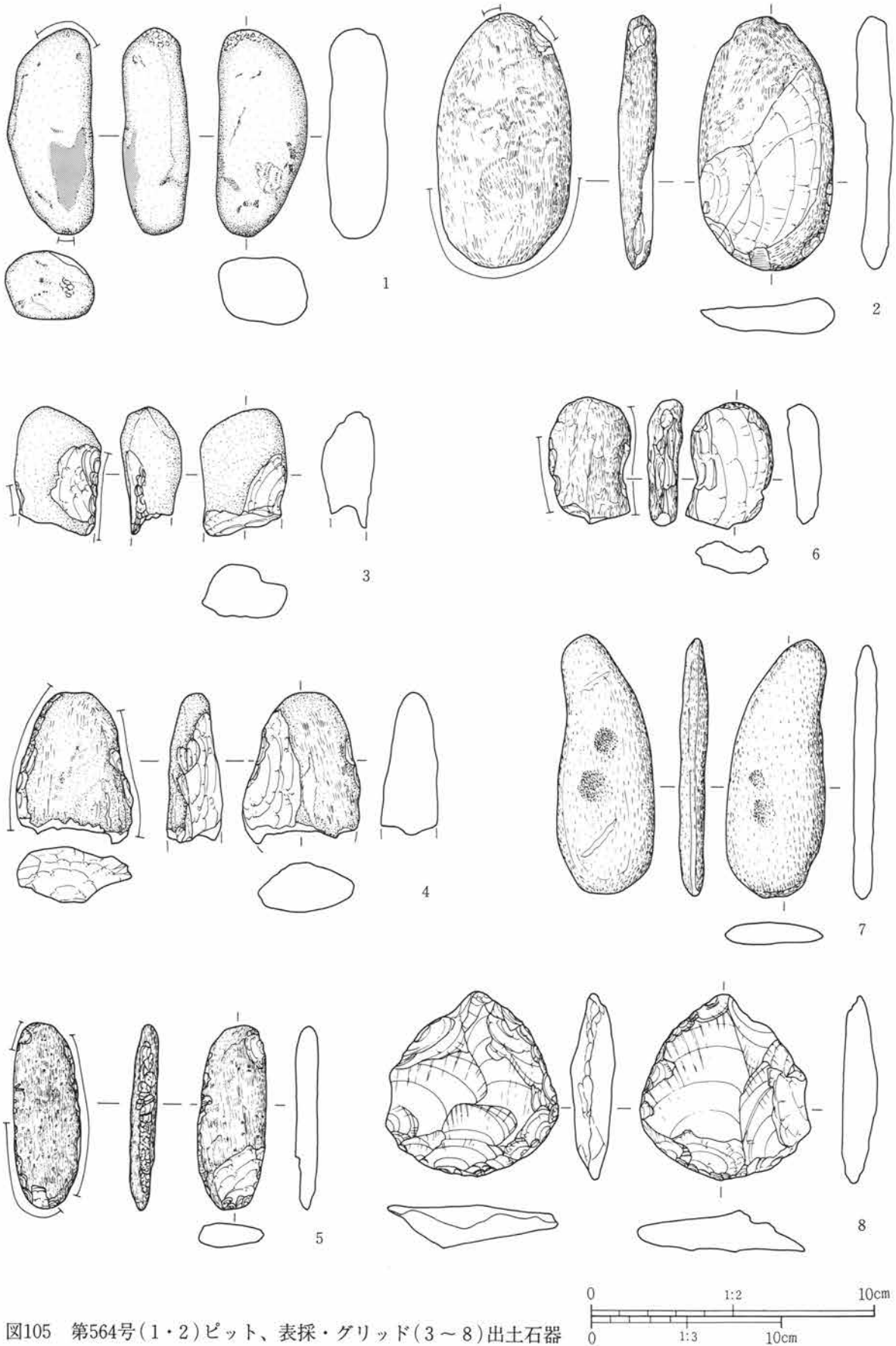


図105 第564号(1・2)ピット、表採・グリッド(3～8)出土石器

古墳時代～平安時代土器観察表

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図48-1	土師器杯	1/6残存 口(14.4) 底(7.0) 高(2.4)	1住No.1 (0)	①微細砂、輝石を含む。 全体に粒子は細かい。 ②にぶい橙7.5YR6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。指頭痕有り。 内 横撫で。	
図48-2	須恵器杯	口縁部破片 口(13.9) 高(2.1)	1住フク土	①緻密 ②オリーブ灰2.5GY6/1 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。	
図48-3	須恵器碗	体部残存 高(3.3)	1住No.6 (+11)	①全体に粗い白色細粒物を含む。 ②灰白7.5Y7/1 ③還元焰、軟質	ロクロ成形。	
図48-4	土師器杯	口縁部破片 口(12.4) 高(2.3)	1住No.7 (+3)	①微細砂を含む。 ②にぶい赤褐5YR5/4 ③酸化焰	横撫で。(左←右)	
図48-5	土師器杯	口縁～体部破片 口(15.2)	2住フク土	①細砂を含む。 ②内 にぶい橙5YR6/4 外 橙5YR6/6 ③酸化焰	横撫で。口唇部は薄く、若干くびれてから外彎する。	
図48-6	土師器杯	体部～底部破片 底 丸底 高(2.2)	2住フク土	①微細砂を含む。 ②内 紫黒5R2/1 外 にぶい橙7.5YR6/4 ③酸化焰	外 体部横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。内黒であるが磨きはない。	内黒。
図48-7	土師器甕	口縁～胴部上位 1/5残存 口(9.2) 底(10.8)	2住No.7 (+7)	①粗砂、小石を含む。 ②内 にぶい橙7.5YR6/4 外 にぶい橙5YR6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で、胴部篋削り。(下→上) 内 口縁横撫で、胴部横撫で。(斜め横方向)	黒斑有り。
図48-8	土師器杯	口縁～底部破片 口(10.4) 底(11.0) 高(4.0)	3住フク土	①微細砂を含む。 ②にぶい橙5YR6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後横方向 篋磨き。 内 口縁横撫で。底部撫で。 底部は厚い。口唇部外彎。	
図48-9	須恵器蓋	口縁部1/8残存 口(13.0)	3住フク土	①緻密、石英粒子含む。 ②灰10Y5/1 ③還元焰 やや硬質	ロクロ成形。口唇部先端はやや尖りぎみとなっている。	
図48-10	土師器甕	口縁～胴部上位 1/4残存 口(22.5)	3住 No.1(0) No.2(+7)	①微細砂を含む。 ②橙5YR7/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部斜め横篋削り。 内 口縁横撫で。体部横撫で。	胴部上半部に黒変有り。
図48-11	土師器甕	口縁～胴部3/4残存 口(22.2) 高(22.7)	3住 No.5(+3) No.6(-2) フク土	①微細砂、角閃石、白色細粒物を含む。 ②橙5YR6/6 黒変 橙5YR4/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部上→下方向に篋削り。 内 口縁横撫で。内面篋撫で。	胴部内外面黒変(内面のものはス)。
図48-12	土師器甕	胴部下位～底部 底 7.5	3住No.3 (-1) フク土	①中砂、白色細粒物を含む。 ②外 にぶい橙7.5YR7/3 内 明褐灰7.5YR7/2 ③酸化焰	外 胴部斜め左上→右下に篋削り後は ほぼ同じ方向に篋磨き。 内 横方向篋撫で。	赤斑部分及び黒斑部分有り。
図48-13	土師器杯	口縁～体部破片 口(12.4)	4住カマド 内フク土	①微細砂を含む。 ②橙5YR6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。	風化のため底部 篋削り単位不明。
図48-14	土師器甕	口縁～頸部1/4残存 口(19.8)	4住No.8 (+1)	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙2.5YR6/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。頸部粘土接合部に指頭痕。胴部横方向篋削り。(左←右) 内 口縁横撫で。胴部篋撫でコの字口縁。	
図48-15	土師器甕	口縁～頸部破片 口(20.8)	4住カマド内 フク土	①微細砂を含む。 ②橙2.5YR6/8 ③酸化焰	内外面横撫で、頸部に指頭痕を残す。 コの字口縁を呈するものと思われる。	

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図49-1	土師器 高杯	完形 口 14.8 底 9.1 高 6.4	5住No. 9 (+1)	①微細砂を含む。 ②外 明褐7.5Y R5/6 内 浅黄橙10Y R8/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り(左←右) 台部篋削り。台口縁部横撫で。(左←右) 内 杯部横撫で後磨き(左←右)台部 口縁撫で。篋撫で台部の輪積み痕明瞭。	内面は約1/2が 黒変している (火災時の変色?)。
図49-2	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (14.0) 高 (3.7)	5住No.18 (+19)	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。 口縁と底部の境に明瞭な段を有する。	器面は荒れている。
図49-3	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (12.8) 高 (3.4)	5住フク土	①緻密 ②外 橙7.5Y R7/6 内 黄灰2.5Y5/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。 薄手、底部と口縁の境に段を有する。 口縁底部ともに直線的に立ち上がる。 口縁はあまりひらかない。	
図49-4	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (24.0) 高 (5.5)	5住No.24 (+8)	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁斜め縦篋撫で後横撫で。胴部 横篋削り。 内 横撫で。	内面は薄い黒 斑。
図49-6	土師器 杯	口縁～体部1/4残存 口 (12.0) 底 丸底 高 (3.2)	6住フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②灰黄褐10Y R5/2 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。(左←右) 内 横撫で。 口唇部内彎。	
図49-7	土師器 杯	完形 口 15.2 底 丸底 高 4.5	6住No. 7 (+8)	①細砂、輝石を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。(主に左←右) 内 横撫で、指頭痕が残る。 かなり薄手。口縁部はやや内傾ぎみに 立ち上がる。	風化が顕著で器 面がかなり荒れ ている。
図49-8	土師器 碗	口縁～体部1/6残存 口 (13.4)	6住No.133 (+16)	①細砂、白色細粒物含む。 ②外 にぶい橙7.5Y R6/4 内 にぶい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。(左→右、 左←右両方向有り) 内 横撫で。 体部はかなり丸みをもち、口唇部はわ ずかに外彎。	
図49-9	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (23.8) 高 (3.7)	6住 No. 8 (+5) No.13(+25)	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②外 にぶい橙5Y R6/4 内 にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。 口縁部は外彎。皿状を呈する。	
図49-10	土師器 甕	口縁～胴部1/4残存 口 (21.2) 底 (5.0) 高 8.9	6住No.52 (+25) フク土	①細砂を含む。 ②にぶい赤褐5Y R4/3 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。胴～底部篋削り。 内 横撫で。底部は篋撫でが残る。	現存部分の底部 には孔はない。
図49-11	土師器 甕	口縁～胴部上位 1/4残存 口 (21.6)	6住No.56 (+14)	①細砂を含む。 ②内 明赤褐5Y R5/6 外 橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。頸部に 篋削りのための段を有するが、その調 整は認められない。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。 口縁部は比較的滑らかに外彎する。	外面口縁赤変。 内面口縁一部黒 変(二次加熱の ため)。
図49-12	土師器 甕	口縁～胴部1/3残存 口 (22.2)	6住No.139 (-6)	①中砂を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部縦篋削り。(下→ 上)、長さの単位5cm。 内 口縁横撫で。胴部縦篋削り(下→ 上)、口唇部は外彎する。厚手。	外面薄く黒変。
図49-13	土師器 甕	口縁～胴部上位 1/3残存 口 (23.6) 高 (11.5) 胴 (30.0)	6住No.136 (0)	①中砂を含む。 ②外 にぶい橙7.5Y R6/6 内 灰褐7.5Y R5/2 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。胴部篋削り(上→下、 一部左←右) 内 口縁横撫で。胴部篋撫で(横・斜 め横方向)一部指頭痕が残るが、それ は撫でよりも古い。口縁部は厚く、な めらかに外彎。胴部に最大幅がある。	両面ともほぼ同 位置が薄く黒変 している。
図49-5	土製品 土玉	完形 長 1.4 幅 1.2 厚 1.0	6住フク土	①微細砂を微量含む。 ②黄灰2.5Y R5/1 ③酸化焰	指撫で、指頭痕を良く残す。	中心の穴径 1.5mm方向上→ 下に向って(焼 成前)穿孔?

2. 古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図49-14	須恵器 甕	胴部破片	6住 No.30(+14) No.63(+6)	①微細砂を含む。 ②外 灰色N6/ 内 灰白N7/ ③還元焰 硬質	外 叩き目を残す。 内 叩き目を残す。	
図49-15	土師器 甕	胴部下位～底部 1/4残存 口 (4.5) 底 (7.0)	6住No.49 (+20)	①細砂、白色細粒物を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 胴部篋削り(主に左→右)底部に径 1cm程の穴が中央よりもやわずれた位 位置にある。木葉痕有り。 内 篋撫で。	
図49-16	須恵器 高台付杯	底部3/4残存 底 12.8	6住 No.72(+18) 7住フク土	①微細砂、白色細粒物を含 む。 ②浅黄橙10Y R8/3 ③還元焰	外 胴部回転横撫で。底部篋削り。(右 回り) 内 回転横撫で。 付け高台、接合部は篋先により浅い沈 線状に撫で付けている。	
図49-17	土師器 鉢	1/5残存 口 (10.2) 底 (2.3) 高 4.4	6住フク土	①微細砂を含む。 ②黄灰2.5Y4/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部指撫で、指頭痕 を残す。底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で、指 頭痕を残す。 底部は厚く、口唇部はやや外彎ぎみに 立ち上がる。手捏。	
図49-18	土師器 長甕	口縁～胴部1/3残存 口 (21.3) 高 22.2	6住No.138 (+2)	①細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。(主に 下→上) 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。(左→右) 口唇部はやや直線ぎみに外彎。薄手。	内外面ともに黒 変部分有り。
図50-1	土師器 杯	完形 口 11.3 底 丸底 高 3.7	7住No.27 (+15)	①微細砂、雲母を含む。 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り(左回り) 内 横撫で。底部一部指頭痕残す。	
図50-2	土師器 杯	3/4残存 口 (12.8) 底 丸底 高 3.1	7住フク土	①微細砂を含む。 ②外 にぶい橙7.5Y R6/4 内 橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。弱く指頭痕残す。	
図50-3	土師器 杯	口縁～底部1/4残存 口 (13.8) 底 丸底 高 3.4	7住No.20 (-1)	①微細砂、石英、輝石を含 む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部周辺に指頭痕残 す。底部篋削り。 内 篋撫で後横撫で。底部との接合部 に指頭痕残す。	
図50-4	土師器 杯	1/4残存 口 (13.7) 底 丸底 高 (3.5)	7住No.15 (-4)	①微細砂、輝石を含む。 ②外 にぶい橙5Y R6/4 内 橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部篋撫で後横撫で。 指頭痕多く残す。	
図50-5	土師器 杯	3/4残存 口 12.7 底 丸底 高 3.5	7住No.4 (+3)	①微細砂を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で、指頭痕残す。底部篋 削り。 内 横撫で。底部指頭痕残す。	
図50-6	土師器 杯	完形 口 14.3 底 丸底 高 3.9	7住 No.29(+1) No.90(+1)	①微細砂、輝石、石英を含 む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。底部中央に指頭痕残す。	
図50-7	土師器 杯	1/3残存 口 (15.8) 底 丸底 高 (3.4)	7住No.56 (-3)	①微細砂、白色細粒物、輝 石を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で、指頭痕残す。底部篋 削り。 内 横撫で。指頭痕残す。	底部一部赤変。
図50-8	土師器 杯	口縁～体部3/4残存 口 12.0 底 丸底 高 3.6	7住No.31 (+4)	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。指頭痕残す。	器形が歪んでいる。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図50-9	土師器杯	口縁~底部7/8残存 口(12.8) 底丸底 高 3.6	7住No.142 (+10)	①微細砂、輝石、石英を含む。 ②にぶい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。やや厚で。	底部2/3黒斑。
図50-10	土師器杯	口縁~体部1/4残存 口(13.6) 底丸底 高(3.0)	7住フク土	①微細砂、輝石、石英、白色細粒物を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。指頭痕を多く残す。	底部外面黒変。
図50-11	土師器杯	3/5残存 口 13.0 底丸底 高 3.6	7住フク土	①微細砂、輝石、石英を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。指頭痕残す。	器面かなり荒れている。 外面黒斑有り。
図50-12	土師器杯	1/2残存 口 14.0 底丸底 高 3.2	7住No.11 (0)	①微細砂を含む。 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。指頭痕残す。	底部黒変。中央に黒斑。口縁赤変。
図50-13	須恵器杯	口縁~底部1/2残存 口(12.4) 底(8.5) 高 4.0	7住No.28 (+3)	①微細砂を含む。 ②灰白7.5Y7/1 ③還元焰 やや硬質	ロクロ成形。 外 胴下半~底部回転篋削り。(左回り)	
図50-14	土師器杯	完形 口 12.1 底丸底 高 3.5	7住No.59 (+9)	①微細砂、輝石を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 橙7.5Y R7/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。底部に指頭痕を残す。	底部黒斑。
図50-15	須恵器蓋	口縁部1/5残存	7住フク土	①微細砂を含む。 ②外 明黄褐10Y R7/6 内 灰N5/ ③還元焰 硬質	外 自然釉 調整不明。 内 撫で。(横後一部縦方向)	
図50-16	須恵器碗	口(16.2) 高(9.0)	7住フク土	①微細砂を含む。 ②外 灰10Y6/1 内 灰7.5Y6/1 ③還元焰	ロクロ成形。 外 自然釉 口唇部内傾する。	
図50-17	須恵器壺	胴部破片 胴(21.6)	7住フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰7.5Y1/5 ③還元焰 やや硬質	ロクロ成形。 外 不定方向撫で。肩部に沈線あり。	
図50-18	須恵器甕	胴部破片	7住フク土	①微細砂を含む。 ②外 灰7.5Y1/5 内 灰5Y1/6 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図50-19	須恵器甕	胴部破片	7住フク土	①微細砂を含む。 ②灰5Y1/6 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図51-1	土師器甕	1/2残存 口(23.0) 底(5.5) 高(29.5) 胴(21.6)	7住No.93 (0)	①微細砂を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 にぶい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で、指頭痕残す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後横撫で。指頭痕を残す。胴下半に接合痕有り。	上半部に黒斑、黒変、下半部赤変。一部煤付着。
図51-2	土師器甕	1/2残存 口(23.8) 底 6.1 高 29.9	7住No.80 (+4) カマド	①微細砂を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で、指頭痕残る。胴~底部篋削り。 内 口縁横撫で。胴~底部篋撫で後横撫で。	胴上半一部黒斑。胴下半部使用による赤変。
図51-3	土師器甕	口縁~胴部1/3残存 口 22.4 高(17.4)	7住No.95(+6) No.100(+2) カマド	①微細砂を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 にぶい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で、指頭痕、接合痕を残す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部は篋撫で後横撫で。	

2.古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図51-4	土師器 甕	完形 口 13.4 底 丸底 高 10.4	7住No.5 (+1)	①微細砂を含む。 ②外 褐灰5Y R4/1 内 橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部指撫で。指頭痕を明瞭に残す。	底部黒斑。 口～体部に使用による黒変、赤変有り。
図51-5	土師器 甕	口縁～頸部1/2残存 口 (15.4) 高 (5.5)	7住 No.10(-2) No.89(-7)	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後横撫で。頸部に浅い沈線状の撫でつけ痕。口唇部丸味を持ち外彎。	
図51-6	土師器 台付甕	台部残存 底 (9.3) 高 (4.1)	7住フク土	①微細砂、雲母、白色細粒物を含む。 ②にぶい赤褐5Y R4/3 ③酸化焰	外 胴～脚台部篋削り(胴縦、脚台部横方向)。裾～脚台部横撫で。 内 篋撫で後横撫で。脚台部との接合部に篋撫でが良く残る。	外面黒変。
図51-7	土師器 甕	2/3残存 口 (23.8) 底 6.0 高 30.3	7住No.94 (+8)	①微細砂を含む。 ②にぶい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕残す。胴～底部篋削り。(底部左回り) 内 口縁横撫で。胴篋撫で後横撫で。指頭痕を残す。	底～胴部赤斑、黒斑有り。底部黒変。胴下半部煤付着。
図51-8	土師器 甕	底部1/4残存 底 (5.8) 高 (1.3)	7住フク土	①微細砂を含む。 ②赤褐5Y R4/6 ③酸化焰	外 胴部篋削り。底部木葉痕有り。 内 篋撫で。	
図51-9	土製品 支脚	ほぼ完形 口 4.9 高 10.8	7住フク土	①微細砂を含む。 ②外 にぶい黄橙10Y R6/3 内 赤褐5Y R4/6 ③酸化焰 硬質	外 横撫で。 内 篋撫で。 下より2/3迄穿孔。	上端部赤変。
図52-1	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (16.0) 底 丸底 高 (3.2)	8住No.69 (+22)	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。指頭痕弱く残す。	黒変有り。
図52-2	土師器 杯	口縁～体部1/3残存 口 (15.0) 底 丸底 高 (4.5)	8住No.68 (-8)	①微細砂、石英、角閃石を含む。 ②外 橙2.5Y R6/6 内 橙5Y R7/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。指頭痕残す。	器面が荒れている。外面赤変。
図52-3	土師器 甕	口縁～頸部1/4残存 口 (20.0) 高 (6.6)	8住No.6 (+13)	①中砂、赤色細粒物を含む。 ②外 赤褐5Y R4/6 内 暗赤灰2.5Y R3/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	内面黒斑。
図52-4	土師器 長甕	底部～胴部2/3残存 底 5.8 高 (27.5)	8住No.59 (-7)	①中砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 篋削り。底部木葉痕有り。 内 篋撫で。指頭痕残す。	胴部下半に黒斑、赤変有り。内面に煤付着。
図52-5	土師器 鉢	口縁～体部1/5残存 口 (19.3) 高 (4.4)	8住No.4 (+19)	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。指頭痕残す。	黒変有り。
図52-6	土師器 杯	口縁～体部1/2残存 口 (10.5) 底 丸底 高 (2.7)	8住 No.47(-2) No.66(0)	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。	器面が荒れている。器形が歪んでいる。
図52-7	土師器 碗	口縁～体部上半破片 口 (12.0) 高 (5.4)	8住No.41 (+17)	①中砂を含む。 ②褐7.5Y R4/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部篋撫で後横撫で。	
図52-8	土師器 杯	口縁～体部2/5残存 口 (12.0) 高 (2.9)	8住 No.10(+16) No.14(+4)	①微細砂を含む。 ②明褐7.5Y R5/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。指頭痕残す。	赤斑有り。
図52-9	須恵器 蓋	口縁～体部破片 口 (15.0) 高 (1.3)	8住フク土	①白色細粒物を含む。 ②外 灰10Y 5/1 内 灰10Y 6/1 ③還元焰 やや軟質	ロクロ成形。	

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図52-10	土師器杯	3/4残存 口 10.8 底 丸底 高 4.0	9住No.10 (+3)	①赤色細粒物を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 内 横撫で。底部周辺に指頭痕弱く残す。	外面黒斑有り。
図52-11	土師器杯	口縁~底部1/2残存 口 (10.2) 底 丸底 高 (3.5)	9住No.1 (+1)	①赤色細粒物含む。 ②外 橙2.5Y R6/6 内 におい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 内 横撫で。底部周辺に弱く指頭痕残す。	
図52-12	土師器杯	口縁1/4~底部残存 口 (11.0) 底 丸底 高 4.2	9住No.13 (0)	①赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 内 口縁横撫で。底部篋撫で。	
図52-13	土師器杯	完形 口 12.0 底 丸底 高 4.7	9住No.21 (+2)	①赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。底部に指頭痕残す。	器面がかなり荒れている。
図52-14	土師器杯	2/3残存 口 12.4 底 丸底 高 4.8	9住No.142 (-2)	①赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部撫で。指頭痕残す。	器面が荒れている。
図52-15	土師器杯	ほぼ完形 口 13.5 底 丸底 高 5.0	9住フク土	①中砂を含む。 ②褐10Y R4/6 ③酸化焰 やや硬質	外 口縁横撫で。体~底部篋削り。 内 口縁横撫で。体~底部篋撫で。	黒斑有り。器面が荒れている。
図52-16	土師器杯	完形 口 10.7 底 丸底 高 3.8	9住No.28 (+1)	①微細砂を含む。 ②外 褐7.5Y R4/3 内 明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 内 口縁横撫で。底部篋撫で後横撫で。 底部周辺に指頭痕を弱く残す。	底部に黒斑有り。
図52-17	土師器杯	口縁1/8~底部1/2 残存 口 (12.9) 底 丸底 高 4.1	9住 No.12(+1) No.16(+8)	①微細砂を含む。 ②外 におい赤褐2.5Y R4/4 内 赤褐10R4/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 内 口縁横撫で。底部篋撫で後横撫で。 指頭痕残す。	外面黒斑有り。
図52-18	土師器杯	ほぼ完形 口 11.5 底 丸底 高 3.5	9住No.25 (+1)	①微細砂を含む。 ②外 橙7.5Y R7/6 内 におい黄橙10Y R7/2 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部撫で。周辺に指頭痕を残す。薄手。	内外面1/3黒変。器面がかなり荒れている。
図53-1	土師器杯	1/4残存 口 (12.5) 底 丸底 高 (5.0)	9住No.26 (+3)	①微細砂を含む。 ②外 灰褐5Y R4/2 内 黒褐5Y R2/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部横撫で後篋撫で。	内外面とも黒変。剥脱が顕著。
図53-2	土師器杯	完形 口 11.6 底 丸底 高 4.8	9住No.15 (-3)	①微細砂を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 内 横撫で後篋磨き。	外面黒斑有り。
図53-3	土師器杯	ほぼ完形 口 12.5 底 丸底 高 4.1	9住 No.98(-2) No.145(+4) フク土	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②赤褐5Y R4/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。(左←右) 口唇部外反する。(左←右)	器面が荒れている。
図53-4	土師器杯	ほぼ完形 口 15.0 底 丸底 高 5.0	9住No.143 (-10)	①赤色細粒物を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 褐5Y R4/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部篋撫で後横撫で。 周辺部に指頭痕を残す。	内面及び口縁の一部黒斑。器面が荒れている。
図53-5	土師器杯	口縁~底部5/6残存 口 13.7 底 丸底 高 5.6	9住No.140 (貯蔵穴内)	①中砂、5mm程の小石、石英を含む。 ②赤褐5Y R4/6 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。体~底部篋削り後篋磨き。 内 口縁横撫で。体~底部篋撫で後横撫で。底部に接合痕残す。	外面底部に黒斑有り。

2.古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図53—6	土師器杯	完形 口 16.7 底 丸底 高 5.8	9住No.139 (+2)	①微細砂を含む。 ②外 におい赤褐5Y R4/4 内 橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 内 横撫で。底部周辺に指頭痕残す。	外面に黒変有り。
図53—7	土師器鉢	口縁1/6～底部残存 口 (8.3) 底 5.0 高 5.4	9住フク土	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体下半部指撫で後横撫で。指頭痕を残す。底部撫で。 内 口縁横撫で。指頭痕残す。体～底部篋撫で。指頭痕残す。手捏。	口～体部上半黒変有り。
図53—8	土師器鉢	2/3残存	9住No.23 (+3)	①微細砂を含む。 ②褐7.5Y R4/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部指撫で。指頭痕を多く残す。底部篋削り後篋磨き。 内 口縁横撫で。体～底部刷毛目。	手捏ね。
図53—9	土師器鉢	3/5残存 口 (10.9) 底 6.0 高 4.8	9住No.27 (-2)	①中砂、4mm程の小石を含む。 ②灰褐5Y R4/2 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。指頭痕弱く残す。体部篋削り後篋撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で後横撫で。口縁との接合部に沈線状撫で付痕。	外面黒斑有り。
図53—10	土師器高杯	ほぼ完形 口 11.3 底 9.4 高 10.0	9住No.49 (-1)	①赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底～脚部篋削り。裾部横撫で。 内 坏部横撫で。底部に指頭圧痕残す。脚部篋撫で。	器面が非常に荒れている。
図53—11	土師器高杯	杯部下半～脚部 1/2残存 底 (9.2) 高 (9.0)	9住 No.34(-2) No.144(0)	①赤色細粒物を含む。 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③酸化焰	外 脚部篋磨き。裾部横撫で？。 内 篋撫で。	器面が非常に荒れている。
図53—12	土師器高杯	口縁～脚部上半 1/5残存 口 10.6 高 7.6	9住No.132 (+6)	①赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り後篋磨き。脚部篋磨き。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で。脚部篋撫で。	器面が荒れている。
図53—13	土師器鉢	完形 口 19.8 底 8.6 高 10.3	9住No.61 (貯蔵穴内)	①中砂を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で。大形。	体下半～底部黒変。火にかけている。
図53—14	土師器鉢	ほぼ完形 口 12.2 底 5.8 高 10.2	9住No.131 (0)	①中砂、5mm程の小石を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部撫で(篋、指)。指頭痕を多く残す。底部篋削り後篋撫で。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で。指頭痕を多く残す。底部接合痕有り。	内面に薄い黒変有り。
図53—15	土師器鉢	2/3残存 口 9.4 底 4.4 高 6.6	9住No.22 (+2)	①細砂、3mm程の小石を含む。 ②におい褐7.5Y R4/5 ③酸化焰	外 指撫で。指頭痕多く残す。口縁部に接合痕残す。底部撫で。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で。手捏。	
図54—1	土師器碗	ほぼ完形 口 13.1 底 6.5 高 9.0	9住 No.17(+2) No.18(+1)	①中砂を含む。 ②外 橙7.5Y R7/6 内 橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部指撫で。指頭痕多く残す。底部篋削り後一部篋磨き。 内 口縁横撫で。篋撫で。非常に厚手。接合痕を残す。	外面に黒変有り。
図54—2	土師器甕	1/3残存 口 (14.5) 底 6.2 高 12.0	9住 No.19(+4) No.52(+11)	①赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。頸部に指頭痕を弱く残す。体部篋削り。底部撫で。 内 口縁横撫で。胴～底部篋撫で後横撫で。指頭痕有り頸部に接合痕有り。	器面の剥脱が顕著。胴部外面黒斑有り。
図54—3	土師器甕	1/5残存 口 13.3 底 6.4 高 13.9	9住No.77 (+6)	①極粗砂、3mm程の小石を含む。 ②におい赤褐5Y R4/3 ③酸化焰	外 口縁縦撫で後横撫で。体部篋削り後撫で。上半部に指頭痕残す。底部篋削り。 内 口縁横撫で。胴～底部篋撫で。	器面が荒れている。
図54—4	土師器壺	口縁～胴部下位 残存 口 7.3 高 (7.5)	9住No.24 (+2)	①微細砂を含む。 ②におい橙5Y R7/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部指撫で。(横)	器面が荒れている。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図54-5	土師器 甌	2/3残存 口 (22.9) 底 9.3 高 27.9	9住No.97 (-4) フク土	①中砂を含む。 ②外 灰褐5Y R5/2 内 におい赤褐5Y R5/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。下半部のみ、その後篋磨き。	外面ほぼ対称的な位置に黒斑、赤斑有り。
図54-6	土師器 甌	口縁～胴部残存 口 23.0~21.0 高 22.0	9住 No.91(0) No.95(0)	①中砂、3mm程の小石を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 におい赤褐5Y R4/4 ③酸化焰 軟質	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	外面黒斑有り。 内面黒変有り。
図54-7	土師器 甌	口縁～底部1/4残存 口 (16.6) 底 6.0 高 21.5	9住 No.4(+1) No.98(-2) No.95(0)	①極粗砂、4mm程の小石を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰 軟質	外 口縁横撫で。胴部篋削り。底部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	黒斑有り。
図54-8	須恵器 甌	口縁部破片 口 (39.2) 高 (3.5)	9住No.72 (+5)	①緻密 ②灰7.5Y 6/1 ③還元焰	ロクロ成形。 外 口縁部に沈線二条。波状文(単位8本)	
図54-9	土師器 土製円板	完形 長さ 5.6 巾 4.8 厚さ 1.5	9住フク土	①粗砂を含む。 ②褐7.5Y R4/4 ③酸化焰	表 篋削り? 裏 不明	甌の胴部破片利用。風化が顕著。
図54-10	土製品 土玉	長さ 1.4 巾 1.2 厚さ 1.1	10住フク土	①微細砂を含む。 ②黒7.5Y R2/1 ③酸化焰	指撫で。指頭痕を良く残す。	穴の径は上2mm、下1.5mm、下の穴の形は瓢箪状。
図54-11	土師器 杯	口縁～体部1/6残存 口 (16.8) 高 (3.5)	10住No.75(-2) フク土	①微細砂を含む。 ②赤褐5Y R4/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り後篋磨き。 口縁との境に沈線状の撫で付け痕有り。 内 横撫で。	外面黒変有り。
図54-12	土師器 杯	体～底部1/5残存 底 丸底 高 (2.7)	10住No.84 (掘り方+15)	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②黄褐10Y R5/6 ③酸化焰	外 底部篋削り 内 横撫で。口縁との接合部に篋による撫で付痕有り。	器面が荒れている。
図54-13	土師器 杯	口縁～体部1/8残存 口 (11.2) 高 (1.7)	10住フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。	
図54-14	土師器 甌	口縁部破片 口 (20.6) 高 (4.5)	10住フク土	①粗砂を含む。 ②におい褐7.5Y R5/4 ③酸化焰	内外面とも横撫で。	器面が荒れている。
図54-15	土師器 甌	口縁部1/5残存 口 (17.2) 高 (5.2)	10住フク土	①粗砂、3mm程の小石を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部撫で。指頭痕残す。	器面が荒れている。
図54-16	土師器 甌	口縁部1/5残存 口 (12.1) 高 (4.4)	10住フク土	①極粗砂、小石を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部上位篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	器面が非常に荒れている。
図55-1	土師器 杯	1/2残存 口 13.4 底 丸底 高 5.1	11住 No.97(+6) No.139(+14) No.149(+10)	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部篋撫で後横撫で。 指頭痕残す。	器面が著しく摩滅。底部外面黒斑有り。
図55-2	土師器 杯	口縁～底部1/3残存 口 (13.6) 底 丸底 高 (4.1)	11住フク土	①微細砂、雲母、赤色細粒物を含む。 ②におい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部横撫で。指頭痕有り。口縁との接合部に撫で付痕有り。	
図55-3	土師器 杯	口縁～底部1/2残存 口 14.0 底 丸底 高 (4.5)	11住フク土	①細砂、小石を含む。 ②におい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で後一部縦撫で。底部篋削り。口縁との接合部に沈線状の撫で付痕有り。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で後横撫で。一部弱い指頭痕を残す。	器面摩滅。

2. 古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図55-4	土師器杯	口縁～体部1/4残存 口 (11.0) 高 (4.2)	11住No.10 (+13) フク土	①微細砂を含む。 ②暗赤褐5Y R 3/2 ③酸化焰 軟質	外 口唇部横撫で。口縁～体部篋撫で。 指頭痕残す。 内 口縁横撫で。体部篋撫で後横撫で。	
図55-5	土師器高杯	杯部1/5残存 口 (15.0) 高 (2.7)	11住フク土	①微細砂を含む。 ②外 におい橙5Y R 6/4 内 明赤褐5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 横撫で。口唇部肥厚し外彎する。	
図55-6	土師器高杯	杯部1/4残存 口 (20.0) 高 (2.8)	11住No.65 (+10)	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5Y R 6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。底部篋撫で。	
図55-7	土師器高杯	脚部下半1/4残存 底 16.0 高 5.5	11住No.160 (+6)	①赤色細粒物を含む。 ②におい橙7.5Y R 6/4 ③酸化焰	外 横撫で。指頭痕を明瞭に残す。 内 横撫で。接合部に指頭痕残す。	黒変有り。
図55-8	土師器甕	口縁～胴部上位 残存 口 16.9 高 (8.7)	11住 No.169(-7) No.132(+8)	①中砂、赤色細粒物を含む。 ②におい黄褐10Y R 5/2 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。指撫で。	黒変部分有り。
図55-9	土師器甕	口縁～胴部上位 1/5残存 口 (20.2) 高 (9.0)	11住No.59 (+10)	①粗砂、4mm程の小石を含む。 ②におい褐7.5Y R 5/4 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部撫で。指頭痕残す。接合痕有り。	黒変有り。
図55-10	土師器甕	口縁～胴部上位 1/4残存 口 (17.2) 高 (12.0) 胴 (16.2)	11住No.150 (+10) フク土	①粗砂、3mm程の小石に赤色細粒物を含む。 ②外 明赤褐5Y R 5/8 内 橙5Y R 6/6 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で、指頭痕残す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部撫で。指頭痕・接合痕残す。	
図55-11	土師器甕	口縁～胴部1/4残存 口 (15.4) 高 (12.3)	11住No.170 (+2)	①粗砂、4mm程の小石を含む。 ②橙2.5Y R 6/6 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。指頭痕残す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で、胴部篋撫で後横撫で。指頭痕残す。	
図55-12	土師器甕	胴部下位～底部 1/5残存 底 (7.0) 高 (6.8)	11住No.131 (+5)	①粗砂、4mm程の小石を含む。 ②外 におい褐7.5Y R 5/3 内 橙5Y R 6/6 ③酸化焰 やや軟質	外 胴部篋削り。底部木葉痕有り。 内 篋撫で、指頭痕有り。 造りが粗雑。	黒斑有り。
図55-13	土師器瓶	底部1/3残存 底 (5.0) 高 (3.5)	11住No.170 (+2)	①細砂、白色細粒物を含む。 ②浅黄橙10Y R 8/3 ③酸化焰	器面が荒れていて観察不可能。	
図55-14	土師器甕	胴部下位～底部 1/4残存 底 丸底 高 (6.1)	11住フク土	①細砂を含む。 ②外 赤褐5Y R 4/8 内 明褐7.5Y R 5/6 ③酸化焰	外 篋削り。 内 篋撫で。	黒変有り。
図56-1	土師器杯	2/3残存 口 13.0 底 丸底 高 4.2	12住 No.4(+8) No.6(+11)	①微細砂を含む。 ②外 橙5Y R 6/6 内 におい橙5Y R 7/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 横撫で。指頭痕弱く残す。	黒斑有り。 器面が摩滅。
図56-2	土師器甕	口縁～底部5/6残存 口 18.5 底 (8.0) 高 16.0	12住No.35 (-10)	①粗砂を含む。 ②におい褐7.5Y R 5/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。頸部横撫で後篋削り。 胴～底部篋削り。 内 口縁横撫で。胴～底部篋撫で。指頭痕を残す。	器面の荒れが顕著。外面に赤斑・黒斑有り。
図56-3	土師器鉢	口縁部1/3残存 口 (10.2) 高 (3.5)	12住 No.14(+6) No.15(+4)	①粗砂、赤色細粒物を含む。 ②外 赤褐10Y R 5/4 内 暗赤灰10Y 3/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り?。 内 口縁横撫で。体部篋撫で後撫で。	器面の剝脱が顕著。
図56-4	土師器鉢	口縁～体部3/4残存 口 (14.7) 高 (8.7)	12住No.36 (+3)	①中砂を含む。 ②明赤褐5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で後横撫で。	

Ⅱ 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図56-5	土師器鉢	口縁～体部上位破片 口 (25.7) 高 (7.6)	12住フク土	①粗砂を含む。 ②外 赤褐5Y R4/6 内 明褐7.5Y R5/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で弱く指頭痕残す。	外面黒斑有り。
図56-6	土師器甕	口縁部1/3残存 口 (21.0) 高 (6.5)	12住フク土	①極粗砂を含む。 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後撫で。	内外面に黒斑有り。
図56-7	土師器甕	口縁～胴部1/4残存 口 (17.2) 高 (8.1)	12住No.29 (+12)	①粗砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後撫で。	
図56-8	土師器長鉢	口縁～胴部上半1/2残存 口 16.0 高 (12.9)	12住 No.5(+28) No.28(+5) No.30(+7) No.32(+17)	①中砂を含む。 ②外 橙7.5Y R6/6 内 にぶい黄橙10Y R6/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕弱く残す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後撫で。	黒斑有り。
図56-9	土師器長鉢	口縁～底部1/3残存 口 (16.1) 底 5.2 高 25.0	12住 No.3(+30) No.26(+18) No.34(+5)	①粗砂を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 橙7.5Y R7/6 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。胴部篋削り。底部木葉痕有り。 内 口縁横撫で後横撫で。胴部篋撫で後撫で、胴下半部に接合痕有り。	両面黒変有り。
図56-10	土製品支脚	ほぼ完形 上端径 8.2 下端径 11.0 高 11.9	12住No.33 (+1)	①微細砂、輝石を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 上端部径1.5cmの穴有り、その周りを同心円状に指撫で。周辺部指撫で後篋撫で。体部指撫で。 内 下端部指撫で。穴径2cm。	穴は焼成前。外面に赤変有り。
図57-1	土師器杯	口縁～体部1/3残存 口 (12.2) 高 (3.1)	13住フク土	①微細砂、雲母、赤色細粒物を含む。 ②明褐7.5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。 薄で。	器面摩滅。
図57-2	土師器杯	口縁～体部2/5残存 口 (13.2) 高 (3.5)	13住 No.15(+8) No.18(+20)	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。指頭痕残す。	
図57-3	土師器甕	口縁～胴部上位1/4残存 口 (11.8) 高 (4.0)	13住No.5 (+17)	①中砂を含む。 ②外 明赤褐5Y R5/6 内 にぶい赤褐5Y R4/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	器面が荒れている。
図57-4	土師器鉢	1/4残存	13住No.6 (+1)	①微細砂を含む。 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。	黒斑有り。器面摩滅。
図57-5	土師器長鉢	胴部下半～底部残存 底 4.5 高 22.0	13住 No.12(+1) No.21(+2)	①粗砂を含む。 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③酸化焰	外 胴部篋削り。底部篋削り？ 内 篋撫で後指撫で。指頭痕・接合痕残す。	外面赤変有り。外面黒斑有り。
図57-6	須恵器甕	胴部破片	13住フク土	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰 やや軟質	外 叩き目。 内 青海波文。	
図57-7	土師器杯	口縁～底部破片 口 (10.4) 高 (2.2)	14住フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 横撫で。	器面が荒れている。
図57-8	土師器杯	口縁～体部破片 口 (12.5) 高 (2.3)	14住No.5 (+8)	①微細砂含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で？	外面黒変有り。
図57-9	土師器杯	口縁～底部1/5残存 口 (11.3) 底 丸底 高 (2.1)	14住フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。指頭痕弱く残す。	器面摩滅
図57-10	須恵器壺	口縁部破片 口 (10.2) 高 (1.8)	14住フク土	①緻密 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。外面自然軸が掛かる。	

2. 古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図57-11	土師器 甕	口縁部破片 口 (22.2) 高 (4.2)	14住フク土	①粗砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後撫で。	器面がかなり荒れている。
図58-1	須恵器 杯	ほぼ完形 口 12.7 底 5.9 高 3.9	15住 No. 84(+3) No.104(+11) フク土	①微細砂を含む。 ②黒褐7.5Y R3/1 ③還元焰	ロクロ成形。外面体部その後撫で。底部糸切り。	1/2赤変。器面が荒れている。 1/2口縁黒変。
図58-2	須恵器 椀	1/2残存 口 (14.0) 底 (5.8) 高 (4.9)	15住No.66 (+11) カマド	①微細砂を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 明赤褐5Y R5/6 ③還元焰	ロクロ成形。付け高台。接合時回転撫で付。中央部に糸切り痕を残す。	二次加熱赤変。
図58-3	須恵器 椀	ほぼ完形 口 13.5 底 6.0 高 5.7	15住No.12 (+4)	①微細砂を含む。 ②外 灰白10Y R7/2 内 灰白2.5Y 7/1 ③還元焰	ロクロ成形。付け高台。底部回転糸切り。高台接合時回転撫で付け。	外面体部黒変部有り。
図58-4	須恵器 椀	3/4残存 口 13.8 底 6.3 高 5.5	15住No.100 (-14) 貯蔵穴	①微細砂、輝石、雲母を含む。 ②灰5Y 4/1 ③還元焰 やや軟質	ロクロ成形。外面底部糸切り。付高台、接合部指撫で。	黒斑。
図58-5	須恵器 椀	ほぼ完形 口 13.4 底 6.0 高 5.8	15住No. 9 (+6)	①微細砂、輝石、雲母を含む。 ②褐灰7.5Y R3/1 ③還元焰	ロクロ成形。外面体部その後撫で。付け高台。底部高台接合時回転撫で付け。	黒斑有り。
図58-6	須恵器 杯	4/5残存 口 11.7 底 5.0 高 4.4	15住フク土 16住フク土	①微細砂を含む。 ②外 黒褐10Y R3/1 内 褐灰10Y R4/1 ③還元焰	ロクロ成形。底部回転糸切り。	器面が荒れている。 黒斑有り。
図58-7	須恵器 杯	1/2残存 口 14.4 底 6.0 高 6.1	15住No.59(0) カマド	①微細砂を含む。 ②外 灰7.5Y 5/1 内 灰白7.5Y 5/1 ③還元焰 やや軟質	ロクロ成形。外面底部右回転糸切り。体部との境に括れを有し底部が突出する。	黒斑有り。
図58-8	須恵器 杯	ほぼ完形 口 13.3 底 4.9 高 5.0	15住No.86 (+6)	①微細砂を含む。 ②外 ぶい黄橙10Y R7/3 内 ぶい黄橙10Y R7/4 ③還元焰 やや軟質	ロクロ成形。底部糸切り。	二次加熱を受け赤変。器面摩滅。
図58-9	灰釉陶器 壺	胴部下位～底部 底 8.5 高 (3.0)	15住No.25 (+1)	①緻密 ②灰白5Y 8/1 ③還元焰 硬質	外 胴部右回転篋削り。底部篋削り後高台接合時回転撫で付け。 内 ロクロ成形。 付高台。	
図59-1	土師器 甕	口縁～胴部1/2残存 口 13.8 高 10.6	15住カマド	①細砂を含む。 ②外 明赤褐2.5Y R5/8 内 橙2.5Y R6/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部刷毛目、一部撫で。指頭痕を残す。	外面一部黒変。
図59-2	土師器 台付甕	胴部下位～脚台部 底 6.1 高 (4.0)	15住No.10 (+6)	①微細砂、輝石、石英を含む。 ②灰赤2.5Y R4/2 ③酸化焰	外 胴下部篋削り。脚部横撫で。 内 篋撫で後撫で。	
図59-3	土師器 甕	口縁～胴部2/3残存 口 (20.2) 高 (23.5)	15住 No.73(+15) No.74(0) カマド	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。口唇部沈線。頸部に指頭痕を残す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後撫で。頸部に指頭痕を残す。接合痕有り。	内面胴部黒変有り。
図59-4	土師器 甕	3/4残存 口 19.4 底 4.8 高 26.6	15住貯蔵穴 No.55(+6) No.56(-4) No.88(-4)	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②外 褐7.5Y R4/4 内 明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。口唇部に沈線。頸部に指頭痕弱く残す。胴～底部篋削り。 内 口縁横撫で。 胴～底部篋撫で後撫で。頸部と胴中央部に接合痕有り。	外面黒斑・黒変有り。

Ⅱ 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図59-5	須恵器 羽釜	口縁～胴部上半 1/6残存 口 (21.2) 高 (13.5)	15住 No.15(+14) No.51(+1) No.57(+3)	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③還元焰	外 口縁横撫で。胴部横撫で後一部撫で。 内 横撫で。	二次加熱で赤変。
図59-6	須恵器 羽釜	口縁～胴部1/4残存 口 (20.3) 高 (15.1)	15住 No.69(+4) No.72(+6)	①細砂、白色細粒物を含む。 ②灰白7.5Y7/ ③還元焰	外 口縁横撫で。胴上半部横撫で後鋭削り。胴下半部鋭削り。 内 口縁横撫で。胴部横撫で後一部鋭撫で。	二次加熱で一部赤変。
図59-7	須恵器 羽釜	口縁～胴部上位 1/3残存 口 (18.4) 高 (10.8)	15住カマド No.70(+16) No.91(-6) No.92(-6)	①微細砂を含む。 ②外 灰黄2.5Y7/2 内 灰白2.5Y8/2 ③還元焰	外 口縁横撫で。胴部横撫で後撫で。 内 横撫で、接合痕有り。	黒変・赤変有り。
図59-8	須恵器 甌	口縁～胴部1/3残存 口 (24.4) 高 (30.0) 胴 (24.0)	15住 No.1(+7) No.85(+6)	①細砂を含む。 ②灰白7.5Y8/1 ③還元焰	外 口縁横撫で。胴上半部鋭削り後横撫で。胴下半部鋭削り。 内 口縁横撫で。胴部指撫で。(横方向)接合痕を残す。箕子受け凹み有り。	外面黒斑・赤斑有り。
図59-9	須恵器 甌	胴部下位～底部 1/6残存 底 (24.2) 高 (13.3)	15住No.28 (+3)	①微細砂、石英を含む。 ②外 にぶい褐7.5Y R6/3 内 灰黄褐10Y R6/2 ③還元焰	外 胴中央部横撫で後縦鋭撫で。胴下部横撫で後鋭削り。下端部に指頭圧痕を残す。裾部横撫で。 内 胴部鋭撫で。裾部横撫で。箕子受け凹み有り。	胴下部黒斑有り。
図60-1	土師器 杯	口縁～底部1/4残存 口 (11.8) 底 丸底 高 (3.4)	16住フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部鋭削り。 内 横撫で。指頭痕を残す。	器面摩滅。
図60-2	土師器 杯	1/4残存 口 (11.7) 底 丸底 高 (3.3)	16住フク土	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部鋭削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。指頭痕を残す。	
図60-3	土師器 杯	1/4残存 口 (11.2) 高 3.6	16住フク土	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部鋭削り。 内 口縁横撫で。体～底部鋭撫で後撫で。指頭痕残す。	
図60-4	須恵器 甕	底部1/6残存	16住フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰白N7/ ③還元焰	外 叩き目。 内 ロクロ成形。	
図60-5	土師器 甕	胴部下位～底部 1/4残存 底 (7.4) 高 (11.0)	16住フク土	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②外 灰黄褐10Y R5/2 内 黒10Y R2/1 ③酸化焰	外 胴部鋭削り。指頭痕を残す。底部鋭削り。 内 鋭撫で。	
図60-6	土師器 甕	口縁部破片 口 (20.2) 高 (3.9)	16住No.6 (+2)	①細砂、輝石を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。接合痕・指頭痕残す。 内 口縁横撫で。	
図60-7	須恵器 甕	頸部破片 頸 (23.6)	16住フク土	①微細砂を含む。 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③還元焰	外 口縁ロクロ成形。頸部叩き目。 内 ロクロ成形後一部指撫で。指頭痕残す。	
図60-8	土師器 杯	口縁～体部1/3残存 口 (13.6) 底 丸底 高 (2.9)	17住フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②外 にぶい橙5Y R6/4 内 にぶい橙5Y R7/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部鋭削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。指頭痕多く残す。	
図60-9	土師器 杯	3/4残存 口 12.5 底 丸底 高 3.4	17住No.19 (+21)	①微細砂、輝石、石英を含む。 ②外 にぶい橙7.5Y R7/4 内 褐灰7.5Y R5/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部鋭削り。接合痕有り。 内 口縁横撫で。体～底部鋭撫で後撫で、指頭痕を多く残す。	口縁黒変有り。
図60-10	須恵器 杯	1/2残存 口 13.6 底 7.2 高 3.9	17住No.18 (+8)	①緻密 ②外 灰白N7/ 内 灰白N8/ ③還元焰 硬質	ロクロ成形。外面底部右回転糸切り後周辺部右回転調整。	

2.古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図60-11	須恵器 蓋	3/4残存 口 17.7 高 4.2	17住No.9(+1) 16住フク土	①緻密 ②外 灰白10Y8/1 内 灰7.5Y6/1 ③還元焰 硬質	外 口縁体部ロクロ成形。天井部右回 転斲削り。摘み右回転斲削り後撫で。 内 ロクロ成形。口縁外面に沈線を有 する。	
図60-12	土師器 甕	口縁部1/5残存 口 24.6 高 8.2	17住No.24 (+6)	①細砂、輝石を含む。 ②外 橙5Y R6/8 内 明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。接合痕有り。指頭痕 多く残す。胴部斲削り。 内 口縁横撫で。胴部斲撫で。	
図60-13	土師器 甕	底部1/2残存 底 5.0 高 (4.4)	17住カマド	①細砂、輝石を含む。 ②外 橙2.5Y R6/6 内 しぶい赤褐2.5Y R 5/4 ③酸化焰	外 胴部下位～底部斲削り。 内 斲撫で。	
図60-14	須恵器 甕	口縁部破片	17住No.13 (+22)	①白色細粒物を含む。 ②灰 7.5Y R6/1 ③還元焰	外 頸部ロクロ成形後撫で。波状文(単 位5本)、指頭痕を残す。 内 ロクロ成形。括れ部斲撫で。	
図61-1	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (12.2) 高 (3.0)	18住フク土	①微細砂を含む。 ②外 暗赤褐5Y R3/2 内 黒褐5Y R2/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部斲削り。 内 口縁横撫で。体～底部横撫で後斲 磨き。	
図61-2	須恵器 蓋	天井部1/6残存 高 (2.2)	18住フク土	①細砂を含む。 ②灰白10Y7/1 ③還元焰	外 天井部右回転斲削り。体部ロクロ 成形。 内 ロクロ成形。	
図61-3	土師器 甕	口縁～頸部1/4残存 口 (12.0) 高 (4.5)	18住フク土	①細砂を含む。 ②外 しぶい赤褐5Y R5/4 内 橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部斲削り。 内 口縁横撫で。胴部斲撫で。	内面黒変・赤変 部分有り。
図61-4	土師器 杯	口縁～底部1/2残存 口 (11.6) 底 丸底 高 (4.1)	19住No.74 (貯蔵穴内)	①細砂、3mm程の小石を含 む。 ②外 灰褐5Y R5/2 内 橙5Y R6/6 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。指頭痕残す。底部斲 削り後斲磨き。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。口縁 との接合部に指による撫で付痕有り。	器面が荒れている。
図61-5	土師器 杯	口縁～体部1/3残存 口 (11.4) 底 丸底 高 (3.2)	19住フク土	①微細砂、赤色細粒物を含 む。 ②外 明褐7.5Y R5/6 内 明赤褐7.5Y R5/6 ③酸化焰 軟質	外 口縁横撫で。底部斲削り。 内 口縁横撫で。体～底部斲撫で後撫 で。指頭痕を残す。	黒斑有り。
図61-6	土師器 杯	口縁～体部1/4残存 口 (11.0) 高 (3.2)	19住No.7 (-1)	①微細砂を含む。 ②黒褐10Y R3/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部斲削り後斲 磨き。 内 横撫で。体～底部に指頭痕有り。	
図61-7	土師器 高杯	杯部1/4残存 口 (17.8) 高 (3.6)	19住No.9 (+2)	①細砂、輝石を含む。 ②しぶい赤褐5Y R5/4 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。指頭痕弱く残す。杯 底部斲削り。 内 口縁横撫で。体～底部斲撫で後撫 で。指頭痕を残す。	
図61-8	土師器 高杯	脚部上半残存 高 (5.5)	19住No.17 (0)	①微細砂を含む。 ②外 胴赤褐5Y R5/6 内 橙2.5Y R6/8 ③酸化焰	外 脚外面斲削り後斲磨き。脚内面斲 撫で。 内 斲撫で?	器面摩滅。
図61-9	土師器 高杯	杯部下半～脚部 上半1/6残存 高 (8.5)	19住No.67 (+2)	①細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 脚部斲磨き。脚内面斲撫で。	器面が荒れ観察 が困難。
図61-10	土師器 甕	胴部中位1/2残存 胴 (15.9)	19住フク土	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②外 しぶい褐7.5Y R5/4 内 灰褐7.5Y R4/2 ③酸化焰	外 胴部斲削り後一部斲磨き。 内 斲撫で、指頭痕を残す。接合痕有 り。	
図61-11	土師器 甕	胴部下位～底部 1/5残存 底 (5.3) 高 (4.0)	19住掘り方	①細砂を含む。 ②外 暗赤灰2.5Y R3/1 内 しぶい赤褐2.5Y R 5/4 ③酸化焰 軟質	外 胴下部指撫で後斲磨き。底部斲削 り後斲撫で。 内 斲撫で。	黒変有り。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図61-12	土師器 甕	口縁～胴部上位 1/4残存 口 (11.2) 高 (5.7)	19住掘り方	①細砂を含む。 ②橙5Y R 6/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋で。接合痕・指頭痕残す。	器面摩滅。
図61-13	土師器 甕	口縁～胴部上位 1/7残存 口 (15.2) 高 (9.5)	19住No.16 フク土 (0)	①粗砂を含む。 ②明赤褐5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り後篋磨き。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	
図61-14	土師器 長甕	胴部下半1/5と底 部残存 底 7.0 高 (19.5)	19住フク土	①極粗砂、雲母を含む。 ②外 褐7.5Y R 4/3 内 褐7.5Y R 4/6 ③酸化焰	外 篋削り。 内 篋撫で後撫で。接合痕有り。	黒変(煤付着)。
図62-1	土師器 杯	口縁部破片 口 (16.4) 高 (3.0)	20住フク土	①微細砂、雲母を含む。 ②外 暗赤褐5Y R 3/2 内 橙5Y R 6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。 内 横撫で。	
図62-2	土師器 杯	1/4残存 口 (11.8) 高 (3.6)	21住No.21 (- 5)	①微細砂、輝石を含む。 ②橙5Y R 6/6 ③酸化焰 やや硬質	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で、指頭痕残す。	器面摩滅。
図62-3	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (11.7) 高 (3.3)	21住フク土	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。	
図62-4	土師器 杯	口縁～体部1/5残存 口 10.6 底 丸底 高 (2.4)	21住フク土	①微細砂を含む。 ②明褐7.5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で、指頭痕を残す。	外面に黒変有り。
図62-5	土師器 杯	ほぼ完形 口 10.6 底 丸底 高 3.3	21住No. 1 (- 4)	①微細砂、輝石、石英を含む。 ②橙5Y R 6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で、指頭痕多く残す。	底部外面黒斑有り。
図62-6	土師器 杯	口縁～体部1/5残存 口 (13.0) 底 丸底 高 (2.9)	21住No.21 (- 5)	①微細砂、輝石を含む。 ②明赤褐5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部篋撫で後撫で。指頭痕残す。	二次加熱を受け一部赤変。
図62-7	須恵器 台付杯	口縁～体部破片 口 (15.6) 底 (9.4) 高 (3.3)	21住フク土	①緻密 ②灰5Y 5/1 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。付け高台。	外面に自然釉。
図62-8	土師器 甕	口縁部破片 口 (20.0) 高 (5.9)	21住フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R 6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋削り。	器面摩滅。
図62-9	須恵器 甕	胴部破片	21住フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰白7.5Y 7/1 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図62-10	須恵器 甕	胴部破片	21住フク土	①白・黒色細粒物を含む。 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③還元焰 硬質	外 叩き目。 内 青海波文。	
図62-11	土製品 土玉	完形 長 1.4 幅 1.3 厚 1.2	21住フク土	①微細砂を微量含む。 ②黒褐7.5Y R 3/1 ③酸化焰	指撫で、指頭痕を良く残す。	中心の穴の径 1.5mm×2.0mm。 方向下→上、焼成前穿孔。
図62-12	須恵器 甕	胴部破片	22住フク土	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y 1/4 ③還元焰 硬質	外 不明。 内 青海波文。	外面に自然釉。
図62-13	須恵器 杯	口縁部破片 口 (11.9) 高 (2.3)	22住フク土	①緻密 ②灰7.5Y 6/1 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。 薄手。	

2. 古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図62-14	土師器杯	口縁～体部1/6残存 口(11.5) 高(3.0)	22住フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。	器面摩滅。
図62-15	土師器杯	口縁～底部1/4残存 口(10.8) 高(2.4)	22住フク土	①微細砂、石英を含む。 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 横撫で。体～底部指頭痕残す。	一部黒変。
図62-16	土師器皿	口縁～体部1/3残存 口(15.2) 高(3.1)	22住 No.44(+9) No.45(-6)	①微細砂、輝石を含む。 ②明褐7.5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。指頭痕残す。	器面が荒れている。
図62-17	土師器杯	口縁～体部1/3残存 口(11.9) 高(3.4)	22住No.24 (+6)	①微細砂、石英、輝石を含む。 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。指頭痕弱く残す。	器面摩滅。外面黒斑有り。
図62-18	土師器甕	胴部下位～底部 1/3残存 底(5.8) 高(10.1)	22住No.43 (-2)	①細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 胴部篋削り。底部木葉痕有り。 内 篋撫で。指頭痕有り。	二次加熱を受け赤変・黒変有り。
図62-19	土師器甕	口縁部破片 口(17.4)	22住No.22 (+8)	①細砂を含む。 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後撫で。 接合痕有り。	
図62-20	土師器甕	口縁部破片 口(18.8) 高(4.2)	22住フク土	①白色細粒物、石英を含む。 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 横撫で。 口唇部外撃する。	
図62-21	土師器甕	口縁部破片 口(21.2) 高(3.2)	22住No.42 (-1)	①細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。頸部に指頭痕残す。 内 横撫で。	
図63-1	土師器杯	口縁部破片	24住No.16 (0)	①中砂を含む。 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	
図63-2	土師器杯	口縁～体部1/5残存 口(12.6) 高(4.1)	24住フク土	①微細砂を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 横撫で。	二次加熱を受け赤変・黒変。器面摩滅。
図63-3	土師器甕	口縁部破片 口(16.0) 高(2.7)	24住フク土	①粗砂を含む。 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。 内 横撫で。 口唇部に沈線状の凹みを有する	
図63-4	須恵器羽釜	口縁部破片 口(20.0) 高(4.5)	24住フク土	①微細砂を含む。 ②灰白10Y 7/1 ③還元焰	ロクロ成形。	
図63-5	土師器甕	胴部～底部1/6残存 底(7.4)	24住フク土	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 胴下半部篋削り。底部篋削り後篋撫で。 内 胴部横撫で。底部との接合部に指による撫で付け痕有り。	
図63-6	土師器甕	底部1/3残存 底(6.0) 高(3.0)	24住No.15 (+2)	①細砂を含む。 ②褐7.5Y R4/4 ③酸化焰	外 胴下部篋削り後撫で。底部木葉痕有り。 内 篋撫で。	底部に黒斑有り。
図63-7	土師器甕	底部破片	24住No.9 (+1)	①中砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰 やや軟質	外 篋削り。 内 篋撫で。穴は焼成前、方向外→内。	器面の剥脱が顕著。内面黒変有り。
図63-8	土製品羽口	ほぼ完形 長 10.0 幅 8.0	24住No.16 (0)	①微細砂を含む。 ②橙2.5Y R6/8 ③酸化焰	外 篋撫で。 内 撫で。 穴の径5.0×5.5cm送入口2.5×2cm。 送入口の部分に鉄分附着。	
図63-9	須恵器甕	胴部破片	24住フク土	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y 5/1 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図63-10	須恵器羽釜	胴部破片	24住フク土	①微細砂を含む。 ②灰10Y 5/1 ③還元焰	外 篋削り後回転横撫で。その後一部撫で。 内 回転横撫で後一部篋撫で。その後一部撫で。	

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図63-11	土師器杯	口縁～体部破片 口 (15.3) 高 (2.4)	25住No. 1 (+21)	①細砂、小石、雲母を含む。 ②外 におい橙5Y R7/4 内 におい橙7.5Y R7/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	器面摩滅。
図63-12	土師器甕	頸部破片 高 (4.2) 頸 (17.5)	25住掘り方 フク土	①細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 横撫で。	
図63-13	須恵器甕	口縁部破片	25住フク土	①緻密 ②におい黄橙10Y R6/3 ③還元焰	ロクロ成形。	
図64-1	土師器杯	口縁～体部1/4残存 口 (12.0) 高 (3.3)	1溝フク土	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R7/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。稜が比較的明瞭。 内 口縁横撫で。底部撫で、指頭痕残す。	器面摩滅。外面赤斑有り。
図64-2	須恵器蓋	口縁～天井部3/4 残存 口 (12.8) 高 (4.0)	1溝フク土	①白・黒色細粒物を含む。 ②外 灰7.5Y 6/1 内 灰白10Y 7/ ③還元焰	外 口縁～体部横撫で。天井部右回転 篋削り後撫で。 内 ロクロ成形。	
図64-3	土師器杯	口縁～体部1/4残存 口 (11.0) 高 (4.6)	1溝フク土	①中砂、赤色細粒物を含む。 ②におい橙7.5Y R7/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。腰部明瞭。体部篋削り。 内 横撫で。体部に指頭痕残す。	
図64-4	土師器鉢	口縁～底部1/5残存 口 (11.0) 底 (6.0) 高 (5.3)	1溝No.65 (+25) フク土	①細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰 硬質	外 口縁～体部篋撫で後指撫で。底部木葉痕有り。 内 口縁～体部指撫で。底部篋撫で後指撫で。手捏。	底部黒変。
図64-5	土師器杯	口縁～底部1/5残存 口 (13.2) 底丸底 高 (4.6)	1溝No.99 (+18)	①微細砂を含む。 ②におい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り後篋磨き。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。	底部黒変。
図64-6	土師器鉢	口縁～体部1/4残存 口 5.8 高 3.5	1溝フク土	①粗砂、輝石を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰 やや軟質	外 指撫で、指頭痕残す。 内 篋撫で。 手捏。	
図64-7	土師器高杯	脚部上位残存 高 (4.3)	1溝フク土	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 脚部篋削り、脚部内面篋撫で。	器面摩滅。
図64-8	土師器甕	ほぼ完形 口 13.3 底 6.8 高 16.6	1溝No.86 (-8)	①粗砂を含む。 ②外 橙5Y R6/6 内 橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴～底部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。底部に接合痕残す。	外面黒斑有り。使用により赤変。
図64-9	土師器甕	頸部～体部下位 1/3残存 高 (20.5) 胴 (30.5)	1溝 No.69(+30) No.99(+18)	①細砂、3mm程の小石を含む。 ②におい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 胴部篋削り後篋磨き。 内 篋撫で。接合痕有り。	外面黒斑有り。器面摩滅。
図64-10	須恵器蓋	天井部～口縁破片 口 (13.1) 高 (3.0)	1溝No.31 (+27)	①白・黒色細粒物を含む。 ②灰10Y 6/1 ③還元焰 硬質	外 口縁～体部ロクロ成形。天井部右 回転篋削り。摘み欠損。 内 ロクロ成形。口縁～返り部接合後 撫で付け。	
図64-11	須恵器高杯	脚部上半残存 高 (6.5)	1溝No.101 (+9)	①緻密 ②灰10Y 6/1 ③還元焰 硬質	外 杯部右回転篋削り。脚部ロクロ成 形。脚部内面ロクロ成形。 内 篋撫で。	外面自然釉。
図64-12	須恵器罌	体部破片 底丸底 高 (3.7)	1溝フク土	①緻密 ②灰N5/ ③還元焰 硬質	外 体部列点状刺突文有り。その下に 一条の沈線が巡る。体部下半～底部 篋削り後撫で。 内 ロクロ成形	
図64-13	須恵器甕	口縁部破片 口 (17.5) 高 (1.7)	1溝フク土	①微細砂を含む。 ②におい赤褐5Y R4/3 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。外面波状文有り。	17に類似。

2. 古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図64-14	須恵器壺	口縁部1/3残存 高(5.0)	1溝フク土	①白・黒色細粒物を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰	ロクロ成形。 外面波状文。	
図64-15	須恵器甕	底部破片 高(3.9)	1溝フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰白色N7/ ③還元焰 硬質	外 カキ目。 内 ロクロ成形。	
図64-16	須恵器甕	口縁部破片	1溝フク土	①白色細粒物を含む。 ②褐灰10Y R4/1 ③還元焰 硬質	外 横撫で。頸部波状文。(単位6本) 内 篋撫で後撫で。	外面自然釉。
図64-17	須恵器甕	頸部破片 口(17.8) 高(1.8)	1溝フク土	①白色細粒物を含む。 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③還元焰	外 ロクロ成形。波状文。(単位6本) 内 ロクロ成形後縦撫で。	
図64-18	須恵器甕	口縁部破片	1溝フク土	①細砂を含む。 ②外 褐灰10Y R4/1 内 暗灰黄2.5Y5/2 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。外面その後波状文を施文。 (単位15本)	
図65-1	土師器甕	口縁～胴部上位 1/3残存 口(26.8) 高(11.3)	1溝No.43 (+28) フク土	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り? 内 口縁横撫で。胴部篋撫で?	器面非常に摩滅 して整形不 明。
図65-2	土師器甕	底部1/3残存 底(4.4) 高(4.9)	1溝No.12 (+30)	①中砂を含む。 ②外 黒5Y R1.7/1 内 明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 篋削り。 内 篋撫で。	外面黒斑。
図65-3	土師器甕	胴部下位～底部 底(4.4) 高(3.6)	1溝フク土	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②外 橙7.5Y R7/6 内 黒褐7.5Y R3/1 ③酸化焰	外 胴部下位篋削り。底部無調整。 内 撫で。	内面・外面黒斑 有り。
図65-4	土師器甕	胴部下位～底部 底 8.5 高(3.5)	1溝 No.63(+22) No.71(+17)	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 胴下部篋削り。	器面が非常に摩 滅している。
図65-5	土師器甕	底部残存 底(8.1) 高(2.1)	1溝 No.20(+33) No.22(+27)	①細砂、輝石を含む。 ②外 黒10Y R1.7/ 内 橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 胴下部篋撫で。底部木葉痕有り。 内 撫で。	外面黒斑。
図65-6	土師器甕	胴部下位～底部 1/4残存 底(9.7) 高(1.9)	1溝フク土	①中砂、3mm程の小石を含 む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 胴部下位篋削り。底部木葉痕有り。 内 篋撫で。	黒斑有り。
図65-7	土師器甕	底部1/4残存 底(8.8) 高(2.3)	1溝フク土	①中砂、4mm程の小石を含む。 ②明褐7.5Y R5/6 ③酸化焰	外 胴部下位篋削り。底部木葉痕有り。 内 篋撫で。	
図65-8	土師器 土製円板	完形 長 5.0 幅 4.6 厚 0.9	1溝フク土	①中砂、赤色細粒物を含む。 ②褐7.5Y R4/3 ③酸化焰	外 篋削り。 内 篋撫で。周辺部打欠成形。	甕胴部破片転 用。
図65-9	須恵器甕	底部破片	1溝No.84 (+28)	①細砂を含む。 ②灰白N7/ ③還元焰	外 篋撫で。 内 撫で。	外面摩滅面有 り。
図65-10	須恵器瓶	胴部破片	1溝フク土	①微細砂を含む。 ②灰7.5Y R6/1 ③還元焰	外 同心円状のカキ目。 内 指撫で、接合痕を明瞭に残す。	
図65-11	須恵器甕	胴部破片	1溝No.67 (+29) フク土	①黒色細粒物を含む。 ②灰10Y4/1 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図65-12	須恵器甕	胴部破片	1溝No.57 (+42) フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰N4/ ③還元焰 硬質	外 叩き目。 内 青海波文後篋撫で。(横方向)	

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図65-13	平瓦	側縁部破片 長(8.5) 幅(9.5) 厚(1.8)	1溝No.60 (+38) フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰10Y6/1 ③還元焰	外 撫で。縁辺部篋削り。 内 布目後擦り消し。	
図66-1	土師器鉢	口縁~体部上位 1/4残存 口(8.5) 高(3.0)	2溝フク土	①輝石、赤色細粒物を含む。 ②外 明赤褐2.5Y R5/6 内 におい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁指撫で。 内 口縁指撫で。 手捏。	
図66-2	土師器甕	底部1/4残存 底(8.6) 高(1.7)	2溝フク土	①細砂を含む。 ②外 におい橙7.8Y R6/4 内 明褐7.5Y R5/6 ③酸化焰 硬質	外 胴下部篋削り。底部無調整。 内 篋撫で。	外面黒斑有り。
図66-3	土師器甕	底部1/4残存 底(8.4) 高(1.7)	2溝フク土	①中砂、雲母、輝石を含む。 ②赤褐5Y R4/6 ③酸化焰	外 胴下部篋削り。底部木葉痕有り。 内 撫で?	器面摩滅。
図66-4	須恵器甕	胴部破片	2溝フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰黄2.5Y6/2 ③還元焰 硬質	外 撫で。 内 青海波文。	
図66-5	須恵器甕	胴部破片	2溝フク土	①微細砂を含む。 ②灰N5/ ③還元焰 硬質	外 叩き目。 内 青海波文。	
図66-6	土師器鉢	1/3残存 口(6.0) 底 4.4 高 5.0	3溝フク土	①細砂、輝石を含む。 ②外 赤褐2.5Y R4/6 内 明赤褐2.5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁~体部指撫で。底部篋削り後 篋磨き。 内 指撫で。 手捏。	外面黒斑有り。
図66-7	土師器甕	底部1/3残存 底(5.0) 高(1.8)	3溝フク土	①細砂、輝石を含む。 ②褐7.5Y R4/3 ③酸化焰	外 胴下部篋削り後撫で。底部篋削り。 内 指撫で。	
図66-8	土師器甕	口縁~頸部破片。 口(21.0) 高(5.0)	3溝フク土	①中砂、3mm程の小石を含む。 ②におい橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。指頭痕 を明瞭に残す。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で後撫で。	
図66-9	土師器杯	口縁部破片 口(14.0) 高(2.3)	1土坑フク土	①微細砂を含む。 ②橙7.5Y R7/6 ③還元焰	外 回転横撫で。 内 回転横撫で。	
図66-10	土師器杯	口縁部破片 口(14.2) 高(2.8)	2土坑No.7 (+20)	①微細砂を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③還元焰	ロクロ成形。	器面摩滅。
図66-11	須恵器杯	口縁~底部破片 口(13.8) 底(7.0) 高(4.0)	2土坑No.2 (+6)	①微細砂を含む。 ②におい黄橙10Y R6/3 ③還元焰 軟質	右回転ロクロ成形。外面体部下半その 後撫で。	黒斑有り。
図66-12	須恵器碗	体部下位1/5残存 高(1.7)	2土坑No.4 (+12.5)	①中砂を含む。 ②赤褐5Y R4/6 ③還元焰 軟質	ロクロ成形。 外 底部中央糸切り痕有り。高台欠損。	
図66-13	須恵器羽釜	口縁~胴部破片 口(21.6) 高(12.6)	2土坑 No.5(+17.5) No.6(+17)	①微細砂を含む。 ②外 灰白N8/ 内 におい黄橙10Y R7/2 ③還元焰	ロクロ成形。	
図66-14	土師器杯	1/4残存 口(11.8) 底 丸底 高(3.1)	3土坑No.1 (+5)	①微細砂、石英、輝石を含む。 ②外 におい橙5Y R6/3 内 褐灰5Y R4/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体~底部篋削り。 内 口縁横撫で。体~底部撫で。指頭 痕弱く残す。	器面摩滅。赤 変・黒変有り。
図66-15	土師器杯	口縁部破片 口(16.0) 高(1.8)	3土坑フク土	①微細砂、石英を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。	器面摩滅。
図66-16	土師器甕	口縁~頸部1/4残存 口(25.8) 高(5.6)	3土坑No.2 (+6.5)	①細砂、輝石を含む。 ②におい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕・接合痕残す。 胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	

2.古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図66-17	土師器 甕	底部1/4残存 底(7.0) 高(1.8)	3土坑フク土	①細砂、小石を含む。 ②明褐7.5Y R5/6 ③酸化焰	外 胴下部匏削り後匏磨き。底部匏撫で。 内 匏撫で。	黒斑有り。
図66-18	須恵器 杯	底部破片 底(7.0)	3土坑フク土	①緻密 ②灰白N7/ ③還元焰	ロクロ成形。外面底部右回転匏削り。	
図66-19	土師器 甕	口縁部破片	6土坑フク土	①細砂、輝石、白色細粒物を含む。 ②褐灰7.5Y R5/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。 内 横撫で。	
図67-1	土師器 杯	口縁～体部破片 高(3.0)	P2フク土	①赤色細粒物を含む。 ②外 におい赤褐2.5Y R5/4 内 灰赤2.5Y R4/2 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部匏削り。 内 横撫で。	
図67-2	須恵器 甕	胴部破片	P2 No.2 (+15)	①白色細粒物を含む。 ②黄灰2.5Y5/1 ③還元焰 硬質	外 叩き目。 内 青海波文。	
図67-3	須恵器 甕	胴部破片	P2フク土	①微細砂を含む。 ②灰白7.5Y7/1 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図67-4	土師器 甕	口縁部破片 高(4.6) 頸(20.0)	P3フク土	①細砂、輝石を含む。 ②明赤褐5Y R5/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部匏削り。 内 口縁横撫で。胴部匏撫で。	
図67-5	須恵器 甕	胴部破片	P6フク土	①微細砂を含む。 ②外 灰白10Y7/1 内 灰10Y5/1 ③還元焰 やや軟質	外 叩き目。 内 青海波文後撫で。	
図67-6	土師器 杯	口縁～体部破片 口(11.6) 高(2.5)	P14、15 フク土	①微細砂、輝石、石英を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部匏削り。 内 撫で。	器面摩滅。口唇部欠損。
図67-7	土師器 杯	口縁～体部1/5残存 口(14.0) 高(3.0)	P20フク土	①微細砂を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部匏削り。 内 横撫で。指頭痕弱く残す。	器面摩滅。
図67-8	土師器 杯	口縁～体部破片 口(12.0) 高(2.0)	P24フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②橙5Y R7/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。 内 口縁横撫で。 口唇部内傾する。	器面摩滅。
図67-9	土師器 甕	体部下位～底部破片 底(6.0) 高(4.5)	P25フク土	①粗砂を含む。 ②におい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 胴下部匏削り。 内 匏撫で。	器面の剥脱が顕著。
図67-10	土師器 杯	口縁部破片 口(12.8)	P26フク土	①細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部匏削り。 内 横撫で。	器面摩滅。
図67-11	土師器 甕	頸部破片 高(3.0) 頸(18.6)	P28フク土	①細砂、輝石、赤色細粒物を含む。 ②におい橙5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部匏削り。 内 口縁横撫で。胴部撫で。	器面摩滅。
図67-12	土師器 杯	口縁部破片 口(12.4) 高(2.1)	P29フク土	①微細砂、石英、輝石を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部匏削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。	器面摩滅。
図67-13	土師器 杯	口縁～体部1/5残存 口(12.6) 底丸底 高(3.2)	P33フク土	①微細砂、輝石、石英を含む。 ②明赤褐5Y R5/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部匏削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で、指頭痕を残す。	器面の摩滅が顕著。
図67-14	土師器 甕	頸部破片 高(3.5)	P36フク土	①細砂、輝石を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部匏削り。 内 口縁横撫で。胴部匏撫で。	器面が荒れている。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図67-15	土師器 甕	胴部上位破片 頸 (12.2)	P38フク土	①微細砂を含む。 ②にぶい赤褐5/4 ③酸化焰	外 頸部横撫で。胴部匏削り。 内 横撫で。	器面摩滅。
図67-16	土師器 甕	口縁部破片 高 (4.0)	P38フク土	①微細砂を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部匏削り。 内 口縁横撫で。胴部撫で。	器面摩滅。
図67-17	土師器 杯	口縁一部破片 口 (11.8)	P39フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部匏削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。	器面摩滅。
図67-18	土師器 甕	底部1/5残存 底 (7.0) 高 (2.0)	P39フク土	①細砂を含む。 ②内 にぶい黄褐10Y R5/3 底 明赤褐10Y R5/6 ③酸化焰	外 胴下部匏削り。 内 匏撫で。	器面摩滅。
図68-1	須恵器 甕	口縁部破片 口 (19.6) 高 (3.0)	P41フク土	①白色細粒物を含む。 ②褐灰10Y R6/1 ③還元焰	ロクロ成形。	
図68-2	須恵器 甕	胴部破片	P41フク土	①微細砂を含む。 ②黄灰2.5Y6/1 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図68-3	須恵器 甕	頸部破片	P44フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰7.5Y4/1 ③還元焰	外 頸部横撫で。胴部叩き目後匏撫で。 内 頸部横撫で。胴部叩き目。	
図68-4	須恵器 甕	胴部破片	P46フク土	①黒色細粒物を含む。 ②灰7.5Y5/1 ③還元焰 硬質	外 叩き目。 内 青海波文。	
図68-5	須恵器 甕	胴部破片	P46フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰7.5Y6/1 ③還元焰	外 叩き目。 内 青海波文。	
図68-6	土師器 甕	口縁部破片 口 (22.4) 高 (2.8)	P48フク土	①極粗砂、石英を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰 軟質	外 口縁横撫で。 内 口縁横撫で。	器面が荒れている。
図68-7	土師器 甕	底部1/3残存 底 (5.6) 高 (3.3)	P48フク土	①中砂を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 胴下部匏削り。底部撫で中央部が やや凹む。 内 匏撫で。	器面摩滅。
図68-8	須恵器 甕	胴部破片	1掘立(P8) フク土	①微細砂を含む。 ②灰白2.5Y7/1 ③還元焰	外 叩き目後撫で。 内 青海波文。	
図68-9	土師器 甕	頸部破片 高 (3.7) 頸 (19.2)	1掘立(P8) フク土	①細砂、輝石を含む。 ②外 明赤褐7.5Y R5/6 内 暗褐7.5Y R3/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕を残す。胴部 匏削り。 内 横撫で。	
図68-10	土師器 甕	1/2残存 口 15.6 底 丸底 高 11.9	P69No. 1 (+13.5)	①細砂、赤色細粒物を含む。 ②外 橙5Y R6/8 内 赤10R5/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴～底部匏削り。 内 口縁横撫で。胴～底部匏撫で後撫 で。	外面黒斑・赤 変・黒変有り。
図68-11	須恵器 甕	胴部破片	P70フク土	①小石を含む。 ②外 灰N4/ 内 暗オリープ灰5G Y4/1 ③還元焰	外 叩き目後撫で。 内 青海波文後撫で。	
図68-12	土師器 甕	口縁部破片 口 (12.6) 高 (2.5)	P70フク土	①赤色細粒物を含む。 ②赤褐5Y R4/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。 内 口縁横撫で。	
図68-13	土師器 甕	口縁部破片 口 (24.0) 高 (2.8)	P80フク土	①細砂、雲母を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。 内 口縁横撫で。	
図68-14	須恵器 杯	口縁一部1/5残存 口 (13.0) 高 (2.8)	P80フク土	①微細砂を含む。 ②灰白7.5Y7/1 ③還元焰	ロクロ成形。鈔有り。	

2. 古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図68-15	須恵器 甕	口縁部破片 口 (16.7) 高 (2.2)	P 80フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰N4/ ③還元焰 硬質	ロクロ成形。外面波状文。	
図68-16	土師器 杯	口縁～体部1/5残存 口 (16.0) 高 (2.5)	P 106フク土	①微細砂を含む。 ②橙7.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。指頭痕弱く残す。	器面摩滅。
図68-17	土師器 甕	口縁部破片 口 (19.2) 高 (6.5)	P 120フク土	①粗砂、輝石を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰 軟質	外 口縁横撫で。胴篋削り。 内 口縁横撫で。胴部撫で。指頭痕残す。	
図68-18	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (11.6) 高 (2.0)	P 126フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。	器面摩滅。
図68-19	須恵器 甕	胴部破片	P 129フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰黄2.5Y 6/2 ③還元焰	外 叩き目後横撫で。 内 青海波文。	
図68-20	須恵器 甕	口縁部破片	P 130フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰N6/ ③還元焰	ロクロ成形。波状文(単位6本)。折り返し口縁。	
図69-1	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (13.8) 高 (3.2)	P 144フク土	①微細砂を含む。 ②外 明褐7.5Y R5/6 内 明赤褐5Y R7/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	外面黒斑有り。 器面摩滅。
図69-2	須恵器 甕	胴部破片	P 168フク土	①黒色細粒物を含む。 ②灰10Y 6/1 ③還元焰	外 叩き目後撫で。 内 青海波文。	
図69-3	須恵器 甕	胴部破片	P 169フク土	①微細砂、石英を含む。 ②灰10Y 6/1 ③還元焰	外 叩き目後撫で。 内 青海波文。	
図69-4	土師器 杯	1/2残存 口 (12.5) 底 丸底 高 3.5	P 182フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②外 橙5Y R7/6 内 橙7.5Y R7/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。指頭痕残す。	器面摩滅。
図69-5	土師器 甕	頸部破片 高 (2.5) 頸 (19.6)	P 182フク土	①細砂、輝石を含む。 ②明赤褐5Y R5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 横撫で。	
図69-6	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.0) 高 (2.3)	P 184フク土	①微細砂を含む。 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	器面摩滅。
図69-7	土師器 甕	口縁部破片 口 (13.2) 高 (3.6)	P 184フク土	①細砂、雲母を含む。 ②外 赤褐5Y R4/6 内 黒褐5Y R2/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部撫撫で。	内面黒斑。
図69-8	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.6)	P 189フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	器面摩滅。
図69-9	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (12.0) 高 (2.1)	P 200フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。指頭痕弱く残す。	器面摩滅。
図69-10	須恵器 蓋	口縁～体部破片 口 (17.0) 高 (1.7)	P 200フク土	①微細砂を含む。 ②灰白2.5Y R7/1 ③還元焰 やや軟質	右回転ロクロ成形。	器面摩滅。
図69-11	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (12.0)	P 203フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。指頭痕弱く残す。	器面摩滅。
図69-12	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (12.2) 高 (3.4)	P 204フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②褐10Y R4/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	器面摩滅。

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図69-13	土師器杯	口縁～体部破片 口 (13.0) 高 (3.0)	P 207フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②外 にぶい橙7.5Y R 6/4 内 黄灰2.5Y R 5/1 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	
図69-14	土師器杯	口縁～体部1/6残存 口 (14.0) 高 (2.1)	P 207フク土	①微細砂を含む。 ②明赤褐7.5Y R 5/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。	器面摩滅。
図69-15	土師器甕	口縁部破片 口 (21.3) 高 (4.7)	P 232フク土	①粗粒砂を含む。 ②明褐7.5Y R 5/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部撫で、指頭痕弱く残す。	器面摩滅。
図69-16	須恵器甕	口縁部破片	P 344フク土	①微細砂を含む。 ②灰5Y 5/1 ③還元焰	ロクロ成形。	
図69-17	土師器甕	口縁部破片 口 (11.9) 高 (3.3)	P 346フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②明褐7.5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。 内 横撫で。	器面摩滅。
図69-18	土師器甕	口縁部破片 口 (24.0) 高 (6.6)	P 352フク土	①粗砂、3mm程の小石を含む。 ②橙5Y R 7/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕弱く残す。胴部篋削り。 内 口縁横撫で。胴部篋撫で。	器面摩滅。
図69-19	須恵器椀	体部～底部1/3残存 底 (9.0) 高 (5.0)	P 385フク土	①白色細粒物を含む。 ②オリブ灰2.5G Y 5/1 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。体部下半右回転篋削り。付高台。底部、糸切り後周辺部篋削り。高台接合時回転撫で。	外面自然釉。
図70-1	須恵器甕	口縁部破片	P 420フク土	①微細砂を含む。 ②黄灰2.5Y 4/1 ③還元焰 硬質	ロクロ成形。外面波状文 (単位8本)	
図70-2	土師器杯	口縁部破片 口 (10.8) 高 (2.4)	P 420フク土	①微細砂、石英を含む。 ②橙7.5Y R 6/6 ③酸化焰 やや軟質	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。口縁との接合部に撫で付痕有り。	器面摩滅。
図70-3	土師器甕	口縁破片 口 (22.4) 高 (3.3)	P 443フク土	①細砂を含む。 ②にぶい褐7.5Y R 4/3 ③酸化焰	外 口縁横撫で。胴部篋削り。 内 横撫で。	
図70-4	土師器甕	口縁部破片 口 (20.0) 高 (3.3)	P 444フク土	①細砂を含む。 ②にぶい黄橙10Y R 6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕弱く残す。 内 横撫で。	
図70-5	須恵器甕	胴部破片	P 488フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰7.5Y 6/1 ③還元焰	外 叩き目後撫で。 内 青海波文。	
図70-6	土師器杯	口縁～底部1/4残存 口 (9.6) 底 (4.8)	P 495フク土	①微細砂、赤色細粒物を含む。 ②明褐7.5Y R 5/6 ③酸化焰	外 口縁指撫で。体部指押え、指頭痕多く残す。底部篋削り後篋磨き。手捏。	外面黒斑有り。
図70-7	土師器杯	口縁～体部1/2残存 口 (11.8) 底 丸底 高 (3.5)	P 535フク土	①微細砂を含む。 ②外 橙5Y R 6/8 内 橙2.5Y R 6/8 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体～底部篋削り。 内 口縁横撫で。体～底部撫で。指頭痕残す。	
図70-9	土師器杯	口縁～体部破片 口 (14.8) 高 (3.4)	P 564フク土	①微細砂を含む。 ②橙5Y R 6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部篋削り。 内 横撫で。指頭痕弱く残す。	
図70-10	須恵器杯	口縁部破片 口 (19.0) 高 (3.2)	P 564フク土	①微細砂を含む。 ②灰白5Y 7/1 ③還元焰	ロクロ成形。 口縁部内灣する。	
図70-11	土師器杯	口縁～体部破片 口 (12.0) 高 (2.3)	P 564フク土	①微細砂、石英、輝石を含む。 ②にぶい橙7.5Y R 6/4 ③酸化焰	外 口縁撫で。体部篋削り。 内 口縁横撫で。体部撫で、指頭痕弱く残す。	

2. 古墳時代～平安時代

番号	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形の特徴	備考
図70-12	土師器 甕	口縁部破片 口 (21.8) 高 (6.6)	P 564フク土	①細砂、輝石を含む。 ②橙2.5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で、指頭痕弱く残す。胴部 斲削り。 内 口縁横撫で。胴部斲撫で後撫で。	
図70-13	須恵器 蓋	天井部1/5残存 高 (1.6)	P 566フク土	①白色細粒物を含む。 ②灰7.5Y 6/1 ③還元焰	左回転ロクロ成形。天井部回転斲削り。	火襷痕有り。
図70-14	土師器 杯	口縁～体部1/6残存 口 (13.0) 高 (3.5)	P 600フク土	①微細砂、白色細粒物を含む。 ②黒褐7.5Y R3/2 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部斲削り。 内 横撫で。	内面黒斑有り。
図70-15	土師器 甕	口縁～肩部1/4残存 口 (16.5) 高 (11.0)	P 600No. 1 (+ 9)	①細砂を含む。 ②外 橙7.5Y R7/6 内 におい橙7.5Y R6/4 ③酸化焰	外 口縁横撫で。指頭痕残す。胴部斲 削り。肩部が張る。 内 口縁横撫で。胴部斲撫で、指頭痕 残す。	外面黒斑・赤 斑、黒変有り。
図70-8	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (12.8) 高 (2.7)	P 564フク土	①微細砂、輝石を含む。 ②橙5Y R6/6 ③酸化焰	外 口縁横撫で。体部斲削り。 内 口縁横撫で。体部撫で。指頭痕残 す。	

Ⅱ 検出された遺構と遺物

古墳時代～平安時代 石器集計表1

遺構名	磨・敲・凹	抉入・敲石	台石	砥石	石皿	礫器	削器	加工・使用	楔形石器	礫	焼礫	石核	剥片	碎片	模造品	計
3号住										2						2
4号住		1								4						5
5号住										5			6			11
6号住		17								10						27
7号住	1	31	1	1		3		2	1		1	1	8	5	1	56
8号住		8		1						5		2	1			17
9号住	2	9	4	1						19	2					37
10号住		9		2		3				22	2		4			42
11号住		13	1	2						9	2		4	1		32
12号住		5				1				3						9
13号住		1		1						3			3			8
14号住		2								3						5
15号住	2	7		1		1		2		18	4		4			39
16号住		11								7			2			20
17号住		6								7						13
18号住		1								4						5
19号住		2				1	1			2						6
20号住		2								2						4
21号住		1														1
22号住	1	11		2						5			1			20
24号住	2	3								1						6
25号住		2								1						3
1号溝	4	36	1	4			1	1		29	1		10			87
1号土坑										1						1
2号土坑		2											2			2
4号土坑										1						3
4号ビット								1								1
6号ビット													1			1
10号ビット													2			2
31号ビット										2						2
32号ビット										1						1
48号ビット		1														1
1掘立P4													1			1
126号ビット		1														1
160号ビット										1						1
209号ビット										1						1
236号ビット										1						1
344号ビット													1			1
390号ビット													1			1
412号ビット		1														1
493号ビット													1			1
525号ビット											1					1
534号ビット										1						1
545号ビット				1												1
564号ビット		2														2
589号ビット	1															1
風倒木表		5			1					1			1			2
合計	15	191	6	16	1	9	2	6	1	172	13	3	53	6	1	495

古墳時代～平安時代 石器集計表 2 (滑石)

遺構名	紡錘車	紡錘車未製品	石製円板	白玉	白玉未製品	管玉	剥片・碎片	計
4号住	1	1						2
5号住			1		1		1	3
6号住				1	1			2
7号住							11	11
8号住			1				5	6
9号住				2	1		6	9
10号住					2		1	3
11号住		1		11	463		2757	3232
14号住							7	7
15号住							3	3
16号住					1		7	8
17号住							4	4
18号住							2	2
19号住							1	1
21号住				1			5	6
25号住							1	1
1号溝						1		1
3号土坑							1	1
11,12号ビット							1	1
23号ビット							5	5
73号ビット				1				1
147号ビット					1			1
344号ビット					1		1	2
440号ビット							1	1
風倒木							1	1
合計	1	2	2	16	471	1	2821	3314

II 検出された遺構と遺物

古墳時代～平安時代石器観察表

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
図71-1	紡錘車	4号住No.6 (+1)	4.2	4.2	1.7	48.1	緑色片岩	蛇紋岩質
図71-2	蔽石	4号住フク土	10.6	3.6	1.7	108.7	緑色片岩	
図71-3	白玉 未製品	5号住フク土	1.5	1.5	0.7	2.32	滑石	
図71-4	剥片	5号住フク土	1.3	1.4	0.3	0.93	滑石	
図71-5	石製円板	5号住No.2 (+8)	6.1	5.7	0.8	41.1	透閃石片岩	滑石含む
図71-6	剥片	5号住No.4 (+9)	5.9	4.5	2.0	49.8	透閃石片岩	滑石含む
図71-7	紡錘車 未製品	5号住No.3 (+6)	7.5	4.9	1.0	100.4	透閃石片岩	滑石含む
図72-1	剥片 (大形)	5号住フク土	7.8	5.5	1.7	93.4	透閃石片岩	滑石含む
図72-2	剥片 (大形)	5号住No.5 (+7)	13.0	5.5	2.1	133.1	透閃石片岩	滑石含む
図72-3	剥片 (大形)	5号住No.6 (+8)	12.5	6.2	2.8	240.1	透閃石片岩	滑石含む
図73-1	剥片 (大形)	5号住フク土	6.6	4.1	1.6	61.3	透閃石片岩	滑石含む
図73-2	剥片 (大形)	5号住フク土	5.6	3.4	2.6	56.7	透閃石片岩	滑石含む
図73-3	石製円板	5号住フク土	3.5	3.5	0.9	16.6	透閃石片岩	滑石含む
図73-4	蔽石	5号住フク土	10.9	4.1	1.7	101.5	雲母石英片岩	
図73-5	白玉	6号住フク土	1.9	1.6	0.5	2.2	滑石	
図73-6	白玉 未製品	6号住フク土	1.6	(1.0)	0.5	1.1	滑石	
図73-7	蔽石	6号住No.99 (+8)	17.9	5.8	2.7	363.7	黒色片岩	
図73-8	蔽石	6号住No.95 (+7)	15.2	4.1	2.3	248.6	黒色片岩	
図73-9	蔽石	6号住No.86 (+4)	16.1	4.3	2.1	194.4	雲母石英片岩	
図74-1	胴部挟入石	6号住No.98 (+7)	17.1	3.4	1.3	98.3	緑色片岩	
図74-2	蔽石	6号住No.91 (+8)	15.9	4.5	2.4	256.6	雲母石英片岩	
図74-3	蔽石	6号住No.107 (+5)	20.0	5.2	2.2	354.1	雲母石英片岩	
図74-4	蔽石	6号住No.93 (+6)	14.9	5.1	1.5	199.8	点紋緑色片岩	
図74-5	蔽石	6号住No.125 (+12)	14.9	4.1	3.5	327.9	黒色片岩	
図74-6	蔽石・磨石	6号住No.79 (+6.5)	17.4	7.3	2.6	463.2	緑色片岩	
図75-1	蔽石	6号住No.51 (+19)	11.5	5.6	4.5	402.3	砂岩	
図75-2	凹石	6号住No.81 (+10)	15.9	9.6	3.4	908.2	黒色片色	
図75-3	剥片	7号住フク土	1.0	1.4	2.4	5.28	滑石	
図75-4	石製模造品	7号住フク土	3.1	1.3	0.8	4.36	滑石	
図75-5	剥片	7号住フク土	3.6	2.8	1.7	17.5	滑石	研磨あり
図75-6	剥片	7号住No.115 (+1)	8.5	3.3	2.4	71.0	緑色片岩	研磨あり
図75-7	剥片	7号住フク土	5.6	2.6	1.1	16.34	滑石	
図75-8	剥片	7号住フク土	5.8	3.7	1.3	32.7	滑石	
図75-9	楔形石器	7号住フク土	4.5	2.4	1.1	14.8	黒色片岩	
図75-10	蔽石	7号住No.60 (+1)	8.9	6.0	1.5	138.9	緑色片岩	
図76-1	蔽石	7号住No.109 (+10)	22.3	7.7	3.6	936.9	緑色片岩	
図76-2	蔽石	7号住フク土	5.4	4.6	2.0	111.8	黒色片岩	
図76-3	蔽石	7号住掘り方	12.0	4.1	2.7	198.9	緑色片岩	
図76-4	蔽石	7号住フク土	11.6	5.2	1.9	155.8	雲母石英片岩	
図76-5	蔽石	7号住フク土	11.6	6.9	1.9	238.5	黒色片岩	
図76-6	蔽石	7号住No.17 (+24)	8.6	6.9	1.4	111.3	緑色片岩	
図76-7	凹石	7号住No.102 (+2)	7.4	4.9	2.8	163.1	黒色片色	
図76-8	挟入石	7号住フク土	10.6	3.5	1.5	69.1	雲母石英片岩	蔽あり
図77-1	蔽石	7号住フク土	20.7	6.0	1.9	324.8	黒色片岩	
図77-2	礫器	7号住No.23 (-2)	15.6	5.9	3.5	439.1	黒色片岩	滑石含む
図77-3	蔽石	7号住No.103	9.6	10.1	2.2	353.1	緑色片岩	
図77-4	蔽石	7号住No.137 (+6)	12.2	5.6	3.9	339.5	細粒砂岩	
図77-5	台石	7号住No.19 (0)	50.8	10.2	7.9	7100.0	緑色片岩	
図78-1	蔽石	8号住No.54(0)+No.55(-3)	16.5	5.6	2.1	331.7	緑色片岩	
図78-2	石製円板	8号住フク土	3.5	2.7	0.5	6.5	黒色片岩	
図78-3	剥片	8号住フク土	4.2	2.8	1.5	22.5	滑石	研磨あり
図78-4	剥片	8号住掘り方フク土	4.2	3.6	1.2	33.1	滑石	研磨あり
図78-5	蔽石	8号住No.40 (+4)	8.5	6.2	2.4	142.9	閃緑岩	
図78-6	砥石	8号住フク土	5.9	5.5	1.2	52.4	硬質泥岩	火山灰含む
図78-7	蔽石	8号住フク土	10.5	6.0	2.3	175.7	黒色片岩	
図78-8	蔽石	8号住No.39 (+1)	14.5	6.7	4.3	607.2	黒色片岩	

2.古墳時代～平安時代

番 号	器 種	出 土 位 置	長 さ	幅	厚 さ	重 量	石 質	備 考
図79-1	剥 片	9号住No.76 (+5)	4.9	2.4	1.1	15.09	滑 石	
図79-2	石製模造品	9号住No.110 (+10)	4.4	5.3	0.9	20.34	滑 石	
図79-3	白 玉	9号住フク土	1.4	0.7	0.7	1.1	滑 石	
図79-4	白 玉	9号住フク土	1.8	1.2	0.9	2.55	滑 石	
図79-5	敲 石	9号住No.81 (+2)	10.1	4.8	1.8	137.3	緑色片岩	
図79-6	敲 石	9号住貯蔵穴フク土	9.2	5.1	3.6	203.0	黒色片岩	
図79-7	敲 石	9号住No.20 (+6)	11.4	5.5	4.1	385.6	砂 岩	
図79-8	敲 石	9号住No.80 (+9)	13.7	7.8	3.7	525.2	黒色片岩	
図79-9	凹 石	9号住No.56 (+1)	15.3	4.5	3.8	393.1	黒色片岩	
図80-1	敲 石	9号住No.89 (+2)	15.4	6.3	4.4	615.6	緑色片岩	
図80-2	磨石・敲石	9号住No.78 (+4)	12.8	6.3	4.1	414.9	砂 岩	
図80-3	台 石?	9号住No.46 (+2)	15.0	6.9	3.9	696.8	輝緑凝灰岩	
図80-4	砥 石	9号住No.53 (+4)	14.4	6.8	3.4	555.1	緑色片岩	
図80-5	磨 石	9号住No.74 (+1)	7.4	7.3	6.6	570.3	チャート	
図81-1	剥 片	10号住フク土	3.4	2.9	1.3	15.3	滑 石	
図81-2	白玉 未製品	10号住フク土	1.7	1.5	0.8	3.77	滑 石	
図81-3	白玉 未製品	10号住フク土	1.2	1.1	0.9	2.33	滑 石	
図81-4	砥 石	10号住No.67 (+16)	8.0	2.6	1.5	28.9	砂 岩	
図81-5	敲 石	11号住No.110 (-4)	11.6	4.0	1.8	145.5	緑色片岩	
図81-6	敲 石	11号住No.4 (+2)	15.0	6.4	4.2	504.5	砂 岩	
図81-7	敲 石	11号住No.140 (+11)	14.2	4.3	2.2	185.8	雲母石英片岩	
図81-8	敲 石	11号住No.191 (+3)	14.6	6.5	4.9	662.4	砂 岩	
図82-1	磨石・敲石	11号住No.147	12.9	5.0	1.9	183.2	黒色片岩	
図82-2	磨 石	11号住No.8	14.9	6.7	3.9	641.9	黒色片岩	
図82-3	磨 石	11号住掘り方フク土	13.0	4.9	2.3	243.7	雲母石英片岩	
図82-4	敲 石	11号住No.46	15.2	6.5	3.7	564.6	緑色片岩	
図82-5	敲 石	11号住No.61	14.1	4.6	4.1	141.3	黒色雲母片岩	
図82-6	磨石・敲石	11号住No.9	12.8	6.3	4.9	473.3	砂 岩	
図83-1	砥 石	11号住No.182(+2)+No.193(+8)	8.7	6.9	1.7	97.9	砂 岩	
図83-2	砥 石	11号住フク土	9.7	7.8	2.3	154.7	砂 岩	
図83-3	剥片(大形)	11号住No.16 (0)	8.0	5.7	1.8	95.2	滑 石	
図83-4	剥片(大形)	11号住No.15 (+4)	10.3	5.7	2.6	108.4	滑 石	
図84-1	紡錘車 未製品	11号住No.138 (+20)	4.5	4.9	2.2	55.5	滑 石	
図84-2	剥 片	11号住フク土	3.8	3.9	0.9	15.8	滑 石	研磨あり
図84-3	剥 片	11号住フク土	6.2	3.0	1.6	39.3	滑 石	研磨あり
図84-4	剥 片	11号住フク土	5.7	3.0	1.1	18.5	滑 石	研磨あり
図84-5	剥 片	11号住No.5 (+5)	7.6	3.3	1.4	39.8	滑 石	
図84-6	剥 片	11号住No.5 (+5)	6.9	2.2	1.6	25.7	滑 石	傷あり
図84-7	剥 片	11号住No.5 (+5)	4.5	2.4	2.4	17.3	滑 石	研磨あり
図84-8	剥 片	11号住No.5 (+5)	4.7	2.8	1.9	31.1	滑 石	
図84-7+8	剥 片	11号住No.5 (+5)	5.5	4.7	1.7	48.4	滑 石	研磨あり
図84-9	剥 片	11号住No.163 (0)	5.4	2.7	1.4	21.0	滑 石	
図85-1	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	2.8	1.1	0.5	1.81	滑 石	
図85-2	剥 片	11号住フク土	4.7	1.6	0.9	6.82	滑 石	研磨あり
図85-3	剥 片	11号住フク土	3.2	1.9	0.6	4.55	滑 石	研磨あり
図85-4	剥 片	11号住フク土	3.4	1.3	0.7	3.50	滑 石	研磨あり
図85-5	剥 片	11号住掘り方フク土	2.0	1.6	0.4	3.10	滑 石	
図85-6	剥 片	11号住掘り方フク土	2.5	1.2	0.45	2.43	滑 石	
図85-7	剥 片	11号住フク土	3.0	1.3	0.4	1.63	滑 石	
図85-8	剥 片	11号住No.178 (0)	2.7	1.5	1.1	4.32	滑 石	研磨あり
図85-9	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	2.4	1.6	0.5	2.36	滑 石	
図85-10	剥 片	11号住掘り方フク土	2.75	1.0	0.8	2.12	滑 石	
図85-11	剥 片	11号住No.212 (0)	2.0	1.7	0.9	2.72	滑 石	
図85-12	剥 片	11号住掘り方フク土	2.4	1.7	0.35	1.23	滑 石	
図85-13	剥 片	11号住掘り方フク土	2.0	1.9	0.65	2.0	滑 石	
図85-14	剥 片	11号住フク土	3.3	0.9	0.5	1.79	滑 石	
図85-15	剥 片	11号住掘り方フク土	2.8	1.2	0.4	1.73	滑 石	
図85-16	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.5	1.8	0.75	2.53	滑 石	
図85-17	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.7	1.2	0.95	2.00	滑 石	

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
図85-18	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.4	1.1	0.9	1.65	滑石	
図85-19	剥片	11号住掘り方フク土	1.9	1.2	0.25	0.71	滑石	
図85-20	剥片	11号住フク土	2.2	1.1	0.8	2.17	滑石	
図85-21	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.45	1.35	0.75	0.85	滑石	
図85-22	剥片	11号住掘り方フク土	1.55	1.25	0.3	0.83	滑石	
図85-23	白玉 未製品	11号住フク土	1.55	1.2	0.7	1.39	滑石	
図85-24	剥片	11号住掘り方フク土	2.25	1.15	0.4	1.47	滑石	
図85-25	剥片	11号住掘り方フク土	1.7	1.45	0.6	1.21	滑石	
図85-26	剥片	11号住掘り方フク土	1.8	1.35	0.25	0.72	滑石	
図85-27	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.6	1.4	0.25	0.72	滑石	
図85-28	剥片	11号住掘り方フク土	1.85	1.1	0.5	1.03	滑石	
図85-29	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.6	1.5	0.55	1.84	滑石	
図85-30	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	1.0	0.5	0.99	滑石	
図85-31	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	1.7	0.9	2.46	滑石	
図85-32	剥片	11号住掘り方フク土	1.85	1.25	0.5	1.20	滑石	
図86-1	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.8	1.15	0.4	1.07	滑石	
図86-2	剥片	11号住掘り方フク土	1.4	0.9	0.45	0.78	滑石	
図86-3	剥片	11号住掘り方フク土	1.25	1.0	0.5	0.74	滑石	
図86-4	剥片	11号住掘り方フク土	1.35	1.1	0.4	1.01	滑石	
図86-5	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.1	1.4	0.35	0.85	滑石	
図86-6	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.75	1.15	0.5	1.18	滑石	
図86-7	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.55	1.05	0.45	0.95	滑石	
図86-8	剥片	11号住掘り方フク土	1.2	0.75	0.55	0.73	滑石	
図86-9	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.35	1.3	0.3	0.65	滑石	
図86-10	剥片	11号住掘り方フク土	1.5	0.75	0.35	0.61	滑石	
図86-11	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.5	1.2	0.7	1.53	滑石	
図86-12	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	1.2	0.35	0.79	滑石	
図86-13	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.35	1.25	0.55	1.13	滑石	
図86-14	剥片	11号住掘り方フク土	1.65	0.25	0.35	0.80	滑石	
図86-15	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.5	1.3	0.7	1.33	滑石	
図86-16	剥片	11号住掘り方フク土	1.6	0.8	0.45	0.75	滑石	
図86-17	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.25	1.15	0.5	0.95	滑石	
図86-18	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.85	0.75	1.33	滑石	
図86-19	剥片	11号住掘り方フク土	1.65	0.9	0.2	0.83	滑石	
図86-20	剥片	11号住掘り方フク土	1.35	1.05	0.8	0.86	滑石	
図86-21	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.65	0.85	0.5	0.87	滑石	
図86-22	剥片	11号住掘り方フク土	1.6	1.0	0.4	0.95	滑石	
図86-23	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.6	0.7	0.4	0.58	滑石	
図86-24	剥片	11号住フク土	0.8	0.8	0.5	0.47	滑石	
図86-25	白玉 未製品	11号住フク土	1.8	1.4	0.9	2.47	滑石	
図86-26	白玉	11号住No.212-1 (0)	2.2	1.9	0.9	3.82	滑石	
図86-27	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.0	0.8	0.45	0.47	滑石	
図86-28	剥片	11号住掘り方フク土	1.3	0.9	0.25	0.29	滑石	
図86-29	剥片	11号住掘り方フク土	1.15	0.8	0.25	1.44	滑石	
図86-30	白玉	11号住No.212-1 (0)	1.5	1.5	0.6	1.56	滑石	
図86-31	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	1.1	0.65	1.20	滑石	
図86-32	白玉 未製品	11号住フク土	1.1	0.85	1.4	0.57	滑石	
図86-33	白玉 未製品	11号住フク土	1.1	0.8	0.35	0.39	滑石	
図86-34	剥片	11号住掘り方フク土	1.1	0.75	0.35	0.26	滑石	
図86-35	剥片	11号住掘り方フク土	1.4	1.2	0.25	0.40	滑石	
図86-36	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.6	1.5	0.7	2.94	滑石	
図86-37	剥片	11号住掘り方フク土	1.4	1.1	0.3	0.64	滑石	
図86-38	剥片	11号住掘り方フク土	0.85	0.6	0.4	0.31	滑石	
図86-39	白玉 未製品	11号住フク土	0.85	0.8	0.5	0.44	滑石	
図87-1	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.0	0.6	0.2	0.21	滑石	
図87-2	白玉	11号住掘り方フク土	1.4	1.2	0.55	1.55	滑石	
図87-3	白玉	11号住No.168 (-1)	1.1	1.1	0.7	1.27	滑石	
図87-4	白玉	11号住No.167 (0)	1.5	1.2	0.9	2.70	滑石	
図87-5	白玉	11号住掘り方フク土	1.35	1.1	0.8	1.38	滑石	

2. 古墳時代～平安時代

番 号	器 種	出 土 位 置	長 さ	幅	厚 さ	重 量	石 質	備 考
図87-6	白玉 未製品	11号住フク土	1.3	0.9	0.7	0.89	滑石	
図87-7	白玉	11号住柱穴2フク土	1.5	1.5	0.6	1.97	滑石	
図87-8	白玉	11号住No.210(+1)	1.2	1.2	0.6	1.56	滑石	
図87-9	白玉	11号住No.208(+1)	1.5	1.4	0.7	2.50	滑石	
図87-10	白玉 未製品	11号住フク土	1.5	1.3	0.4	1.6	滑石	
図87-11	白玉 未製品	11号住フク土	1.55	1.3	0.6	1.49	滑石	
図87-12	白玉 未製品	11号住フク土	1.65	1.3	0.4	1.14	滑石	
図87-13	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.5	0.9	0.6	0.91	滑石	
図87-14	白玉 未製品	11号住フク土	1.6	0.9	0.9	1.64	滑石	
図87-15	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	0.6	0.4	0.67	滑石	
図87-16	白玉 未製品	11号住フク土	1.6	0.8	0.55	0.91	滑石	
図87-17	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.4	0.7	0.25	0.39	滑石	
図87-18	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.8	0.3	0.45	滑石	
図87-19	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	0.75	0.5	0.71	滑石	
図87-20	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.6	1.0	0.4	0.91	滑石	
図87-21	白玉 未製品	11号住フク土	2.1	1.5	0.6	2.43	滑石	
図87-22	白玉 未製品	11号住フク土	0.9	0.4	0.35	0.14	滑石	
図87-23	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.6	0.75	0.6	1.21	滑石	
図87-24	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.25	0.7	0.45	0.52	滑石	
図87-25	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	0.7	0.4	0.38	滑石	
図87-26	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.9	0.6	1.01	滑石	
図87-27	白玉 未製品	11号住フク土	1.3	0.9	0.75	1.46	滑石	
図87-28	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.4	1.0	0.7	1.32	滑石	
図87-29	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.6	0.7	0.7	1.54	滑石	
図87-30	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	0.7	0.35	0.48	滑石	
図87-31	白玉 未製品	11号住フク土	1.8	1.5	0.6	1.31	滑石	
図87-32	白玉 未製品	11号住No.166(+5)	1.2	0.9	0.5	0.61	滑石	
図87-33	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.4	0.6	0.4	0.50	滑石	
図87-34	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.5	0.6	0.45	0.71	滑石	
図87-35	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.5	0.55	0.3	0.46	滑石	
図87-36	白玉 未製品	11号住フク土	1.05	0.7	0.5	0.49	滑石	
図88-1	白玉 未製品	11号住フク土	0.9	0.75	0.3	0.34	滑石	
図88-2	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.15	0.65	0.4	0.52	滑石	
図88-3	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.1	0.9	0.4	0.52	滑石	
図88-4	白玉 未製品	11号住フク土	1.3	0.55	0.55	0.46	滑石	
図88-5	白玉 未製品	11号住フク土	1.8	0.8	0.75	1.50	滑石	
図88-6	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.5	0.8	0.65	0.71	滑石	
図88-7	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.45	1.1	0.6	1.52	滑石	
図88-8	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.1	0.8	0.3	0.46	滑石	
図88-9	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.0	0.75	0.3	0.44	滑石	
図88-10	白玉 未製品	11号住フク土	1.1	1.6	1.4	0.37	滑石	
図88-11	白玉 未製品	11号住No.168(-1)	1.1	0.7	0.4	0.48	滑石	
図88-12	白玉 未製品	11号住フク土	1.45	0.8	0.65	0.68	滑石	
図88-13	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.7	0.4	0.46	滑石	
図88-14	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.8	0.4	0.75	滑石	
図88-15	白玉 未製品	11号住フク土	1.0	0.65	0.7	0.55	滑石	
図88-16	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	0.9	0.7	0.3	0.35	滑石	
図88-17	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	0.4	0.15	0.17	滑石	
図88-18	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	0.7	0.5	0.4	0.26	滑石	
図88-19	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.4	0.9	0.7	1.42	滑石	
図88-20	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	0.7	0.35	0.53	滑石	
図88-21	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.1	0.45	0.25	0.20	滑石	
図88-22	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.6	0.3	0.49	滑石	
図88-23	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.0	0.9	0.25	0.25	滑石	
図88-24	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.0	0.6	0.25	0.25	滑石	
図88-25	白玉 未製品	11号住フク土	1.2	0.75	0.75	0.98	滑石	
図88-26	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.2	0.7	0.3	0.49	滑石	
図88-27	白玉 未製品	11号住フク土	0.85	0.65	0.1	0.11	滑石	
図88-28	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.7	0.55	0.75	滑石	

Ⅱ 検出された遺構と遺物

番 号	器 種	出 土 位 置	長 さ	幅	厚 さ	重 量	石 質	備 考
図88-29	白玉 未製品	11号住フク土	0.9	0.7	0.5	0.36	滑 石	
図88-30	白玉 未製品	11号住フク土	1.0	0.8	0.15	0.16	滑 石	
図88-31	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.0	0.4	0.2	0.18	滑 石	
図88-32	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	0.5	0.5	0.2	0.07	滑 石	
図88-33	白玉 未製品	11号住フク土	1.05	0.4	0.15	0.11	滑 石	
図88-34	白玉 未製品	11号住フク土	1.6	0.65	0.8	1.31	滑 石	
図88-35	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.3	0.7	0.7	1.10	滑 石	
図88-36	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.4	0.7	7.5	0.94	滑 石	
図88-37	白玉 未製品	11号住フク土	1.2	0.7	0.45	0.40	滑 石	
図88-38	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.45	0.7	0.5	0.76	滑 石	
図88-39	白 玉	11号住掘り方フク土	1.4	1.3	0.5	1.61	滑 石	
図88-40	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.4	0.7	0.3	0.49	滑 石	
図88-41	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.0	0.75	0.7	0.72	滑 石	
図88-42	白玉 未製品	11号住掘り方フク土	1.35	0.8	0.3	0.53	滑 石	
図89-1	敲 石	12号住No.10 (+8)	11.5	6.5	3.1	277.5	雲母石英片岩	
図89-2	敲 石	12号住No.1 (+30)	13.2	7.9	3.1	467.2	黒色片岩	
図89-3	敲 石	12号住No.2 (+13)	17.5	7.5	5.0	985.0	変玄武岩	
図89-4	敲 石	12号住フク土	18.5	7.0	5.8	874.5	砂 岩	
図90-1	敲 石	13号住No.7 (-2)	14.6	7.8	3.0	517.7	閃 緑 岩	
図90-2	砥 石	13号住No.26 (0)	10.0	5.0	2.5	165.8	凝 灰 岩	
図90-3	白玉 未製品	14号住フク土	1.4	0.9	0.5	0.87	滑 石	
図90-4	剥 片	14号住フク土	1.9	1.1	0.3	0.87	滑 石	
図90-5	剥 片	14号住フク土	1.9	1.0	0.6	1.52	滑 石	
図90-6	剥 片	14号住フク土	2.3	1.6	0.7	2.13	滑 石	
図90-7	剥 片	14号住フク土	2.9	1.3	0.9	3.62	滑 石	
図90-8	敲 石	14号住No.16 (+1)	14.4	6.9	4.6	600.7	砂 岩	
図91-1	剥 片	15号住フク土	3.4	1.7	1.1	10.09	滑 石	
図91-2	剥 片	15号住フク土	2.8	2.1	0.8	4.17	滑 石	
図91-3	剥 片	15号住フク土	3.2	3.9	1.5	24.12	滑 石	
図91-4	打 斧?	15号住No.13 (+4)	16.5	4.6	1.9	205.6	雲母石英片岩	
図91-5	敲 石	15号住No.97 (+3)	15.6	3.6	2.0	159.3	緑色片岩	
図91-6	敲 石	15号住フク土	7.5	4.9	1.1	72.2	石英質準片岩	
図91-7	敲 石	15号住No.96 (-7)	11.2	4.9	1.9	141.7	黒色片岩	
図91-8	敲 石	15号住No.99 (-10)	7.9	9.6	2.2	260.7	黒色片岩	
図91-9	凹 岩	15号住No.8 (+5)	6.4	5.8	2.8	142.3	黒色片岩	
図91-10	凹 石	15号住フク土	9.1	5.7	2.1	181.5	緑色片岩	
図92-1	敲 石	15号住No.45 (+15)	11.9	5.9	4.3	481.9	砂 岩	
図92-2	礫 器	15号住No.58 (+14)	17.1	9.5	4.4	996.7	雲母石英片岩	
図92-3	凹 石	15号住No.26 (-1)	28.3	18.7	3.8	3750.0	緑色岩類	
図93-1	楔形石器	16号住フク土	3.1	2.1	0.7	5.1	頁 岩	
図93-2	白玉 未製品	16号住フク土	2.4	2.0	0.4	3.46	滑 石	
図93-3	剥 片	16号住フク土	2.2	0.9	0.7	1.43	滑 石	
図93-4	剥 片	16号住フク土	3.1	1.6	1.1	7.79	滑 石	
図93-5	剥 片	16号住フク土	2.8	1.2	0.9	4.86	滑 石	
図93-6	剥 片	16号住フク土	1.6	1.0	0.5	1.09	滑 石	
図93-7	剥 片	16号住フク土	4.8	3.7	1.7	29.69	滑 石	
図93-8	剥 片	16号住フク土	4.9	3.1	1.2	19.38	滑 石	
図93-9	剥 片	16号住フク土	6.1	4.6	1.7	41.70	滑 石	
図93-10	挟 入 石	16号住フク土	6.2	4.3	1.1	42.1	緑色片岩	
図94-1	敲 石	16号住フク土	6.4	3.6	1.2	41.7	黒色片岩	
図94-2	敲 石	16号住フク土	6.8	5.2	1.3	71.6	雲母石英片岩	扁 平
図94-3	敲 石	16号住フク土	7.9	5.3	1.5	73.3	緑色片岩	
図94-4	敲 石	16号住フク土	11.1	4.6	1.6	231.4	緑色片岩	
図94-5	敲 石	16号住フク土	10.7	6.6	2.2	208.6	雲母石英片岩	
図94-6	敲 石	16号住フク土	13.8	4.3	2.4	176.4	緑色片岩	
図94-7	敲 石	16号住フク土	11.3	4.3	2.5	149.6	雲母石英片岩	
図94-8	剥 片	17号住フク土	2.0	1.3	0.5	1.44	滑 石	
図94-9	剥 片	17号住フク土	1.9	1.0	0.3	0.91	滑 石	
図94-10	剥 片	17号住フク土	4.6	2.0	1.4	19.6	滑 石	

2. 古墳時代～平安時代

番 号	器 種	出 土 位 置	長 さ	幅	厚 さ	重 量	石 質	備 考
図94-11	剥 片	17号住フク土	3.9	2.3	0.8	8.32	滑 石	
図95-1	敲 石	17号住No.11 (+28)	11.0	4.1	1.8	113.7	結晶片岩	滑石含む
図95-2	敲 石	17号住フク土	14.1	7.0	2.9	364.1	雲母石英片岩	
図95-3	敲 石	17号住No. 5 (+26)	15.8	5.6	1.7	246.1	黒色片岩	
図95-4	砥 石	17号住No.15 (+32)	11.1	4.6	2.5	159.1	砂 岩	
図95-5	礫 器	17号住No. 8 (+30--2)	34.5	22.8	5.1	5495.0	黒色片岩	
図96-1	剥 片	18号住フク土	5.8	2.0	1.0	14.0	滑 石	研磨あり
図96-2	剥 片	18号住フク土	3.7	0.9	0.9	4.7	滑 石	研磨あり
図96-3	敲 石	18号住No. 8 (+3)	8.1	5.8	3.6	219.4	黒色片岩	
図96-4	剥 片	19号住No.11 (+15)	5.4	1.7	1.1	13.1	滑 石	研磨あり
図96-5	礫 器	19号住No.18 (0)	8.6	6.9	1.9	118.6	石英質片岩	滑石含む
図96-6	敲 石	19号住No.81 (+20)	11.6	5.8	2.8	315.0	砂 岩	
図96-7	敲 石	20号住No. 2 (+13)	13.8	5.8	5.3	337.8	雲母石英片岩	
図96-8	敲 石	20号住No. 3 (+2)	14.0	9.5	2.8	610.4	黒色片岩	
図97-1	白 玉	21号住No.11 (+7)	2.9	1.5	0.6	2.85	滑 石	
図97-2	剥 片	21号住No.12 (0)	3.0	2.0	0.5	4.26	滑 石	加工痕あり
図97-3	剥 片	21号住フク土	1.4	1.0	0.7	1.16	滑 石	加工痕あり
図97-4	剥 片	21号住フク土	2.6	1.7	0.8	4.91	滑 石	加工痕あり
図97-5	剥 片	21号住No.12 (0)	3.8	2.2	0.4	3.93	滑 石	
図97-6	敲 石	21号住No.28 (+12)	11.0	4.8	3.3	242.9	砂 岩	
図97-7	剥 片	21号住フク土	6.0	4.3	1.7	52.9	滑 石	加工痕あり
図97-8	敲 石	22号住フク土	4.9	4.4	0.9	26.6	石英質準片岩	
図97-9	敲 石	22号住No. 9 (+29)	9.1	3.5	1.6	66.8	石英質準片岩	
図97-10	敲 石	22号住フク土	10.1	4.8	1.7	119.5	緑色片岩	
図97-11	敲 石	22号住No.18 (+21)	9.7	5.5	2.0	150.2	雲母石英片岩	
図97-12	敲 石	22号住No.15 (0)	12.1	6.6	1.4	159.3	黒色片岩	
図98-1	敲 石	22号住No. 3 (+2)	14.1	4.2	2.6	214.7	緑色片岩	
図98-2	敲 石	22号住No. 5 (+4)	14.6	5.3	2.7	308.7	黒色片岩	
図98-3	凹石・敲石	22号住No. 8 (+9)	13.4	6.4	2.4	332.5	黒色片岩	
図98-4	敲 石	22号住No. 2 (+5)	13.6	7.3	3.2	483.9	緑色片岩	
図98-5	敲石・磨石	22号住フク土	13.0	5.2	2.0	239.5	緑色片岩	
図98-6	砥 石	22号住No.29 (+3)	7.3	5.1	4.7	229.3	凝 灰 岩	
図98-7	敲 石	22号住フク土	8.2	5.6	3.8	175.8	砂 岩	
図99-1	敲 石	24号住フク土	6.2	3.9	2.1	91.1	緑色片岩	
図99-2	敲 石	24号住No.13 (+3)	12.3	5.0	1.8	150.2	黒色片岩	
図99-3	磨石・敲石	24号住No.14 (-1)	8.2	2.4	1.9	52.9	雲母石英片岩	
図99-5	剥 片	25号住No. 6 (+4)	5.7	3.7	1.7	38.2	滑 石	加工痕あり
図99-6	敲 石	25号住掘り方フク土	8.2	4.4	1.7	76.3	黒色片岩	
図99-7	敲 石	25号住No. 3 (+9)	13.0	4.8	1.7	177.7	黒色片岩	滑石含む
図100-1	抉 入 石	1号溝No.76 (+11)	15.5	4.6	2.6	309.1	黒色片岩	
図100-2	抉 入 石	1号溝No.53 (+14)	10.4	4.9	2.9	239.9	点紋緑色片岩	
図100-3	抉 入 石	1号溝No.56 (+8)	16.4	6.6	4.1	585.1	黒色片岩	
図100-4	敲石・凹石	1号溝No.96 (+16)	13.9	5.7	3.9	532.9	点紋緑色片岩	
図100-5	敲 石	1号溝No.51 (+27)	10.5	7.5	3.3	401.4	礫 岩	
図100-6	敲 石	1号溝フク土	14.6	6.2	3.0	425.0	変玄武岩	
図101-1	抉 入 石	1号溝フク土	8.1	6.1	1.3	104.5	雲母石英片岩	
図101-2	敲 石	1号溝No.56 (+8)	10.4	6.1	2.7	267.9	緑色砂岩	
図101-3	敲 石	1号溝No.64 (+13)	9.1	9.1	4.4	482.6	砂 岩	
図101-4	敲 石	1号溝フク土	16.6	8.3	4.5	837.6	石英質準片岩	
図101-5	削 器	1号溝フク土	6.7	5.8	1.1	69.1	緑色片岩	
図101-6	管 玉	1号溝フク土	1.0	1.0	1.0	1.68	滑 石	
図101-7	敲 石	1号溝No.87 (+22)	13.1	12.0	4.5	1061.8	はんれい岩	
図102-1	敲石・凹石	1号溝No.62 (+29)	17.3	10.3	2.2	613.6	点紋緑色片岩	
図102-2	敲 石	1号溝No.80 (+10)	16.0	14.8	13.4	1300.0	雲母石英片岩	
図102-3	礫 器	1号溝No.29 (+8)	21.8	15.5	3.7	1600.0	点紋緑色片岩	
図103-1	凹 石	1号溝No.81 (+18)	9.5	5.9	5.5	448.9	黒色片岩	
図103-2	礫 器	1号溝No.66 (+21)	29.3	13.1	4.1	2310.0	雲母石英片岩	抉入部有り
図103-3	砥 石	1号溝フク土	9.6	8.8	1.7	210.9	頁 岩	
図103-4	砥石・敲石	1号溝No.10 (+29)	12.0	7.3	4.3	428.0	砂 岩	

II 検出された遺構と遺物

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
図104-1	砥石	1号溝No.49 (+10)	16.2	13.9	14.9	1426.8	砂岩	
図104-2	剥片	3号土坑フク土	3.4	2.5	1.3	13.9	滑石	
図104-3	剥片	11、12号ビットフク土	1.8	1.3	0.7	2.0	滑石	
図104-4	白玉	73号ビットフク土	1.2	1.2	0.5	1.17	滑石	
図104-5	剥片	344号ビットフク土	1.8	0.8	0.6	1.41	滑石	
図104-6	白玉 未製品	344号ビットフク土	2.0	1.6	1.2	5.54	滑石	
図104-7	白玉 未製品	344号ビットフク土	1.4	0.7	0.7	1.02	滑石	
図104-8	円板状剥片	440号ビット	6.2	5.8	1.4	67.3	滑石	
図104-9	砥石	545号ビットフク土	7.1	5.7	4.1	86.0	軽石	
図105-1	敲石・磨石	564号ビットフク土	10.7	4.7	3.5	258.6	砂岩	
図105-2	敲石	564号ビットフク土	13.2	6.9	1.7	260.6	点紋緑色片岩	
図105-3	抉入石	表 採	6.9	4.3	2.9	126.5	緑色片岩	
図105-4	敲石	表 採	7.6	6.3	2.9	165.0	点紋緑色片岩	
図105-5	敲石	表 採	9.6	3.5	1.2	65.0	緑色片岩	
図105-6	抉入石	C31・32グリッド	6.6	4.2	1.7	61.9	黒色片岩	
図105-7	凹石	C31・32グリッド	13.4	4.9	1.4	143.1	点紋緑色片岩	
図105-8	砥石?	調査区南側住居群部分表採	8.4	8.7	2.4	186.7	硬質泥岩	縄文再利用?

古墳時代～平安時代鉄製品観察表

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	備考
P L 38	板状品	16号住フク土	4.1	2.0	0.9	19.1	先端は鈍く尖り、後端は厚い。
図93-11	板状品	16号住フク土	7.0	4.1	0.8	72.5	横断面形はゆるい彎曲をもつ。
図99-4	鉄鉾滓	24号住(小鍛冶)フク土	9.2	9.2	6.1	424.0	ゆるく内彎する。
P L 41	碗形鉾滓	24号住(小鍛冶)フク土	4.4	4.5	2.3	56.5	外面平坦でゆるく内彎する。

Ⅲ まとめ

1 縄文土器について

ほとんどのものは縄文時代中期後半加曾利EⅡ～EⅢ式に属するものであった。他に前期後半の黒浜・諸磯式に属するものも全体の中からすると少量であったが出土した。

古墳時代の住居等より多くの縄文土器が出土したが、7号住や10号住は多かった。特に10号住は遺物のほとんどが縄文土器であり、土師器は10数点くらいしかなかった。それに比べ縄文土器は遺物収納箱2箱にも及ぶ出土量であった。10号住出土の縄文土器は加曾利EⅡ～EⅢ式に属すると考えられるものにはほぼ限定されており、黒浜・諸磯式に属するものは出土していない。しかし、本住居の形状は方形を呈し、周堤帯を持つ貯蔵穴があり、そうしたことからすると縄文時代のものとは考えにくい。調査区内においては縄文時代に属すると考えられる住居は1軒も検出されなかった。

いずれの土器も器面は非常に摩滅しており、文様の不明瞭なものが多かった。その内比較的文様の明瞭なものを選択し、拓本・実測図を掲載した(図6・7)。

縄文土器は調査区のほぼ全体より出土しているが、住居の多い南半部の出土量が多い。庚申山から東に張り出すこの台地上もしくは近くに縄文時代中期後半加曾利E式期の遺構あるいは包含層があることが想定される。

本遺跡での遺構から出土した土器としては7号土坑の阿玉台式土器がある。図7-19は指頭痕を明瞭に残している。図7-20は現存部分には文様は認められない。19・20共に底部に網代痕はない。20の底部は同心円状に篋削り痕が残る。その他に7点の土器小破片が出土している。阿玉台式土器の底部には網代痕を残すものが多いが、本遺跡の二者はまったくその跡を残していない。このことが特徴であり、特筆される点でもある。

2 縄文時代の石器について

縄文時代の石器はすべて遺構に伴って出土したものではなく、古墳時代の住居やグリッド表採のものばかりであった。同時代の遺構は10号土坑(陥穴状遺構)と7号土坑の2基が検出されたが、それらの遺構内からは石器は1点も出土しなかった。そのため、今回ここで縄文時代に属するものであろうとしたものは形態や調整剝離、表面の風化の状態などを総合的に見て判断したものである。なお、そのうち主な石器についてはほとんどのものを掲載した。

いわゆるツール類としては石鏃、削器、打製石斧、磨・敲・凹石等がある。石鏃などの小形品はほとんどのものが黒曜石製であるが、図9-1・2だけはチャート製である。21号住出土の石鏃(図10-9)は器面がかなり風化しており、厚い水和層ができています。他の黒曜石製の石器にはそれが認められない。19号住出土の打製石斧(図10-7)は両側縁は良く敲打して整形しているが、その後非常に良く使い込んであり、光沢を持つ線状痕を有する。線状痕の方向は長軸に対してほぼ平行するように認められる。10号住出土例(図9-8)と16号住出土例(図94-3)は平面形は良く似ており、前者は一側縁のみ敲打されており縄文時代の打製石斧として、後者は両側縁がかなり良く敲打されており、先端に刃が付けば石斧にしたいものであるが、古墳時代の敲石として分類した。この類似性は偶然ではない可能性もある。

住居内より出土した石器の中には床面にかなり良く付いた状態で検出されたものも多い。それらのものは覆土に混入したものとするよりもその住居に伴うものとする方が妥当であろう。その中の砂岩や火山灰を含む淡緑色を呈する硬質泥岩には良く観察すると不定方向に走る線状痕が付いているものも多い(図10-3・11)。砥石などとして再利用しているものと想定される。図105-8は明瞭な線状痕は

Ⅲ まとめ

認められないが、その可能性があるものである。砥石はそこに付いた線状痕の状態(幅、長さ、付き方など)から玉用と金属器用などに分類できるようである。

3 土器に認められる変色部分について

今までの報告書では土器については器形や成・整形を問題にするものがほとんどであった。それではその製作工程・技法や調整についてはある程度知ることができるがそれ以外のことについてはまったくわからない。土器の器形や調整を見ることにより、それらの前後関係や年代を知ろうとする、いわゆる編年作業が中心に行われてきたからである。その土器がいつ頃のものであるかということを知ることは時代を考えるうえで非常に大切なことであるが、それだけではその土器が持っている情報量の半分しかわかったことにしかならない。生活用具というのは基本的には製作されて使用され、廃棄あるいは遺棄されるわけであり、それは土器・石器といえどもかわらない。ただし、石器の場合には敲石のように河原石をそのまま調整加工を加えずに使用してしまうものもあるが、石器については、特に旧石器時代のものであるが、最近使用痕を問題とする論考も書かれるようになったが、それ以後の時代のものは未だに使用痕を明示する例は少なく、まだまだ意識は低いと言わざるを得ない。土器の場合にはさらに使用痕に関する問題意識は低く、実測図に図示されている例は非常に少ない。そこで今回は土器に認められる変色部分を黒斑、黒変、赤斑、赤変の四つに分類し、杯類については1/6、甕類については1/8の模式図で実測図の脇に示した。なお、製作焼成時のものと考えられるものを黒斑・赤斑とし、その後の使用によると考えられる変色を黒変・赤変として扱った。そして、欠損後カマド等に再利用されたための二次加熱による変色についても同様に図示した。

それを見ると7号住例(図51-7)のようにほぼ対象的な位置に黒斑・赤斑部分が位置するものがあり、焼成時にどういうふうにかが当たったかという

ことが一目でわかる。火の当たり方を見ることにより薪の積み方と土器の置き方の関係を推定することもできる。また、7号住例(図51-2)のように胴下半部のみがきれいに赤変し、それより下が火にあたっていたことがわかる。おそらくそれより上がカマドの上に出ていたものと思われ、その径がカマドの穴の大きさを示していることになるであろう。また、9号住出土のやや大形の鉢(図53-13)のように下半部が赤変しており、内面底部には細かいひび割れが認められる。この例のように水物を入れて直接火にかけたと考えられるものもあり、本来の鉢として使用した後に転用したものかもしれない。あるいは3号住例(図48-11)などのように内面に黒変部分があり、そこまでものが入って焦げついたことが推定できる。内面に煤状の炭化物が付着し黒変している例は少ないのでぜひともそういう例があったら図示してもらいたいと思う。それと同時にもしかなり厚く付着している例があったらできればそれがなんであるか分析してもらうことも必要であろう。残念ながら今回はあまり厚く付着しているものは認められなかった。

ところで、12号住出土の支脚の例(図56-10)のように上面を見ると赤味が強い部分がドーナツ状に廻っている。また、7号住例(図51-9)の上端面が赤みが強い。その部分に甕の底部が当たっていたであろうことが推定される。ということはこの部分が外に出ていてそのほかの部分が土もしくは灰に埋まっていたことも考えなければならないであろう。両者とも中は空洞であるが、前者の例は穴が貫通しているが、後者の例は穴は途中で止まっている。焼成時の熱効率の問題とともに、使用時に加わる熱に耐え得るためのものと思われる。おそらくこの空洞部分がなかったら焼き上げることも難しいであろうし、仮に焼き上がったとしても支脚として充分使用に耐え得ることはできなかったと考えられる。12号住例はこの空洞部分が上面の変色とかかわりを持っていることも想定される。

今回は変色部分の図示しかすることができなかつ

たが、ひびの入り方や変色の程度とかもう少し細かい観察をすることにより、その土器がどのように使用されたかということ推定することも可能となるものと考えられる。それは石器についても同様である。そうすることにより、当時の人々の生活を知ることにより、少しでも近づくことができるものと思われる。

4 第11号住居跡出土の滑石製剥片・碎片について

本住居内出土の滑石製剥片・碎片は図107のように長さが1cm未満の非常に小形のものが多い。幅厚さ重さについても同様である。1cmを超えるようなものはかなり少ない。本遺跡内より出土した白玉の平均値を出すと長さ1.43cm、幅1.23cm、厚さ0.63cm、重さ1.75gである。その値を分布図に入れると図108のようになる。そうするとほとんどのものがその枠内におさまってしまい、平均値を下まわっているのがわかる。しかし、完形品は小さいものでも長さ1cm未満のものはない。素材に研磨を施して白玉に仕上げるのであるから、素材となる剥片の大きさが完形品の大きさよりも小さいということは有り得ない。ということは、この平均値の枠内におさまってしまうほとんどのものは、白玉の素材とはなり得ないと思われる。11号住からは完形品といえるものは数点しか出土していないにもかかわらず、半分に欠損したもの及び削り痕のあるものは大量に出土している。紡錘車についても未製品のみであった。ということは、完成品についてはほとんどのものが住居外に出てしまっているものと想定できる。他の遺構出土の滑石製品の石質は11号住出土のものと同様に類似しているように見受けられる。ただ、11号住出土の白玉未製品の数に比べて遺跡内の白玉の数は非常に少ない。紡錘車に至っては11号住のものと同質の石質のものは1点も出土していない。あるいは遺跡内の調査区外にはまだあるかもしれないが、それでも数の比率は合わないことが想起される。そうするとこの時期のものでも遺跡外にも出ていることも考えなければならないであろう。

5 紡錘車・白玉等の製作技法について

(1) 紡錘車の製作工程

5号住出土の滑石類は住居外において原石に打撃を加えて比較的大形の剥片を得てそれにさらに打撃を加えて荒成形をし、住居に持ち込んだところで火災にあってしまいそのまま遺棄されてしまったと考えられる。従って、それらと同一母岩の小剥片・碎片は出土していない。特徴は住居に入る前の段階でほぼこれから作ろうとするものの形を作ってしまったことと、打製による成形である。これは石質とも深いかかわりをもっているものと思われる。これらの石質は透閃石(滑石を含む)片岩であり、ほろほろと崩れてしまうほど軟らかい石材である。そのため、削り込んで成形している間にほろほろと崩れてしまい、あえて削り込む必要もなかったものと思われる。その他にやや黄色味を帯びる滑石の白玉未製品が出土しているが、それと同一母岩の剥片・碎片は本住居内にはない。

4号住出土の紡錘車は1打製→2敲打→3研磨という工程をたどり整形されたものであり、特徴としては全面に敲打を施すということである。石質は緑色片岩(やや蛇紋岩質)である。本住居は9世紀中頃のものであり、本郷山根遺跡ではかなり新しいものである。従って研磨の前に敲打を施すという手法を用いているものかとも考えられる。

11号住出土の紡錘車は1打製(素材を得る)→2余分な部分を切り捨てる(ノミ等の金属工具を用いる)→3研磨という工程をたどり整形するものと考えられる。特徴としては適当な剥片素材を得るまでは打製で、それからは金属工具を使って荒成形、最後に研磨して仕上げるということである。石質はやや緑色がかかる白っぽく、爪で容易に傷が付く軟らかい石である。ただ本住居からは紡錘車未製品が1点、製品は1点も出土していないのでそれ以外の製作技法があったかどうかは不明であると言わざるを得ない。

竹沼遺跡では紡錘車は1原石を直接金属工具で削り込む(一つの素材から2個ないしは3個を削り出

III まとめ

し、切り離す)。→2切り離したものをさらに削り込んで成形→3研磨を施して仕上げる。特徴としては、1かなり大形のものが多い。2石質はやや緑がかる黒色を呈し、爪では傷が付きにくい非常に硬質の石材を用いている。3石製工具としては敲石は無く、結晶片岩・砂岩の砥石が出土している。

また、この遺跡では紡錘車を作るのに原石を直接削り込んでしまうために、白玉等の素材になる剥片はその段階ではできないようである。従って同様な石材の白玉やその未製品は出土していない。

この遺跡の白玉・石製模造品の石材は滑石であり、爪で容易に傷が付くほど軟質なものであり、色調はやや白色～黄色味を帯びるものが多く、淡緑色を呈するものもある。中にはかなり本郷山根遺跡11号住出土例に近いものもあるが、全般的に見るとやや竹沼遺跡の方が石質はいいように思われる。紡錘車とこれらの石材は全く異質であり、厳密な意味では原産地は違うものと思われる。本遺跡11号住出土の白玉等とも産地は違う可能性がある。

八寸大道上遺跡(伊勢崎市)23号住では紡錘車及び白玉・剣形等を製作しているようである。なお、その他の数軒の住居からは廃棄・流れ込みの状態で大量に滑石が出土している。

紡錘車についてはやはり若干緑がかる黒味の強い石材を用いている。打製により円形に荒成形した後には研磨するものと推定される。ここでは打製によりほぼ円形に整えたものが出土している。円形に整えるまで打製によるため、その際に副次的にできる剥片を利用して製作された白玉も出土している。他の白玉は竹沼・本郷山根遺跡同様白色～黄色味を帯びる軟らかい石材を用いている。八寸大道上遺跡の白玉類の石材は本郷山根遺跡のものに類似しているように見受けられる。

(2) 白玉等の製作工程

竹沼遺跡では白玉は剥片素材(平坦)のものと金太郎飴タイプ(棒状)のものがある。剥片素材のものは穴をあけてから成形するものと成形してから穴をあけるものがある。金太郎飴タイプのは裁断し

てから穴をあけるものがある。前者と後者を比べると圧倒的に前者が多い。それは本郷山根遺跡でも同様であり、金太郎飴タイプのは1号溝の1例(図101-6)しか出土していない。この遺跡での特徴は紡錘車以外の小形品(白玉・石製模造品)でもそれに残る傷跡は非常に幅が広く深い明瞭なものが多い。本郷山根遺跡のものの場合にはそれほど明瞭なものはほとんどない。竹沼遺跡の白玉には穴をあける前に十字の割り付けを切ってから行うものもある。ただその後研磨されてしまうために製品にはその痕跡は残らない。また、普通穴をあけた場合には上の径が大きくなり、下側が小さくなる。しかし、穴をあけてから研磨してしまうために表裏どちらから穴をあけたのか分からないものも多い。

ここでは石製模造品を作る際にできた剥片を白玉製作の素材にしているものも多いと思われ、特徴の強いものを除いて両者の母岩を区別するのは非常に困難なものが多い。

なお、これらのものは原石に打撃を加えて剥片素材を得るわけであるから、竹沼遺跡からは敲石は出土していないということであるが、結晶片岩製の砥石の中に敲打痕を残すものがある可能性もある。あるいは非常に軟らかい滑石を素材としており、打撃を加えても敲石にそのダメージが残らないのではないかと考えられる。

結晶片岩の場合には砥石として使用しても使用痕は残りにくく、河原石と比べると若干面が滑らかなと感じられる程度であり、かなりよく観察しても使用痕は見極めにくい。極く普通の自然礫でも滑石の砥石として容易に使用できる。従って、滑石製作工房跡から出土した礫については使用痕の明瞭ではないものでも砥石として使用された可能性が高いので注意が必要である。本郷山根遺跡11号住から出土した砂岩製敲石については敲石としてだけでなく、台石・仕上げ用砥石として使用された可能性もある。結晶片岩製の敲石も砥石としても使用された可能性もある。

本郷山根遺跡では擦り切り砥石状石器(図81-4)

及び楔形石器(図16-1)も出土しているが、弥生時代の新潟県下谷地遺跡(文献30)では周辺部より調整を施した楔形石器と小礫をそのまま用いた楔形石器、擦り切り砥石が出土している(図112)。その他に石針も出土している。形態的にはその両遺跡の楔形石器は非常に類似している。しかし、本遺跡の場合は滑石製作住居に伴って出土しているものではないし、それに変わるものとして鉄製のノミ状工具等がある。実験では石製楔でも十分に機能は果たすことができる。補助的用具として使用された可能性もある。擦り切り砥石状石器は細かいところを研磨する仕上げ用砥石の可能性もある。

6 滑石の産地について

竹沼遺跡の白玉・石製模造品の石材は滑石であり、爪で容易に傷が付くほど軟質なものであり、色調はやや白色～黄色味を帯びるものが多く、淡緑色を呈するものもある。竹沼遺跡に近い想定される滑石の産地としては藤岡ゴルフ場のあたりと鉦沢の中原寄りのあたりがある(図4)。前者のものはやや色調は淡く、後者の方は黒味が強い。両地点とも現在では露頭は露出しておらず、滑石を見付けることは困難である。しかし、現在でも図4の金井や西平井のあたりの鮎川の河原では滑石の転石が確認できる。そのあたりのものは白っぽく若干片岩質のものもあるが、割った面が黒っぽく、磨くと漆黒の光沢をもつものもある。鮎川沿いにもう少し奥に入ると片岩質で、割った面がキラキラと光る滑石の転石や5号住で使用されているような滑石を含む透閃石片岩も認められた。しかし、この透閃石片岩は細かく見ると5号住出土のものとの類似性は低いように思われる。竹沼遺跡の紡錘車の石材はかなり硬質で黒味が強く、割れ面や磨いてみた感じからすると鉦沢周辺の可能性が高い。また、西平井のあたりでは牛伏砂岩が転石であったり、岩として露出していたりしている部分も認められた。奥に入ってしまうと牛伏砂岩の礫はかなり少なくなる。

また、三名川沿いでは主要地方道前橋・長瀬線と

交差するあたりでは風化面がオレンジ色であり風化していない部分に淡い緑色が残るような滑石が認められた。この石材は図4で三名川沿いの御荷鉾ゴルフ場と書いてあるあたりまで認められた。それよりもあまり奥に入ってしまうと河原になっている部分の面積も狭く滑石も認められなかった。ところで、三名川沿いでは高山を隔てた鮎川沿いで認められたような黒味の強い良質の原石は確認することができなかった。こちら側のもは色もさることながら、非常に軟らかく、あまり良質とは言えない。本遺跡の図83-4(11号住No.15)や図93-9(16号住フク土)などはこの三名川沿いで確認できた石材に類似している。粗い砥石となる牛伏砂岩はこちらの方ではほとんど認められず、もっと細かい粒子より構成される軟らかい泥岩のような石材が多かった。

本遺跡11号住の白玉等に多く使用されている滑石はこの両河川の流域を歩いた時には認められなかった。全体的に見ると竹沼遺跡の白玉等に使用されている滑石よりも本遺跡11号住出土の滑石類の方が若干質が落ちる感じはするが、かなり類似しているものも多い。現在、河原となっていて降りられるところについて見ただけであり、石採りをしたり、少し大雨が降っただけでも河原は変わってしまうので、当時とはかなり地形的には変わっていることも考えられるので河原を歩いただけでは充分ではないかもしれない。また、滑石はひとつの転石の中でも質は部分により様々であり、かなり難しい面も多い。

7 敲石について

本郷山根遺跡からは滑石製作に関する敲石・砥石等以外にも多くの石器類が出土している。特に敲石類が多い。今回の報告のなかでは使用痕の明瞭なもののみを選び出し実測した。従って敲打痕や磨面の認められないいわゆるただの礫については除外した。ただしそれらについてもすべて法量を計測しグラフ化を行った(図113)。

7・9号住からは床面にしっかりと付いた状態で敲石・台石等が出土している。6号住と22号住では

Ⅲ まとめ

一ヶ所からまとまって床面に付いた状態で出土している。大きさ的にはほぼ同様なものが多い。敲石は上下両端を使用するものと主に両側を使用するものがある。両側を使用するものはかなりよく敲いたために抉入部を有するものもある。結晶片岩は少しハンマーとして使用すればすぐに抉入部ができてしまう。従ってそれが意識的に入れたものなのかそうでないのかということはなかなか判断が難しい。縄文時代のもののように凹みが深く明瞭ではない凹石の存在も目立つ。縄文時代のものは敲石・磨石を兼ねたものが多いが、この遺跡では凹石だけのものも多い。縄文時代のものと比べると表面の風化度が弱く、凹みも浅いものが多い。その他の点についてはほとんど変わらない。磨石と石皿状の石器がセットで出土している遺跡も古墳時代には極く一般的に見受けられる。本遺跡内では6号住で結晶片岩製の若干表面が凹むもの(図75-2)が出土している。結晶片岩は砥石として使用しても表面の使用痕は残りにくいものであり、仮に対象物が植物質のものであればかなり使い込んでもその使用痕は残りにくい。若干でも表面が滑らかであれば、使用されていた可能性があると考えてもよいと思われる。

これまでこうした礫については自然礫とされて無視されていたり編物石とされていたものが多かった。しかし、よくその両端や両側縁を観察すると敲打痕が残るものが多い。群馬県田端遺跡(文献37)や埼玉県下田遺跡(文献36)出土の礫でも端部に打痕があったり、一部磨痕があったりするものもあり、敲石や磨石として使用されていたものも多くあることを示している。あるいは黒色の付着物が付いているものもある。それ以外の遺跡でも編物石とされているものを観察すると敲打痕や磨痕が認められるものが多い。こうしたことからすると編物石とされているものでもかなりの割合で編物石以外の用途に使用されたものが多いことがわかる。

礫・敲石類の法量分布グラフ(図113)を見ると長さは長くなっても幅はほぼ一定であるのがわかる。石質が結晶片岩ということと同時に石器の機能を反

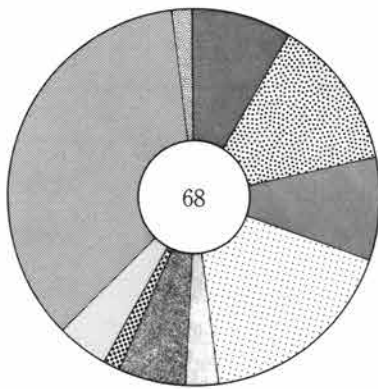
映しているものと思われる。結晶片岩は礫になると形状は棒状に成り易く、河原へ行けば極く簡単に同程度の大きさや重量のものが揃い易い。敲石として使用できるものの入手は簡単であるし、台石・石皿状石器になるものも同様である。本遺跡の場合には庚申山丘陵から東に張り出すローム台地上にあり、これらの結晶片岩や砂岩の礫が住居の中に入り込むということは考えにくい。(同じ藤岡台地でも砂礫層が地山となっているところでは人間の手によりそこに持ち込まれたものなのか流れ込んだものなのかという区別は困難であるが。)

また、これらの石器の特徴としては、1 棒状を呈し、10数cm程度のものが多い。2 コーナー部分や壁際にまとまって出土することが多く、壁際に一列に並ぶように出土する場合もある。3 同程度の重さのものが偶数個出土する場合が多い。編み物石とされている主な根拠としてはこの中の3が上げられているように思われる。藁などを編むときには2個一組として使用されるものであり、つい最近まで農家では極く一般的に行われていた。しかし、これに使用するほとんどのものには遺跡から出土する遺物に見られるような敲打痕は認められない。こうしたことからすると編み物石とする根拠は薄いように思われる。まったく見た目にはただの礫にしか見えないのであってもこれからは調査の際に図面をとるのはもちろんのことしっかり観察、実測、計測値を報告書に載せなければならないであろう。そうすることにより古墳時代から平安時代に一般的に認められるこれらの石器の性格も分析することが可能となろう。確かに廃棄される最終段階としては編物石として使用された可能性も完全には否定できないがすべてを単純に編物石として片付けるわけにはいかないであろう。それらのなかには敲打痕を残したり磨面を持ち、敲石・磨石として使用されたものが多いということを指摘しておきたいと思う。

8 鉄器について

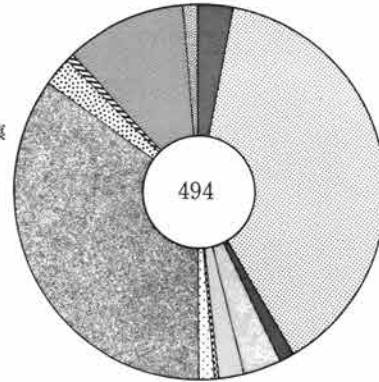
本郷山根遺跡の今回の調査区内からは鉄滓・スラ

8. 鉄器について



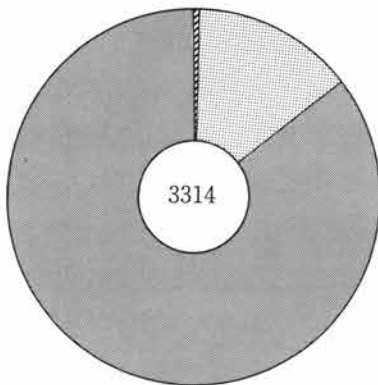
縄文時代石器組成・百分率グラフ

- 磨・敲・凹
- ▨ 打製石斧
- 削器
- ▨ 加工・使用痕
- 楔形石器
- ▨ 石鏃
- ▨ 石錐
- ▨ 石核
- ▨ 剝片
- ▨ 碎片



古墳～平安時代石器組成・百分率グラフ

- 磨・敲・凹石
- ▨ 敲石(挟入石含む)
- 台石
- ▨ 砥石
- ▨ 礫器
- ▨ 削器
- ▨ 加工・使用
- ▨ 礫
- ▨ 焼礫
- ▨ 石核
- ▨ 剝片
- ▨ 碎片



滑石製白玉・未製品・剝片・碎片組成・百分率グラフ

- ▨ 白玉
- ▨ 白玉未製品
- ▨ 剝片

図106 石器組成百分率グラフ

グが出土している遺構は16号住・22号住・24号住(小鍛冶)、1号溝、49号ピット・182号ピットなどがあるにもかかわらず、鉄製の道具類と考えられるものは1点も出土していない。しかし、滑石に認められる削り痕からするとどう見ても鉄製の工具によって付けられたとしか考えられないものが多いし、いわゆる鉄製の工具を研いだとしか考えられない砥石も出土している。こうしたことからすると鉄製工具類の存在した可能性は疑う余地はないであろう。火災その他の理由でその場所を放棄し、移動する際に鉄製工具のみは持っていったものと考えられる。

また、今回検出された小鍛冶遺構は出土土器からすると6世紀後半の時期である。本遺跡に近いところでは国道254号バイパスに伴って調査された堀之

内遺跡群(文献7)の中にもほぼ同じ時期の小鍛冶遺構がある。小鍛冶遺構の場合には集落の真ん中に位置することよりも集落のはずれや集落からまったくはずれたところにぼつりと一軒だけ位置することが多い。本遺跡例の場合も同様であり、南の住居群からははずれた北側に位置する。

ところで、その北側には1号溝があり、出土土器からして24号住が小鍛冶として使用されていた際には、少なくとも埋まっていなかったものと思われる。同溝からは極めて多量の敲石類・砥石などが出土している。これらの敲石類は両側縁や上下両端が潰れているものがほとんどである。図101-7などは側縁だけでなく表面にも敲打による凹みを有する。図示した以外にも敲石や棒状の礫は多くあった。これらの石器類は出土の仕方を見ると廃棄されたことは明らかであり、若干流された形跡もないことはないが、それにしてもあまり遠くから流されたとは考えにくい。また、24号住(小鍛冶遺構)内からはほとんど道具類は出土しておらず、台石になるような大形のものは1点もない。敲石類も小形のものが数点出土しているのみである。鉄製工具は持ち去ったから工具は出土しなかったと考えられないこともないが、しかし、石製工具を用いたことも考えなければならぬであろう。そして、使用後に近くの場所に捨てたとも考えられる。その場所が1号溝であった可能性もある。

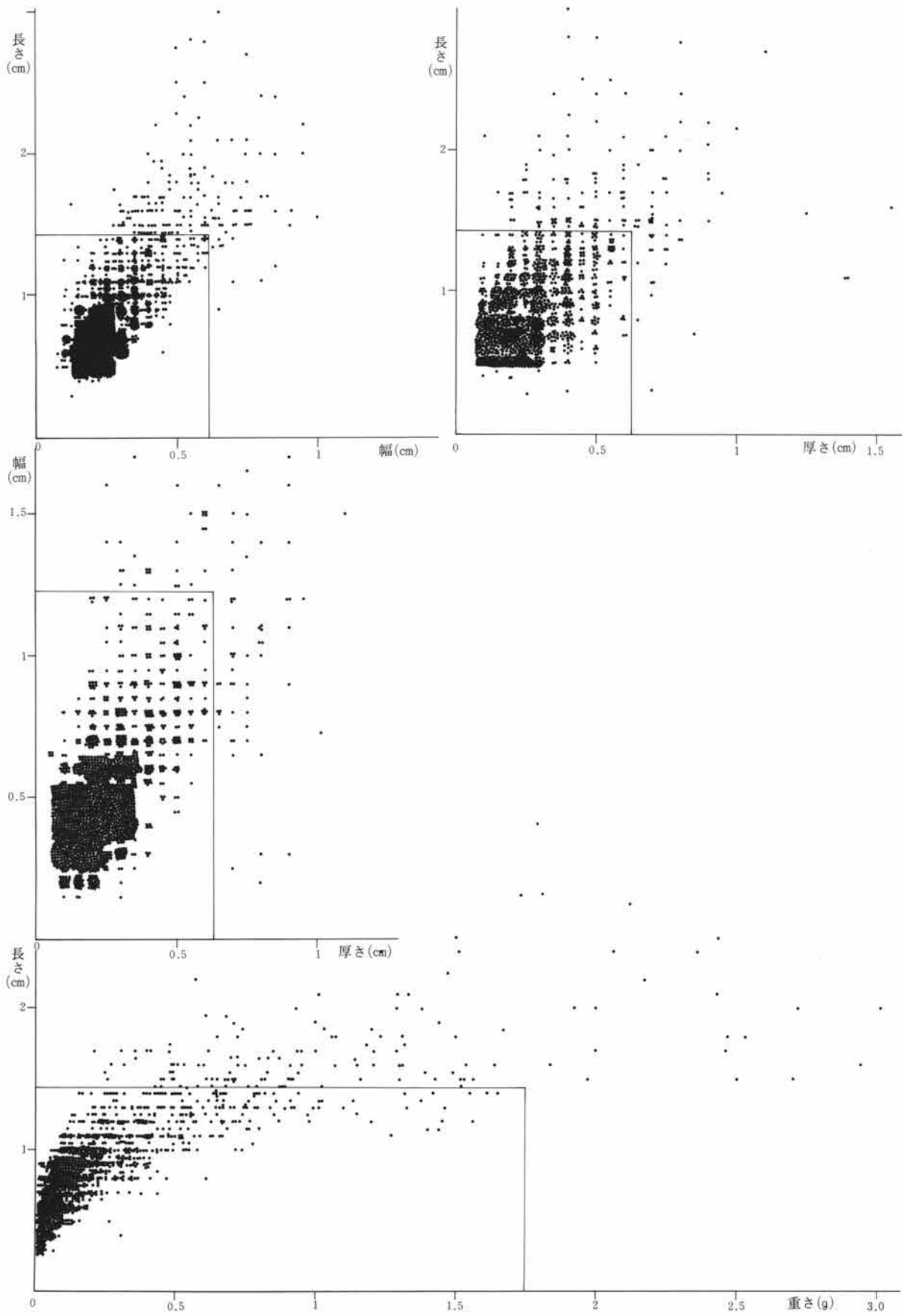


図108 第11号住居跡滑石法量分布グラフ

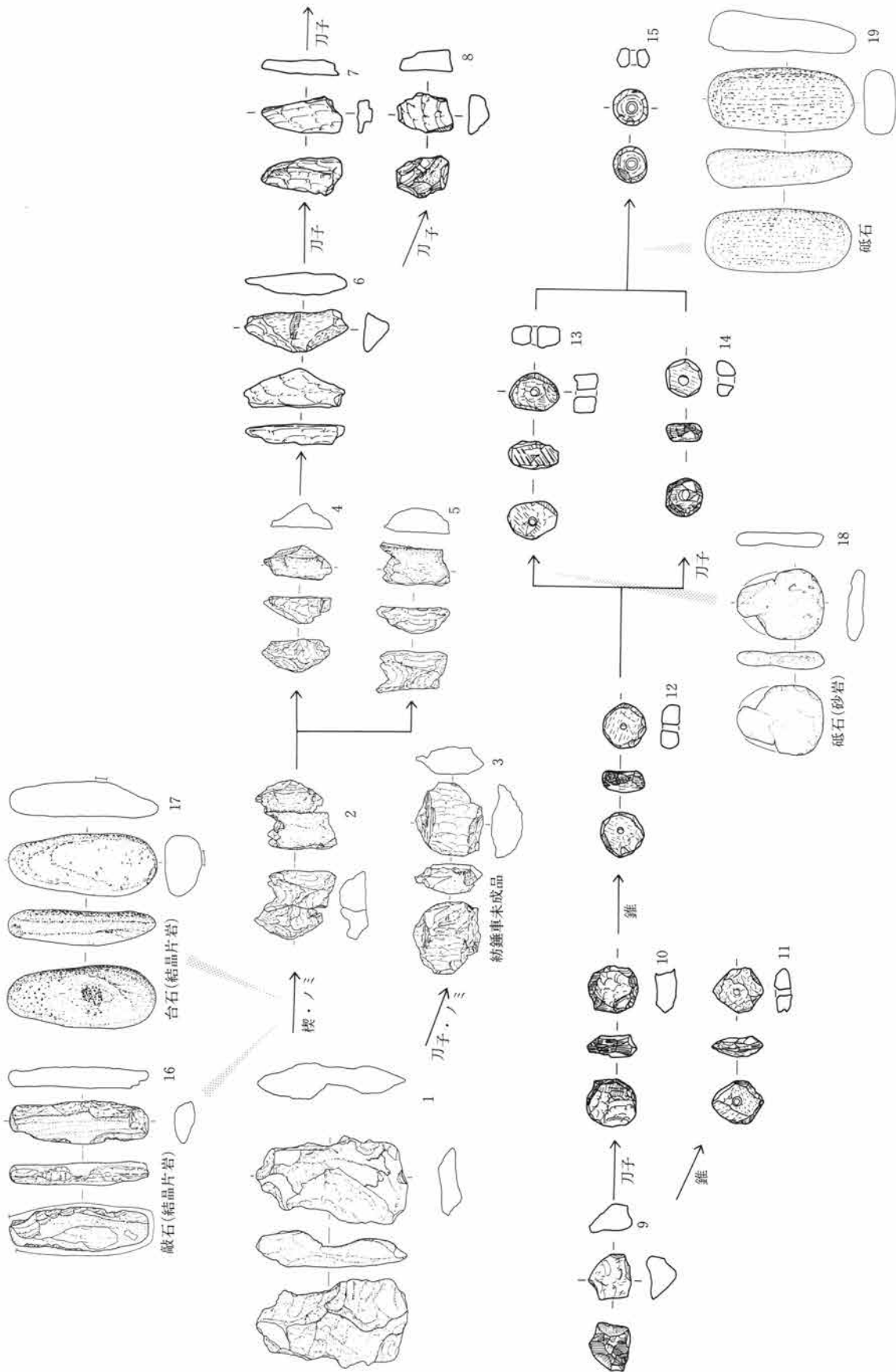


图109 第11号住居跡白玉製作工程图 (1~5=1/4, 6~15=1/2, 16~19=1/6)

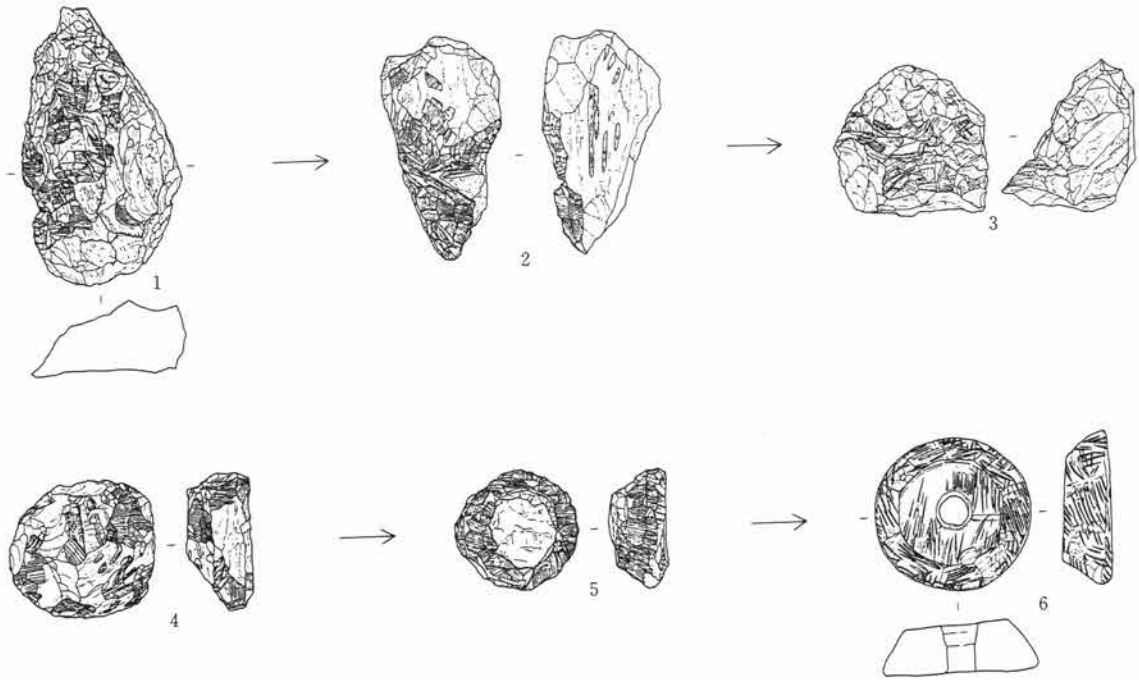


図110 竹沼遺跡紡錘車製作工程図 (1~5 = ¼, 6 = ½)

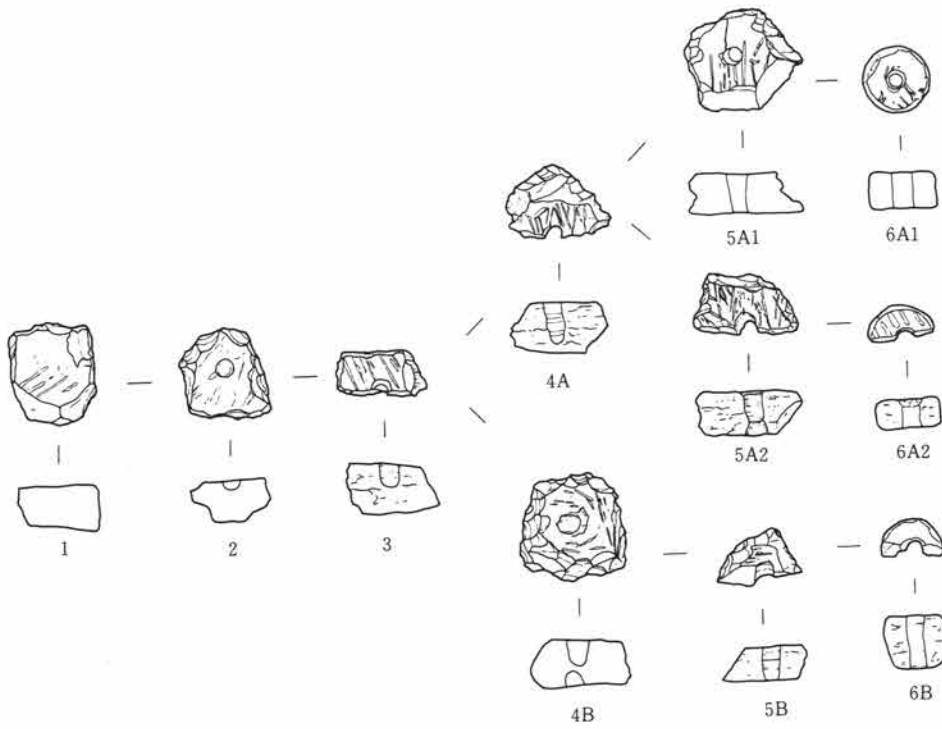


図111 竹沼遺跡白玉製作工程図 (1~6 B = ½)

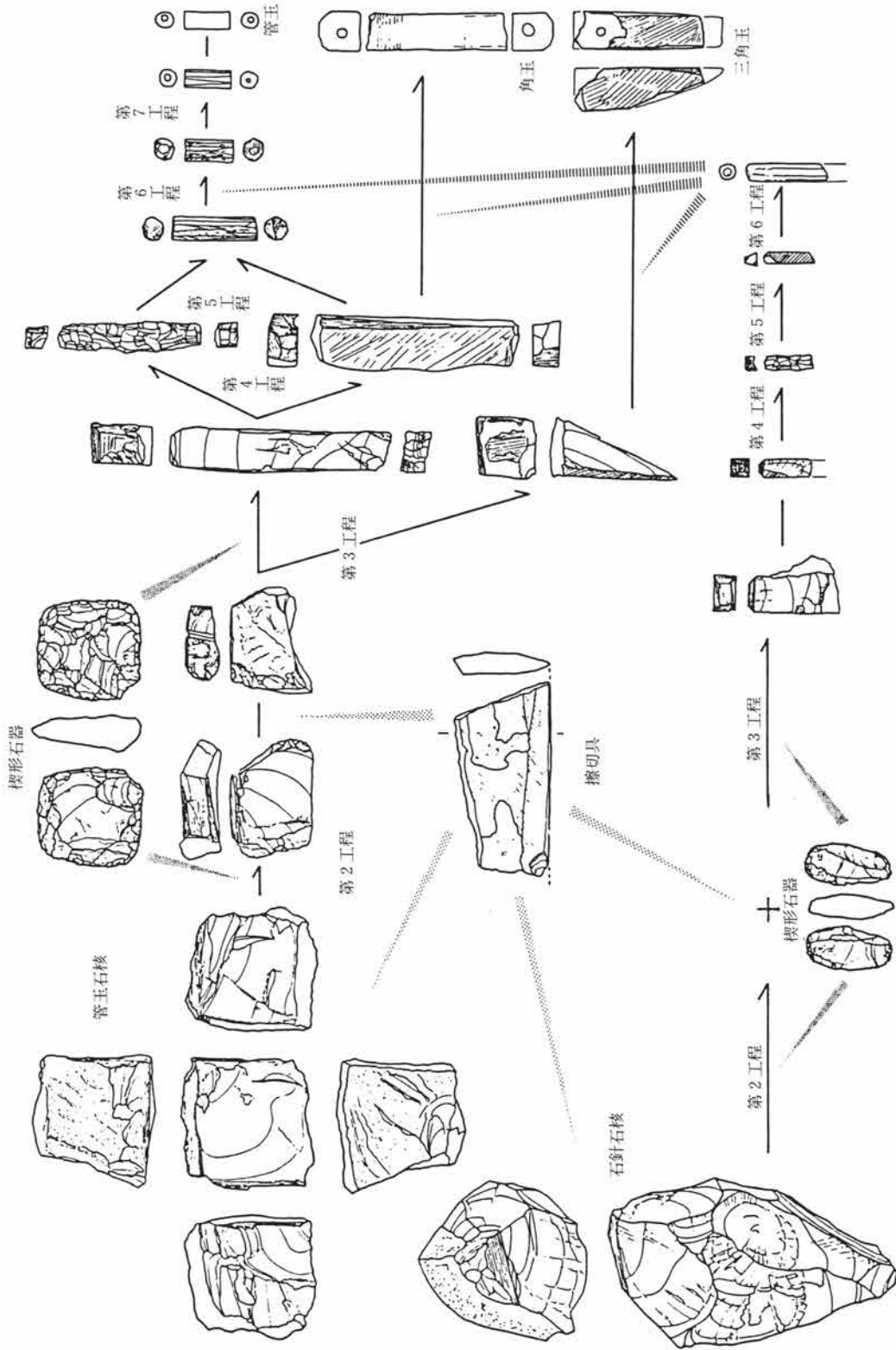


图112 下谷地遺跡管玉・石針製作工程図 (縮尺不同) (文献30)

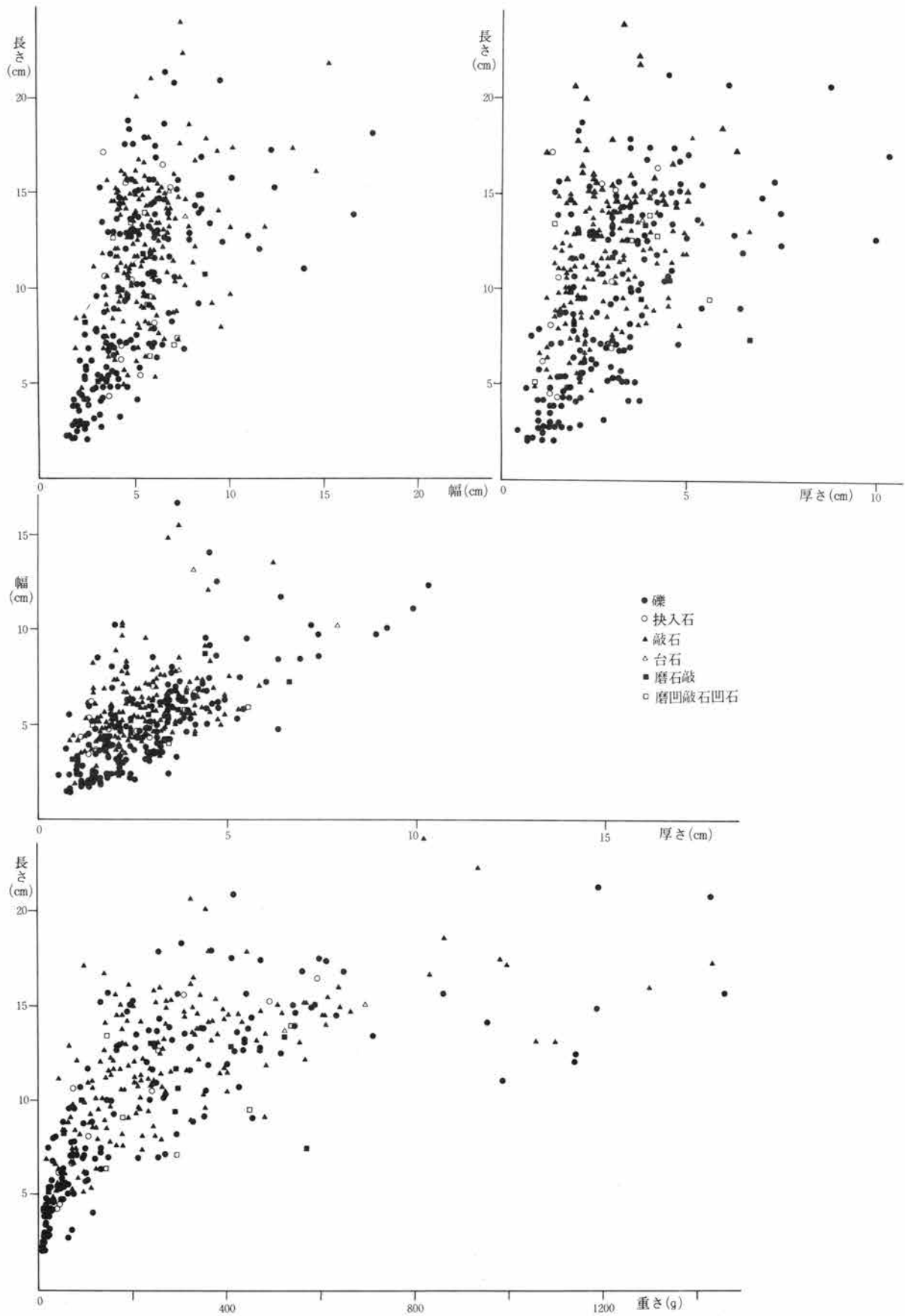


図113 磔・敲石類法量分布グラフ

参 考 文 献

- 1 『藤岡市遺跡詳細分布調査（Ⅰ）小野地区』藤岡市教育委員会 1982
- 2 『藤岡市遺跡詳細分布調査（Ⅱ）美土里地区』藤岡市教育委員会 1983
- 3 『藤岡市遺跡詳細分布調査（Ⅲ）平井地区』藤岡市教育委員会 1984
- 4 『藤岡市遺跡詳細分布調査（Ⅳ）神流地区』藤岡市教育委員会 1985
- 5 『藤岡市遺跡詳細分布調査（Ⅴ）藤岡地区』藤岡市教育委員会 1986
- 6 『F 1 竹沼遺跡』藤岡市教育委員会 1978
- 7 『A 1 堀ノ内遺跡群』藤岡市教育委員会 1982
- 8 『C 4 小野地区遺跡群発掘調査報告書』藤岡市教育委員会 1982
- 9 『森・中Ⅰ・中Ⅱ遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 10 『B 4 株木遺跡』藤岡市教育委員会 1984
- 11 『F 9 薬師原遺跡』藤岡市教育委員会 1985
- 12 『上並榎南遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 13 『群馬県藤岡市滝下遺跡発掘報告書』滝前・滝下遺跡調査会 山武考古学研究所 1986
- 14 『本郷尺地遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- 15 『成塚石橋遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 16 『群馬県史資料編 1 原始古代 1 旧石器縄文』群馬県史編纂委員会編 1988
- 17 新井房夫 「関東盆地北西部地区の第四紀編年」『群馬大学教育学部紀要』 1962
- 18 新井房夫 「前橋泥流の噴出年代と岩宿Ⅰ文化期」『地球科学』21 1967
- 19 新井房夫 「斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究」『第四紀研究』11 1972
- 20 新井房夫 「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』157 1979
- 21 新井房夫 「関東地質 前橋台地」日本の地質『関東地方』編集委員会編 1986
- 22 千葉徳爾 「宝永山噴火による降砂と酒匂川洪水」『駿台史学』54 1981
- 23 町田 洋・新井房夫 「広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—」『科学』46 1976
- 24 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 「テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ—」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』渡辺直経編 1984
- 25 『笹遺跡—鐮川流域における滑石製品出土遺跡の研究—』群馬県立博物館 1966
- 26 『新編埼玉県史資料編 2 原始・古代 弥生・古墳』埼玉県 1982
- 27 寺村光晴 「古代玉作の研究」『国学院大学考古学研究室報告』第3集 1966
- 28 寺村光晴 「碧玉製管玉類出土遺跡とその意義」『日本玉研究会会誌』2 1971
- 29 寺村光晴 『古代玉作形成史の研究』吉川弘文館 1980
- 30 齋藤基生他 『下谷地遺跡』新潟県教育委員会 1979
- 31 女屋和志雄 『下佐野遺跡Ⅱ地区』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 32 坂口 一・三浦京子 「奈良・平安時代の土器の編年—住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討」『群馬県史研究』24 群馬県史編纂委員会 1986
- 33 坂口 一 「古墳時代後期の土器の編年—三ツ寺Ⅲ遺跡を中心とした土師器と須恵器の平行関係—」『群馬文化』208 群馬県地域文化研究協議会 1986
- 34 坂口 一 「群馬県における古墳時代中期の土器の編年—共伴関係による土器型式組列の検討—」『研究紀要』4（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- 35 『古代東国の王者—三ツ寺居館とその時代—』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会・群馬県立歴史博物館 1988
- 36 柿沼幹夫 「下田遺跡43号住居跡出土の河原石について」『下田・諏訪』埼玉県教育委員会 1979
- 37 『田端遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988

写 真 图 版



1. 調査区全景 南西から



2. 調査区南側住居跡、ピット群全景 北から



1. 第7号土坑遺物出土状況全景 南から



2. 第10号土坑東西セクション 南から



1. 第1号住遺物出土状況全景 北東から



2. 第1号住掘り方全景 北から



3. 第2号住遺物出土状況全景 北から



4. 第2号住掘り方全景 北から



5. 第3号住遺物出土状況全景 南から



6. 第3号住カマド遺物出土状況全景 南から



7. 第3号住掘り方全景 南から



8. 第3号住カマド掘り方全景 南から



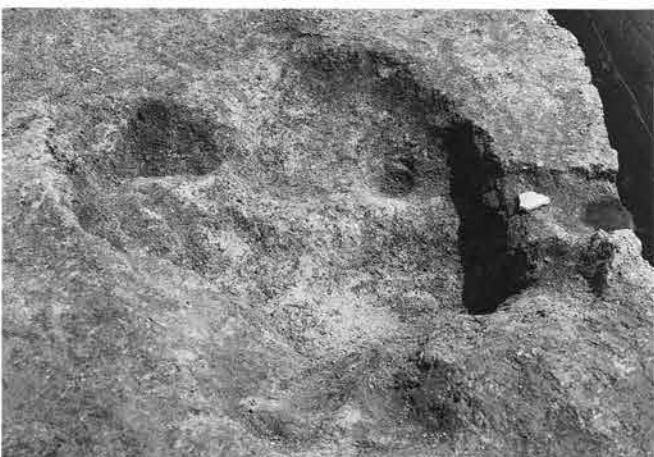
1. 第4号住遺物出土状況全景 西から



2. 第4号住掘り方全景 北から



3. 第4号住カマド全景 西から



4. 第4号住カマド掘り方全景 西から



5. 第4号住紡錘車出土状況全景 西から



1. 第5号住遺物出土状況全景 西から



2. 第5号住全景 北から



3. 第5号住掘り方全景 北から



4. 第5号住炉跡確認状況 北から



5. 第5号住炉跡 北東から



1. 第6号住全景 西から



2. 第6号住遺物出土状況全景 南西から



3. 第6号住掘り方全景 西から



4. 第6号住カマド全景 南西から



5. 第6号住カマド掘り方全景 西から



1. 第7号住遺物出土状況全景 東から



2. 第7号住掘り方全景 東から



3. 第7号住カマド遺物出土状況全景 南西から



4. 第8号住遺物出土状況全景 南西から



5. 第8号住カマド遺物出土状況全景 南西から



1. 第9号住遺物出土状況全景 東から



2. 第9号住遺物出土状況 東から



3. 第9号住カマド遺物出土状況全景 西から



4. 第10号住掘り方全景 東から



5. 貯蔵穴全景 東から



1. 第11号住遺物出土状況全景 (手前6号住) 北から



2. 第11号住全景 北から



3. 第11号住掘り方全景 東から



4. 第11号住カマド全景 東から



5. 第11号住カマド掘り方全景 東から



1. 第12号住遺物出土状況全景 西から



2. 第12号住掘り方全景 西から



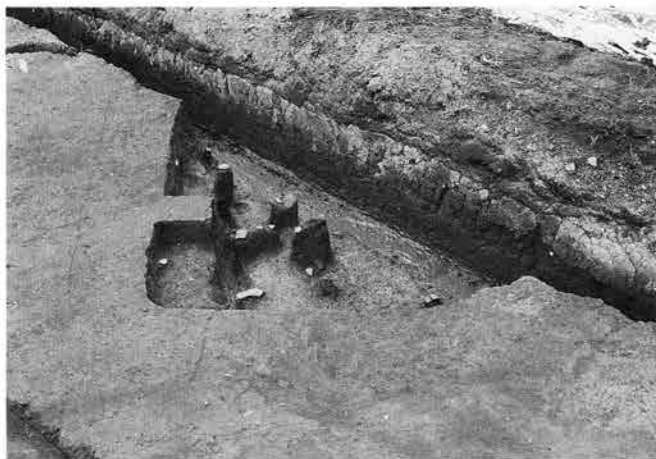
3. 第12号住カマド全景 西から



4. 第13号住遺物出土状況全景 南から



5. 第13号住カマド遺物出土状況全景 南西から



1. 第14号住遺物出土状況全景 南西から



2. 第14号住掘り方全景 西から



3. 第15号住遺物出土状況全景 東から



4. 第15号住全景 東から



5. 第15号住カマド遺物出土状況全景 西から



6. 第15号住貯蔵穴遺物出土状況全景 北から



7. 第15号住カマド掘り方全景 西から



1. 第16号住掘り方全景 南から



2. 第16号住カマド遺物出土状況全景 西から



3. 第17号住全景 西から



4. 第17号住カマド全景 西から



5. 第18号住掘り方全景 東から



6. 第18号住遺物出土状況全景 南から



7. 第19号住遺物出土状況全景 南から



8. 第19号住貯蔵穴 南から



1. 第20号住遺物全景 南東から



2. 第21号住カマド全景 北東から



3. 第21号住遺物出土状況全景 東から



4. 第22号住遺物出土状況全景 西から



5. 第22号住掘り方遺物出土状況全景 南西から



1. 第24号住(小鍛冶)遺物出土状況全景 東から



2. 第24号住(小鍛冶)炉全景 北東から



1. 第26号住全景 北東から



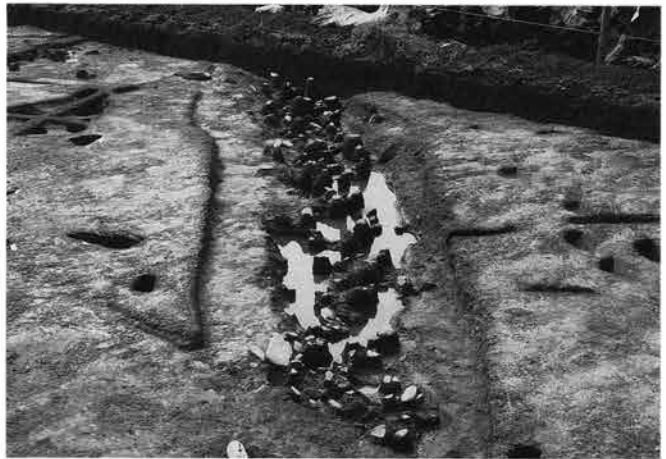
2. 第1号掘立柱建物跡全景 北から



1. 第1号溝全景 南西から



2. 第1号溝遺物出土状況全景 西から



3. 第1号溝遺物出土状況 東から



4. 第1号焼土遺構全景 南から



5. 第1号土坑全景 南から



6. 第2号土坑全景 東から



7. 第3号土坑全景 東から

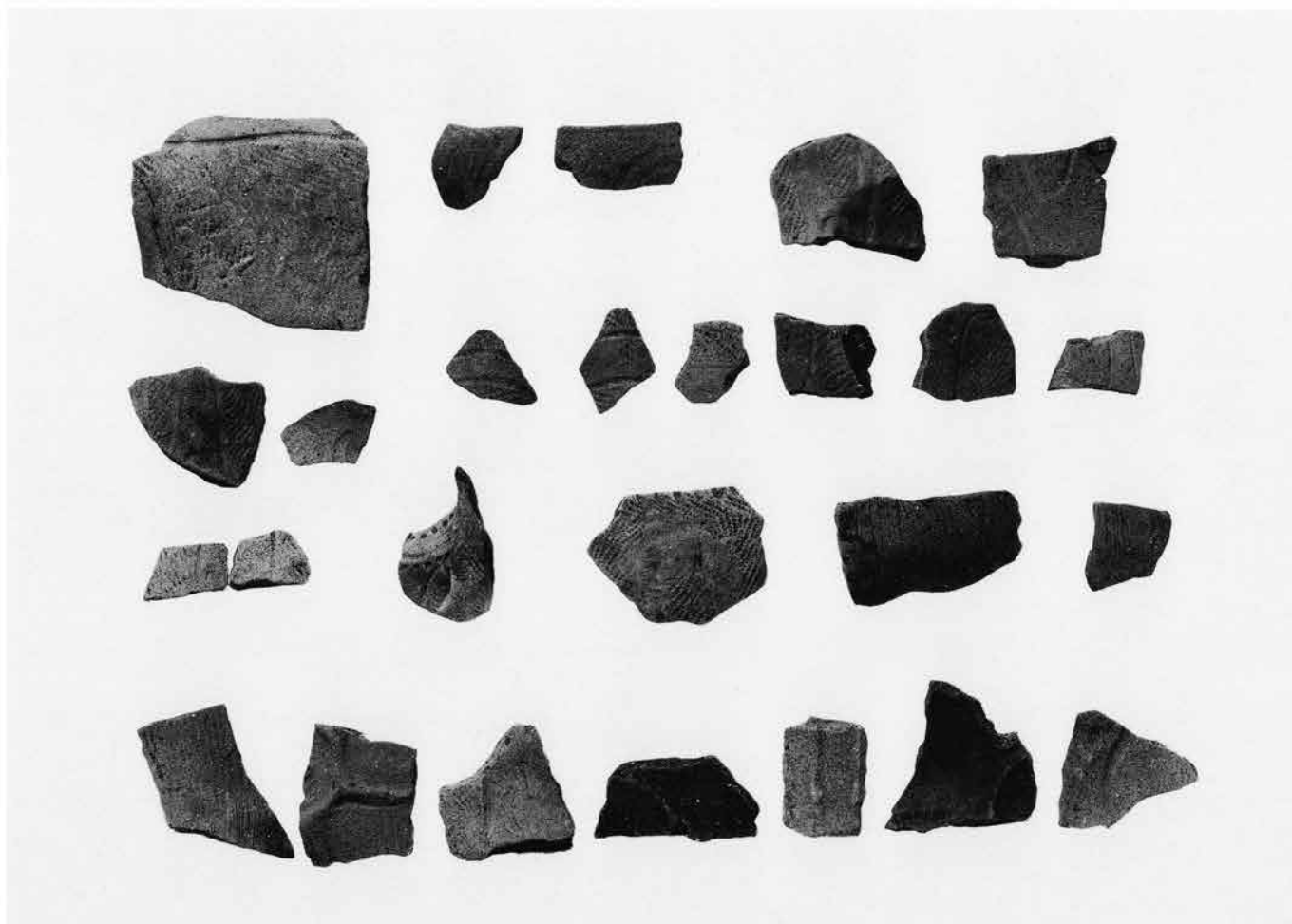
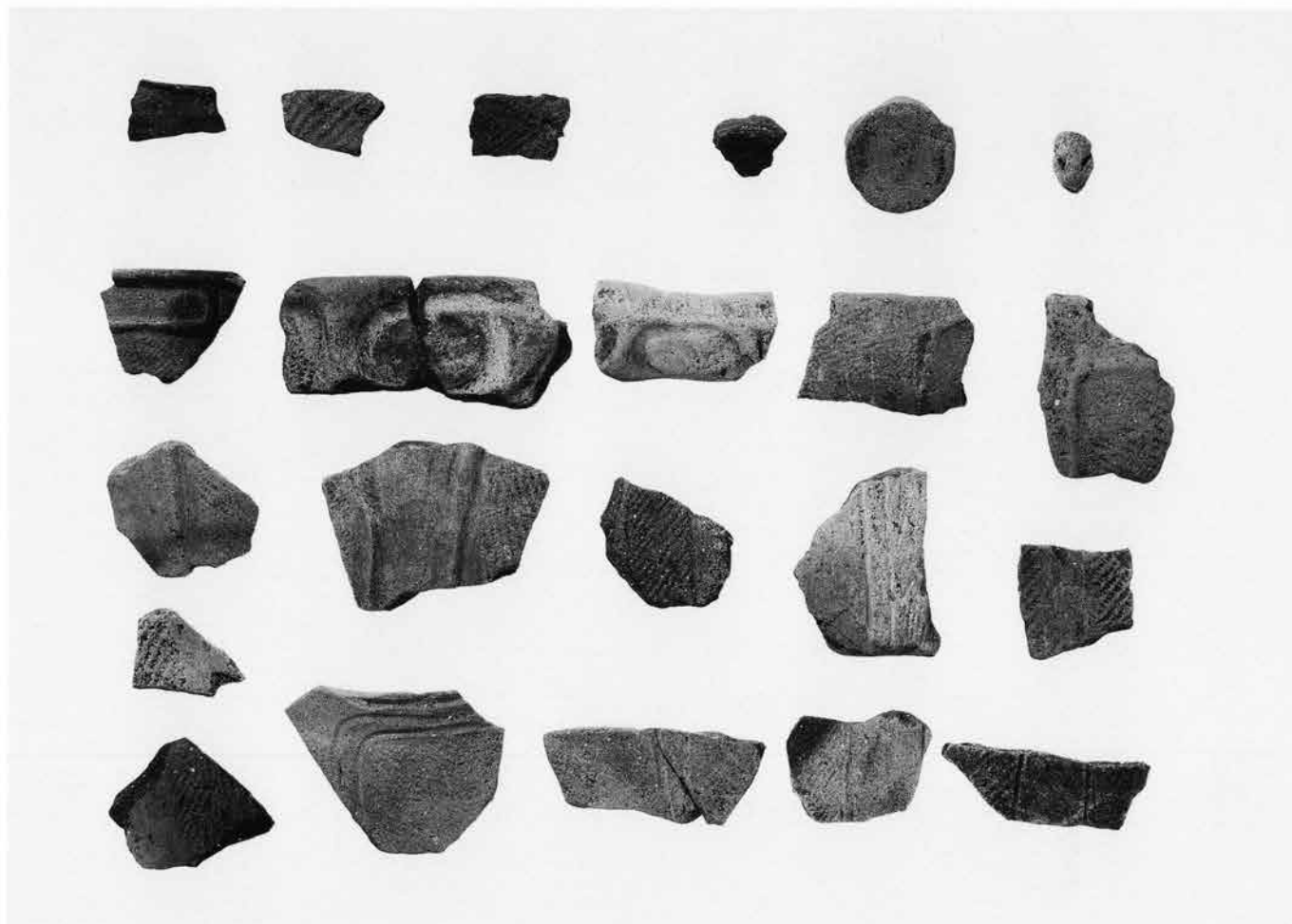




図7-19



図7-20



図8-3



図8-4



図8-6



図8-7



図8-8



図8-11



図8-12



図8-10



図8-9



図8-13



図9-1



図9-2



図9-3



図9-4



図9-5



図9-6



図9-8



図9-7



図9-9





図9-10



図9-11



図9-12



図10-1



図10-2



図10-3



図10-4



図10-5



図10-6



図10-7



図10-8



図10-9



図10-10



図10-11



図10-12



図11-1

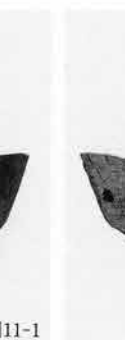


図11-2



図11-7



図11-4



図11-3



図11-5

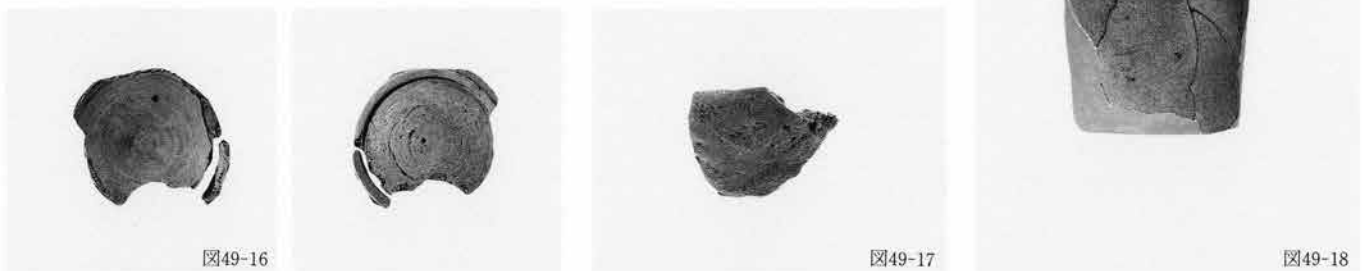
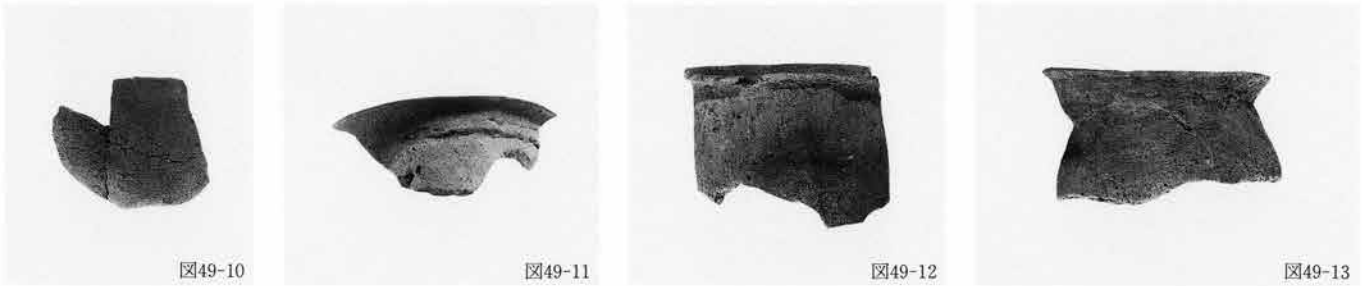
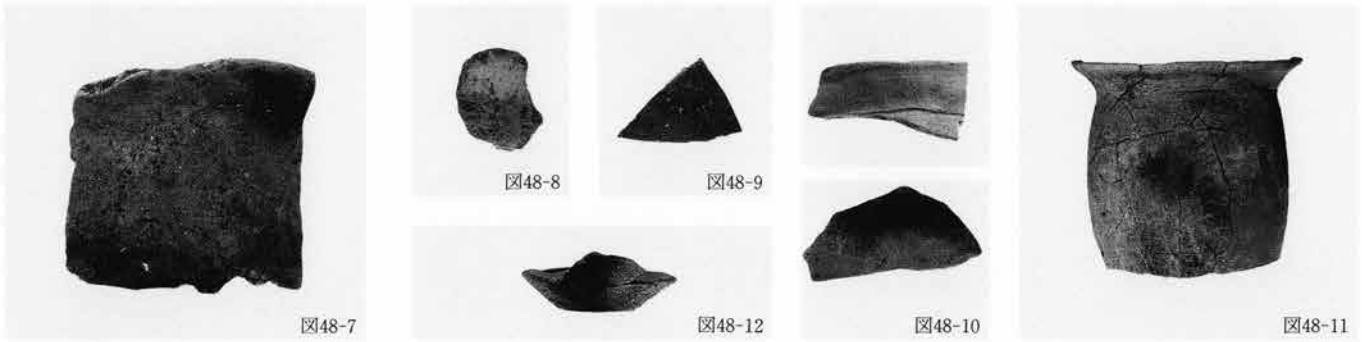
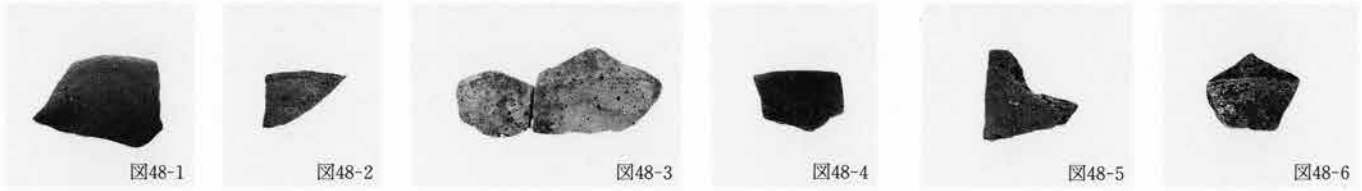


図11-6



図11-8





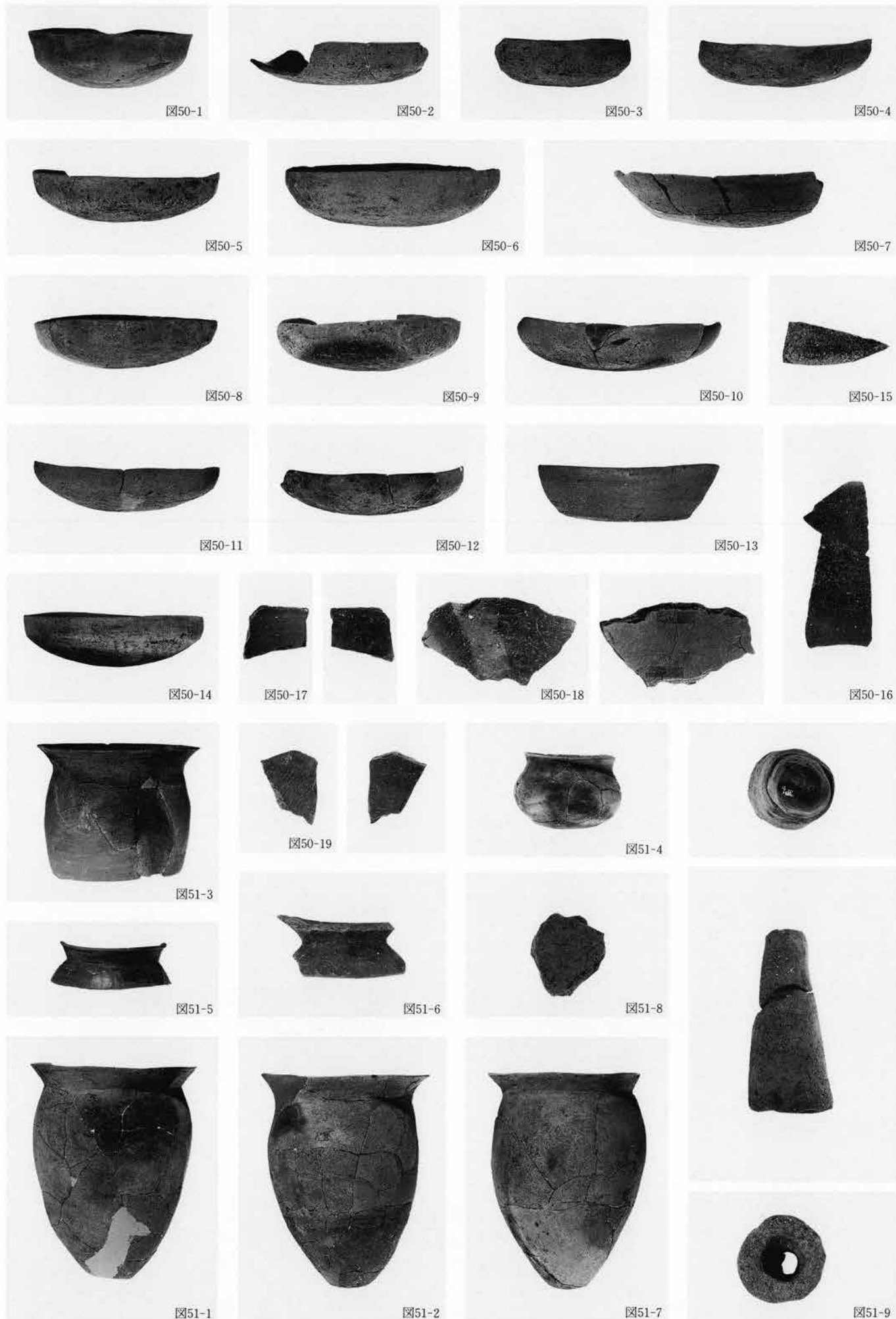




図52-1

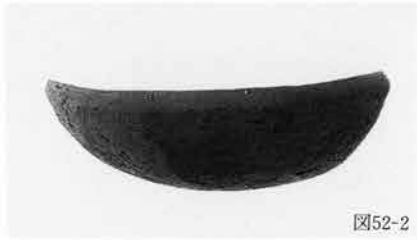


図52-2



図52-5



図52-3



図52-6



図52-7



図52-8



図52-9



図52-10



図52-11



図52-13



図52-4



図52-14



図52-15



図52-16



図52-12



図52-17



図52-18



図53-1



図53-7



図53-2



図53-3



図53-4



図53-8



図53-5



図53-6



図53-9



図53-10

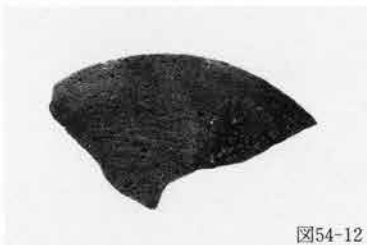
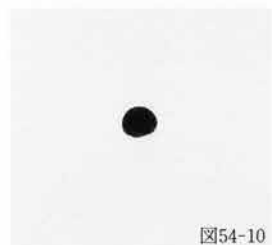




図55-5



図55-6



図55-7



図55-8



図55-9



図55-10



図55-11



図55-12



図55-13



図55-14



図56-1



図56-2



図56-3



図56-4



図56-7



図56-5



図56-9



図56-6



図56-8



図56-10



図57-1



図57-2



図57-3



図57-4



図57-6



図57-5

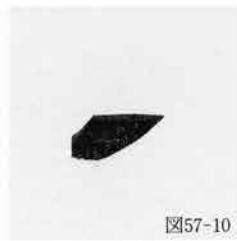




図60-1



図60-2



図60-3



図60-7



図60-5



図60-6



図60-4



図60-8



図60-9

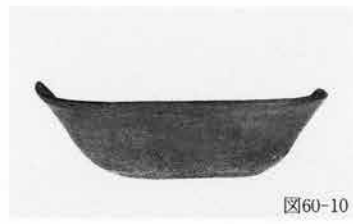


図60-10



図60-13



図60-11



図60-12



図60-14



図61-1



図61-2



図61-3



図61-4

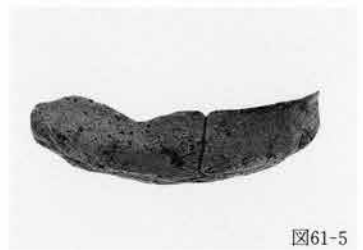


図61-5



図61-6



図61-7



図61-8



図61-10



図61-11



図61-12



図61-13



図61-9



図61-14



図62-1



図62-2



図62-4



図62-5



図62-11



図62-6



図62-3



図62-7



図62-8



図62-9



図62-10



図62-12



図62-13



図62-15



図62-16



図62-17



図62-18



図62-14



図62-20



図62-19



図62-21



図63-1



図63-2



図63-3



図63-4



図63-5



図63-9



図63-6



図63-7



図63-10



図63-8



図63-11



図63-12



図63-13



図64-7



図64-6



図64-4



図64-1



図64-2



図64-3



図64-5



図64-8



図64-9



図64-14



図64-11



図64-10



図64-12



図64-13



図64-15



図64-17



図64-16



図65-1



図64-18



図65-2



図65-3



図65-7



図65-6



図65-5



図65-8



図65-9



図65-10





図65-11



図65-12



図65-13



図66-1



図66-3



図66-4



図66-2



図66-5



図66-6



図66-7



図66-8



図66-9



図66-10

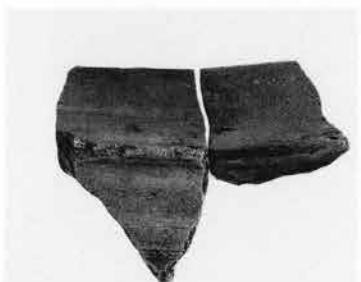


図66-11



図66-14



図66-15



図66-16



図66-12



図66-17



図66-18



図66-19



図66-11



図66-13



図67-1



図67-2



図67-3





図67-4



図67-5



図67-6



図67-7



図67-8



図67-9



図67-10



図67-11



図67-12



図67-13



図67-14



図67-15



図67-16



図67-18



図67-17



図68-1



図68-2



図68-3

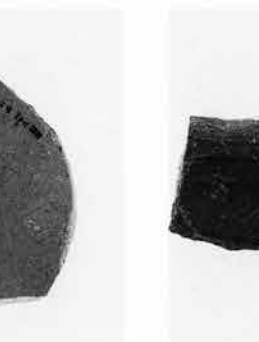


図68-6



図68-5



図68-4



図68-7



図68-8



図68-9



図68-10



図68-12



図68-11



図68-13

図68-14

図68-15



図68-13

図68-14

図68-15

図68-16

図68-18

図68-19

図68-20

図69-1

図69-2

図69-3

図69-4

図69-5

図69-6

図69-7

図69-8

図69-9

図69-10

図69-11

図69-12

図69-13

図69-14

図69-15



図68-19



図68-17



図68-20



図69-1



図69-2



図69-3



図69-4



図69-5



図69-6



図69-7



図69-8



図69-3



図69-3



図69-9



図69-10



図69-11



図69-12



図69-13



図69-14

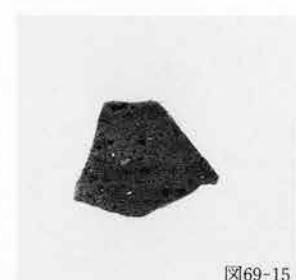


図69-15



図69-16



P346 フク土



図69-17



図69-18



図69-19



図70-1



図70-2



図70-3



図70-4



図70-5



図70-6



図70-7



図70-8



図70-9



図70-10



図70-11



図70-12



図70-13



図70-14



図70-15

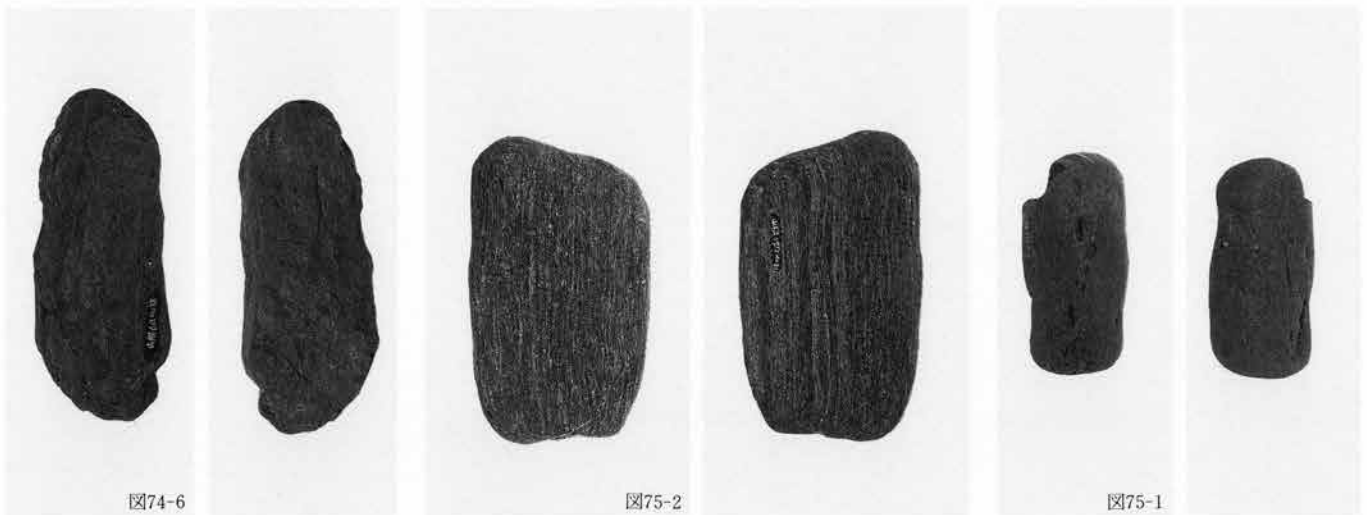
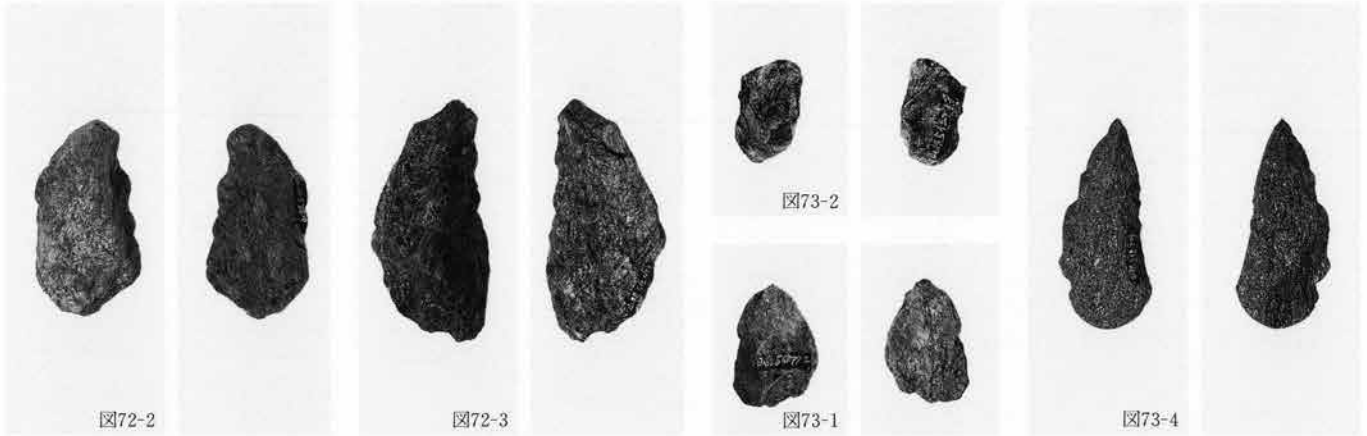
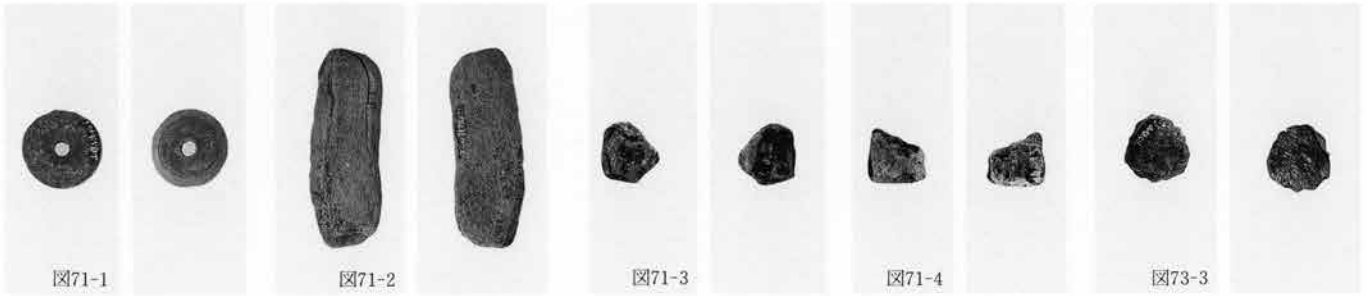




図75-6



図75-9



図75-10



図76-7



図76-1



図76-5



図76-4



図76-3



図76-6



図76-8

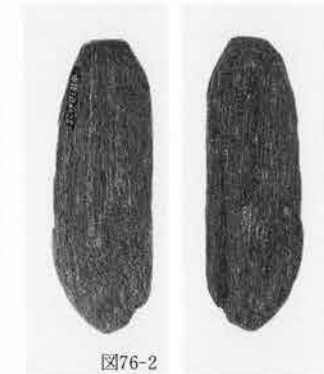


図76-2



図77-1



図77-2



図77-3



図77-5



図77-4





図78-1



図78-2



図78-3



図78-4



図78-6



図78-7



図78-5



図78-8



図79-3



図79-4



図79-1

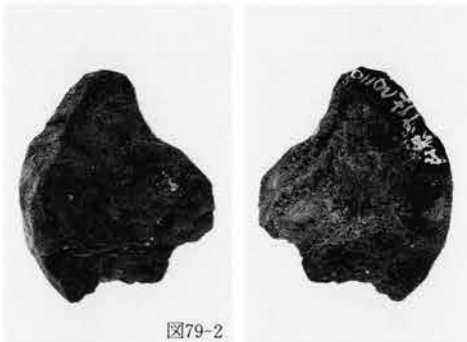


図79-2



図79-5



図79-6



図79-7



図79-8



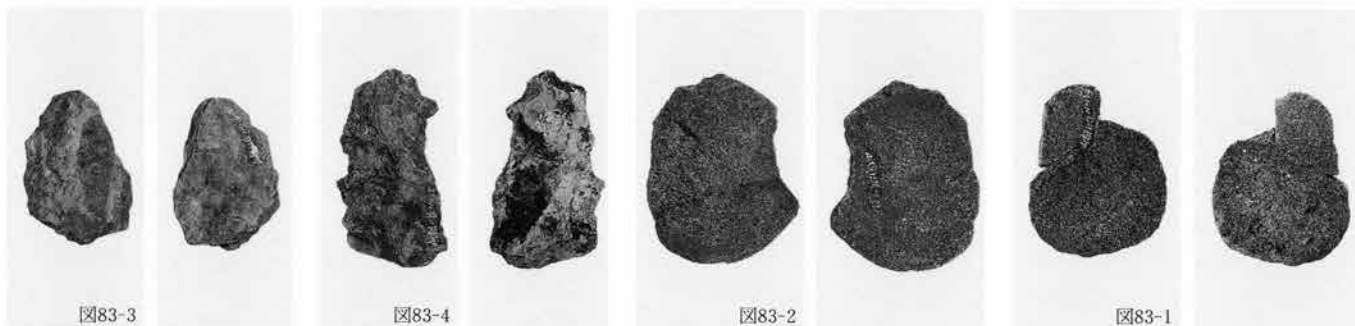
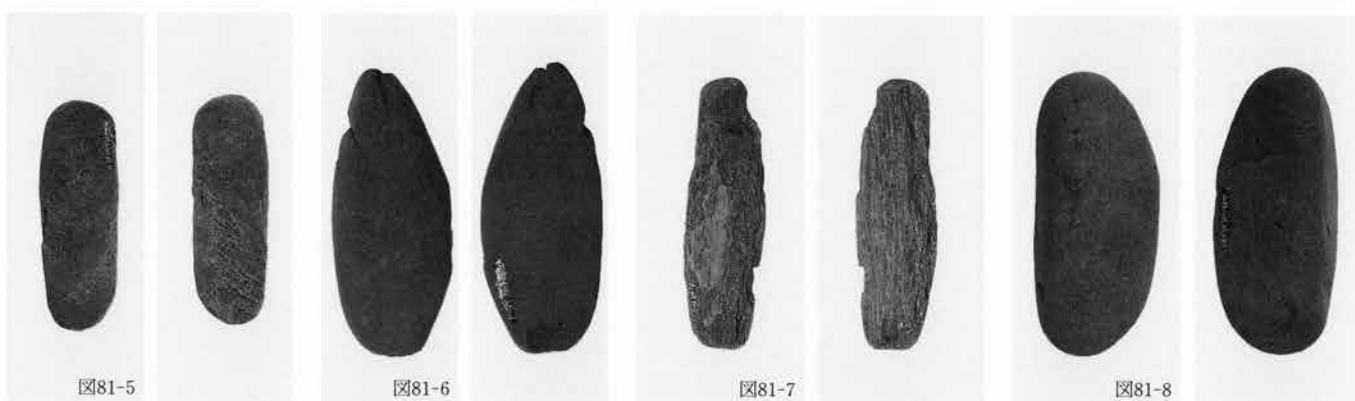
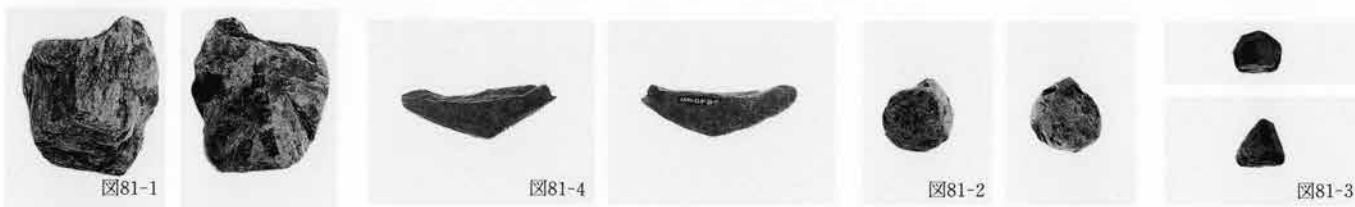
図79-9



図80-1



図80-2



11号住滑石



11号住滑石

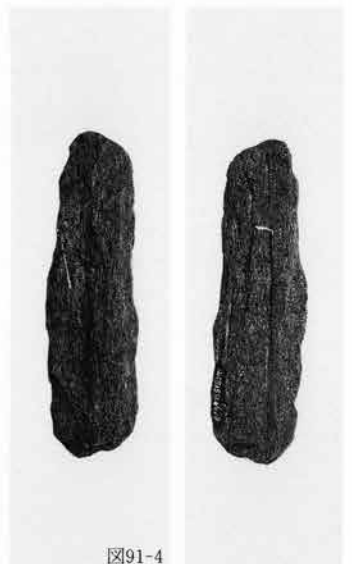
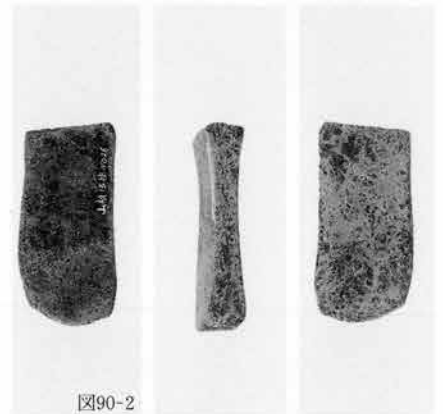
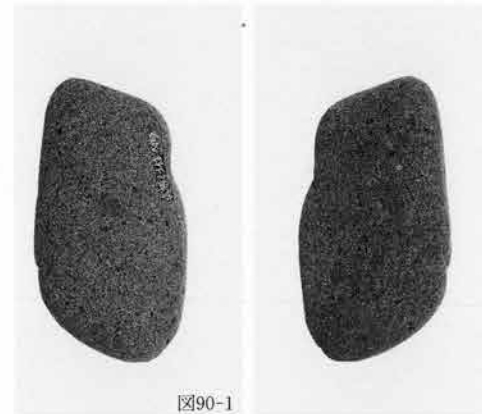
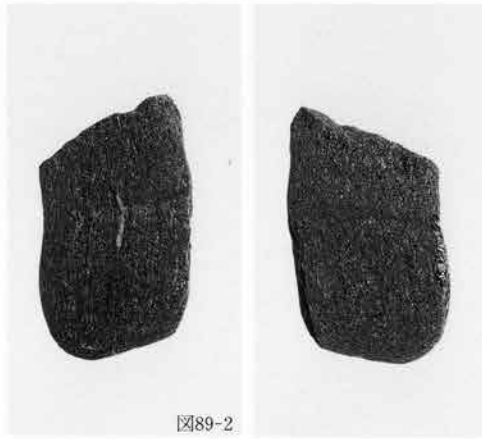




図91-8



図92-1



図92-2



図91-9



図92-3



図91-10



図93-1



図93-2



図93-3



図93-4



図93-5



図93-6



図93-7



図93-8



図93-9



16号住フク土



図93-10



図94-1

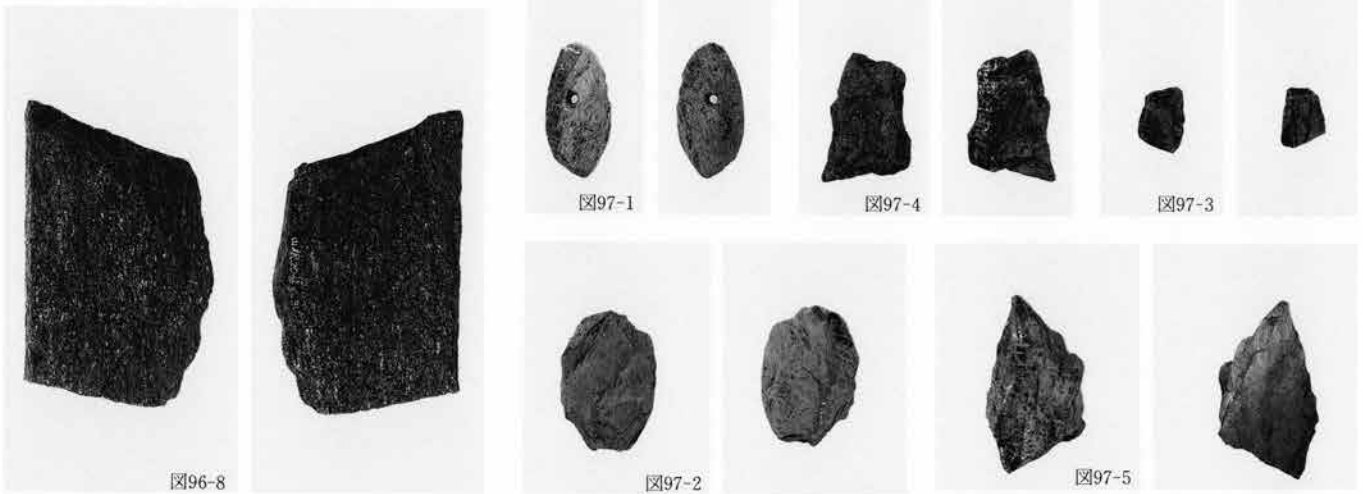
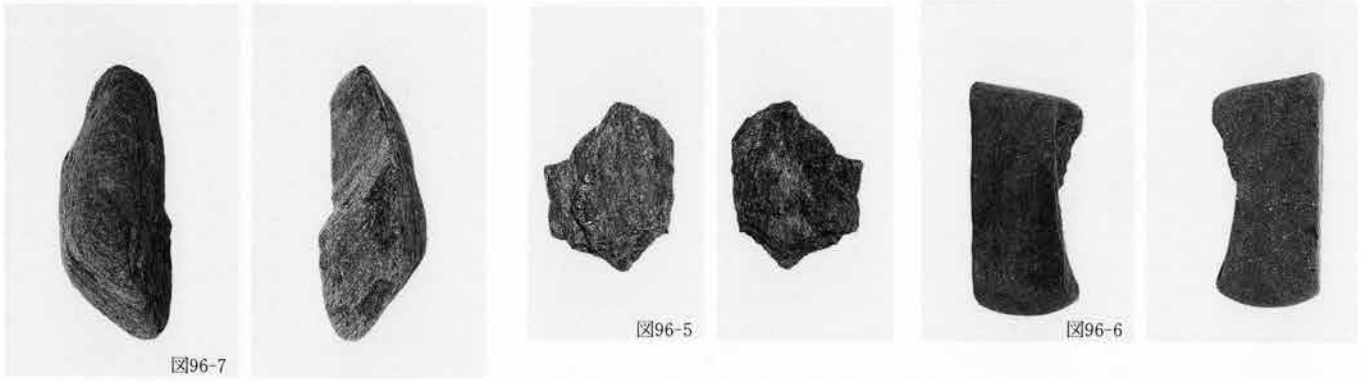
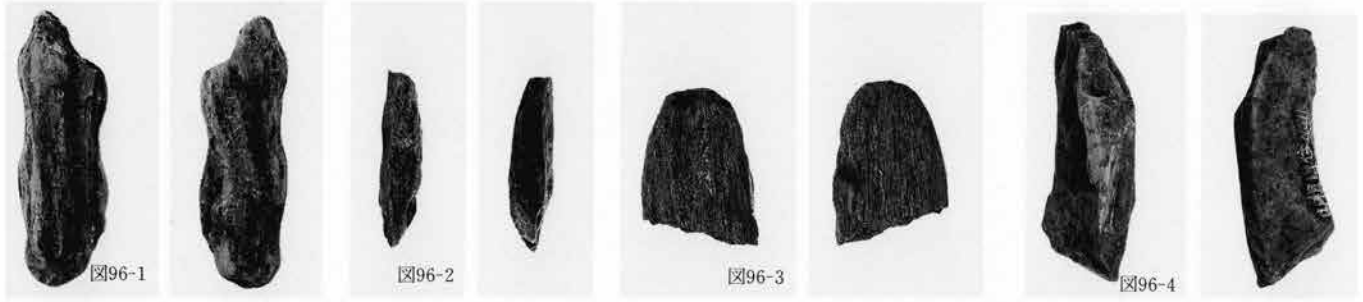


図94-2



図94-3





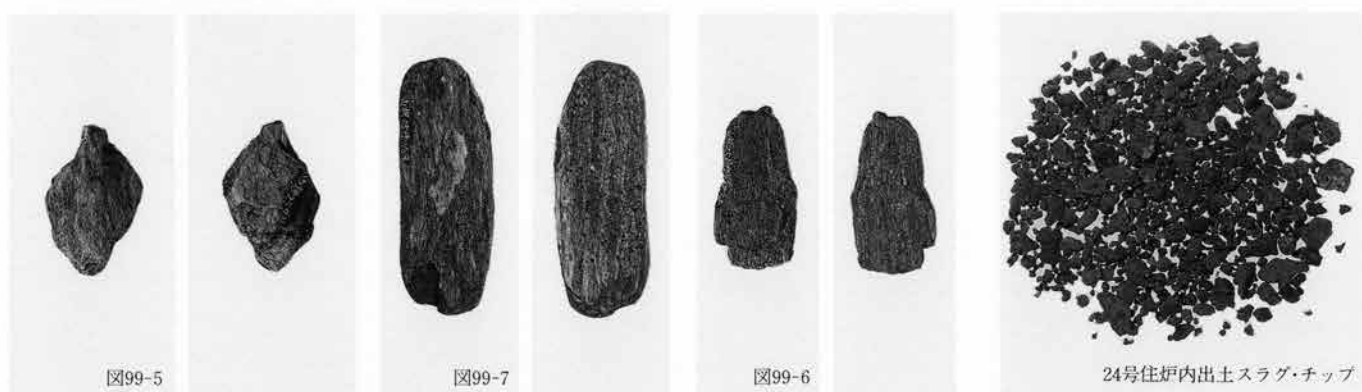
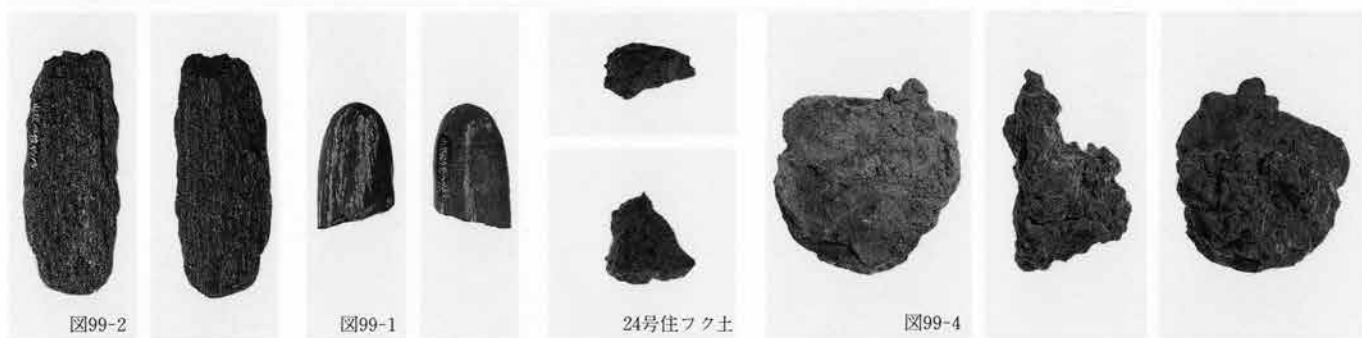
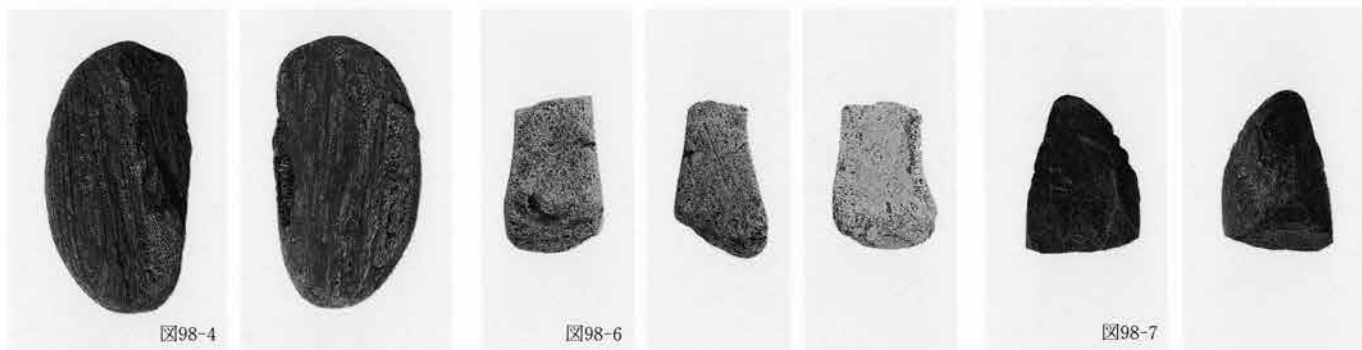




図100-3

図100-6

図101-1



図101-2

図101-4

図100-1

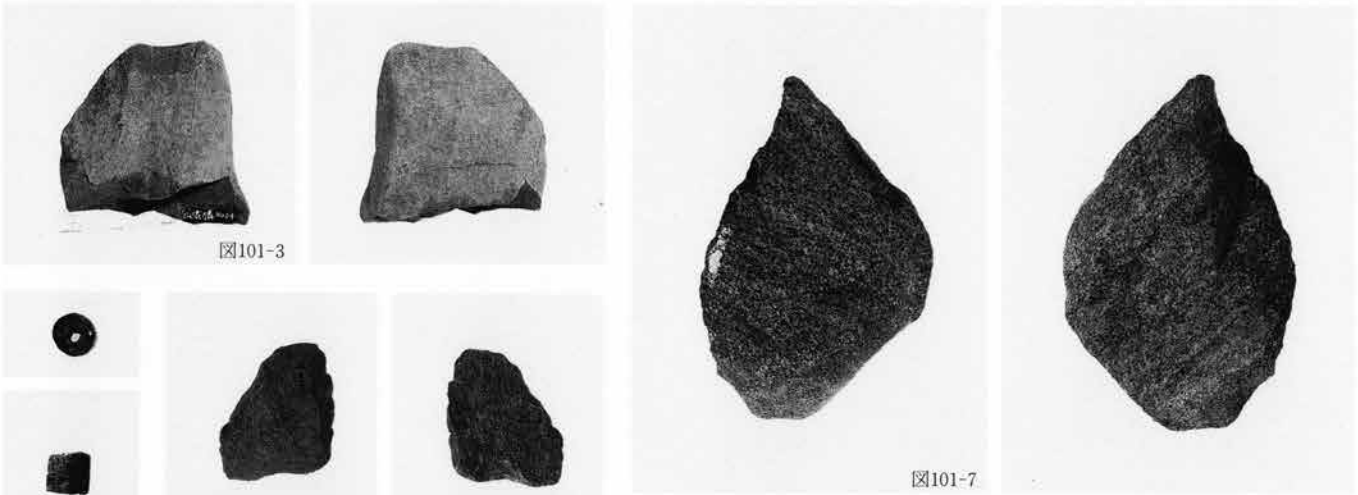


図101-3

図101-7



図101-6

図101-5

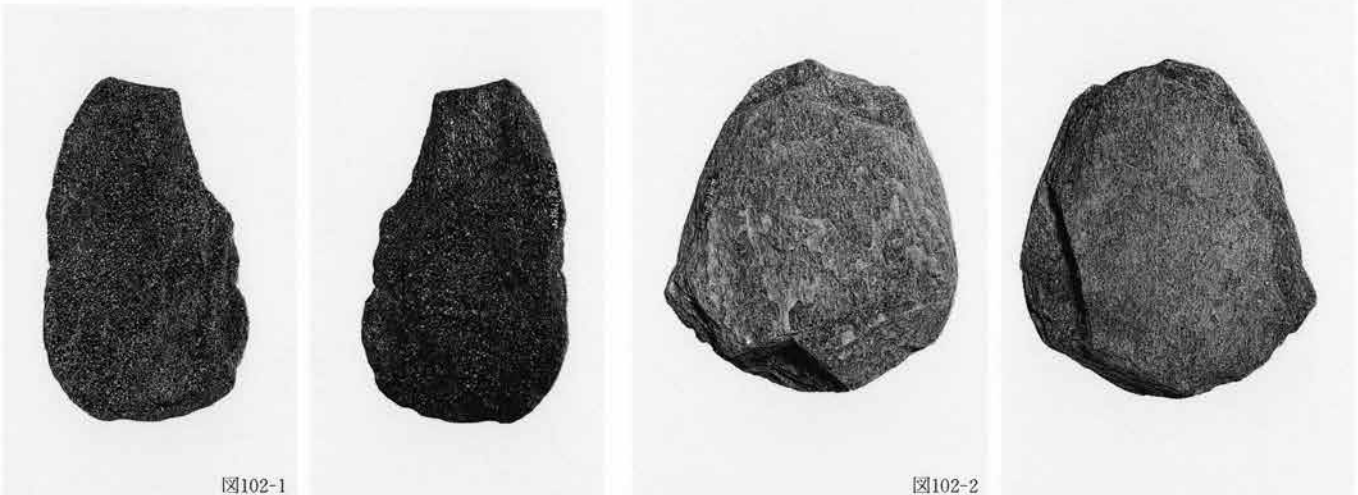
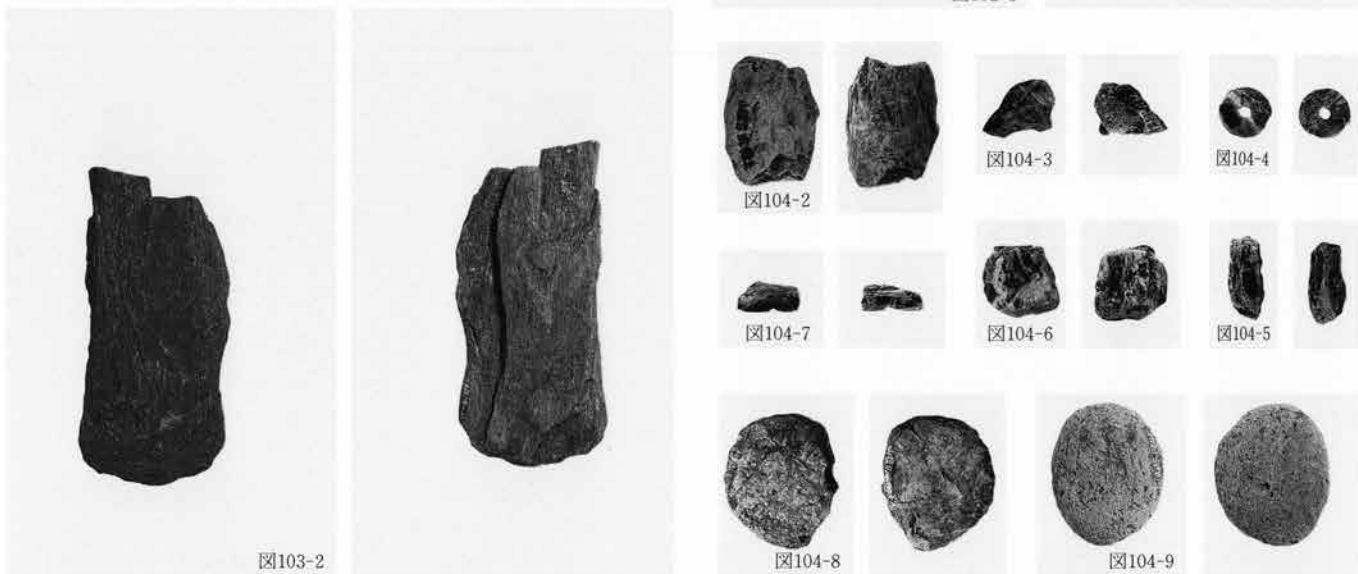
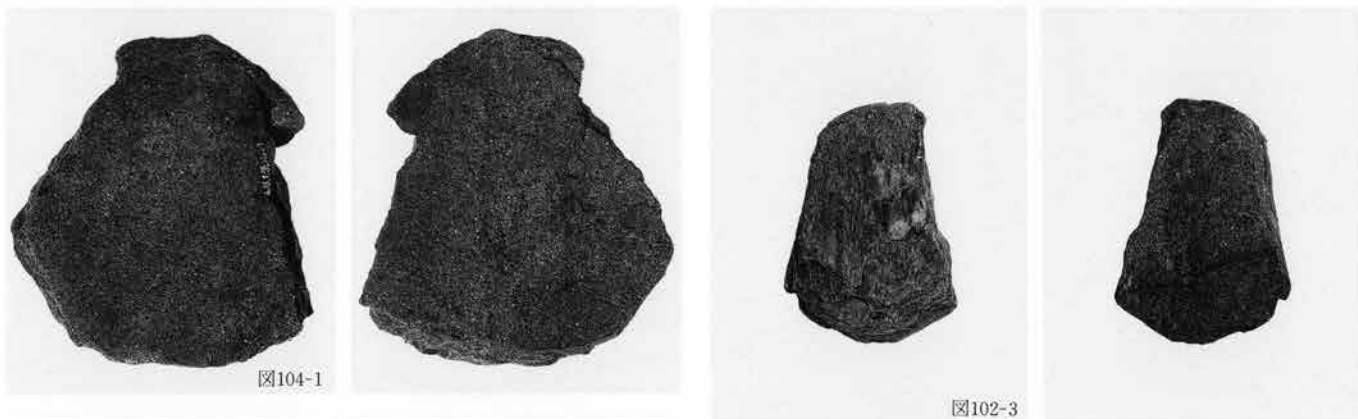
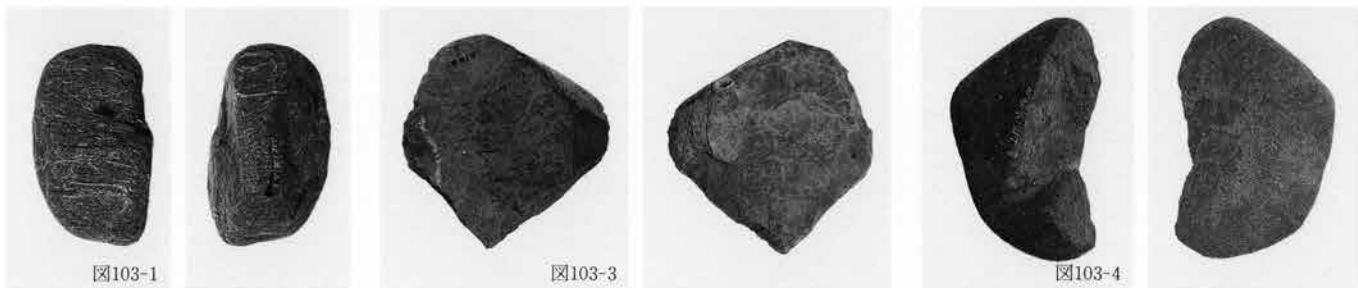


図102-1

図102-2



本郷山根遺跡

一級河川笹川河川改修工事に伴
う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

平成元年 3 月 15 日 印刷

平成元年 3 月 31 日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

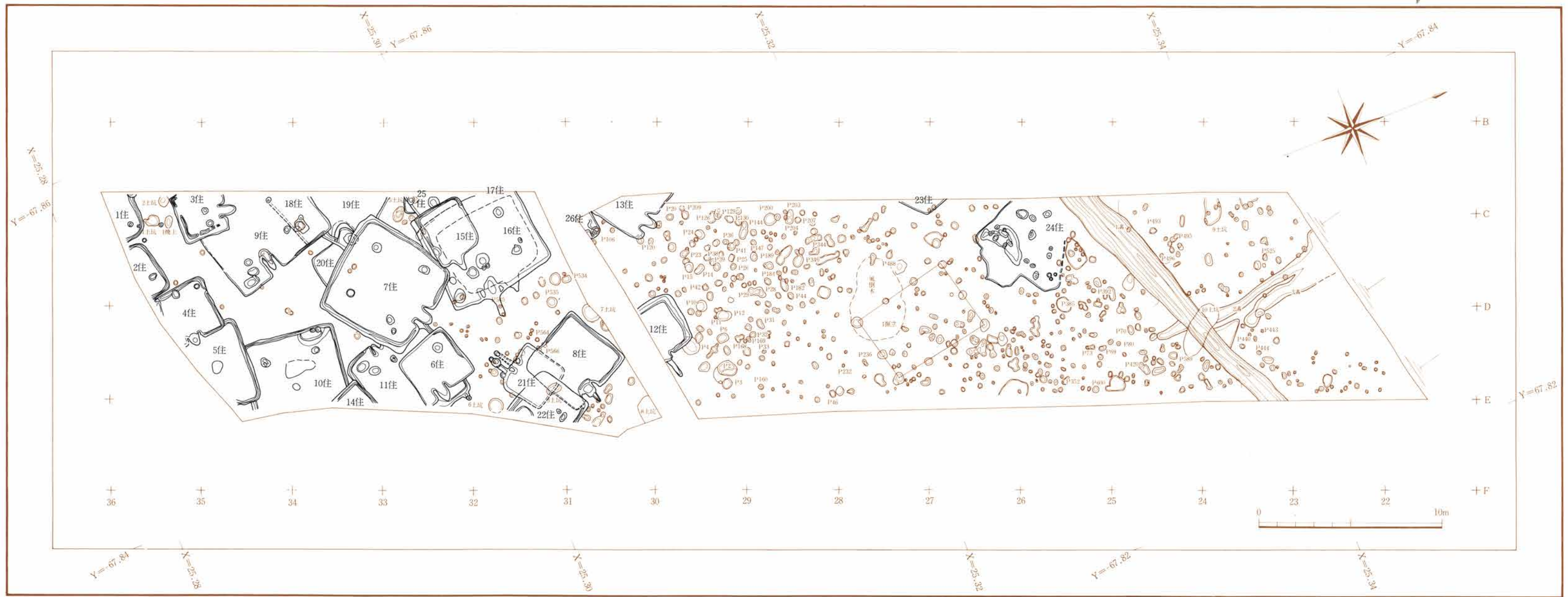
発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所

本郷山根遺跡 正 誤 表

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

頁	行	図	誤	正
9 26	1	4	本郷尺地 [●] 窠跡 5号住居跡 (図16・49・71, PL5・20・33)	本郷尺地 [●] 遺跡 5号住居跡 (図16・49・71~73, PL5・20・33)
161		113	■磨石 [●] 敲 [●]	■磨 [●] 敲 [●] 石
161		113	□磨 [●] 凹 [●] 敲 [●] 石 [●] 凹 [●] 石	□磨 [●] 凹 [●] 敲 [●] 石



付図 本郷山根遺跡全体図